

居
德
遺
跡
群
III

居 德 遺 跡 群 III

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第69集

二〇〇一・三

財高知県文化財団埋蔵文化財センター

2002.3

財高知県文化財団埋蔵文化財センター

居 徳 遺 跡 群 Ⅲ

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002. 3

（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター



1A区遺構完掘状態



1A区遺構



I A 区 遗物



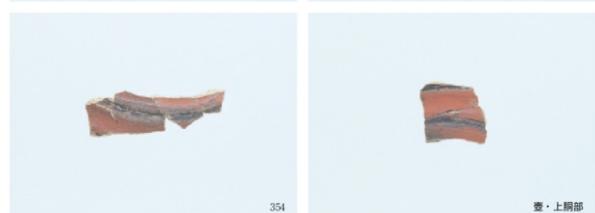
大洞式土器・壺・胴部



352内面



352外面



354

壺・上胴部

1A区出土遺物

卷顶图版 4



357



361



359



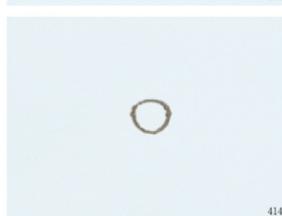
356



372



373



414



415

1A区出土遗物



1F区 水路部分



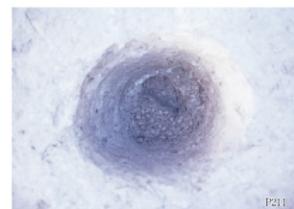
1F区 道路部分



1F区遺物



1F区遺構・遺物



1F区遺構



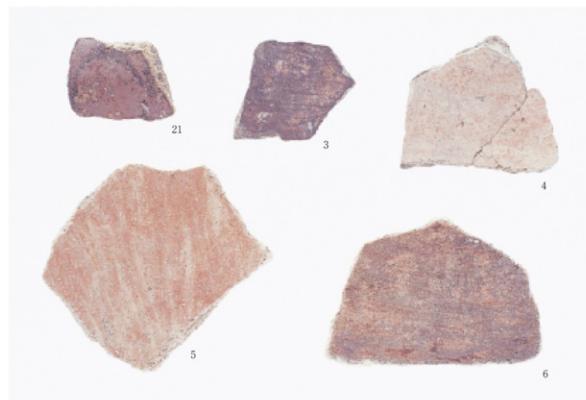
1C区第V層上面遺構完掘状態（東より）



1C区第V層上面遺構完掘状態（東より）



1C區出土遺物1(土器)



1DN區出土遺物1(土器)



1406



1407



1408



1396



1400



1409

1C区出土遺物2(石器)



1C區出土遺物3(石器)



1C区出土遺物4(石器・木製品)



1C区出土遺物5(土製品・石器)



1C区出土遺物6(石器)



1C区・1DN区出土遺物（石器・木製品・貝）

例　　言

1. 本書は四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う、居徳遺跡群の発掘調査報告書第3集である。本書には確認調査⁽¹⁾、1 A 区、1 C 区（その 2）、1 D N 区、1 F 区の調査成果、ならびに関連の付録を所収する。

2. 居徳遺跡群の所在地は、高知県土佐市高岡町乙居徳ほかである。

3. 調査期間ならびに発掘調査面積は次のとおりである。

(調査期間)		(発掘調査面積)
確認調査 ⁽¹⁾	平成 8 年 6 月 5 日～平成 8 年 8 月 6 日	6 5 0 m ²
1 A 区	平成 9 年 10 月 17 日～平成 10 年 3 月 31 日	1 , 8 2 1 m ²
1 C 区	平成 9 年 10 月 29 日～平成 10 年 3 月 31 日	1 , 1 3 8 m ²
1 D N 区	平成 10 年 2 月 6 日～平成 10 年 3 月 31 日	7 5 7 m ²
1 F 区	平成 10 年 12 月 21 日～平成 11 年 3 月 1 日	8 6 9 m ²

4. 発掘調査及び整理作業は、高知県教育委員会が日本道路公団四国支社と委託契約を締結し、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターがこれを実施した。調査体制は以下のとおりである。

調査総括	古谷頼志（財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター・所長）	
同	津野州夫（同 上）	・次長兼総務課長（調査課長）
同	西川 裕（同 上）	・調査第 1 班長（調査第 3 班長）
同	山本哲也（同 上）	・調査第 2 班長（調査第 3 班長）
同	出原恵三（同 上）	・調査第 3 班長（調査第 3 班長）
調査事務	吉岡利一（同 上）	・総務課主幹（総務課主幹）
同	大原裕幸（同 上）	・総務課主幹（総務課主幹）
同	石川 駿（同 上）	・総務課主幹（総務課主幹）
調査員	田坂京子（同 上）	・専門調査員（専門調査員）
同	大野佳代子（同 上）	・専門調査員（専門調査員）
同	佐竹 寛（同 上）	・専門調査員（専門調査員）
同	藤方正治（同 上）	・調査員（調査員）
同	曾我貴行（同 上）	・調査員（調査員）
同	下村 裕（同 上）	・調査員（調査員）
技術補助員	小倉 功	
測量補助員	土居寿美子	
同	中岡きよ	
同	岩原明美	

5. 本書の執筆・編集は藤方・曾我が分担・協議しておこなった。執筆分担は、第 I 章（1）・（3）・（4）が曾我、第 I 章（2）・（5）が藤方である。

6. 遺構等の名称については、TP（試掘坑）、SR（自然流路）、SX（性格不明遺構）、P（柱穴及びピット状遺構）等の略号を使用した箇所がある。それぞれの番号は各調査区における通し番号である。

7. 遺物実測図の縮尺は土器が1/1、土製品・石器類が1/1または1/2、木製品が1/2~1/3である。実測図の番号は各調査区における通し番号であり、挿図及び写真図版中の番号は実測図の番号と一致している。

8. 土層ならびに出土遺物の色調については、『新版標準土色帖1996年版』の名称を使用した。

9. 遺跡の測量は、国土座標第IV系に則っておこなった。挿図中の北は原則として座標北である。

また挿図中のレベル高は海拔高を示す。

10. 発掘調査に際しては、地元高岡町清瀧・東瀧・西瀧地区をはじめ、地域にお住まいの方々の全面的な御理解と御協力、ならびに温かい御支援を賜り、調査を円滑に遂行することができた。記して衷心より謝意を表す。

11. 1A区・1C区から出土した大洞式土器の整理作業に関しては、須藤隆氏（東北大文学部教授）、大塚達朗氏（南山大学文学部助教授）から数々の御指導、ならびに御教示を賜った。記して衷心より謝意を表す。

12. 発掘調査及び報告書作成に際しては、多くの方々から貴重な御助言・御教示を賜った。御芳名を記して衷心より謝意を表す。（五十音順、敬称略）

天羽利夫 今田秀樹 江坂輝備 氏家敏之 大場亜弥 岡本桂典 岡本健児

岡本孝之 河瀬正利 木下哲夫 小林 克 坂本正夫 潮見 浩 設楽博巳

菅谷通保 高島芳弘 高橋龍三郎 中越利夫 中村五郎 平井 勝 藤野次史

藤原宏志 北條芳隆 村上恭通 家根祥多 山川清水

13. 発掘調査に際しては、土佐市都市計画課、高知県土木部高速道推進課の御協力を得た。また発掘調査及び報告書作成に際しては、高知県立歴史民俗資料館、高知県教育委員会、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏から御助言・御協力を得た。

14. 卷頭図版7~12について、高知県立歴史民俗資料館の御厚意により、館所蔵写真（タケムラスタジオ・竹村豊氏撮影）を使用させていただいた。

15. 発掘調査にかかる掘削作業は工事請負方式とし、大豊建設株式会社（平成9年度）・不動建設株式会社（平成10年度）と委託契約を締結して実施し、工事の施工管理は社団法人高知県建設技術公社に委託した。工事に従事してくださった多くの方々の御尽力により、調査を完遂することができた。記して衷心より謝意を表す。

16. 発掘調査に伴う測量基準点設置、航空写真撮影ならびに航空写真測量は、アジア航測株式会社に委託して実施した。

17. 木製品の保存処理及び樹種同定は、株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。

18. 付編2は、株式会社吉田生物研究所作製による木製品樹種鑑定報告書の該当箇所のみを抜粋し、再構成したものである。

19. 貝類の保存処理及び種の同定は、株式会社東都文化財保存研究所に委託して実施した。
20. 漆塗り土器の保存処理は株式会社東都文化財保存研究所に、塗布顔料の分析は株式会社パレス・ラボにそれぞれ委託して実施した。
21. 整理作業に際しては、次の方々に御尽力いただいた。御芳名を記して衷心より謝意を表す。
- 矢野 雅 宮本幸子 中西純子 小松経子 岩貞泰代 楠瀬憲子 前田玲子
高橋千代 久万公子 川井由香 内村富紀 元吉ゆみ子 岸ゆかり 岡宗真紀
入野三千子
22. 遺跡の略号は下記のとおりとし、出土遺物の注記等にはこれを使用した。
確認調査)・・・「96-14 I T」
1 A 区・・・・・「97- 8 I T 1 A」
1 C 区・・・・・「97- 8 I T 1 C」
1 D N 区・・・・・「97- 8 I T 1 D N」
1 F 区・・・・・「98- 8 I T 1 F」
23. 出土遺物等は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター及び高知県立歴史民俗資料館で保管している。

本文目次

第Ⅰ章 調査の成果	
(1) 確認調査①..	3 (曾我)
(2) 1 A区..	31 (藤方)
(3) 1 C区 (その2)	111 (曾我)
(4) 1 D N区..	189 (曾我)
(5) 1 F区..	201 (藤方)

付編1 居德遺跡群の自然科学分析.. 269

—漆塗り土器・赤彩土器の塗布材料と胎土材料—

株式会社パレオ・ラボ

付編2 高知県居德遺跡群出土木製品の樹種調査結果.. 279

—確認調査①・1 C区・1 D N区出土木製品について—

株式会社吉田生物研究所

挿図目次

Fig.1	居徳遺跡群調査区配置図 (S : 1/2,000)	1 ~ 2
Fig.2	確認調査調査区配置図 (S : 1/2,000)	4
Fig.3	T P- 1 ~ T P- 4堆積土層断面柱状模式図 (S : 1/40)	5
Fig.4	T P- 5 ~ T P- 6・T P- 8・T P- 9堆積土層断面柱状模式図 (S : 1/40)	6
Fig.5	T P- 10・T P- 11・T P- 13・T P- 14堆積土層断面柱状模式図 (S : 1/40)	7
Fig.6	T P- 15・T P- 16堆積土層断面柱状模式図 (S : 1/40)	8
Fig.7	T P- 8第V層上面遺構平面図 (S : 1/40)	9
Fig.8	T P- 10第IV層遺物出土状態平面図 (S : 1/40)	10
Fig.9	T P- 11第VII層上面杭跡平面図 (S : 1/80), 同断面図 (S : 1/40)	11
Fig.10	T P- 12第V層遺物出土状態平面図・鉛直分布図 (S : 1/40)	12
Fig.11	T P- 12検出遺構平面図・同南壁堆積土層断面図 (S : 1/40)	13
Fig.12	T P- 14第III層上面遺構平面図 (S : 1/40)	14
Fig.13	確認調査1検出遺構 (S : 1/20)	15
Fig.14	確認調査(1)出土土器1 (S : 1/3)	16
Fig.15	確認調査(1)出土土器2 (S : 1/3)	17
Fig.16	確認調査(1)出土土器3 (S : 1/3)	18
Fig.17	確認調査(1)出土土器4 (S : 1/3)	19
Fig.18	確認調査(1)出土土器5 (S : 1/3)	20
Fig.19	確認調査(1)出土石器1 (S : 1/2)	21
Fig.20	確認調査(1)出土石器2 (S : 1/2)	22
Fig.21	確認調査(1)出土石器3 (S : 1/1)	23
Fig.22	確認調査(1)出土木製品1 (S : 1/3)	24
Fig.23	確認調査(1)出土木製品2 (S : 1/3)	25
Fig.24	確認調査(1)出土木製品3 (S : 1/3)	26
Fig.25	1 A区の位置 (S : 1/5,000)	31
Fig.26	1 A区, 1 B区全体図 (1面)	35 ~ 36
Fig.27	1 A区全体図 (2面)	37
Fig.28	西壁セクション図	38 ~ 39
Fig.29	東壁セクション図	42 ~ 43
Fig.30	1 A区遺構配置図 (2面)	45 ~ 48
Fig.31	1 A区遺構配置図 (1面)	49 ~ 52
Fig.32	1 A区遺構平面図 1	53

Fig.33	1 A区遭構平面図 2	54
Fig.34	1 A区遭構平面図 3	55
Fig.35	1 A区遭構平面図 4	56
Fig.36	1 A区遭構平面図 5	57
Fig.37	1 A区出土遺物 1	58
Fig.38	1 A区出土遺物 2	59
Fig.39	1 A区出土遺物 3	60
Fig.40	1 A区出土遺物 4	61
Fig.41	1 A区出土遺物 5	62
Fig.42	1 A区出土遺物 6	63
Fig.43	1 A区出土遺物 7	64
Fig.44	1 A区出土遺物 8	65
Fig.45	1 A区出土遺物 9	66
Fig.46	1 A区出土遺物 10	67
Fig.47	1 A区出土遺物 11	68
Fig.48	1 A区出土遺物 12	69
Fig.49	1 A区出土遺物 13	70
Fig.50	1 A区出土遺物 14	71
Fig.51	1 A区出土遺物 15	72
Fig.52	1 A区出土遺物 16	73
Fig.53	1 A区出土遺物 17	74
Fig.54	1 A区出土遺物 18	75
Fig.55	1 A区出土遺物 19	76
Fig.56	1 A区出土遺物 20	77
Fig.57	1 A区出土遺物 21	78
Fig.58	1 A区出土遺物 22	79
Fig.59	1 A区出土遺物 23	80
Fig.60	1 A区出土遺物 24	81
Fig.61	1 A区出土遺物 25	82
Fig.62	1 A区出土遺物 26	83
Fig.63	1 A区出土遺物 27	84
Fig.64	1 A区出土遺物 28	85
Fig.65	1 A区出土遺物 29	86
Fig.66	1 A区出土遺物 30	87
Fig.67	1 A区出土遺物 31	88

Fig.68	1 A区出土遺物 32	89
Fig.69	1 A区出土遺物 33	90
Fig.70	1 A区出土遺物 34	91
Fig.71	1 A区出土遺物 35	92
Fig.72	1 A区出土遺物 36	93
Fig.73	1 A区出土遺物 37	94
Fig.74	1 A区出土遺物 38	95
Fig.75	1 A区出土遺物 39	96
Fig.76	1 A区出土遺物 40	97
Fig.77	1 A区出土遺物 41	98
Fig.78	1 C区の位置 (S : 1/5,000)	111
Fig.79	1 C区グリッド割り図 (S : 1/400)	112
Fig.80	1 C区西壁堆積土層断面図 (S : 1/40)	113~114
Fig.81	1 C区第VII層以下調査範囲図 (S : 1/400)	115
Fig.82	1 C区第VIII層上面検出遺構 (S : 1/20)	116
Fig.83	1 C区第VIII層上面検出遺構全体図 (S : 1/120)	117~118
Fig.84	1 C区第V層上面検出遺構全体図 (S : 1/200)	119~120
Fig.85	1 C区第V層上面検出遺構 1・S X102 (S : 1/40)	121
Fig.86	1 C区第V層上面検出遺構 2・S X103 (S : 1/40)	122
Fig.87	1 C区第V層上面検出遺構 3・S X104 (S : 1/80)	123
Fig.88	1 C区第V層上面検出遺構 4・S X107 (S : 1/40)	124
Fig.89	1 C区第V層上面検出遺構群 1 (S : 1/40)	125
Fig.90	1 C区第V層上面検出遺構群 2 (S : 1/40)	126
Fig.91	1 C区第V層上面検出遺構 5 (S : 1/40)	127
Fig.92	1 C区第V層上面検出遺構 6 (S : 1/40)	128
Fig.93	1 C区第V層上面検出遺構 7 (S : 1/20)	129
Fig.94	1 C区第IV層中層検出遺構全体図 (S : 1/80)	130
Fig.95	1 C区第IV層中層検出遺構 (S : 1/40)	131
Fig.96	1 C区第IV層上面検出遺構 1・S X 1 (S : 1/40)	132
Fig.97	1 C区第IV層上面検出遺構全体図 (S : 1/200)	133~134
Fig.98	1 C区第IV層上面検出遺構 2 (S : 1/40)	135
Fig.99	1 C区第IV層上面検出遺構 3 (S : 1/40)	136
Fig.100	1 C区第IV層上面検出遺構 4 (S : 1/40)	137
Fig.101	1 C区第IV層上面検出遺構 5 (S : 1/20)	138
Fig.102	1 C区IVD層出土土器分布図 1 (S : 1/100)	139~140

Fig.103	1 C区IV D層出土土器分布図2 (S : 1/100)	141 ~ 142
Fig.104	1 C区IV B層出土土器分布図1 (S : 1/100)	143 ~ 144
Fig.105	1 C区IV B層出土土器分布図2 (S : 1/100)	145
Fig.106	1 C区IV A層出土土器分布図1 (S : 1/100)	148
Fig.107	1 C区IV A層出土土器分布図2 (S : 1/100)	149
Fig.108	1 C区出土土器1 (S : 1/3)	150
Fig.109	1 C区出土土器2 (S : 1/3)	151
Fig.110	1 C区出土土器3 (S : 1/3)	152
Fig.111	1 C区出土土器4 (S : 1/3)	153
Fig.112	1 C区出土土器5 (S : 1/3)	154
Fig.113	1 C区出土土器6 (S : 1/3)	155
Fig.114	1 C区出土土器7 (S : 1/3)	156
Fig.115	1 C区出土土器8 (S : 1/3)	157
Fig.116	1 C区出土土器9 (S : 1/3)	158
Fig.117	1 C区出土土器10 (S : 1/3)	159
Fig.118	1 C区出土土器11 (S : 1/3)	160
Fig.119	1 C区出土土器12 (S : 1/3)	161
Fig.120	1 C区出土土器13 (S : 1/3)	162
Fig.121	1 C区出土土製品 (S : 1/2)	163
Fig.122	1 C区出土石器1 (S : 1/2)	164
Fig.123	1 C区出土石器2 (S : 1/2)	165
Fig.124	1 C区出土石器3 (S : 1/2)	166
Fig.125	1 C区出土石器4 (S : 1/2)	167
Fig.126	1 C区出土石器5 (S : 1/2)	168
Fig.127	1 C区出土石器6 (S : 1/2)	169
Fig.128	1 C区出土石器7 (S : 1/1)	170
Fig.129	1 C区出土石器8 (S : 1/2)	171
Fig.130	1 C区出土石器9 (S : 1/2)	172
Fig.131	1 C区出土石器10 (S : 1/2)	173
Fig.132	1 C区出土石器11 (S : 1/2)	174
Fig.133	1 C区出土石器12 (S : 1/2)	175
Fig.134	1 C区出土木製品1 (S : 1/2)	176
Fig.135	1 C区出土木製品2 (S : 1/3)	177
Fig.136	1 C区出土木製品3 (S : 1/3)	178
Fig.137	1 C区出土木製品4 (S : 1/3)	179 ~ 180

Fig.138	1C区出土木製品5 (S : 1/3)	181
Fig.139	1C区出土木製品6 (S : 1/3)	182
Fig.140	1DN区の位置 (S : 1/5,000)	189
Fig.141	1DN区全体図 (S : 1/200)	190
Fig.142	1DN区グリッド割り図 (S : 1/200)	191
Fig.143	1DN区西壁・北壁堆積土層断面図 (S : 1/40)	193~194
Fig.144	1DN区出土物分布図 (S : 1/100)	195
Fig.145	1DN区出土器1 (S : 1/3)	196
Fig.146	1DN区出土器2 (S : 1/3)	197
Fig.147	1DN区出土木製品 (S : 1/3)	198
Fig.148	1F区の位置 (S : 1/5,000)	201
Fig.149	1F区全体図	205~207
Fig.150	中央ベルトセクション図・南壁セクション図	208~209
Fig.151	1F区遺構配置図 (2面)	210~212
Fig.152	1F区遺構配置図 (1面)	213~214
Fig.153	1F区遺構平面図1	216
Fig.154	1F区遺構平面図2	217
Fig.155	1F区遺構平面図3	218
Fig.156	1F区遺構平面図4	219
Fig.157	1F区遺構平面図5 (SR1)	221
Fig.158	SR1セクション図	222
Fig.159	1F区遺構平面図6 (SR2)	223
Fig.160	SR2セクション図他	224
Fig.161	1F区出土遺物 1	226
Fig.162	1F区出土遺物 2	227
Fig.163	1F区出土遺物 3	228
Fig.164	1F区出土遺物 4	229~230
Fig.165	1F区出土遺物 5	231
Fig.166	1F区出土遺物 6	232
Fig.167	1F区出土遺物 7	233
Fig.168	1F区出土遺物 8	234
Fig.169	1F区出土遺物 9	235
Fig.170	1F区出土遺物 10	236
Fig.171	1F区出土遺物 11	237~238
Fig.172	1F区出土遺物 12	239

Fig.173	1 F 区出土遗物 13	240
Fig.174	1 F 区出土遗物 14	241
Fig.175	1 F 区出土遗物 15	242
Fig.176	1 F 区出土遗物 16	243
Fig.177	1 F 区出土遗物 17	244
Fig.178	1 F 区出土遗物 18	245
Fig.179	1 F 区出土遗物 19	246
Fig.180	1 F 区出土遗物 20	247
Fig.181	1 F 区出土遗物 21	248
Fig.182	1 F 区出土遗物 22	249
Fig.183	1 F 区出土遗物 23	250
Fig.184	1 F 区出土遗物 24	251
Fig.185	1 F 区出土遗物 25	252
Fig.186	1 F 区出土遗物 26	253
Fig.187	1 F 区出土遗物 27	254
Fig.188	1 F 区出土遗物 28	255~256
Fig.189	1 F 区出土遗物 29	257
Fig.190	1 F 区出土遗物 30	258
Fig.191	1 F 区出土遗物 31	259
Fig.192	1 F 区出土遗物 32	260

付図 1 1 A 区Ⅲ上層遺物出土分布

付図 2 1 A 区Ⅲ下層遺物出土分布

付図 3 1 A 区Ⅲd層遺物出土状態 1

付図 4 1 A 区Ⅲd層遺物出土状態 2

付図 5 1 A 区Ⅲd層遺物出土状態 3

付図 6 1 F 区Ⅲ層群遺物出土分布

付図 7 1 F 区Ⅳ層群遺物出土分布

付図 8 1 C 区Ⅳ層出土土器分布図 (S : 1/100)

表 目 次

表 1 確認調査1出土土器観察表 1	27
表 2 確認調査1出土土器観察表 2	28
表 3 確認調査1出土石器計測表	29
表 4 確認調査1出土木製品計測表	30
表 5 1 A 区西壁層序表	34
表 6 1 A 区遺構計測表	99
表 7 1 A 区遺物観察表 1	100
表 8 1 A 区遺物観察表 2	101
表 9 1 A 区遺物観察表 3	102
表10 1 A 区遺物観察表 4	103
表11 1 A 区遺物観察表 5	104
表12 1 A 区遺物観察表 6	105
表13 1 A 区遺物観察表 7	106
表14 1 A 区遺物観察表 8	107
表15 1 A 区遺物観察表 9	108
表16 1 A 区遺物観察表 10	109
表17 1 A 区遺物観察表 11	110
表18 1 C 区出土土器観察表 1	184
表19 1 C 区出土土器観察表 2	185
表20 1 C 区出土土器観察表 3	186
表21 1 C 区出土土製品観察表	187
表22 1 C 区出土石器計測表	187
表23 1 C 区出土木製品計測表	188
表24 1 D N 区出土土器観察表 1	199
表25 1 D N 区出土土器観察表 2	200
表26 1 D N 区出土木製品計測表	200
表27 1 F 区層序表	204
表28 1 F 区遺構計測表	261
表29 1 F 区遺物観察表 1	262
表30 1 F 区遺物観察表 2	263
表31 1 F 区遺物観察表 3	264
表32 1 F 区遺物観察表 4	265

表33 1F区遺物観察表5	266
表34 1F区遺物観察表6	267
表35 1F区遺物観察表7	268
木製品樹種一覧表	282

図版目次

巻頭図版 1	1 A区遺構
巻頭図版 2	1 A区遺物
巻頭図版 3	1 A区出土遺物
巻頭図版 4	1 A区出土遺物
巻頭図版 5	1 F区遺構
巻頭図版 6	1 F区遺物
巻頭図版 7	1 F区遺構・遺物
巻頭図版 8	1 F区遺構
巻頭図版 9	1 C区第V層上面遺構完掘状態(東より), 同第VII層上面遺構完掘状態(東より)
巻頭図版10	1 C区出土遺物1(土器), 1 DN区出土遺物1(土器)
巻頭図版11	1 C区出土遺物2(石器)
巻頭図版12	1 C区出土遺物3(石器)
巻頭図版13	1 C区出土遺物4(石器・木製品)
巻頭図版14	1 C区出土遺物5(木製品・石器)
巻頭図版15	1 C区出土遺物6(石器)
巻頭図版16	1 C区・1 DN区出土遺物(石器・木製品・貝)
P L . 1	確認調査(1)TP-1~TP-7
P L . 2	確認調査(1)TP-8~TP-12
P L . 3	確認調査(1)TP-12~TP-16
P L . 4	確認調査(1)出土遺物1(土器)
P L . 5	確認調査(1)出土遺物2(土器)
P L . 6	確認調査(1)出土遺物3(土器)
P L . 7	確認調査(1)出土遺物4(石器)
P L . 8	確認調査(1)出土遺物5(木製品)
P L . 9	1 A区完掘状態・出土状態
P L . 10	1 A区完掘状態・セクション1
P L . 11	1 A区出土状態1
P L . 12	1 A区2面包含層機械掘削
P L . 13	1 A区完掘状態・セクション2
P L . 14	1 A区出土状態2
P L . 15	1 A区出土状態3
P L . 16	1 A区出土状態4

- P L . 17 1 A区出土遺物 1
P L . 18 1 A区出土遺物 2
P L . 19 1 A区出土遺物 3
P L . 20 1 A区出土遺物 4
P L . 21 1 A区出土遺物 5
P L . 22 1 A区出土遺物 6
P L . 23 1 A区出土遺物 7
P L . 24 1 A区出土遺物 8
P L . 25 1 A区出土遺物 9
P L . 26 1 A区出土遺物 10
P L . 27 1 A区出土遺物 11
P L . 28 1 A区出土遺物 12
P L . 29 1 C区西半部第IV層上面遺構完掘状態（東より）, 1 C区東半部第IV層上面遺構完掘
状態（東より）
P L . 30 1 C区第IV層上面遺構調査状況（西より）, 1 C区西壁堆積土層断面（南東より）
P L . 31 1 C区S X 1 遺物出土状態（北東より）, 1 C区S X 5 遺物出土状態（東より）
P L . 32 1 C区P18遺物出土状態（東より）, 1 C区P21遺物出土状態（西より）
P L . 33 1 C区土器（1381）出土状態, 1 C区石器（1422）出土状態
P L . 34 1 C区P113完掘状態（西より）, 1 C区P127完掘状態（北より）
P L . 35 1 C区西壁堆積土層断面（東より）
P L . 36 1 C区第V層上面遺構完掘状態（北東より）, 1 C区第V層上面遺構群（P 156～P
159・P161）完掘状態（北東より）
P L . 37 1 C区P157完掘状態（北より）, 1 C区P159完掘状態（西より）
P L . 38 1 C区P161完掘状態（北西より）, 1 C区P245炭化物検出状態（南西より）
P L . 39 1 C区石器（1403）出土状態, 1 C区石器（1404）出土状態
P L . 40 1 C区木製品（1432・1431）出土状態, 1 C区木製品（1434）出土状態
P L . 41 1 C区第IV層上面遺構検出状況（西より）, 同（東より）
P L . 42 1 C区第IV層上面遺構検出状態（南東より）, 同（南より）
P L . 43 1 C区第VII層上面遺構調査状況（北西より）, 同（南東より）
P L . 44 1 C区第VII層上面遺構完掘状態（東より）
P L . 45 1 C区出土遺物 7（土器）
P L . 46 1 C区出土遺物 8（土器）
P L . 47 1 C区出土遺物 9（土器）
P L . 48 1 C区出土遺物10（土器・石器）
P L . 49 1 C区出土遺物11（木製品）

P L .50	1 C 区出土遺物12 (木製品)
P L .51	1 D N区調査前状況 (西より), 1 D N区調査状況・包含層掘削 (北より)
P L .52	1 D N区完掘状態 (北東より), 1 D N区西壁堆積土層断面 (北東より)
P L .53	1 D N区木製品 (39) 出土状態, 1 D N区出土遺物 2 (土器)
P L .54	1 D N区出土遺物 3 (土器・木製品)
P L .55	1 F 区完掘状態 1
P L .56	1 F 区完掘状態 2
P L .57	1 F 区完掘状態 3
P L .58	1 F 区完掘状態 4
P L .59	1 F 区セクション
P L .60	1 F 区出土状態 1
P L .61	1 F 区出土状態 2
P L .62	1 F 区出土状態 3
P L .63	1 F 区出土状態 4
P L .64	1 F 区出土遺物 1
P L .65	1 F 区出土遺物 2
P L .66	1 F 区出土遺物 3
P L .67	1 F 区出土遺物 4
P L .68	1 F 区出土遺物 5
P L .69	1 F 区出土遺物 6
P L .70	1 F 区出土遺物 7
P L .71	1 F 区出土遺物 8
P L .72	1 F 区出土遺物 9
P L .73	1 F 区出土遺物10
P L .74	1 F 区出土遺物11

居徳遺跡群 通巻目次

『居徳遺跡群 I』(本文編)

- 第Ⅰ章 調査に至る経過
- 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境
- 第Ⅲ章 調査の概要
- 第Ⅳ章 調査の成果
 - (1) 1B区
 - (2) 1C区(その1)
 - (3) 1D区
- 第Ⅴ章 考察
1C区第IV層群出土土器について

『居徳遺跡群 II』(写真図版編)

- 1B区
- 1C区(その1)
- 1D区

『居徳遺跡群III』

- 第Ⅰ章 調査の成果
 - (1) 確認調査(1)
 - (2) 1A区
 - (3) 1C区(その2)
 - (4) 1DN区
 - (5) 1F区
- 付編1 居徳遺跡群の自然科学分析
—塗り土器・赤彩土器の塗布材料と胎土材料—
- 付編2 高知県居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果
—確認調査(1)・1C区・1DN区出土木製品について—

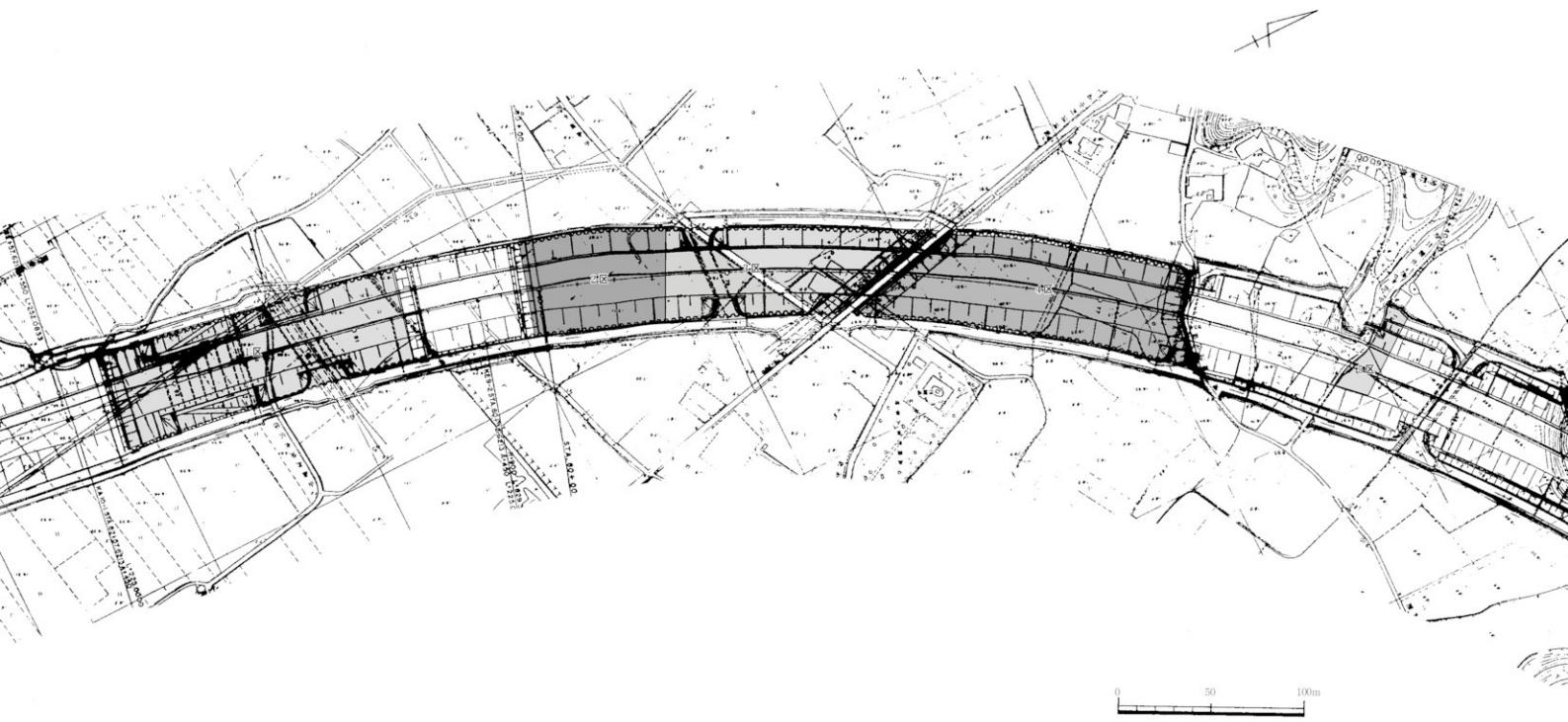


Fig.1 居德遺跡群調査区配置図 (S : 1/2,000)

第Ⅰ章 調査の成果

(1) 確認調査(1)

本編は確認調査の成果(1)とし、1区間連の成果（TP-1～TP-16）について報告する。

1. 調査の概要

四国横断自動車道建設工事に伴い、土佐市居徳地区の工事予定地に存在する遺跡について事前に埋蔵文化財の発掘調査を実施し、遺跡の範囲・内容等の確認をおこなうことを目的として、本次調査を実施した。調査期間は平成8年6月5日～8月6日、調査面積は650m²である。

2. 調査の方法

5×5mの試掘坑（テストピット=TP）を26箇所設定し、重機（バックホー）及び人力により掘り下げ、遺構・遺物の検出作業をおこなった。検出遺構・遺物出土状況・土層堆積状況等は測量・写真撮影によって記録した。

3. 調査の成果

(1)各調査区の概要

TP-1 (Fig.3)

現地表下2.8mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。（少量の流れ込み遺物あり）

TP-2 (Fig.3)

現地表下3.3mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。

TP-3 (Fig.3)

現地表下2.9mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。（少量の流れ込み遺物あり）

TP-4 (Fig.3)

現地表下2.8mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。（少量の流れ込み遺物あり）

TP-5 (Fig.4)

現地表下2.6mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。

TP-6 (Fig.4)

現地表下2.8mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。

TP-7

暗渠埋設部分であったため、調査不能となり中止する。

TP-8 (Fig.4・7)

現地表下2.1mまで調査を実施した。

弥生時代前期のピット状遺構1（V層上面）、及び縄文時代晩期～弥生時代前期の遺物包含層（IV～IX層）を確認し、突帯文土器⁽¹⁾・弥生土器等が出土した。

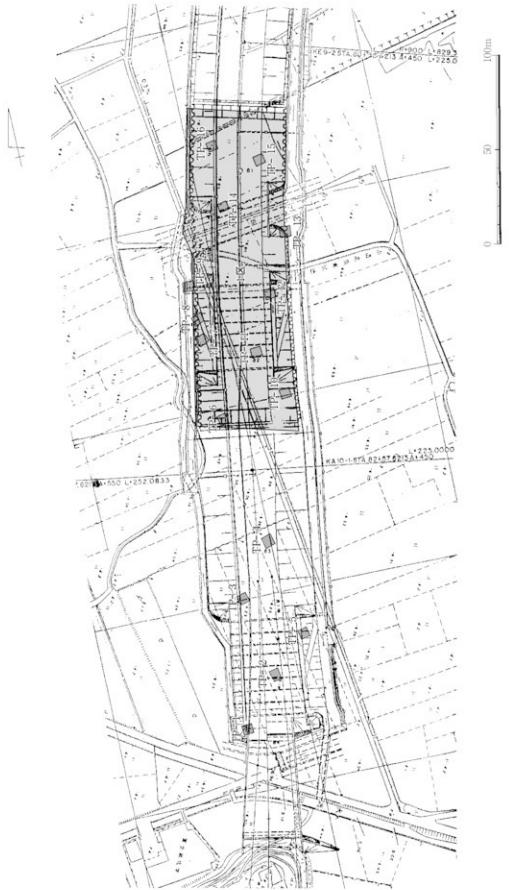


Fig.2 确认测量区配置图 (S : 1/2,000)

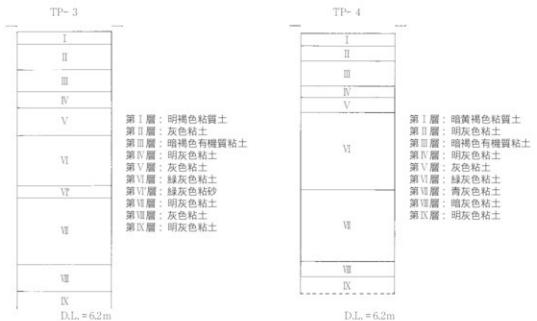
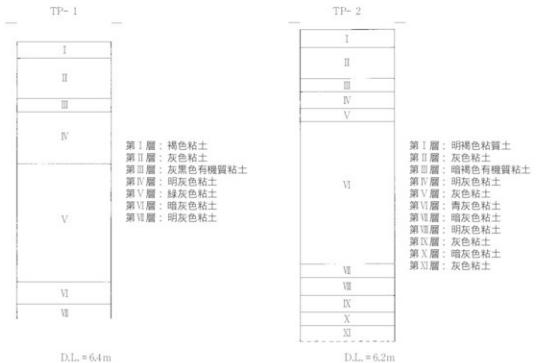


Fig.3 TP-1 ~ TP-4 堆積土層斷面柱狀模式圖 (S : 1/40)

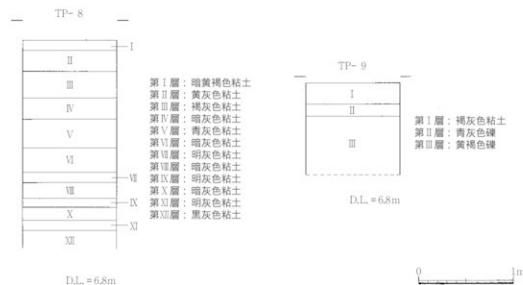
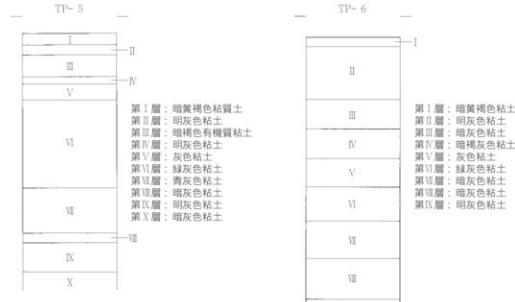


Fig.4 TP-5 · TP-6 · TP-8 · TP-9 堆積土層斷面柱狀模式圖 (S : 1/40)

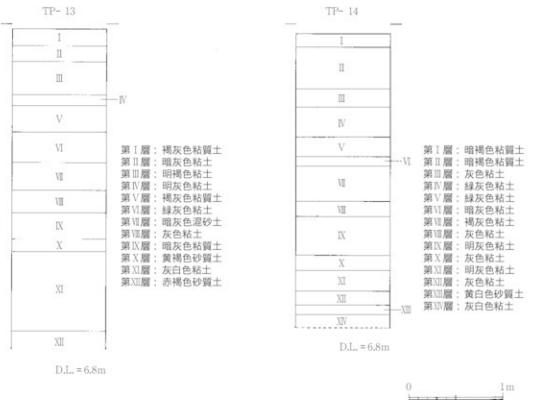
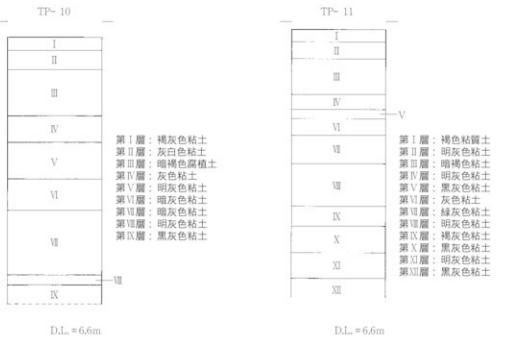


Fig.5 TP- 10・TP- 11・TP- 13・TP- 14 堆積土層断面柱状模式図 (S : 1/40)

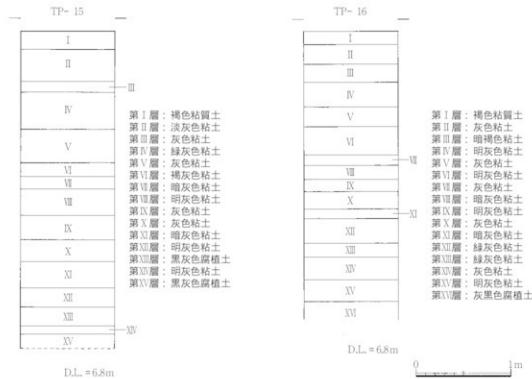


Fig.6 TP-15・TP-16堆積土層断面柱状模式図 (S:1/40)

TP-9 (Fig.4)

現地表下1.0mまで調査を実施した。遺構・遺物は検出されない。

表土直下で岩盤(基底礫層)が確認されることから、旧来の地形が削平された箇所であると考えられる。

TP-10 (Fig.5・8)

現地表下2.8mまで調査を実施した。

IV層において木製品が集中的に出土した。年代の根拠となる遺物は伴わないが、検出深度から古墳時代の所産かと考えられる。

TP-11 (Fig.5・9)

現地表下2.8mまで調査を実施した。

VII層上面で杭跡1を確認した。検出深度から古墳時代の所産かと考えられる。

TP-12 (Fig.10・11)

現地表下2.4mまで調査を実施した。

VI層上面で弥生時代前期のビット状遺構3、XII層上面で縄文時代のビット状遺構2を確認した。また縄文時代晚期～弥生時代前期の遺物包含層(III～VI層)を確認し、突帯文土器・弥生土

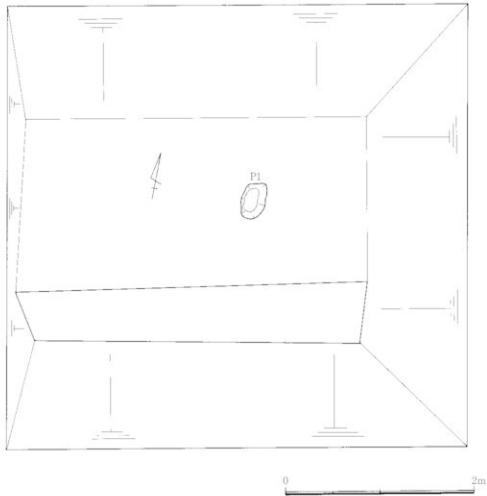


Fig.7 TP-8 第V層上面遺構平面図 (S : 1/40)

器・土師器・石器等が出土した。遺構検出面は2面存在し、下位のものは岩盤（基底礫層）上面を遺構検出面としている。

TP-13 (Fig.5)

現地表下3.3mまで調査を実施した。

縄文時代晩期～弥生時代前期の遺物包含層（II～III層・V～VI層）を確認し、突堤土器・弥生土器・石器等が出土した。

TP-14 (Fig.5・12)

現地表下3.2mまで調査を実施した。

弥生時代前期のピット状遺構6（III層上面）、縄文時代晩期～弥生時代前期の遺物包含層（II～III層）、及び縄文時代の遺物包含層（VII層）を確認し、縄文土器・弥生土器・石器等が出土した。

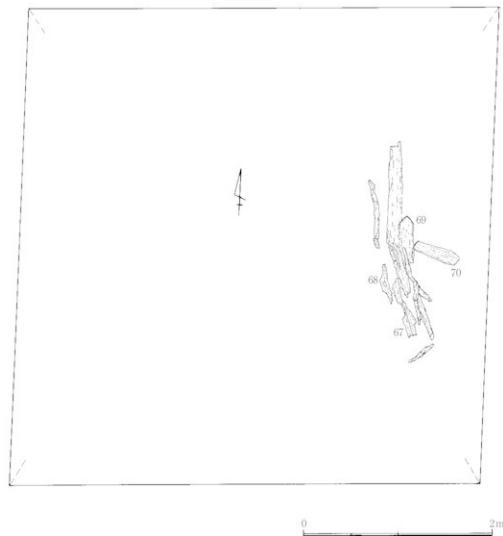


Fig.8 TP-10 第IV層遺物出土状態平面図 (S : 1/40)

TP-15 (Fig.6)

現地表下3.4mまで調査を実施した。

縄文時代晩期の遺物包含層（VII層）を確認し、縄文土器等が出土した。

TP-16 (Fig.6)

現地表下2.9mまで調査を実施した。

縄文時代晩期の遺物包含層（VII層）を確認し、縄文土器等が出土した。

(2) 遺構

① ピット状遺構 (Fig.13)

TP- 8 - P 1

平面形は不整橿円形で、長径42cm、短径26cm、検出面からの深さは10cmである。埋土は暗灰色粘土である。遺物は土器細片1点が出土している。遺構は弥生時代前期の所産と考えられる。

TP- 12 - P 1

平面形は不整形で、長径38cm、短径37cm、検出面からの深さは5cmである。埋土は褐灰色粘土である。遺物は土器細片4点が出土している。遺構は弥生時代前期の所産と考えられる。

TP- 12 - P 2

平面形は不整橿円形で、長径22cm、短径18cm、検出面からの深さは15cmである。埋土は黒色腐植土である。出土遺物はないが、遺構は縄文時代の所産と考えられる。

TP- 14 - P 1

平面形は不整円形で、長径34cm、短径31cm、検出面からの深さは25cmである。埋土は暗褐色粘土である。遺物は突帯文土器のものとみられる胴部片1点が出土している。遺構は弥生時代前期の所産と考えられる。

TP- 14 - P 2

平面形は隅丸方形で、長径25cm、短径23cm、検出面からの深さは15cmである。埋土は暗褐色粘土である。遺物は突帯文土器のものとみられる胴部片2点が出土している。遺構は弥生時代前期の所産と考えられる。

TP- 14 - P 3

平面形はほぼ円形で、長径26cm、短径25cm、検出面からの深さは15cmである。埋土は暗褐色粘

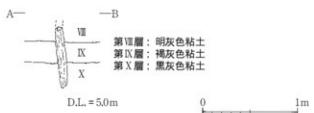
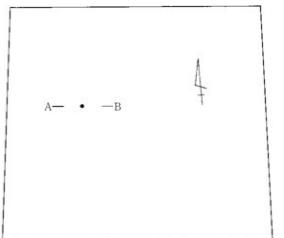


Fig.9 TP-11 第VII層上面杭鈎平面図 (S:1/80)
同断面図 (S:1/40)

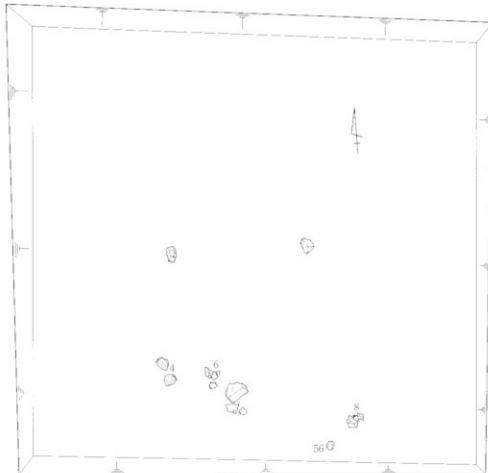


Fig.10 TP-12 第V層遺物出土状態平面図・鉛直分布図 (S : 1/40)

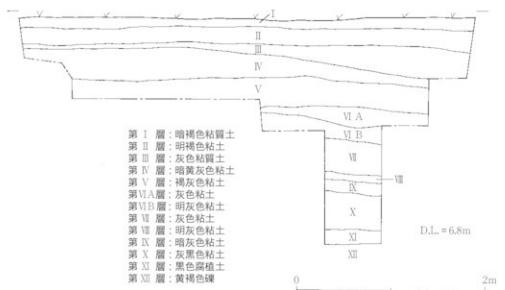
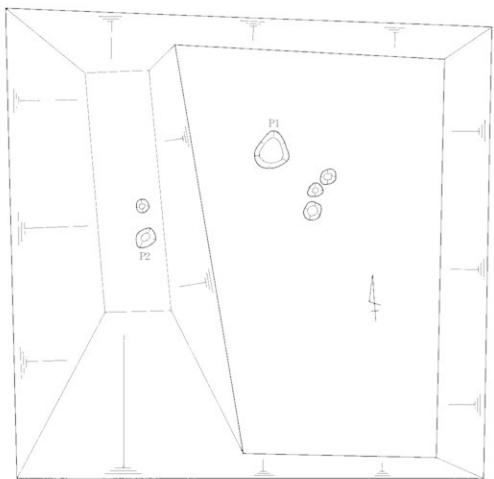


Fig.11 TP-12 检出遺構平面図・同南壁堆積土層断面図 (S : 1/40)

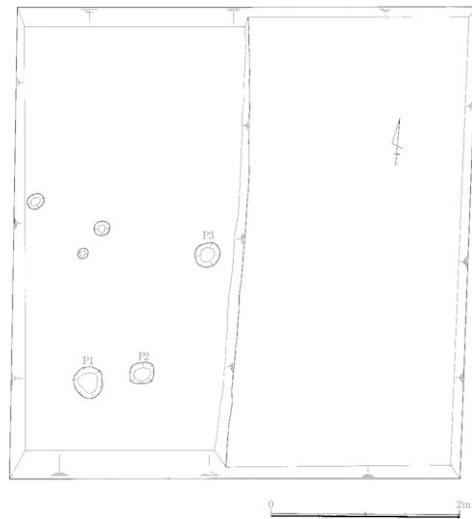


Fig.12 TP-14 第II層上面遺構平面図 (S : 1/40)

質土である。出土遺物はないが、遺構は弥生時代前期の所産と考えられる。

②杭跡

TP-11 (Fig.9)

VII層上面から打ち込まれたとみられる杭1を確認した。杭の残存長は65cmで、先端部はX層に達する。

(3)遺物

①土器 (Fig.14~18)

TP-8出土土器1点、TP-12出土土器20点、TP-13出土土器1点、TP-14出土土器32点、

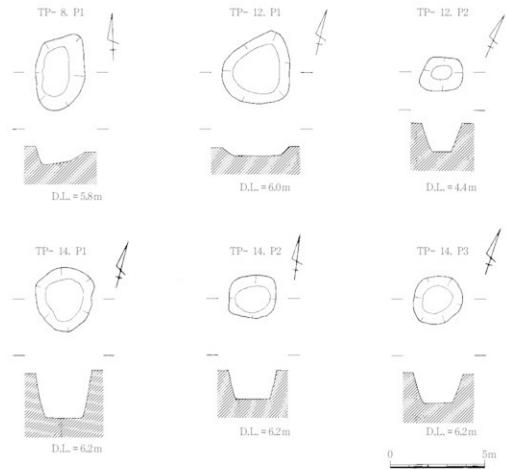


Fig.13 確認調査a 棟出遭構 (S : 1/20)

合計54点を図示した。

TP- 8 出土土器 (Fig.14)

1はV- IX層出土の突帯文土器・突帯部片である。口縁直下部分とみられ、刻目突帯2条を貼付する。

TP- 12 出土土器 (Fig.14, 15)

2・3はVI層出土の突帯文土器・口縁部片で、刻目突帯1条を貼付する。

4- 8はV層出土である。4は深鉢～橢形土器・口縁～頸部片で、口縁端部外端に刻目を施す。

5は突帯文土器・口縁部片で、刻目突帯1条を貼付し、口縁端部外端に刻目を施す。6は深鉢～橢形土器・口縁部片である。7は深鉢～橢形土器・胴部片で、外面に沈線1、刺突文1段を施す。

8は深鉢～橢形土器・底部片である。

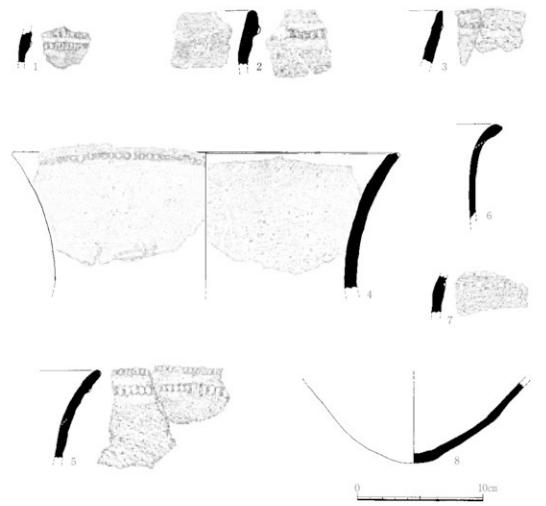


Fig.14 確認調査a 出土土器 1 (S : 1/3)

9～16はIV層出土である。9は弥生土器・壺・口縁部片である。10は突帯文土器・口縁部片で、刻目突帯1条を貼付し、口縁端部外端に刻目を施す。11は深鉢・楕形土器・胴部片で、外面に条痕調整を施す。12は弥生土器・壺・口縁部片で、刻目突帯1条を貼付し、口縁端部外端に刻目を施す。13は弥生土器・壺・底部片である。14は縄文土器・浅鉢・口縁部片で、波状口縁を呈し、内面に3条の沈線文を施す。15は縄文土器・浅鉢・底部片である。16は縄文土器・浅鉢とみられる底部片である。

17～21はIII層出土である。17は突帯文土器・口縁部片で、外面に刺突状の刻目を施す。18は深鉢・楕形土器・底部片である。19は土師器・壺・頸・胴部片で、外面にタタキ・ハケ調整を施す。20は土師器・底部片で、底面にタタキ目状の圧痕を有する。21は土師器・壺・口縁部片である。

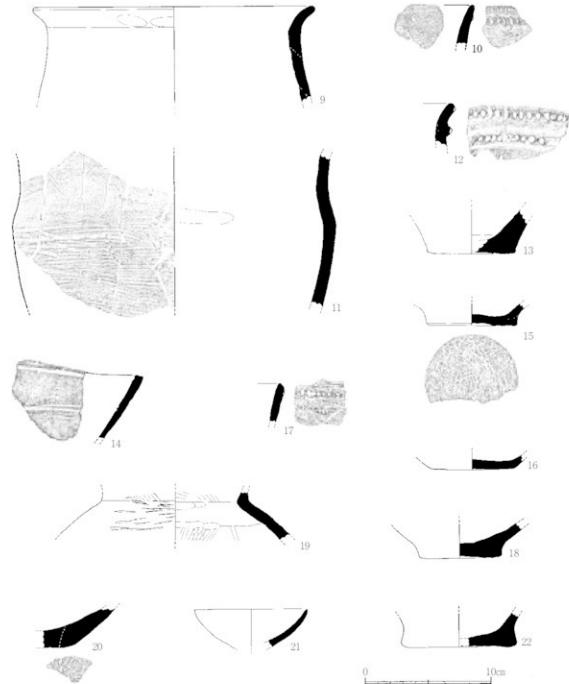


Fig.15 確認調査a 出土土器2 (S : 1/3)

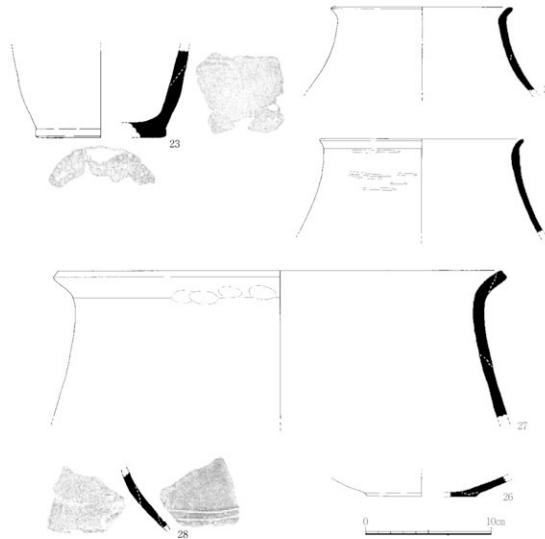


Fig.16 確認調査a 出土土器3 (S : 1/3)

TP-13出土土器 (Fig.15)

22はⅢ層出土の深鉢～橢形土器・底部片である。大粒の砂粒を多く含む特徴的な胎土によるもので、居德遺跡群1C区出土土器の「特殊胎土土器」に類する。

TP-14出土土器 (Fig.16～18)

23はⅣ層出土の深鉢～橢形土器・底部片で、外面に条痕調整を施す。

24～54はⅡ層出土である。24・25は縄文土器・壺・口縁～頸部片である。25は口縁部直下外面に赤彩を施す。26は縄文土器・壺とみられる底部片である。27は弥生土器・壺・口縁～頸部片である。28は弥生土器・壺・頸部片で、外面に沈線2条を描く。

29～41は突帯文土器で、いずれも突帯1条を有する。29・30は口縁～胴部片で、外面に条痕調



Fig.17 確認調査a 出土土器4 (S : 1/3)

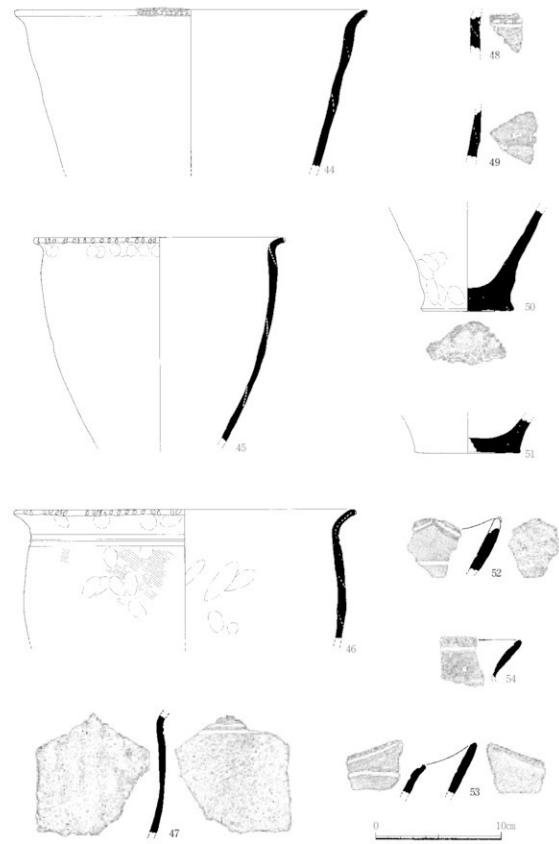


Fig.18 確認調査a 出土土器5 (S : 1/3)

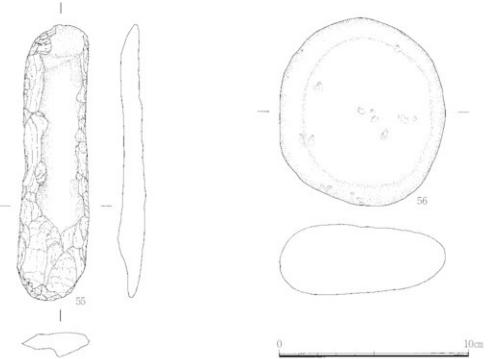


Fig.19 確認調査a 出土石器1 (S : 1/2)

整を施す。31は口縁～頸部片で、口縁端部外端に刻目を施し、頸～胴部境界部分外面に沈線1条を描く。32は口縁～頸部片で、突帶には刺突状の刻目を施す。33～41は口縁部片である。34は口縁端部外端に刻目を施す。36・40は突帶に刺突状の刻目を施す。41は突帶に刻目2段を施す。刻目内には木目とみられる圧痕が観察される。

42は深鉢～甕形土器・口縁部片で、外面に刺突文1段を施す。43は突帯文土器・胴部片で、刻目突帶1条を貼付する。

44～51は弥生土器・甕である。44は口縁～胴部片で、口縁端部外端に刻目を施す。45は口縁～胴部片で、口縁端面に刻目を施す。46は口縁～胴部片で、口縁端面に刻目を施し、頸部直下外面に平行沈線2条を描く。47は頸～胴部片で、頸部直下外面に平行沈線2条を描く。48は胴部片で、外面に平行沈線2条を描き、沈線間に刺突文を施す。49は胴部片で、外傾接合による接合部の外面に段を形成し、刻目(へら書き状)を加える。50・51は底部片である。

52～54は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。52・53は波状口縁を呈し、内面に沈線2条を描く。52は口縁端部側の沈線1条に赤色顔料を充填する。54は内面に沈線状の凹部1が観察される。

②石器

T P- 12出土石器2点、T P- 13出土石器1点、T P- 14出土石器9点、合計12点を図示した。

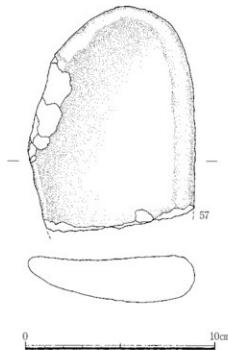


Fig.20 確認調査a 出土石器2 (S : 1/2)

TP-12出土石器 (Fig.19)

55・56はV層出土である。55は結晶片岩製の打製石斧である。56は花崗岩製の磨石である。

TP-13出土石器 (Fig.20)

57はII層出土の石皿で、砂岩製である。

TP-14出土石器 (Fig.21)

58~66はII層出土石器である。58~65は打製石器である。58~61はチャート製である。58・59は平基[○]、60は円基~凸基[○]、61は凸基である。62~65はサヌカイト製である。62・63は凹基[○]、64は平基~凹基[○]、65は凸基~円基である。66はサヌカイト製の2次加工ある剥片で、石鎚未製品の可能性がある。

③木製品 (Fig.22~24)

TP-10出土の木製品5点[○]を図示した。いずれもIV層出土である。

67~71は田下駄[○]を構成する部材である。67は長輪両端部に突出部を有し、枠型田下駄[○]の足板と考えられる。突出部表面は外圧によりやや凹んでおり、使用状態を示す痕跡と考えられる。68は枠型田下駄の横樋である。長輪両端は縦枠と組み合すために細く（一端を欠く）、また中央部には足板固定のための穿孔1を有する。穿孔部の大きさと出土状態により、68は67と組み合わせて使用された可能性が考えられる。69~71はいずれも田下駄の足板と考えられる。69・70は7個の穿孔を有し、輪螺型田下駄[○]のものかと考えられる。71は穿孔6を有し、中板もしくは歯と組み合わせるための方形の受け部1を形成する。箱型[○]もしくは足駄型[○]の田下駄のものと考えられる。67~71の樹種はいずれもヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている[○]。

4. 総括

TP-1~TP-16の調査対象範囲において、遺構・遺物の存在が確認されたのは、TP-8~TP-16の区間であった。ここには縄文時代晚期~弥生時代前期の遺構及び遺物包含層が広範囲に存在するものと判断され、当該期の集落跡の存在する可能性が高いと考えられた。

TP-12周辺では部分的ではあるが、縄文時代晚期~弥生時代前期の遺構検出面及び遺物包含層の下層に縄文時代の遺構面が確認できた。

木製品の集中出土地点と杭跡が確認できたTP-10・11周辺では、年代の根拠となる遺物は出土

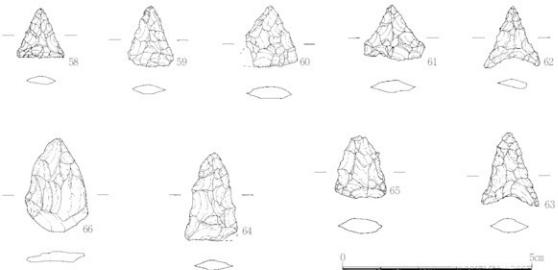


Fig.21 確認調査a 出土石器3 (S : 1/1)

していないが、古墳時代頃の遺跡が存在するものと考えられた。

以上の成果に基づき、居徳遺跡群1区の調査範囲を決定した。試掘坑と発掘調査区との対応関係は以下のとおりである。

TP-6 ~ 9 . . . 1 E 区

TP-10 ~ 11 . . . 1 D 区

TP-12 . . . 1 C 区

TP-13 ~ 14 . . . 1 A 区

TP-15 ~ 16 . . . 1 B 区

註

(1) 既報の『居徳遺跡群I-a』においては、発掘調査1C区出土の「刻目突帯または無刻目突帯を有する」深鉢-表形土器について、縄文時代晚期-弥生時代前期という時代性を考慮し、「突帯文土器」という名称で取り扱った。そして、「突帯文土器」に該当しない深鉢-表形土器については、「深鉢-表形土器」と呼称した。本編においても、1C区の状況に類するような出土状態の「縄文晚期土器」と「弥生前期土器」を扱わねばならないため、以上の方針を踏襲し、「突帯文土器」、「深鉢-表形土器」の名称を使用した。

曾我貴行「第IV章 調査の成果 (2) 1C区 (その1)」『居徳遺跡群I-a(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター』2001年 p.108~111

(2) 同註(1)

(3) 曾我貴行「第IV章 調査の成果 (2) 1C区 (その1)」『居徳遺跡群I-a(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター』2001年 p.59

(4) 打製石器の形態分類については、国立歴史民俗博物館(1996年)による基準に従った。

国立歴史民俗博物館『農耕開始期の石器成組1 近畿(大阪・兵庫)・中国・四国』国立歴史民俗博物館資料調査報告書7 1996年

- (5) この5点に関しては、株式会社吉田生物研究所に委託して、保存処理を実施した。
- (6) 奈良国立文化財研究所『木器集成図録 近畿原始篇』奈良国立文化財研究所史料第36冊 1993年
- (7) 同註(6)
- (8) 同註(6)
- (9) 同註(6)
- (10) 同註(6)
- (11) 樹種鑑定は株式会社吉田生物研究所に委託して実施し、その成果は付録2として掲載した。

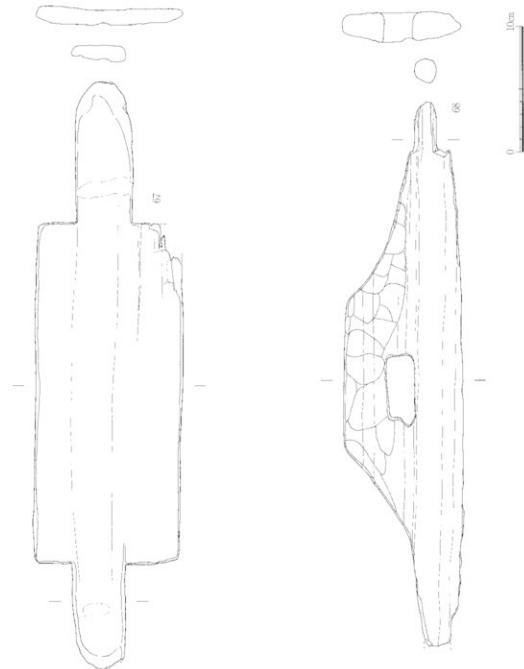


Fig. 22 確認調査。出土木製品1 (5 : 1/3)

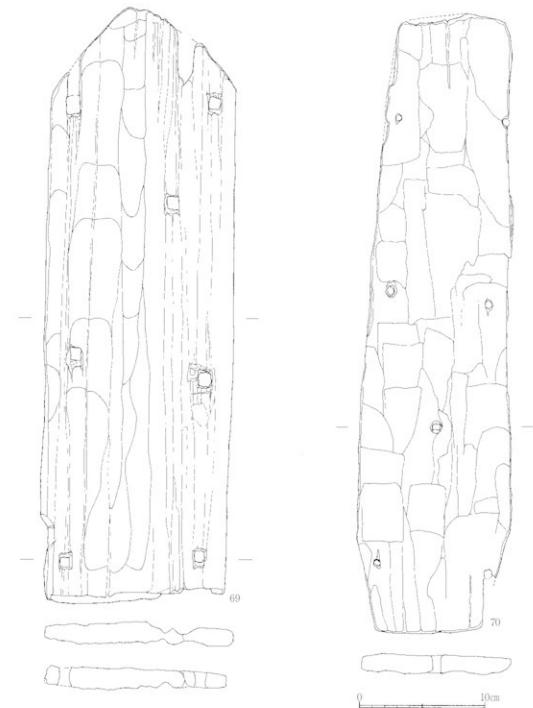


Fig.23 確認調査a 出土木製品2 (S : 1/3)

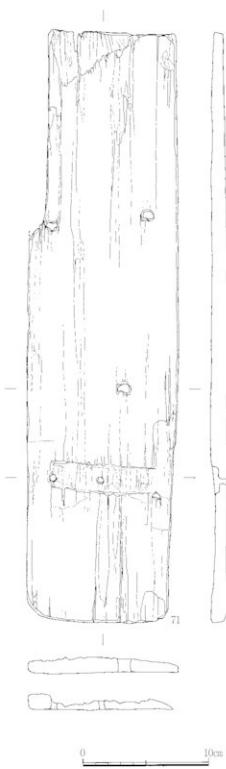


Fig.24 確認調査a 出土木製品3 (S : 1/3)

表1 確認調査a 出土土器観察表1

件目番号	出土地の 位置	深度 (cm)	文様・ 種類	外因 内因 その他の部位	色調	内因 外因	地主	混合	備考
Fig.14-1	丁P-8 V-1 底面	陶器 文部省 官署	2.50	横目切妻付2、ナラ、ハフリテ ナラ	黒褐色 黒褐色	10% 7.5% 4×2	灰白、 石英	?	
Fig.14-2	丁P-13 底面	陶器 文部省 官署	4.20	横目切妻付1、ナラ ナラ	黒灰 黒灰	2.5% 4×1 5×2	灰白、 石英	内緑	
Fig.14-3	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	4.20	横目切妻付1、ナラ ナラ	オーリーブ 灰	7.0% 5% 4×2	灰白、 石英	?	
Fig.14-4	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	30.20	ハラタマヘビ目1、ナラ ナラ	黒灰 黒灰	2.0% 6×1 6×4	白灰、 石英	内緑	
Fig.14-5	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	10.00	横目切妻付1、ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 10% 4×2	白灰、 石英	内緑	
Fig.14-6	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	8.00	横目切妻付1、ナラ、本麻2 ナラ	オーリーブ 灰	SV 2.0%	白灰、 石英	内緑	
Fig.15-1	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	11.10	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	2.0% 5% 6×1 10% 4×2	白灰、 石英	内緑	
Fig.15-2	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	3.10	横目切妻付1、刺文1段、ナラ ナラ	中灰 灰	7.0% 5×6 6×6 4×2	白灰、 石英	小緑	
Fig.15-3	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	6.00	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	2.0% 10% 5×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-4	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	23.80	ナラ (丁W) ナラ	黒灰 黒灰	2.0% 10% 7×2 6×6 4×2	白灰、 石英、 砂岩	内緑	
Fig.15-5	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	3.10	横目切妻付1、ナラ ナラ	オーリーブ 黒灰	1.0% 6×2 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-6	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	25.00	横目 ナラ	黒灰 黒灰	10% 10% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-7	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	3.40	横目切妻付1、ナラ ナラ	オーリーブ 黒灰	7.0% 5×6 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	外緑 赤茶化性質	
Fig.15-8	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	2.70	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	2.0% 10% 6×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-9	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	2.30	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	2.0% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	成孔跡 外緑
Fig.15-10	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	1.80	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-11	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	1.20	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-12	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	1.20	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-13	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	0.10	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-14	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	2.80	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	2.0% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-15	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	0.90	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-16	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	2.70	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-17	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	0.30	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-18	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	0.60	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-19	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	0.05	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 5×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-20	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	3.20	ナラ ナラ	オーリーブ 黒灰	10% 10% 6×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-21	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	8.90	ナラ ナラ	オーリーブ 黒灰	10% 10% 7×2 7×4	白灰、 石英	?	
Fig.15-22	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	2.70	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	N 4×2 10% 7×2	白灰、 石英	内緑	特徴的土
Fig.15-23	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	0.05	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 10% 7×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-24	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	7.50	ナラ ナラ	オーリーブ 黒灰	10% 10% 6×2 6×6 4×2	白灰、 石英	?	
Fig.15-25	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	16.00	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	2.5% 4×2 4×2	白灰、 石英	?	日本古事記傳抄
Fig.15-26	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	8.00	ナラ ナラ	黒灰 黒灰	10% 10% 5×2 5×2	白灰、 石英	?	内緑
Fig.15-27	丁P-12 底面	陶器 文部省 官署	36.00	ナラ ナラ	オーリーブ 黒灰	10% 10% 7×2	白灰、 石英	?	西緯17度

表2 確認調査a 出土器観察表2

確認番号	出土地点 機会	形態 (cm)	文様・調整	内面 外側	内側 外側	加工	備考
Hig-16-28	T.P-14 主室 副室 壁面	円筒 約3.5cm	横縞2.ミナ ナダ9.円筒	内側 外側	2.5Y x 7.2 11G.石系、雲母 4/2	内側	
Hig-17_29	T.P-14 主室 副室	口縁 高さ 底面	(2.2) 直角切妻付1.集束.ナダ 底面 26.7cm	内 内側	3Y 5.2/1直角.集束 2.5Y x 4/2	内側	
Hig-17-30	T.P-14 主室	口縁 底面 内側	25.50 相切妻付1.集束.ナダ 底面 16.0cm	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角.表面 DVR DVR DVR	内側 内側	内側
Hig-17_21	T.P-14 主室	口縁 底面 内側	19.00 相切妻付1.ナダ.押抜.波線 底面 8.7cm	内側 内側	3YR 5.2/1直角.表面 2.5Y x 4/2	内側	
Hig-17-32	T.P-14 主室	口縁 底面 内側	25.50 相切妻付1.ナダ 底面 14.2cm	内側 内側	DVR 4/2/1直角.表面 DVR DVR DVR	内側 内側	内側
Hig-17-23	T.P-14 主室 副室 壁面	口縁 内側	1.50 相切妻付1.ナダ ナダ	内 内	N x 6/2	石系.表芯 6/2	内側
Hig-17-24	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	1.10 相切妻付1.ナダ ナダ	内側 内側	DVR 5.2/1直角.表面 DVR x 7/2	内側	
Hig-17-25	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	2.50 相切妻付1.ナダ ナダ	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角.表面 DVR DVR DVR	内側 内側	内側
Hig-17-26	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	3.20 相切妻付1.ナダ ナダ(斜面)	内側 内側	2.5Y x 5/2	石系.表芯 5/2	内側
Hig-17-27	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	1.40 相切妻付1.ナダ ナダ	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR x 5/2	石系.表芯 5/2	?
Hig-17-28	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	3.10 相切妻付1.ナダ(ナダ)	内側 内側	DVR 5.2/1直角 DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-17_29	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	3.60 相切妻付1.ナダ ナダ	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR 5/2	石系.表面 5/2	?
Hig-17-30	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	2.80 相切妻付1.ナダ ナダ	内側 内側	2.5Y x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-17-31	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	5.50 相切妻付1.ナダ ナダ	内側 内側	DVR 4/2/1直角 DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-17-32	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	3.20 相切妻付1.ナダ ナダ	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-17-33	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	5.40 相切妻付1.ナダ(ナダ) ナダ	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-17-34	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	3.40 相切妻付1.ナダ(ナダ) ナダ	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-17-35	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	27.00 (2.5) 直角 ナダ	内側 内側	2.5Y 6/2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-03	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	1.00 6.00 18.80 16.70	内側 内側	2.5Y 6/2/1直角 DVR DVR DVR DVR	内側 内側	内側
Hig-18-40	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	26.50 直角 ナダ	内側 内側	2.5Y 6/2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-41	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	3.00 直角 ナダ	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-42	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	3.00 直角2. 沈頭 刃欠矢.ナダ ナダ	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-43	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	3.80 直角2. 沈頭 刃欠矢.ナダ ナダ	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-44	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	8.10 直角.ナダ ナダ	内側 内側	2.5Y 5/2/1直角.表面 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-45	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	2.00 直角.ナダ ナダ	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-46	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	3.40 直角.ナダ ナダ	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-47	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	4.20 ナダ(ナダ) 沈頭.2.5ガホ 1/4角付	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-48	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	4.20 ナダ(ナダ) 沈頭.2.5ガホ 1/4角付	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-49	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	7.5Y 5.2/1直角.表面 DVR DVR x 5/2	内側 内側	2.5Y 4/2/1直角.表面 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-50	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	7.5Y 5.2/1直角.表面 DVR DVR x 5/2	内側 内側	2.5Y 4/2/1直角.表面 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-51	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	5.10 ナダ.ナダ 1/4角付	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側
Hig-18-52	T.P-14 主室 副室	口縁 内側	3.10 ナダ.ナダ 1/4角付	内側 内側	2.5Y 7.2/1直角 DVR DVR x 5/2	石系.表面 5/2	内側

表3 確認調査a 出土石器計測表

標因番号	出土地点・層位	断面	計測 (cm, g)			測量号	石材	備考
			全長	子幅	刃厚			
Fig.19-55	TP12・V層	打製石斧	14.60	3.80	1.30	105.50	結晶片岩	日本文化 現存
Fig.19-56	TP12・V層	盤石	10.00	8.80	3.70	493.60	瑪瑙岩・磨打度	花崗岩 現存
Fig.20-57	TP13・Ⅲ層	石刀	11.95	8.90	2.50	356.60	瑪瑙岩・磨打度	砂岩
Fig.21-58	TP14・Ⅲ層	打製石斧	1.35	1.20	0.30	0.50	平底?	チート 芯舟
Fig.21-59	TP14・Ⅲ層	打製石器	1.60	1.20	0.25	0.40	平底?	チート
Fig.21-60	TP14・Ⅲ層	打製石斧	1.65	1.40	0.35	0.70	円底～凸底	チート
Fig.21-61	TP14・Ⅲ層	打製石斧	1.50	1.60	0.35	0.50	凸底	チート 現存
Fig.21-62	TP14・Ⅲ層	打製石器	1.65	1.60	0.30	0.40	凹底	サスカイト 現存
Fig.21-63	TP14・Ⅲ層	打製石器	1.95	1.35	0.40	0.70	凹底	サスカイト 現存
Fig.21-64	TP14・Ⅲ層	打製石器	2.35	1.10	0.30	0.90	平底～凹底?	サスカイト
Fig.21-65	TP14・Ⅲ層	打製石器	1.70	1.40	0.40	0.90	凸底～凹底	サスカイト 現存
Fig.21-66	TP14・Ⅲ層	2次加工ある片片	2.50	1.70	0.30	1.40	基部側：米開鑿 上部側：未開鑿	サスカイト 石器美作品?

表4 確認調査a 出土木製品計測表

辨認番号	出土地点・層位	器種	法面 (cm)			構造	樹種	備考
			全員	左側	右側			
Ftg.22-67	T.P.10・N層	田下駒・足板	45.20	11.90	1.60	台形輪削削、突出部形成 施道型十字彫刻、溝仕様	ヒノキ科ヒノキ属	68と組合せ?
Ftg.22-68	T.P.10・N層	田下駒・横棒	47.10	9.40	3.00	丸曲・加工痕削 穿孔上(方形)	ヒノキ科ヒノキ属	67と組合せ?
Ftg.23-69	T.P.10・E層	田下駒・足板	47.00	15.30	1.90	7面・加工痕削 穿孔7(方形)	ヒノキ科ヒノキ属	
Ftg.23-70	T.P.10・E層	田下駒・足板	38.90	12.70	1.70	表面・加工痕削 穿孔7(方形)	ヒノキ科ヒノキ属	
Ftg.24-71	T.P.10・N層	田下駒・足板	46.80	12.00	1.40	表面(凹部) (方形) 穿孔6(円形) 左側縁: 槌頭1(加工痕?)	ヒノキ科ヒノキ属	

(1) 1A区

1. 1A区の概要

調査区は丘陵部から東に延びた尾根の先端近くであり、北側斜面に位置する。現況は水田である、南端は尾根上に設置された東西方向の農道に接しており、西は清瀧山系に源を発する水路に隔される。北隣の1B区は付近でも標高が低く、その北側に設けられていた東西方向の幅約1mの排水路は常時水が停滞する状態であり、西側の水路で流量が増えれば調査区内にも水が逆流する事度々であった。調査区の多くはこう云った湿地的な環境に基づく水成堆積層で占められる。南部は後世の耕作に伴うであろう尾根部分の削平が顕著であり、南端から幅十数mは地山（黄褐色砂礫層）が削平を受け露呈していた。調査はこの地山部分から北側に向かって下る斜面を中心として行われた。

上位に存在した厚い粘土～シルト質の堆積層（Ⅲ層）では遺構の存在は殆ど確認できず、遺物の包含も希薄であった。生活痕が濃厚な1面はこの斜面を緩やかに下り北の1B区に連なるものであり、上からⅢa層、Ⅲs層、Ⅲd層、Ⅲb層とⅢc層の包含層と下位の遺構検出面としたⅢe層で構成される。遺構の多くは上位からの削平が厳しく検出面からの深さは左程ではないが、縄文晩期土器を出土する土坑数基と数十個のビットが発見された。また包含層からは縄文晩期土器、弥生前期土器などの土器・土製品や石鏟、石斧、叩石、磨石、石棒、砥石などの石器・石製品、その他椀、網籠などの木器・木製品や獸骨、木実などが出土している。2面は急な斜面部に設けられたビット群であり、その直上に堆積する黒色土である。出土遺物は遺構や包含層から極僅かであり、土器は絹片であり、石器は石片である。

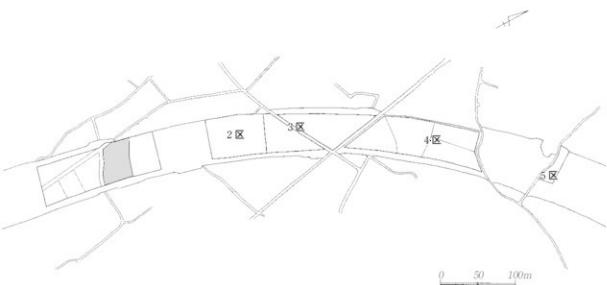


Fig.25 1A区の位置 (S : 1/5,000)

2. 調査の方法

耕作土等の除去をした後、平成9年10月20日に包含層の掘削を開始する。調査区の南部は既に削平が行われてあり地山が検出された。また地山部分からやや北側に離れた部分でも嘗て尾根上を覆っていたであろう堆積層が縞状に確認された。調査区の北部は上位に堆積する厚い包含層が残存しており、ここを中心として重機を用いて掘削した。出土遺物については随時、その出土状態を写真撮影、出土地点を光波測量器により第4系座標で記録して取り上げた。上位包含層では遺物の出土は稀であるが、遺物の残りが比較的良好なのが多く存在した。特に地山に近接する南寄りの部分や下位では遺物の出土が頻繁と成了る為、やや厚く包含層を残して重機に因る包含層の掘削を終了した。精査は調査区を東西に分け、先ず東側を平成9年10月27日から開始し、西側は11月21日から行った。包含層の精査は第4系座標に則った $4 \times 4\text{ m}$ の任意グリッドを設定し、出土遺物の多くはグリッド単位で、また残存状態の良いものや規模の大きなものを中心として出土状態を写真撮影、平面図化乃至は座標で記録し取上げを行った。包含層の中で土器・土製品及び石器・石製品、小型から中型の植物遺体や木製品を含む層（IIId層）については出土密度が高く範囲が限定されることから、可能な範囲で隣接するグリッドを含めて出土状態を写真等で記録した。包含層の精査後に遺構の検出を行い、土坑6基とピット32個を検出した。遺構精査は半截状態や出土状態を随時、また完掘状態は東西各々の遺構群が完掘した時点で、写真と図面で記録した。完掘は東側が平成9年12月4日、西側が12月19日である。下層（2面）への掘削も東西単位で行い、重機による包含層掘削は東側で平成9年12月9日、西側では12月23日である。包含層と遺構についてでは完掘の後、平面図化及び写真撮影を平成10年2月6日行い、航空測量を平成10年3月18日に行って完了する。調査完了迄に平成9年11月26日、平成10年1月18日、同年2月20日の降雨により調査区が冠水し、各々3日から6日の中断が発生した。

3. 層序 (Fig.28)

基本層準として図示したのは調査区の西壁断面図である。

1層

耕作土又は旧耕作土、耕作に係わる土層である。

2~4層

希薄ではあるが遺物を包含する。調査時には“III層”として扱った。出土遺物は弥生土器であり、近現代に於ける耕作等による改変、例えば調査区内に縦横に埋設された暗渠や旧畦畔設置にともなう杭列はこれらの層に迄及んでいる。

5~13層

弥生前期遺物包含層であり、IIIa層を構成する。色調は暗青灰色を呈する。IIIa層は下位に存在するIII_s層と同時期の堆積層と考えられ、上位であるIIIa層部分は幾つか土壤化が進行したものであろう。

調査区の一部でIIIa層を細分し“IIIa-1層”を使用したが、基本的に本層に包括される。

出土遺物は繩文土器、弥生土器などの土器・土製品、叩石、軽石などの石器・石製品、木製品、植物遺体である。

14層

調査区の北部では定常にIIIa層の下位に認められており、色調は淡灰色から緑灰色を呈する。層厚は北部で10~15cmを測る。IIIa層と同時に堆積し土壤化の影響を余りを受けなかった部分と考えられる。

出土遺物は繩文土器、弥生土器などの土器・土製品、石鐵、石斧などの石器・石製品と木製品である。

15層~16層

西壁断面では明確にし難いが調査時に使用した“III_d層”、“III_b層”、“III_c層”に相当する。

III_b層は傾斜の明瞭な尾根に近い調査区南側の部分で検出された堆積層であり、調査区北部に恒常に見られるIII_c層に共通する。黒色から黒褐色の粘質土層であり、北部では色調がやや薄くなるものの、1B区の北端に至る迄追跡が可能である。土壤化した腐植を含む堆積層であり、繩文晚期土器を主に包含する。

III_b層は調査区の西側で土質の変化に伴って分層を行い、下位からIII_{b-1}からIII_{b-5}までを使用した。

III_d層の色調はIII_b層やIII_c層に近似する。断面図では明瞭な切り合いを示すことはできないが、西壁図に示した破線の範囲が概ねIII_d層に相当しよう。多量の土器・土製品、石器・石製品、木器・木製品や小型から中型の植物遺体、獸歯、獸骨などが集中して出土した。また流路的性格を持つ堆積層であり、これら出土遺物の下には地山崩壊角礫とは異なる小砾を含んだ砂層の堆積(16層)が認められ、これは尾根筋を巻く様に遺構検出面であるIII_e層を浅く掘込んで検出されている。

調査区の東部で色調の変化から分層を行い、下位からIII_{d-1}からIII_{d-3}を使用した。

表5 1A区西壁層序表

西壁セクション層序(上層)

層	内容	色調	その他
1	耕作土。淡青灰色粘土。	黒褐色	10YR3(2)
2	粘性ややあり。縮まりあり。褐色粒子を含む。	にぶい黄橙色	10YR7(2)
3	粘性あり。縮まりあり。炭化物を少し含む。	褐色	10YR6(1)
4	粘性あり。縮まりあり。褐色粒子を含む。	黄灰色	2.5Y(6/1)
5	粘性あり。縮まりあり。	浅黄色	2.5Y(7/3)
6	粘性あり。縮まりあり。	暗灰色	N3(0)
7	粘性あり。縮まりあり。炭化物を含む。	灰黄色	2.5Y(6/2)
8		青灰色	5GB6(1)
9	粘性あり。縮まりあり。炭化物を含む。	黄灰色	10Y5(1)
10	粘性あり。縮まりあり。木片や炭化物、礫を含む。	暗灰色	N3(0)
11	粘性あり。縮まりあり。	灰白色	7.5Y(7/2)
12	粘性あり。縮まりあり。褐色斑を含む。	黄灰色	2.5Y(4/1)
13	粘性あり。縮まりあり。褐色斑を含む。	青灰色	
14	粘性あり。縮まりあり。シルト質。	暗灰褐色	IIIa層に構成する?
15	粘性あり。縮まりあり。腐殖を多く含む。青色角礫を含む。土器を包含する。	暗灰褐色	IIIb層・IIIc層に相当する?
16	10mmの大さな山地崩壊礫や小円礫を多く含む。土器を包含する。	灰褐色	IIId層を構成する。
17	強い粘性あり。縮まりあり。	黒褐色	IIIe層の一部?
h	粘性あり。縮まりあり。	青灰色	
i	粘性あり。縮まりあり。	青灰色	

西壁セクション層序(下層)

層	内容	色調	その他
1	粘性あり。縮まりあり。	明青灰色	5GB7(1)
2	粘性あり。縮まりあり。暗灰色粘土と青灰色粘土の不明瞭な互層を成す。	暗灰色	N3(0)
3	粘性あり。縮まりあり。	明オリーブ灰色	2.5GY(7/1)
4	粘性あり。縮まりあり。	灰色	N4(0)
5	粘性あり。縮まりあり。	灰色	N6(0)
6	粘性あり。縮まりあり。	灰白色	10Y(7/1)
7	粘性あり。縮まりあり。灰白色粘土と明オリーブ色粘土、灰色粘土の明瞭な互層を成す。	灰白色	N7(0)
8	粘性あり。縮まりあり。黑色粘土と灰色粘土の明瞭な互層を成す。	黒色	N2(0)
9	粘性あり。縮まりあり。青灰色粘土と灰白色粘土の明瞭な互層を成す。	青灰色	5B(6/1)
10	粘性あり。縮まりあり。灰色粘土と暗灰色粘土の明瞭な互層を成す。	灰色	7.5Y(4/1)
11	粘性あり。縮まりあり。青色崩壊角礫を含む。	オリーブ黒色	5Y2(2)
h	粘性あり。縮まりあり。青色角礫を多く含む。	黒色	N2(0)
i	粘性ややあり。縮まりあり。3~5cmの大さな青色角礫を稀に含む。	黒色	N1.5(0)

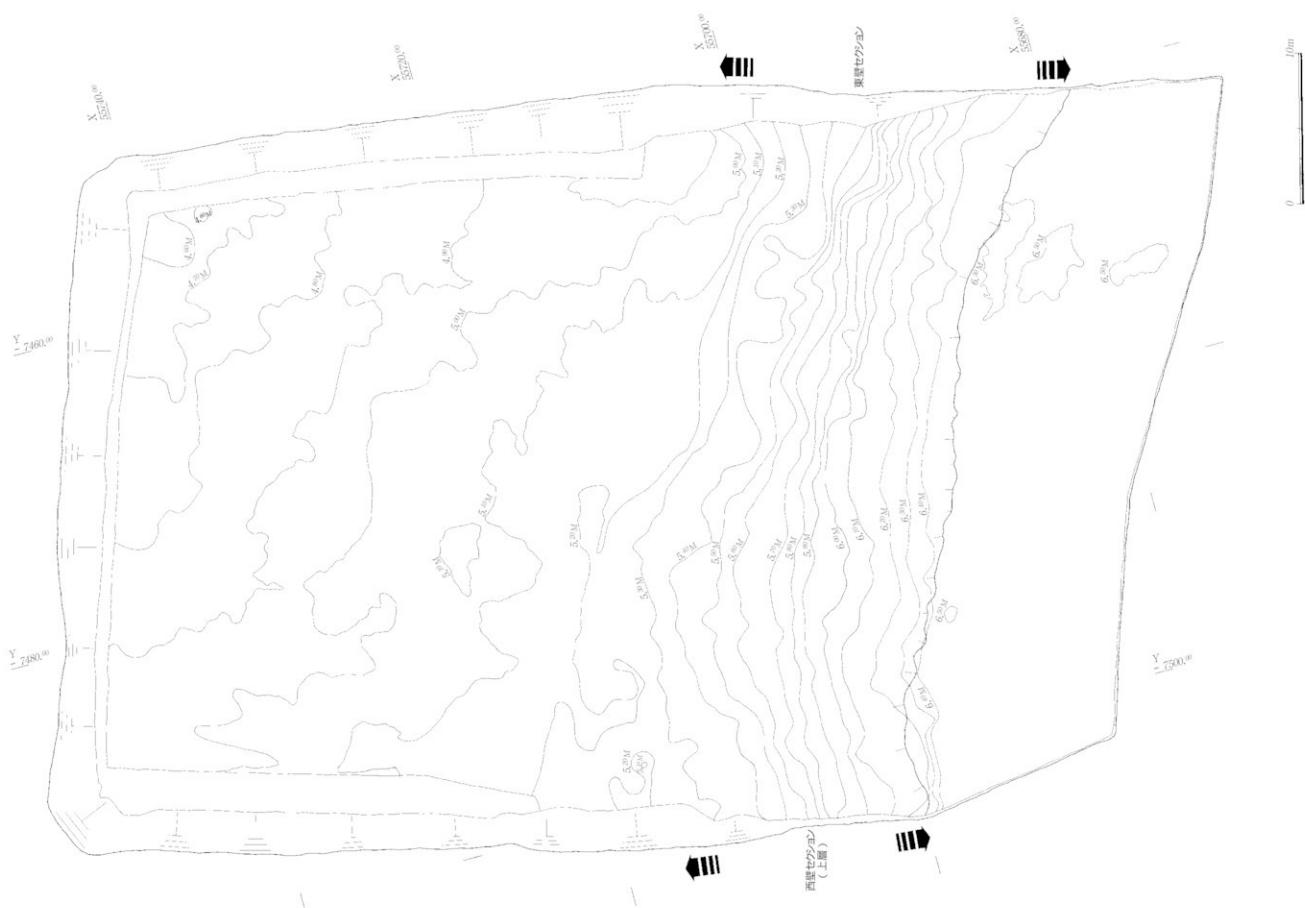


Fig.2-6 1A区、1B区全体図(1面)

10m
0



Fig.27 1A区全体図(2面)

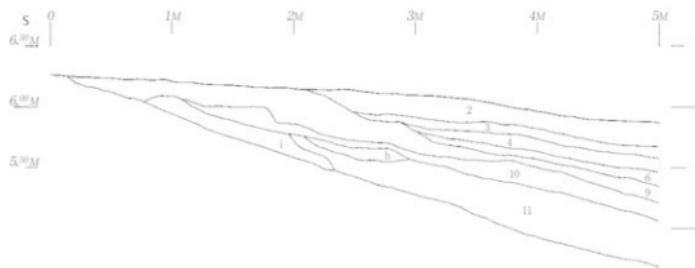
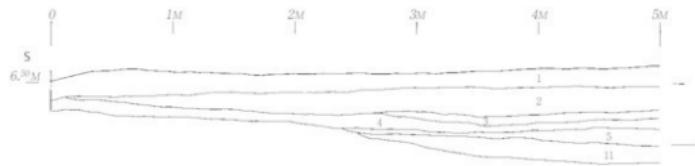
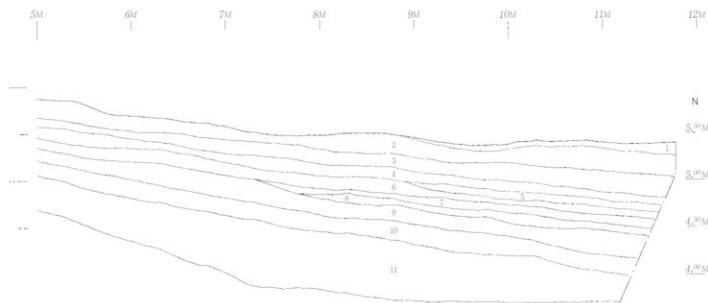
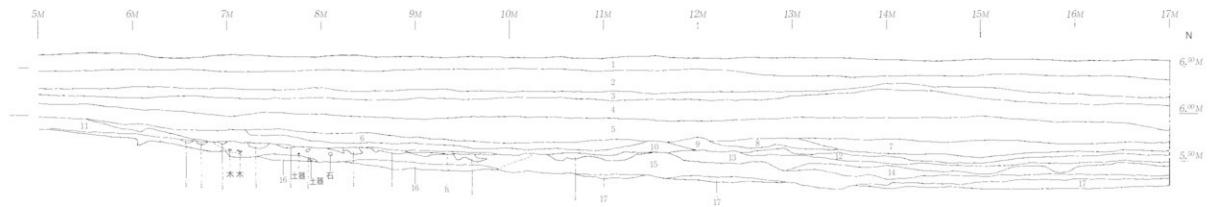


Fig.28 西壁セクション図



0 2m

4. 遺構

ピット群（その1）

2面で検出された遺構は約920個のピットであり、嘗ての尾根斜面に設置されたものである。標高の高い上位は地山（黄褐色砂礫層）に掘込まれており、下位は灰白色から黄灰色を呈する粘土層で検出された。上位では比較的規模の大きなものが見られるが、下位では規模が小さく分布は疎らと成る。埋土は黒色土から黒褐色土であり、遺構検出面を覆って存在した包含層と同一である。ただし、下位では検出面の影響下強粘性を帯び、色調はやや薄く成る。

出土遺物は土器細片と剥片、P101から石匙1点が出土している。

土坑（その1）

1面の緩やかな斜面に存在する遺構群であり、IIIe層とされる黒褐色から暗灰色土上面で検出された。このうち縄文晚期から弥生前期の遺構とされるものは、やや規模の大きなもので土坑とした5基とピット97個である。何れの遺構も検出面からの深さは浅く、底部に炭化物の薄い堆積が見られた。以下では主な遺構について記述を行い詳細は計測表を参照されたい。

SK 2

調査区の東部に位置する。平面形は不整隅丸長方形として捉えたが明確な肩部を残していない。主軸方向は斜面に直交する北西—南東方向である。土器溜り的な性格を持ち、小さく碎かれた弥生土器破片が集中して出土した遺構である。叩石や多くの炭化物が出土している。埋土は黒色土であり、地山崩壊の風化礫を含む。

SK 6

調査区の中央部に位置する。平面形は隅丸方形であり、谷側は削平が著しい。主軸方向は斜面に直交する北西—南東方向である。底部中央に炭化物の堆積層が存在し、縄文土器破片及び円碟の出土が見られた。埋土は黒灰色土である。

ピット群（その2）

P27

調査区の西部に位置する。円形から梢円形を呈した遺構が数個（3～4個）十字形に重なり合っているものと考えられる。このうち中央部の2個は炭化物の堆積層が顕著に残る。縄文土器15点と弥生土器1点が出土している。埋土は暗灰褐色土から暗灰色土である。

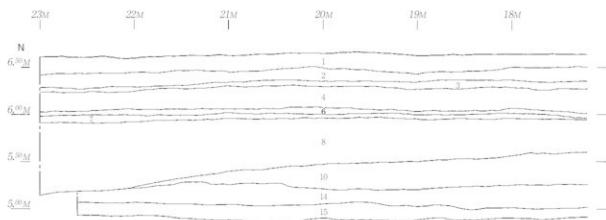
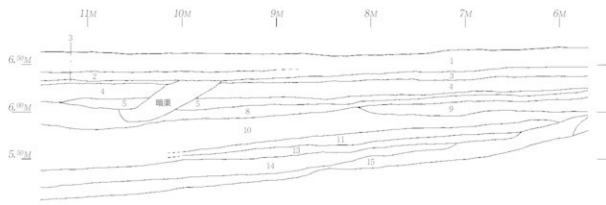
P32

調査区中央部の西寄りに位置する。平面形は梢円形を呈した浅い遺構であり、中央部からやや傾いた柱根が出土している。埋土は黒灰色土である。

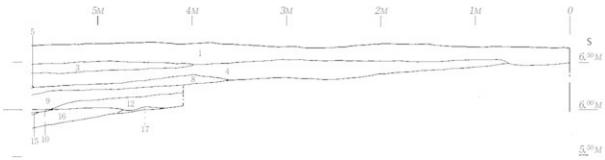
土坑(その2)

SK 1

調査区の東部に位置する。平面形は梢円形を呈し、検出面から約48cmを測る。現在の水田区画の制約からは離れた位置にあり、湧水を積極的に利用しようとしたものか、硬い地山部分を避けて粘土質部分に掘削している。出土遺物は縄文土器23点、弥生土器13点が出土している。



0 2m



東壁セクション層序		
層	色調	その他
1	暗灰色	
2	黄褐色	2.5Y(5/3)
3	褐色	5Y(6/1) 蔦植物が混入する。
4	褐褐色	5Y(6/1)
5	黒褐色	5YK(3/1)
6	暗灰色	
7	暗青灰色	
8	淡青灰色	
9	灰色	N(6/0)
10	灰白色	
11	浅黄色	7.5Y(7/3)
12	黃灰色	2.5Y(5/1)
13	灰褐色	10Y(4/1)
14	黃灰色	2.5Y(6/1)
15	灰色	5Y(4/1)
16	灰オリーブ色	5Y(5/2)
17	灰白色	N(4/1)

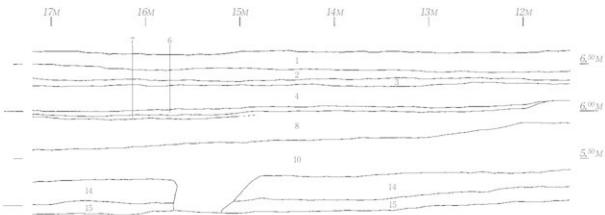


Fig.29 東壁セクション図

5. 遺物

遺構からの遺物 (Fig.37, 71, 76, 77)

遺構から出土した遺物は縄文土器、弥生土器、磁器、叩石、瓦、板材などであり、出土点数は397点である。そのうちの土器類の性格を持つSK 2からは細片含めて237点の出土があり、多くは弥生土器破片で占められている。この中で図示したものは壺(1)の口縁である。SK 6からは主に粗製の土器破片が15点出土しており、この中で図示したものは刻目突帯を持つ深鉢の口縁(2~4)である。1面検出のピット群を一時期のものとは捉え難いが、出土土器が83点であり、そのうちの多くは縄文土器で占められる。この中で図示したのはP5からの浅鉢口縁(5), P14からの壺底部(8), P24からの深鉢口縁(6), P33からの深鉢口縁(7), P35からの深鉢底部(9)である。また、P32からは柱根(420)が出土している。SK 1と地山上に設置されていたSX 1は後世のものと考えられるが、SK 1からは縄文と弥生の粗製土器破片が36点出土している。またSX 1からは弥生土器破片と共に磁器、瓦片などが出土している。

包含層からの遺物

IIIc層 (Fig.38~43, 67~69, 71, 73~75)

土器・土製品の出土点数は2,121点であり、縄文土器1,829点と弥生土器169点が見られる。壺、浅鉢、深鉢、甕、蓋、土製円盤などが出土しており、この中で図示したものは69点(11~79)である。11から19は壺である。14は口縁部無屈曲、18は頸部下に沈線に因る区画と紋様を施す。20から29は浅鉢である。20から23は内湾、24から26は内傾、27から29は鈎状を成すものか。30から67は深鉢・甕である。30から35は無刻みであり、32は突帯が付き、33から35は波状口縁を成すものと考えられる。68から73は壺、浅鉢、深鉢の底部である。74は壺又は注口土器の一部か。75は権原式紋様の蓋である。76から79は土製円盤である。石器・石製品は石錐(376)、石斧(398、399)、叩石(406)を図示した。木器・木製品は長さ25cmから35cm程度の規模を持つ焦化材や弓状加工材があるが図示できるものはない。

IIIb層 (Fig.44~48, 71, 72, 74, 75)

土器・土製品の出土点数は2,021点であり、縄文土器1,548点と弥生土器254点が見られる。壺、浅鉢、深鉢、甕、鉢、土製円盤などが出土しており、この中で図示したものは50点(80~129)である。80から84は壺である。82は口縁部無屈曲、83・84は胴部上位に複線山形紋を持つ。85から91は浅鉢である。89は方形浅鉢、90は体部上位が内湾し内傾する。92から119は深鉢・甕である。91から94は無刻みと考えられ、91は口縁部が内傾。93は波状口縁か。95から97は口唇に刻み、98から106は突帯刻み、107から119は口唇と突帯に刻みを持つ。120から124は底部であり、122は鉢か。126から129は土製円盤である。石器・石製品は石錐(380~382)、石斧(388~392)、叩石(407)を図示した。木器・木製品は長さ10cmから40cm程度の焦化材や角材、板材などが出土しているが図示できるものはない。

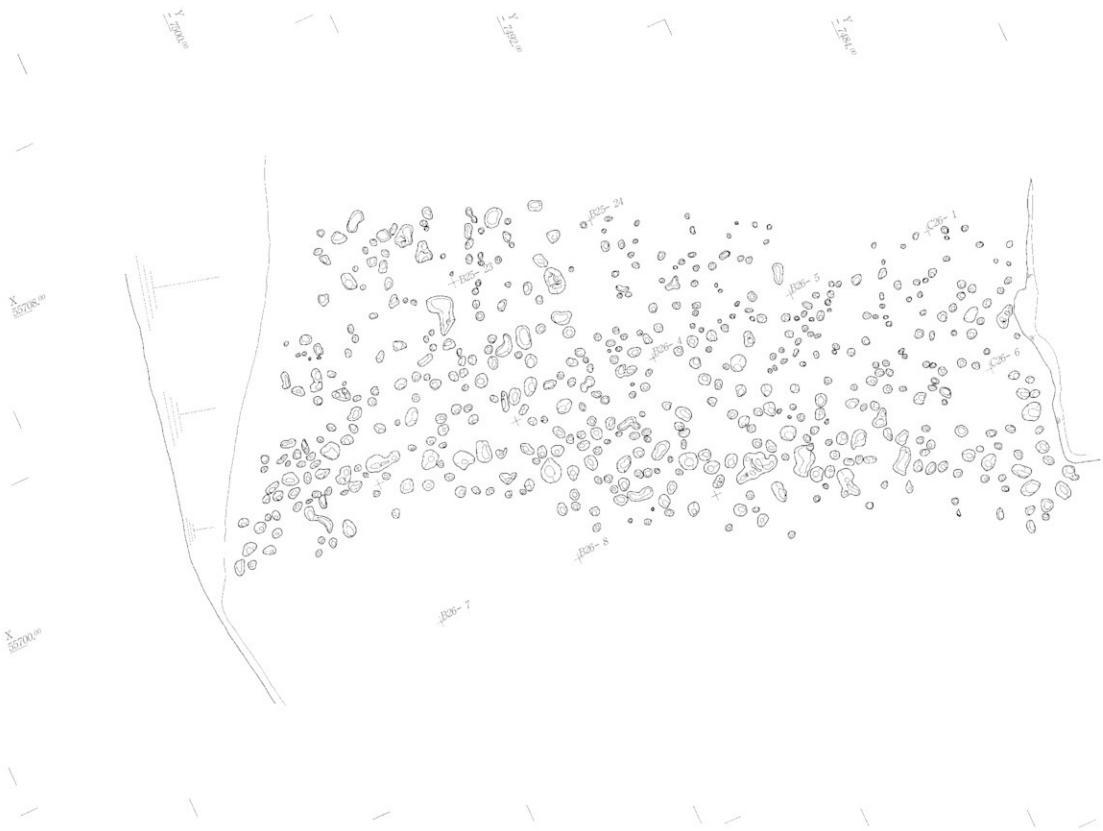


Fig.30 1A区遺構配置図(2面)

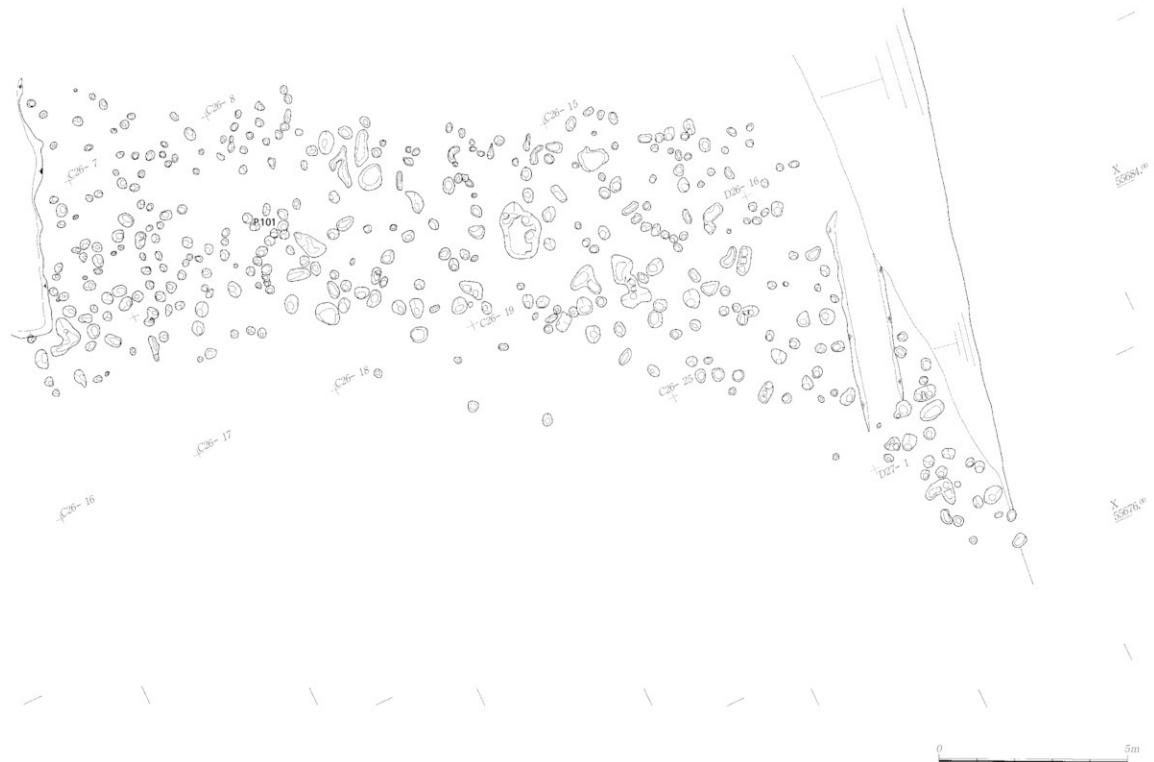
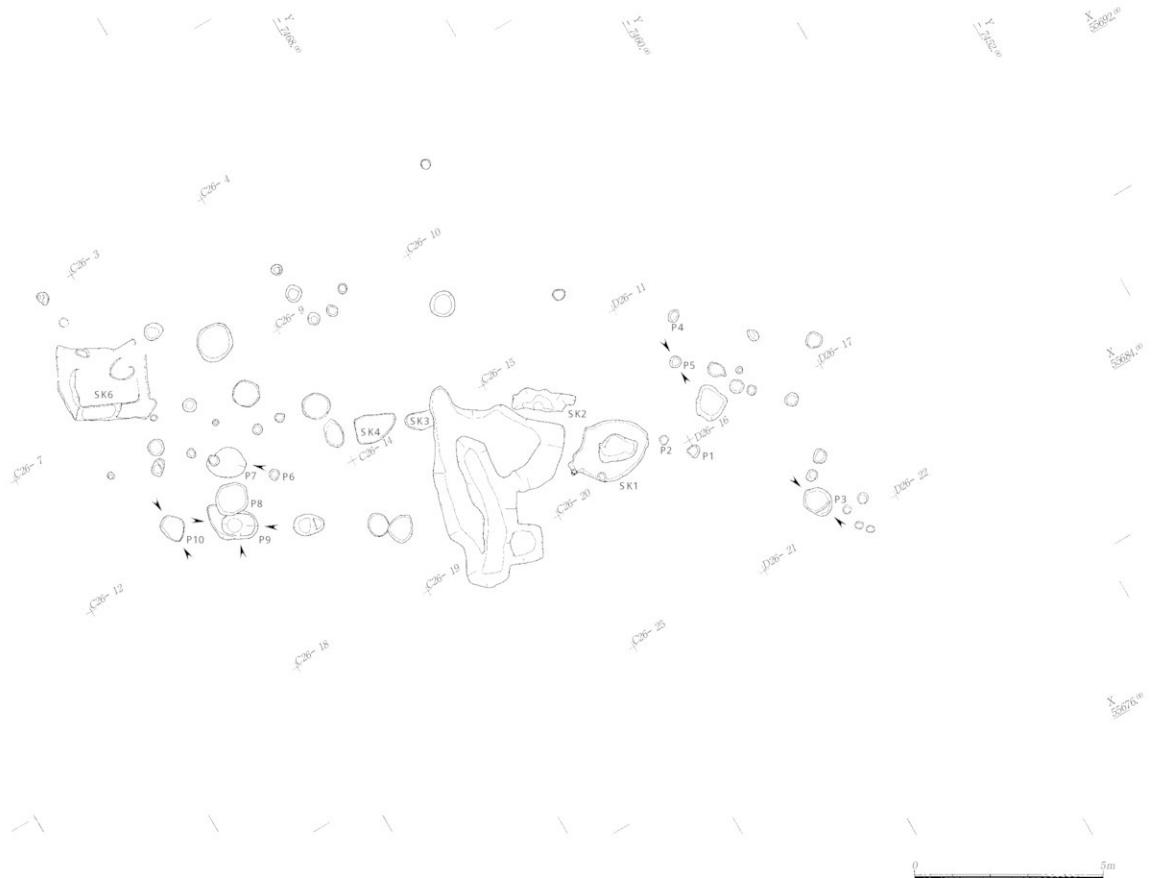




Fig.31 1A区遺構配置図(1面)



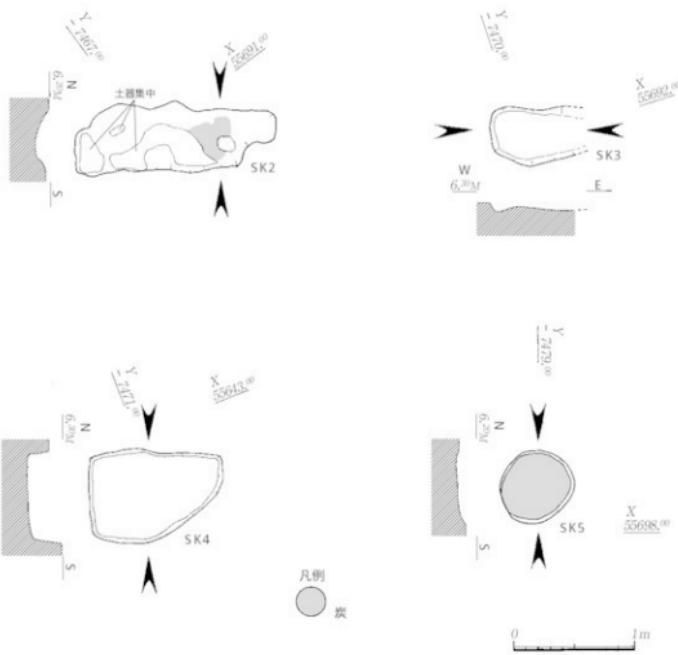
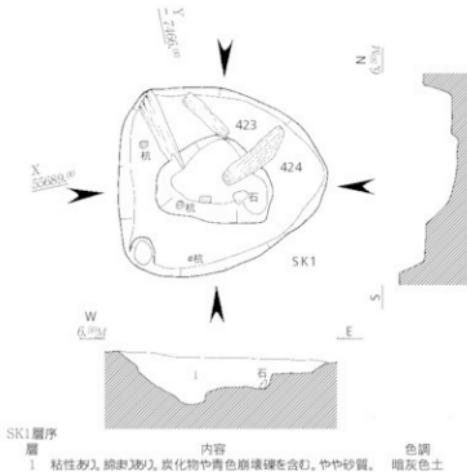


Fig.32 1A区遺構平面図 1

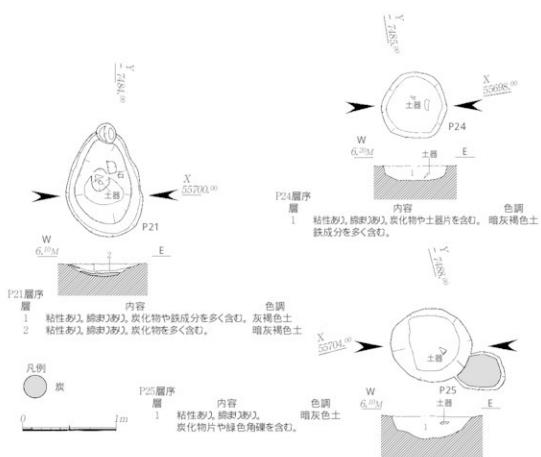
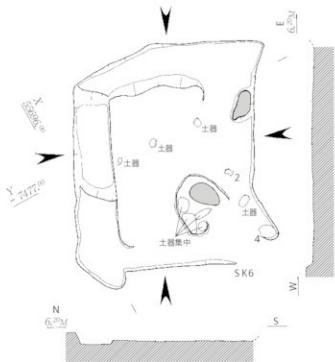


Fig.33 1A区構造平面図2

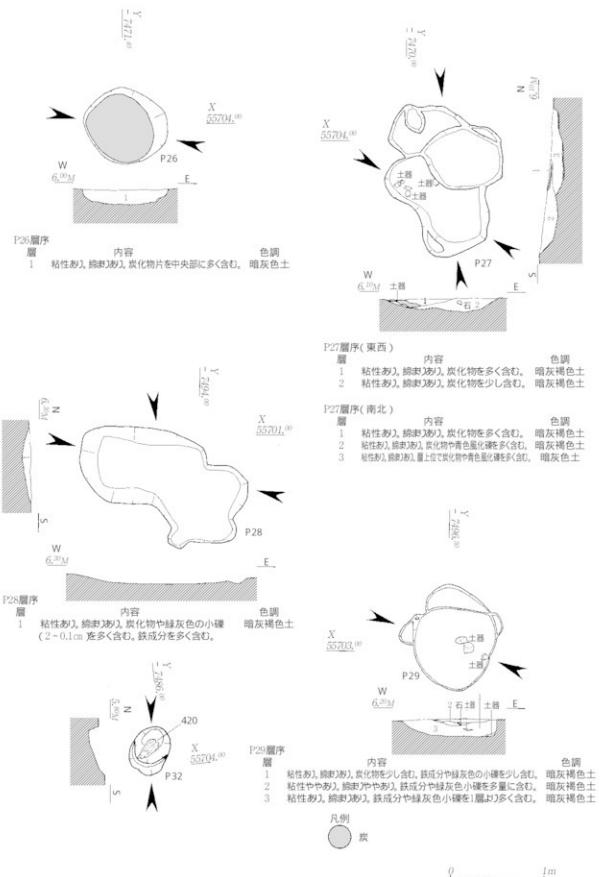


Fig.34 1A区遺構平面図3

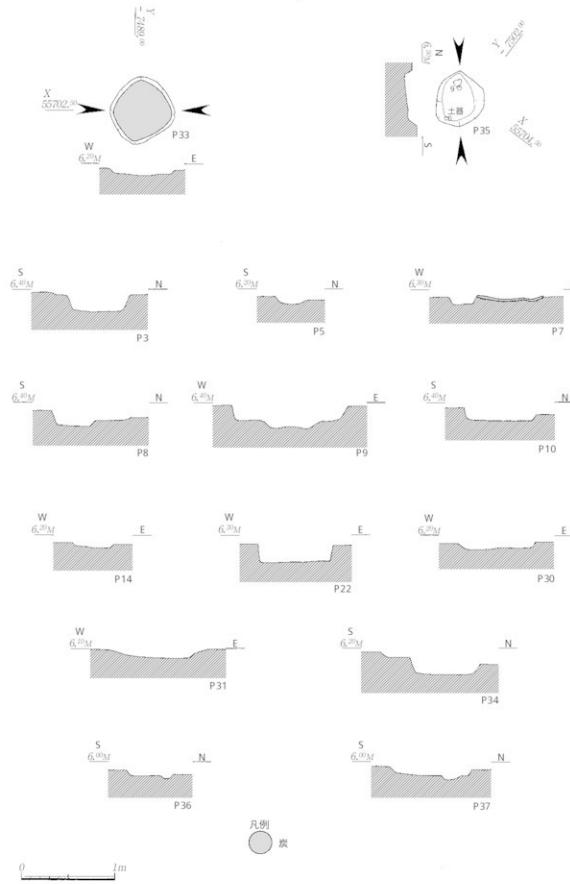


Fig.35 1A区遺構平面図4

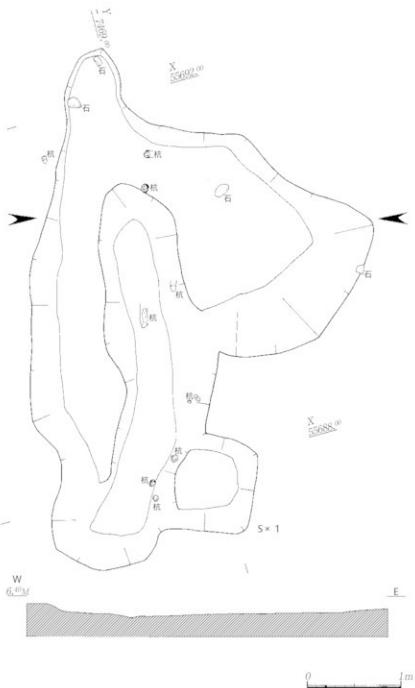
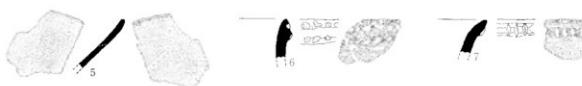
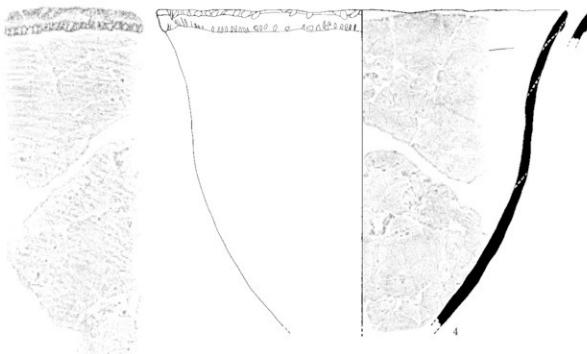
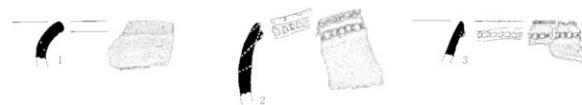


Fig.36 1A区遺構平面図 5



0 10cm

Fig.37 1A区出土遗物 1

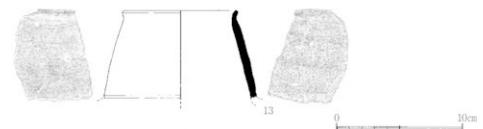
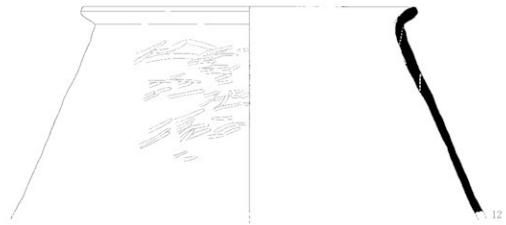
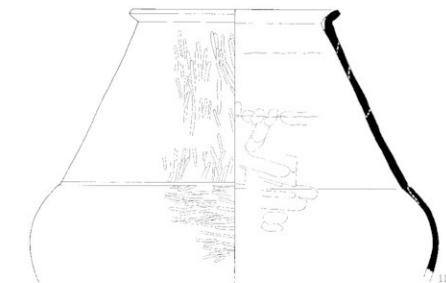
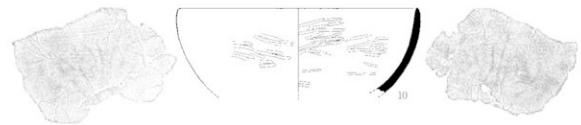
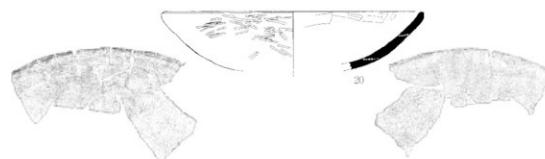
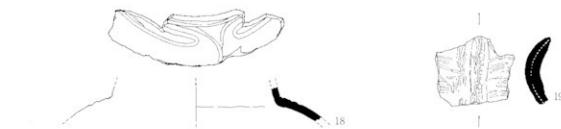
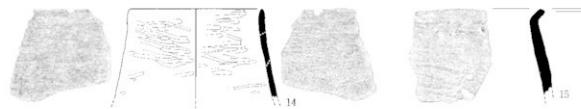


Fig.38 1A区出土遗物实测图2



0 10cm

Fig.39 1A区出土遗物3

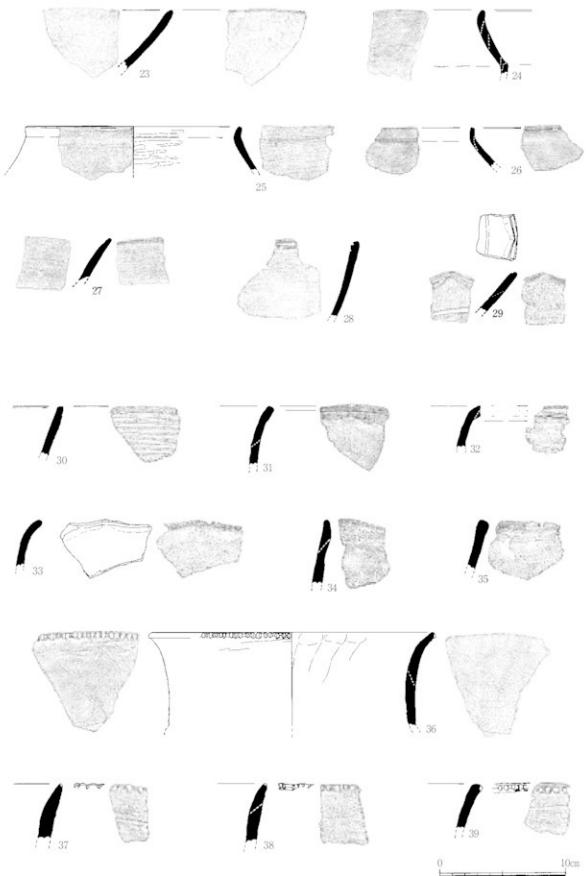
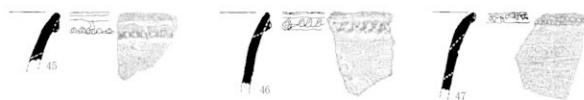
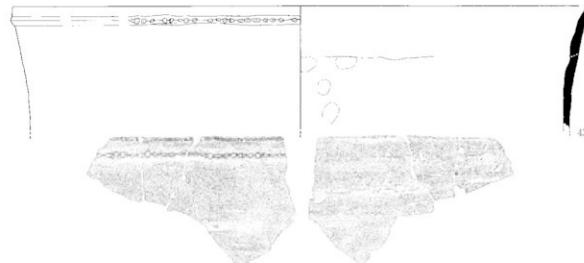


Fig.40 1A区出土遺物 4



0 10cm

Fig.41 1A区出土遗物5

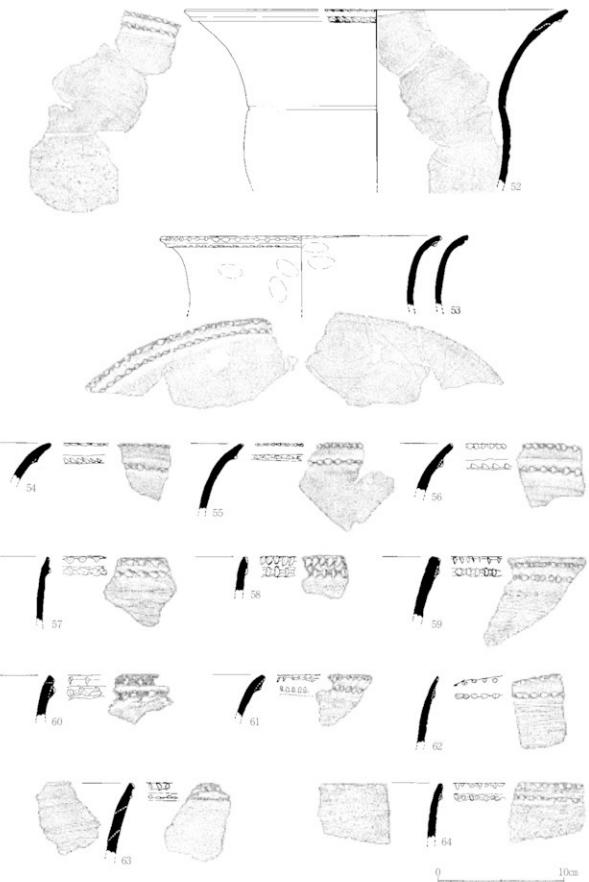


Fig.42 1A区出土遺物 6

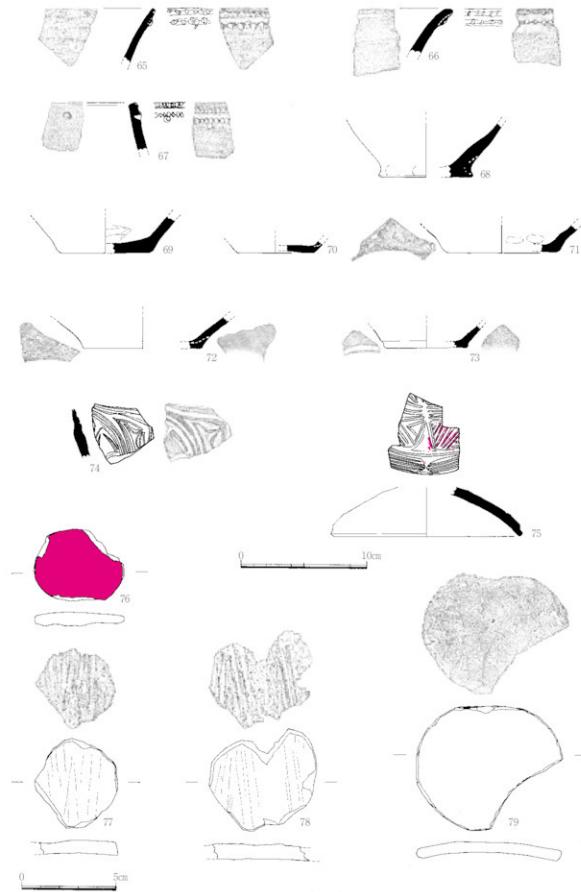


Fig.43 1A区出土遗物 7

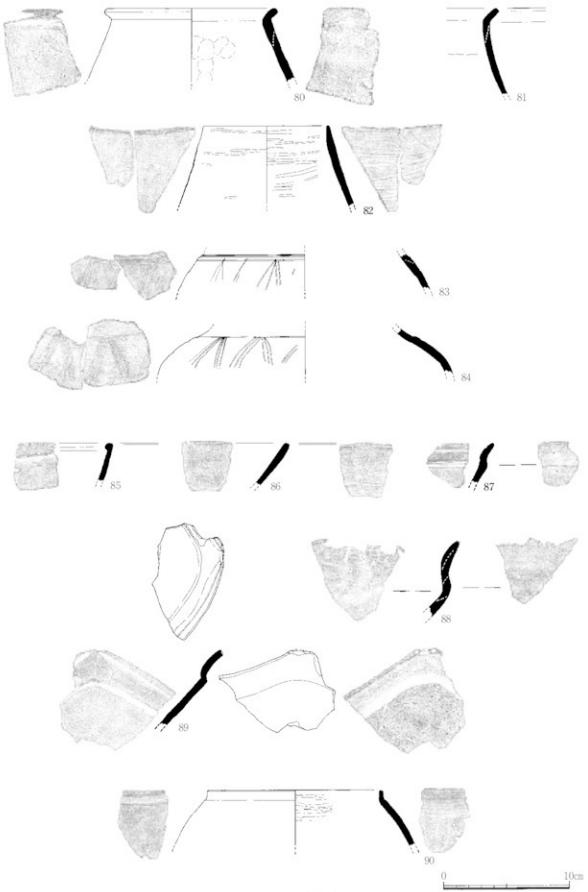


Fig.44 1A区出土遺物 8

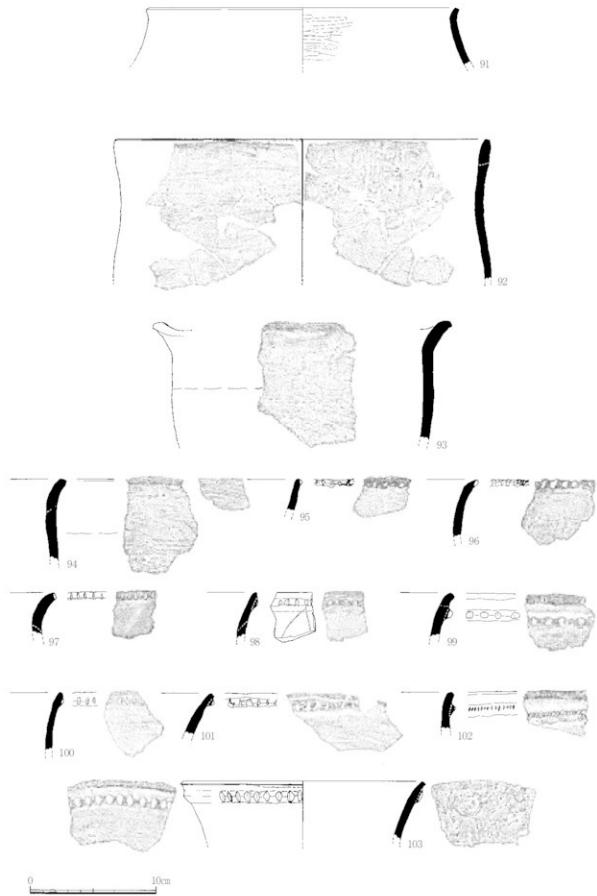


Fig.45 1A区出土遗物 9

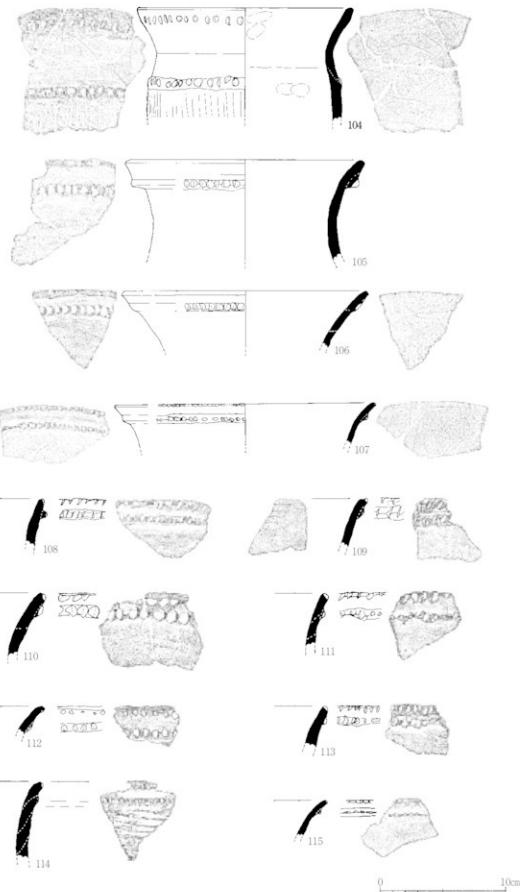


Fig.46 1A区出土遺物 10

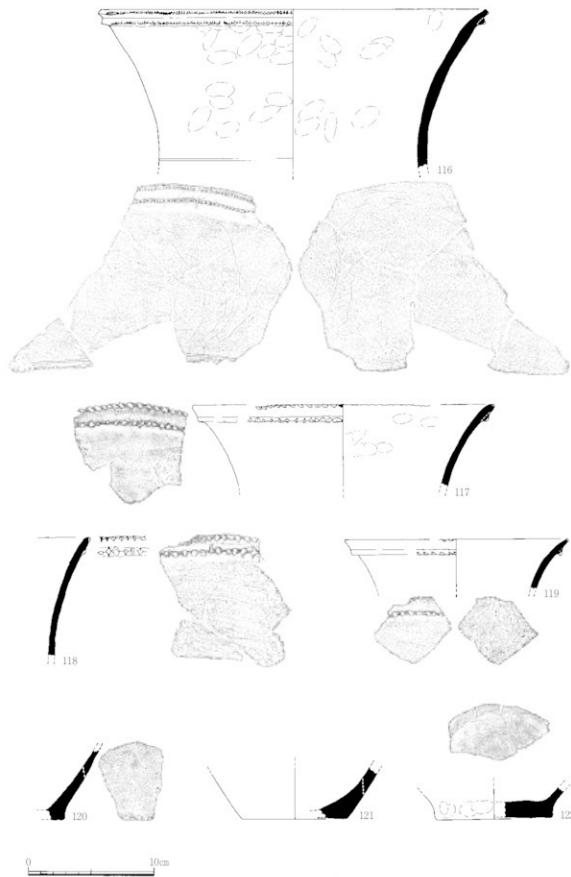


Fig.47 1A区出土遗物 11

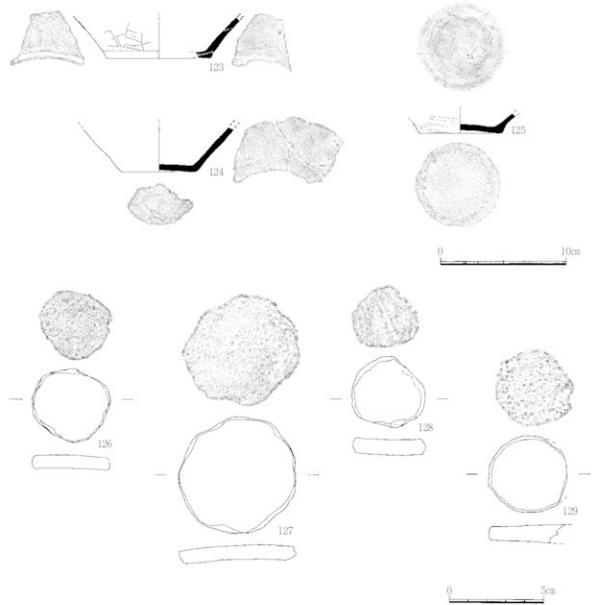


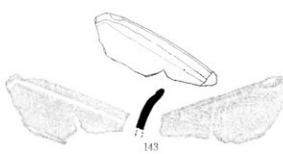
Fig.48 1A区出土遺物 12

IIId層 (Fig.51~59, 67, 68, 71~73, 75~77)

土器・土製品の出土点数は4,280点であり、縄文土器3,202点と弥生土器380点が見られる。壺、浅鉢、深鉢、甕、土製円盤などが出土しており、この中で図示したものは108点(147~254)である。147から161は壺である。149と152は口唇に浅鉢風の押圧刻みがあり、後者は波状口縁を成す。161は頸部に複線山形紋を施す。162から186は浅鉢である。162から165は体部から口縁が連続的に内湾する。176から183は鋤状を成し、口縁部は外反する。176は体部外面に次線紋を施してあり、高杯又は蓋か。178は口縁下に焼成後穿孔(補修孔)する。184は一ヶ所の次線紋を持つものであり、台または脚が付く。187から239は深鉢・甕である。187から191は無刻み、192から197は口唇



Fig.49 1A区出土遗物 13



0 10cm

Fig.50 1A区出土遺物 14

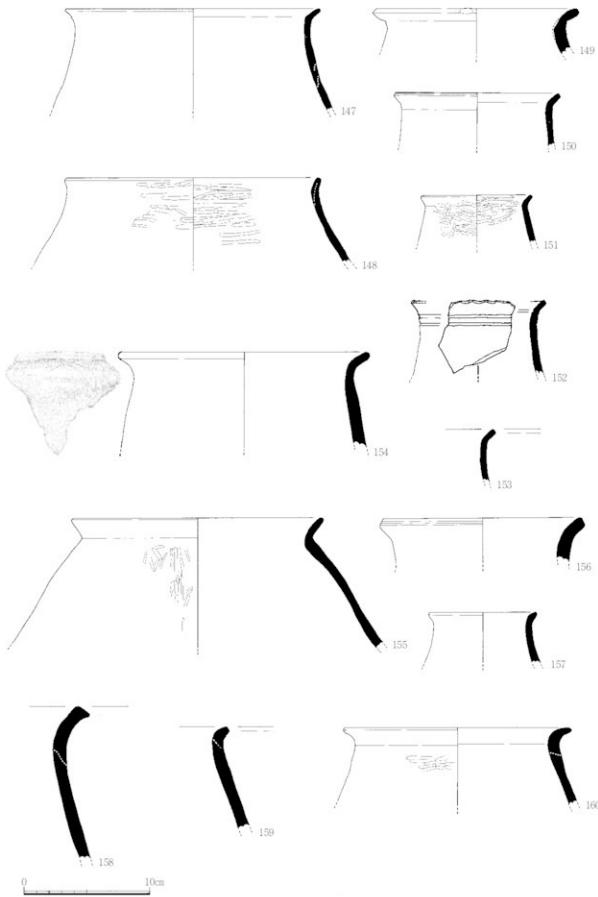


Fig.51 1A区出土遗物 15

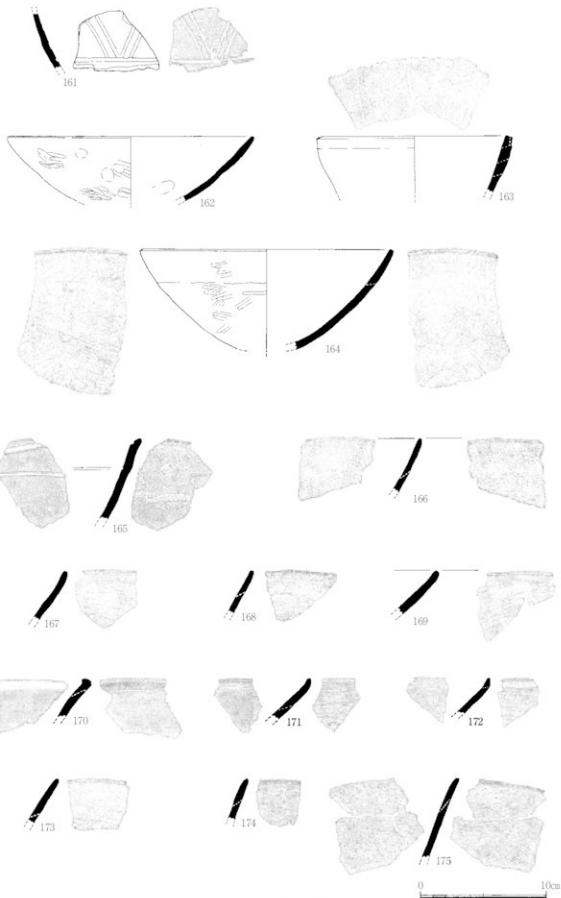


Fig.52 1A区出土遺物 16

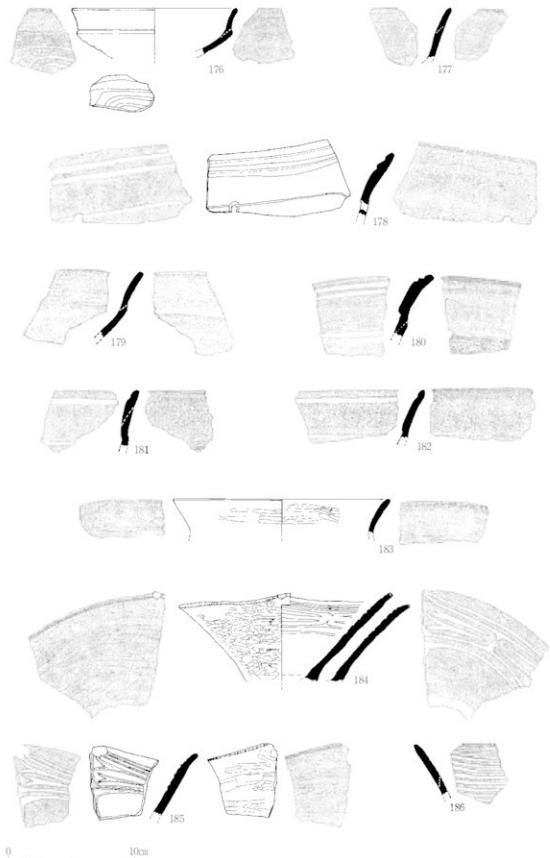


Fig.53 1A区出土遗物 17

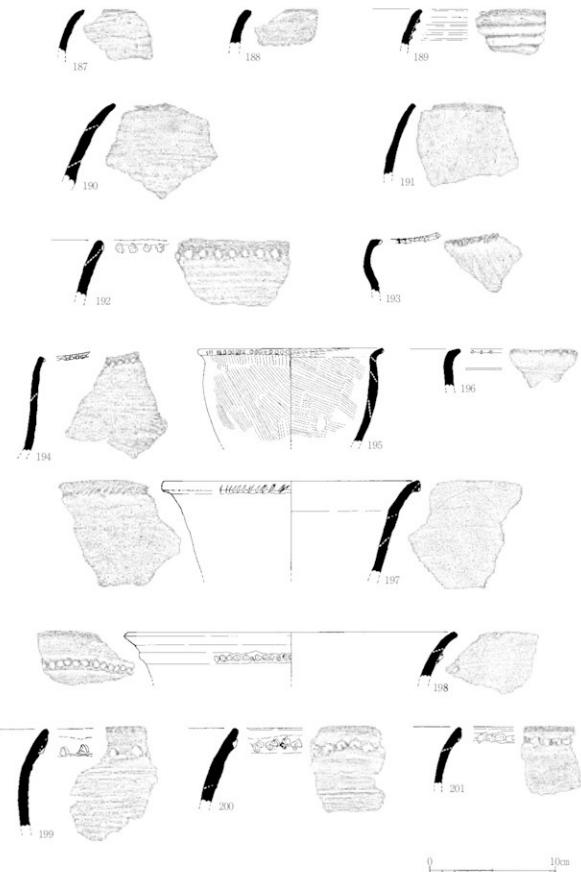


Fig.54 1A区出土遺物 18

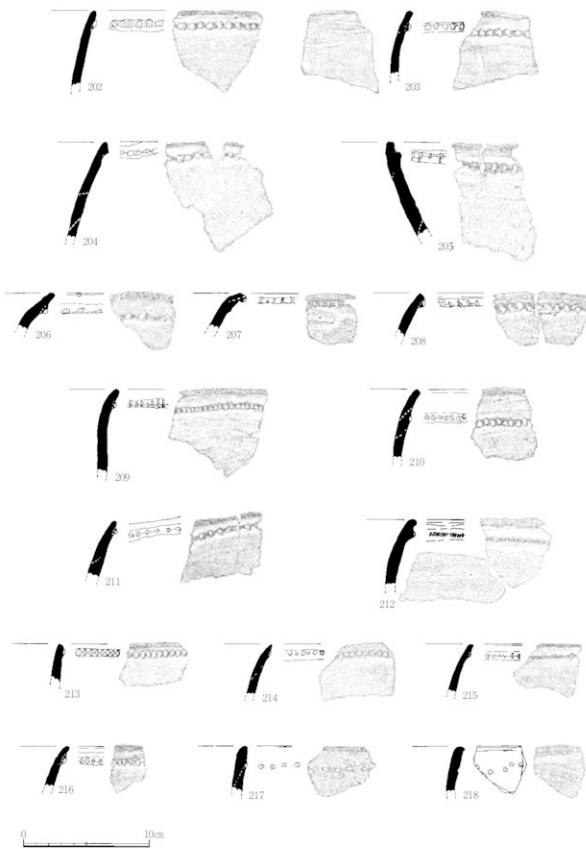


Fig.55 1A区出土遗物 19

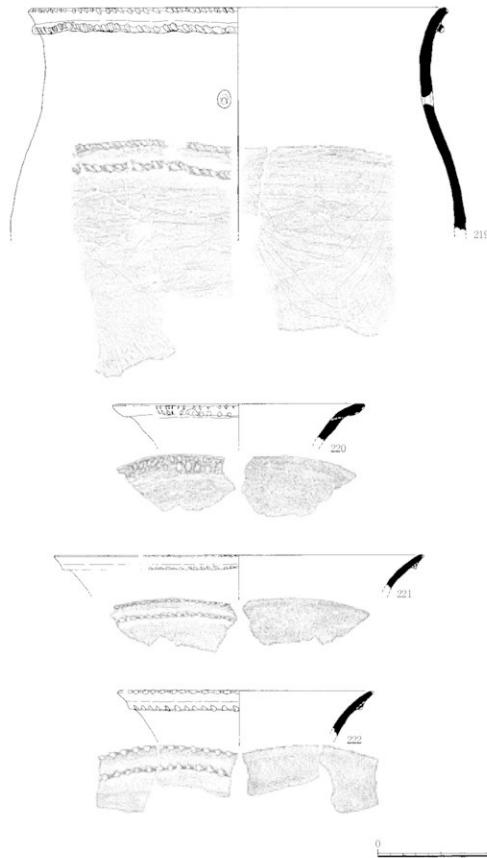


Fig.56 1A区出土遺物 20



Fig.57 1A区出土遗物 21

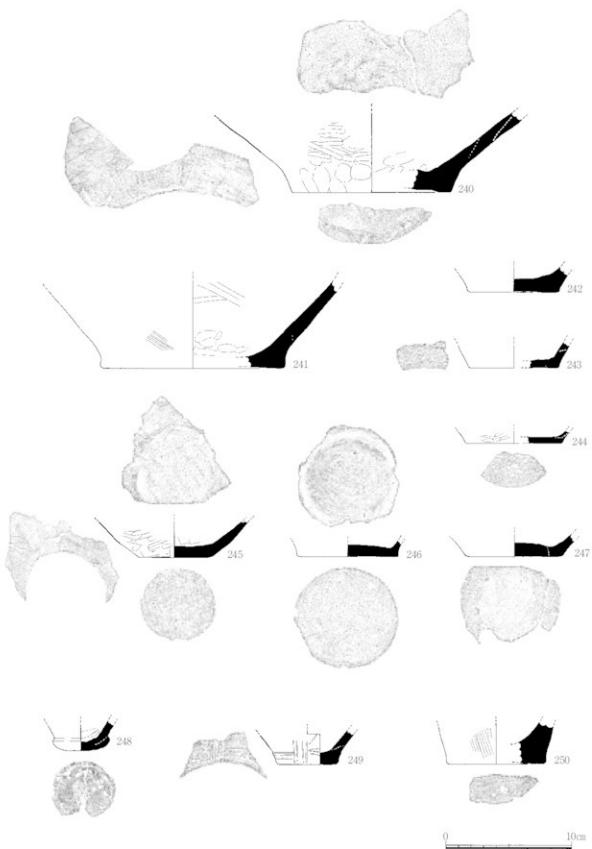


Fig.58 1A区出土遺物 22



Fig.59 1A区出土遺物 23

刻み。198から217は突帯刻み。218は口縁外面に刺突列を持つ。219から239は口唇と突帯刻み。219は頸部に焼成後穿孔する。240から250は底部である。251から254は土製円盤である。石器・石製品は石鏃(377)、石斧(394・395)、石棒(403)、叩石(405・409)を図示した。木器・木製品は小型から中型の植物遺体と共に多く出土しており、網籠などの木製品も見られた。ここでは円環状木製品(414)、漆塗膜椀(415)、農工具の部材？(418・419)、端部を二股に加工した木製品(421)などを図示した。

III₁s層 (Fig.62~63, 67, 68, 71, 73, 75)

土器・土製品の出土点数は1,373点であり、繩文土器1,119点と弥生土器180点が見られる。壺、浅鉢、高杯、深鉢、甕、土製円盤が出土しており、この中で図示したものは36点(271~306)である。271から276は壺である。274は浅い一段部に刺突列が施され、276は胴部外面に複線山形紋を描く。277から285は浅鉢である。280は波状口縁で口縁下に沈線が廻る。285の外面には沈線に因る区画か。286は高杯であり、外面に断面三角形突帯が廻る。287から296は深鉢である。293は甕状原体に因り突帯と頸部に継位の刻みと施紋をする。297から303は底部である。304は壺又は注口土器の一部か。305・306は土製円盤である。

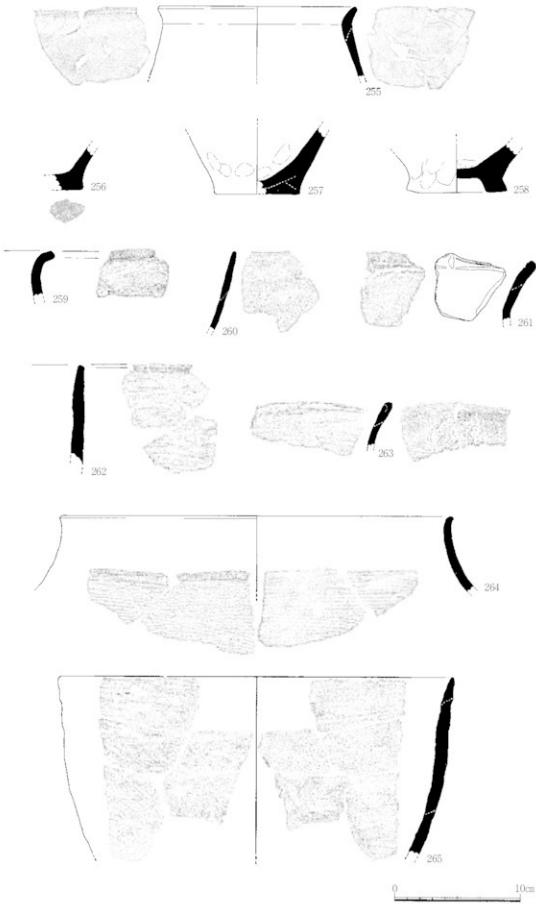


Fig.60 1A区出土遺物 24

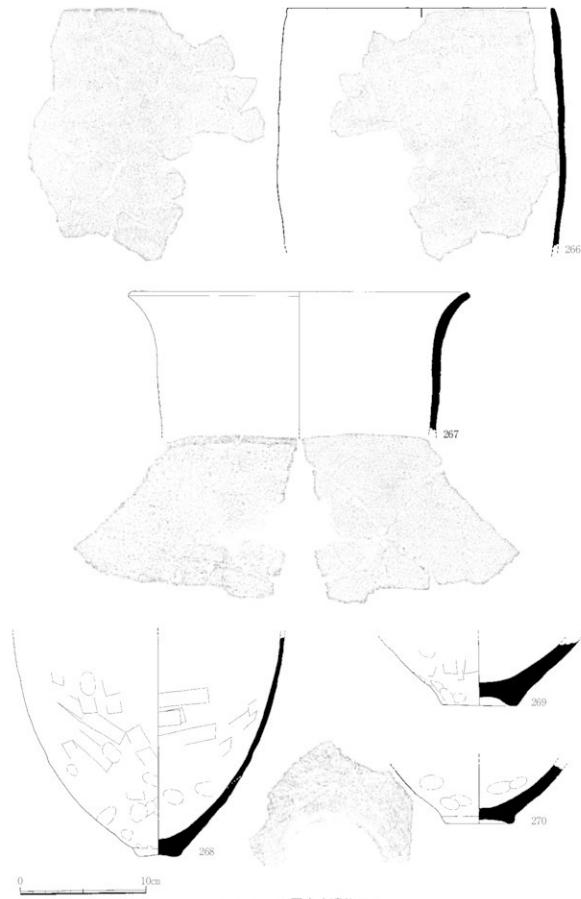


Fig.61 1A区出土遗物 25

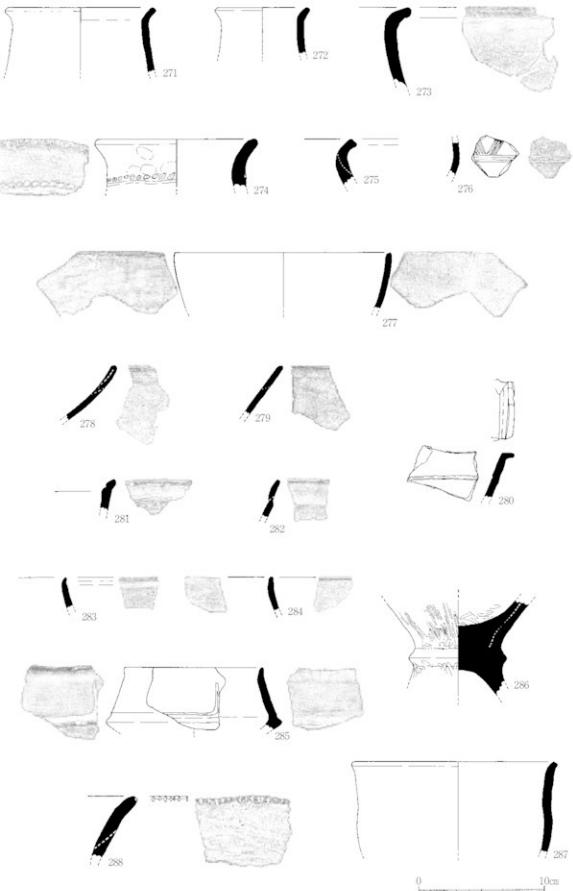


Fig.62 1A区出土遺物 26

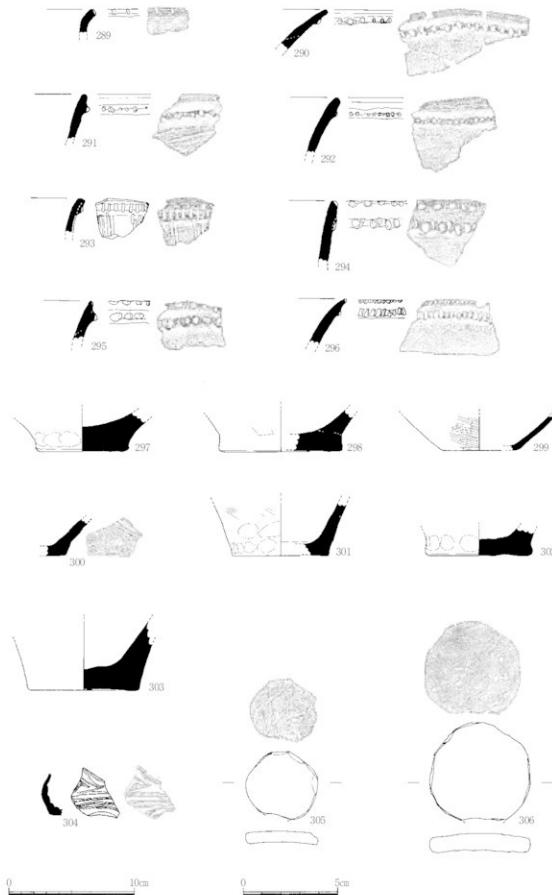


Fig.63 1A区出土遺物 27

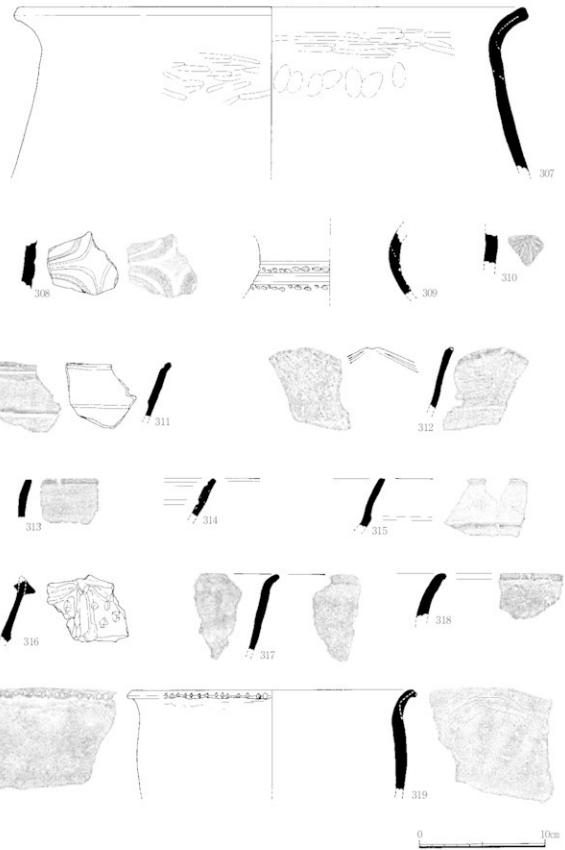


Fig.64 1A区出土遺物 28



Fig.65 1A区出土遗物 29

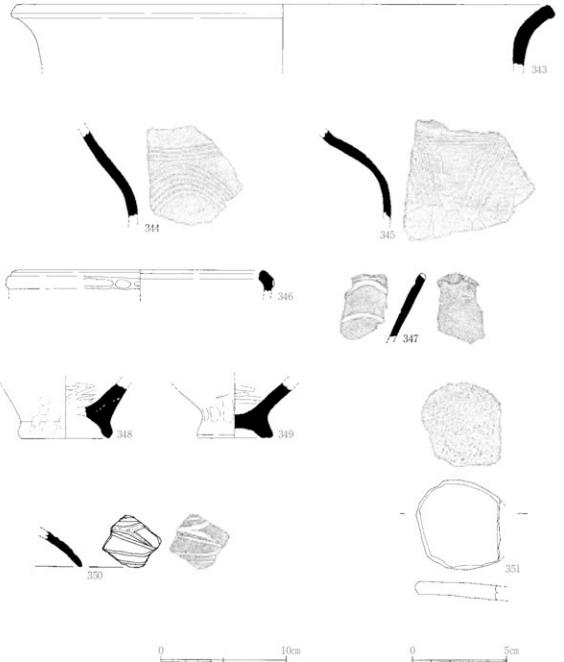


Fig.66 1A区出土遺物 30

石器・石製品は石鏃(378)、石斧(400)を図示した。木器・木製品は小・中型の植物遺体と共に長さ12cmから50cmの規模を持つ角材などが出土しているが図示できるものはない。
IIIa層 (Fig.64, 65, 68, 73)

土器・土製品の出土点数は3,961点であり、縄文土器2,321点、弥生土器1,264点が見られる。壺、浅鉢、鉢、深鉢、甕、土製円盤が出土しており、この中で図示したものは45点(307~351)である。

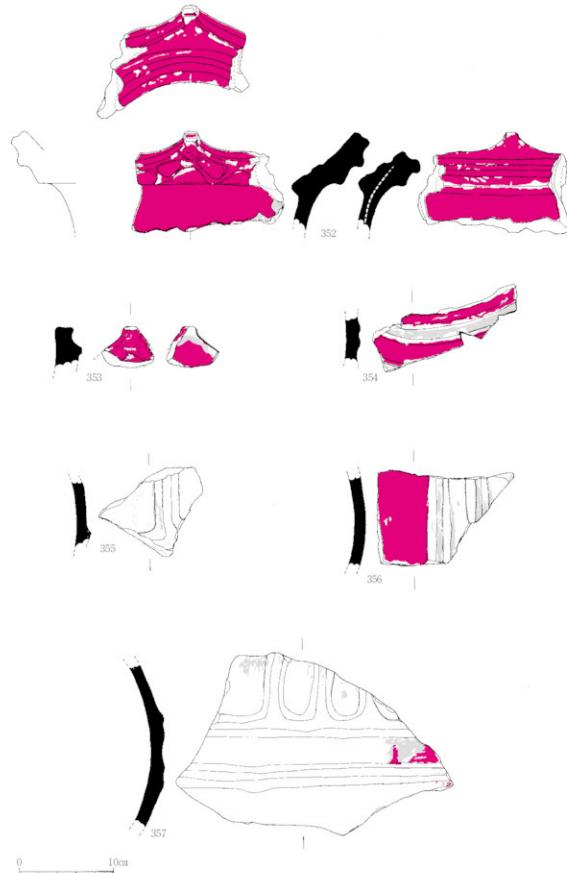


Fig.67 1A区出土遗物 31

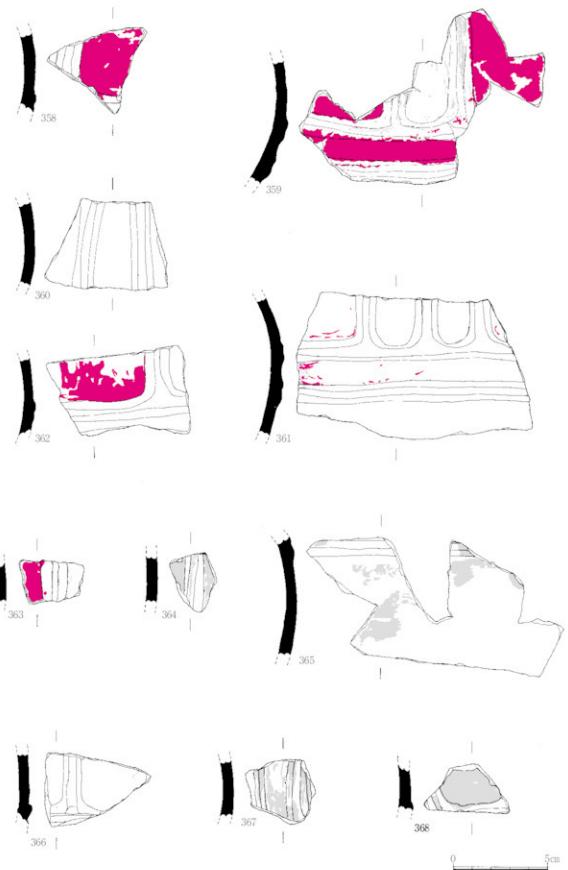


Fig.68 1A区出土遺物 32

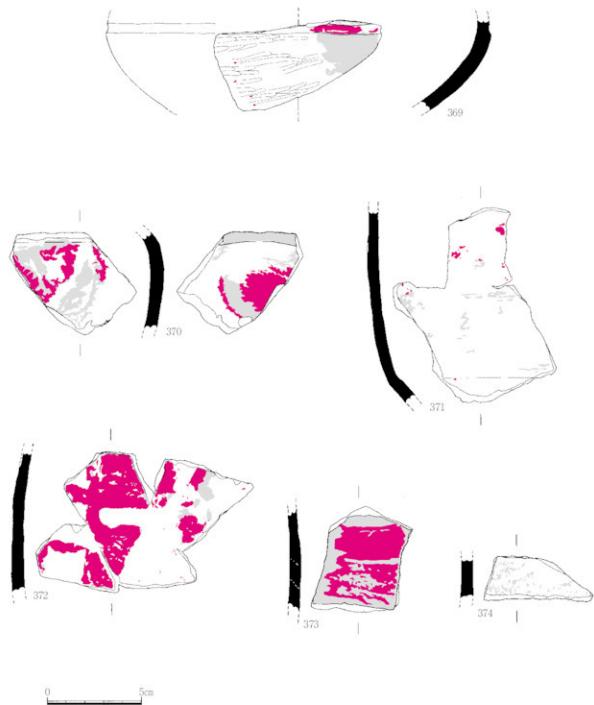


Fig.69 1A区出土遺物 33

る。307から311は壺である。308は壺の外面に沈線紋を施す。309は粗製の胎土であり、波状口縁の内外面に突帯と浮紋を貼付する。312から316は浅鉢である。312は波頂部に一ヶ所刻みを施す。317は鉢である。318から322は深鉢・甕であり、328は頸部に環状の浮紋を施す。333から342は底部である。337は不連続の多条沈線を胴体部低位に描く。壺か。石器・石製品は加工痕のある軽石(404)を図示した。中央を割り貫いて環状を呈していたものか。木器・木製品は数点の焦化材が出士しているが図示できるものはない。

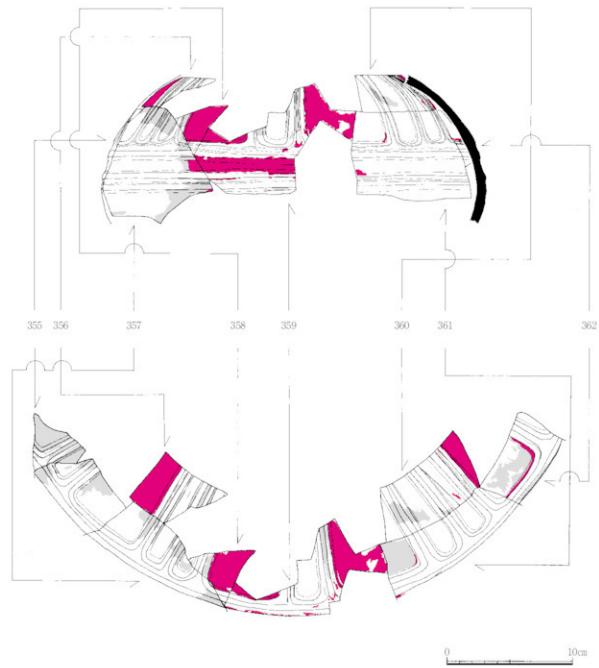


Fig.70 1A区出土遺物 34

大洞式土器 (Fig.67~70)

1A区では同一個体の壺胴部破片が出土している。先に報告した1B区出土の破片と接合するものは355から362であり、この他に363から368はこれと同一個体で隆帯に因る大小の方形区画を形成するものであろう。352と353は口縁であり、平坦な波頂部は山王岡遺跡出土の大洞式土器の形態と酷似する。354は上胴部破片と考えられ、別に隆帯に因る工字紋を成す可能性がある。369は大洞式土器の浅鉢か。

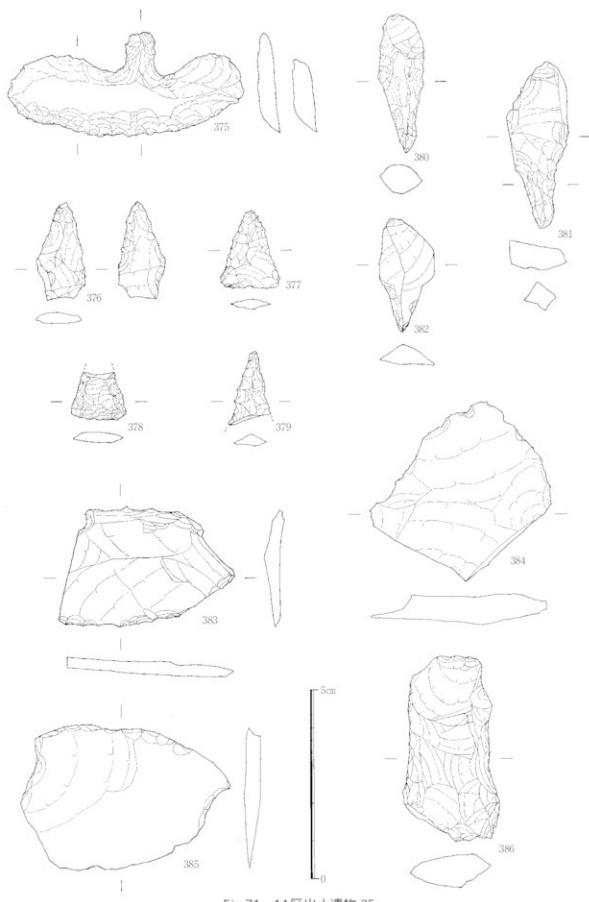


Fig.71 1A区出土遗物 35

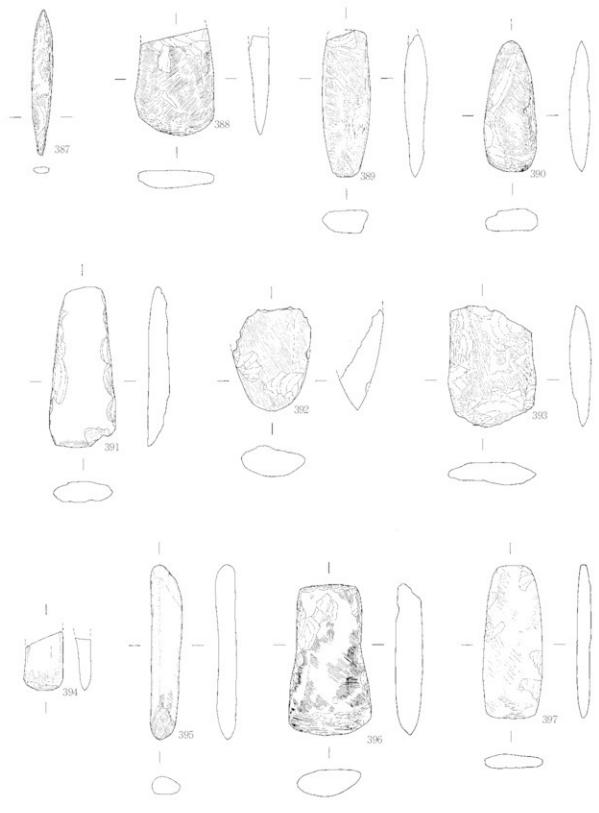


Fig.72 1A区出土遺物 36

0 5cm



Fig.73 1A区出土遗物 37

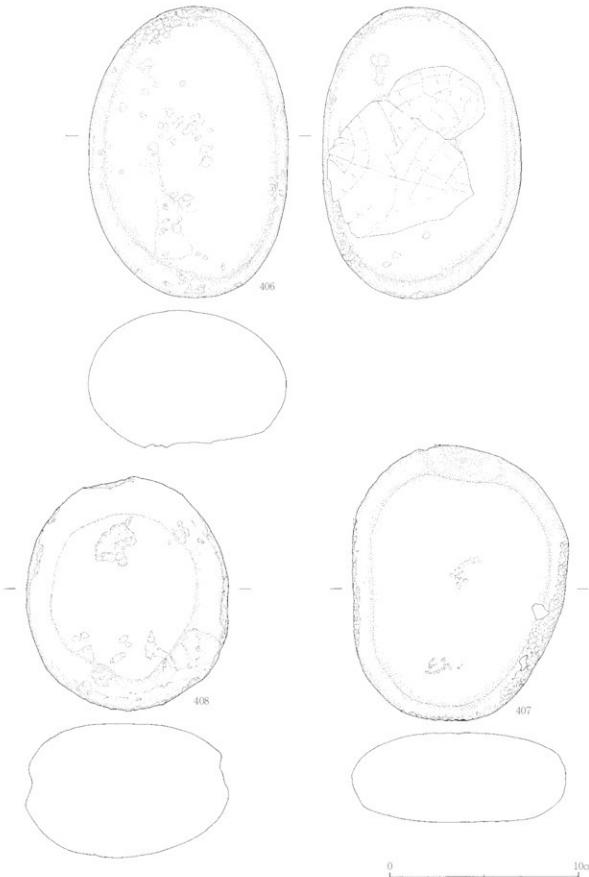


Fig.74 1A区出土遺物 38

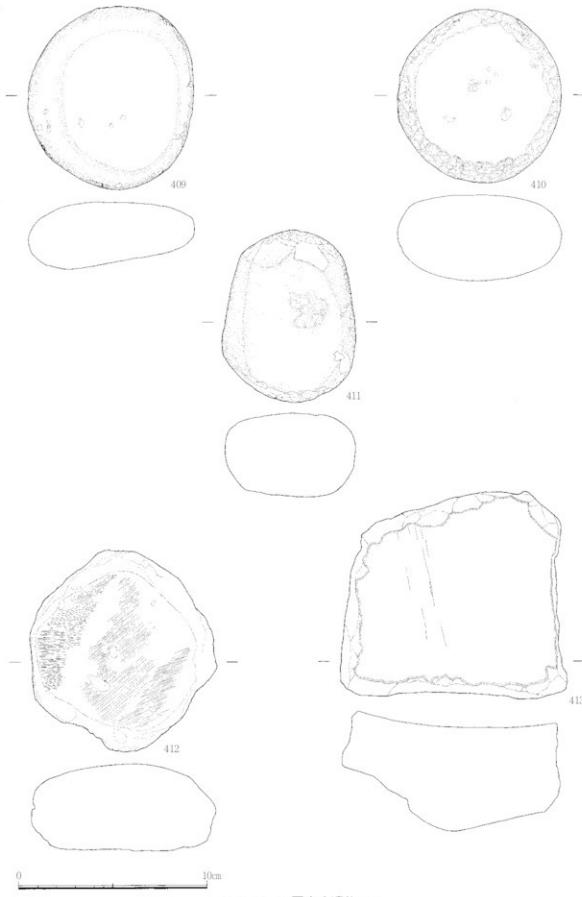
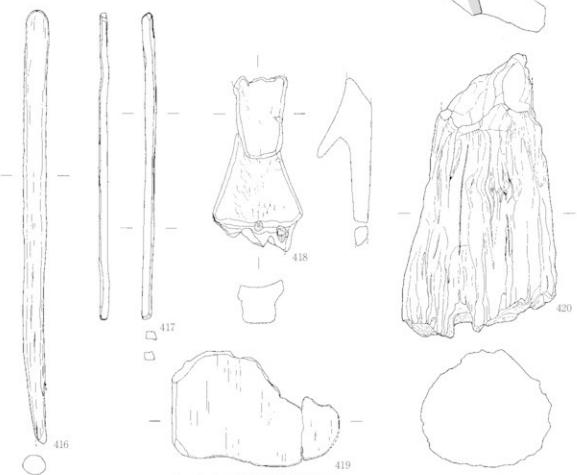


Fig.75 1A区出土遗物 39



0 5cm



0 10cm

Fig.76 1A区出土遺物 40

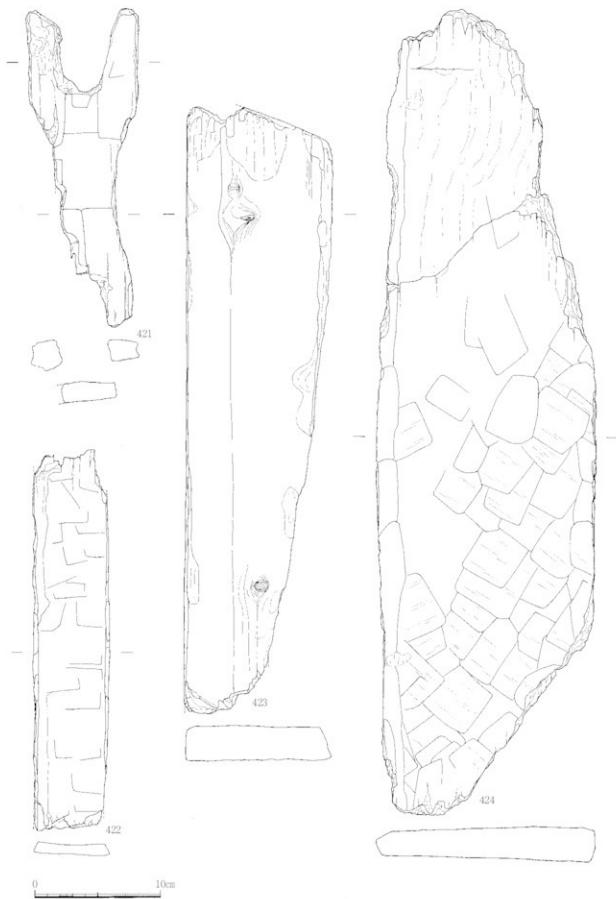


Fig.77 1A区出土遗物 41

表6 1A区遺構計測表

遺構 No.	グリッド	棟出標高 (m)	規模 (cm)	深さ (cm)	平面形	出土土器点数	その他	R.g. No.	出土遺物 No.- No.
SK 1	G5-15	6.40	180×155	48	楕円形	口縁2、底盤23、縦片9		32	
SK 2	G5-15	6.20	165×58	8	不整長方形	口縁7(豊2)、底盤78、縦片152	変化物	32 / 37 / 1	
SK 3	G5-9	6.27	(89)×48	12	長方形	底盤1	SK1に先んずる。	32	
SK 4	G5-9	6.29	110×78	22	不整長方形	口縁7(深斜)、底盤7	変化物	32	
SK 5	G5-2	6.08	直径60	3	円形	底盤1		32	
SK 6	G5-2	6.16	236×192	14	長方形	口縁5(深斜3)、底盤10	変化物	33 / 37 / 2-3-4	
P 1	G5-20	6.37	33×32	6	不整楕円形	底盤2			
P 2	G5-15	6.28	直径24	6	円形	底盤1			
P 3	G5-16	6.37	85×69	20	楕円形	縦片1		35	
P 4	G5-11	5.96	36×25	11	楕円形	底盤1			
P 5	G5-11	6.11	直径30	6	円形	口縁2(深斜3)、底盤1		35 / 37 / 5	
P 6	G5-8	6.28	28	9	円形				
P 7	G5-8	6.25	102×80	10	不整楕円形			35	
P 8	G5-8	6.31	96×82	16	不整円形	底盤3		35	
P 9	G5-8	6.37	142×72	26	不整楕円形	口縁2(深斜)	P前に先んずる。	35	
P 10	G5-7	6.35	76×59	14	楕円形	底盤2		35	
P 11	G5-7	6.18	47×32	28	不整形				
P 12	G5-7	6.21	33×27	9	楕円形	底盤1			
P 13	G5-2	5.86	32×26	8	不整円形				
P 14	G5-2	6.13	44×41	4	楕円形	底盤1、縦片1		35 / 37 / 8	
P 21	G5-21	6.07	120×82	21	不整楕円形	底盤3		33	
P 22	G5-1	6.21	77×67	20	楕円形	底盤3		35	
P 23	B5-5	6.17	22×20	6	楕円形				
P 24	B5-5	6.15	直径72	19	円形	口縁1(深斜)、底盤1	変化物を多く含む。	33 / 37 / 6	
P 25	B5-23	6.07	85×78	28	楕円形	口縁1、縦片4		33	
P 26	B5-19	5.94	92×80	16	楕円形	底盤2	変化物	34	
P 27	B5-23	6.07	166×88	23	不整形	底盤17	一部変化物	34	
P 28	B5-23	6.23	193×80	12	不整形			34	
P 29	B5-22	6.10	113×109	20	不整形	底盤7		34	
P 30	B5-21	6.13	83×74	7	楕円形			35	
P 31	B5-21	6.09	105×65	6	不整楕円形	口縁1、底盤3		35	
P 32	G5-21	5.72	52×40	15	楕円形		柱根	34	
P 33	B5-23	6.15	直径71	8	円形	口縁2、底盤5	底部に変化物あり。	35 / 37 / 7	
P 34	B5-23	6.16	105×66	24	不整円形	底盤1		35	
P 35	B5-16	5.95	59×51	14	楕円形	口縁1、底盤2、底盤1、縦片9		35 / 37 / 9	
P 36	B5-18	5.91	48×33	8	不整楕円形			35	
P 37	B5-18	5.97	86×48	16	不整楕円形			35	
P 38	B5-19	5.77	33×28	22	楕円形		変化物を多く含む。		
P 101	G5-7	5.15	直径30	35	不整円形		石器		
SK 1	G5-14	6.16	236×192	14	長方形	口縁1(磁器)、底盤13、底盤1、瓦1		36	

× () 内数値は残存数。

表7 1A区遺物観察表1

No.	遺物 名	出土場所 名	種類	部位	法線 (cm)	特徴	性別	色調	備考		
									口縁 部	底面 部	
37- 1	S45 Cn-75	城土器	壺	口縁	3.0	口縁は外側にやや突出する。内面はへたり立ち。外 面は直面。	浅黄色 2.5/5/3	にじみ褐色 5/5/3	茶色 3/5/2		
37- 2	S45 Cn-2	城土器	深鉢	口縁	5.9	口縁は内側に凹む。やや直面。口縁外側表面は目 立つ。上部内面は、直面。内面は「青白玉」。口縁外側 部は、中段以下、内面ナガ。外縁は斜面。	褐灰色 2.5/5/2	褐灰色 2.5/5/2	褐色 3/5/1		
37- 3	S45 Cn-2	城土器	深鉢	口縁	2.8	口縁は内側に凹む。口縁外側表面は、直面。内縁は直 面。内面ナガ。外縁は斜面。	黃褐色 2.5/5/3	にじみ褐色 3.5/5/3	黃褐色 2.5/5/1		
37- 4	S45 Cn-2	城土器	深鉢	口縁	32.5	25.0, 26.8	口縁は内側に凹む。口縁外側表面は、直面。内縁は直 面。内面ナガ。外縁は斜面。	オーバー褐色 2.5/5/2	褐色 3/5/2	褐色 3/5/1	
37- 5	P3 Dn-11	城土器	洗鉢	口縁	4.4	狀況不明。口縁内側は丸く弧状。底面は、内縁はへ たり立ち。外縁は斜面。	褐灰色 2.5/5/2	褐灰色 3/5/2	褐色 3/5/2		
37- 6	P2-4 Dn-5	城土器	深鉢	口縁	3.1	口縁は内側に凹む。口縁外側表面は、直面。内縁は直 面。内面ナガ。外縁は斜面。	にじみ褐色 2.5/5/3	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 7	P2-23 Dn-2	城土器	深鉢	口縁	2.7	口縁は内側に凹む。口縁外側表面は、直面。内縁は直 面。内面ナガ。	にじみ褐色 2.5/5/2	にじみ褐色 3/5/3	褐色 2.5/5/1		
37- 8	P1-4 Gn-3	城土器	壺	直面	3.2	平底。底面は丸く弧状。内縁はへたり立ち。	黄褐色 2.5/5/2	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 9	P3-5 Dn-5	城土器	洗鉢	直面	5.3	6.4 直面。底面は「青白玉」。内面ナガ。	黄褐色 10/4/2	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 10	IIc Cn-17	城土器	洗鉢	口縁	18.9	6.7	波打足。内面はへたり立ち。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/3	
37- 11	IIc Dn-6	城土器	壺	口縁	26.4	20.9	32.5 口縁は内側に凹む。口縁外側表面は、直面。内縁はへ たり立ち。内面ナガ。外縁は斜面。	褐灰色 2.5/5/2	褐灰色 3/5/2	褐色 NE	山形・關原 褐色
37- 12	IIc Cn-5	城土器	壺	口縁	26.4	16.4	口縁は内側に凹む。横幅が狭く、直面。内縁はへたり 立ち。内面ナガ。外縁は斜面。	褐灰色 2.5/5/2	褐灰色 3/5/2	褐色 3/5/1	
37- 13	IIc Dn-6	城土器	壺	口縁	8.8	7.1	口縁は内側に凹む。横幅が狭く、直面。内縁はへたり 立ち。内面ナガ。外縁は斜面。	褐灰色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1	
37- 14	IIc Cn-1	城土器	壺	口縁	10.4	7.0	口縁は内側に凹む。直面。内縁はへたり立ち。	黃褐色 2.5/5/2	黃褐色 3/5/2	褐色 3/5/1	
37- 15	IIc Cn-19	城土器	壺	口縁	6.8	口縁は内側に凹む。内縁はへたり立ち。	にじみ褐色 2.5/5/2	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 16	IIc Cn-1	城土器	壺	口縁	4.7	口縁は内側に凹む。直面。内縁はへたり立ち。	褐灰色 2.5/5/2	褐灰色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 17	IIc Cn-5	城土器	壺	口縁	16.2	3.1	口縁は内側に凹む。横幅が狭く、直面。内縁はへたり 立ち。内面ナガ。外縁は斜面。	褐灰色 2.5/5/2	褐灰色 3/5/2	褐色 3/5/1	
37- 18	IIc Cn-5	城土器	壺	直面	2.7	圓錐形。底面は丸く弧状。内面ナガ。外縁は 斜面。	にじみ褐色 2.5/5/2	褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 19	IIc Cn-5	城土器	壺	直面	5.3	直面。内面はへたり立ち。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/2		
37- 20	Cn-5-17 Gn-5	城土器	洗鉢	口縁	20.4	4.6	縫隙。内面ナガ。外縁は斜面。	オーバー褐色 5/5/2	褐色 5/5/1	褐色 3/5/2	にじみ褐色 3/5/2
37- 21	IIc Cn-11	城土器	洗鉢	口縁	25.4	6.3	口縁は内側に凹む。内面ナガ。外縁は斜面。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/2	
37- 22	IIc Cn-28	城土器	洗鉢	口縁	25.4	3.3	口縁は内側に凹む。内面ナガ。外縁は斜面。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/2	
37- 23	IIc Cn-24	城土器	洗鉢	口縁	4.7	口縁は内側に凹む。内面ナガ。外縁は斜面。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 24	IIc Cn-8	城土器	洗鉢	口縁	5.0	口縁は内側に凹む。横幅が狭く、直面。内面ナガ。 外縁は斜面。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/2		
37- 25	IIc Cn-5	城土器	洗鉢	口縁	16.8	3.5	口縁は内側に凹む。横幅が狭く、直面。内面ナガ。 外縁は斜面。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1	
37- 26	IIc Cn-6	城土器	洗鉢	口縁	3.2	口縁は内側に凹む。直面。内面ナガ。	オーバー褐色 9/5/1	褐色 9/5/1	褐色 9/5/1	にじみ褐色 9/5/1	
37- 27	IIc Cn-7	城土器	洗鉢	口縁	3.4	狀況不明。内面はへたり立ち。内面ナガ。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 28	IIc Cn-23	城土器	洗鉢	口縁	6.0	狀況不明。内面ナガ。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 29	IIc Cn-13	城土器	洗鉢	口縁	3.1	口縁は内側に凹む。直面。内面ナガ。外縁は斜面。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 30	IIc Dn-16	城土器	洗鉢	口縁	3.9	内面ナガ。外縁は斜面。	褐色 2.5/5/1	褐色 2.5/5/2	褐色 2.5/5/1		
37- 31	IIc Cn-7	城土器	洗鉢	口縁	4.7	内面ナガ。外縁は斜面。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 32	IIc Cn-18	城土器	深鉢	口縁	3.3	口縁は内側に凹む。直面。内面ナガ。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 33	IIc Cn-5	城土器	洗鉢	口縁	3.7	狀況不明。内面はへたり立ち。内面ナガ。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 34	IIc Cn-5	城土器	洗鉢	口縁	5.1	内面ナガ。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 35	IIc Cn-25	城土器	洗鉢	口縁	4.1	口縁はやや突出する。直面。内面ナガ。外縁は斜面。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 36	IIc Cn-22	城土器	深鉢	口縁	22.4	7.4	口縁は内側に凹む。直面。内面ナガ。	褐色 2.5/5/1	にじみ褐色 2.5/5/2	褐色 2.5/5/1	
37- 37	IIc Cn-16	城土器	洗鉢	口縁	4.3	口縁は内側に凹む。中段以下、内面ナガ。外縁は斜面。	褐色 2.5/5/2	褐色 2.5/5/2	褐色 2.5/5/1		
37- 38	IIc Cn-5	城土器	洗鉢	口縁	4.7	口縁は内側に凹む。直面。内面ナガ。	褐色 2.5/5/1	にじみ褐色 2.5/5/2	褐色 2.5/5/1		
37- 39	IIc Cn-18	城土器	洗鉢	口縁	3.5	口縁は内側に凹む。直面。内面ナガ。外縁は斜面。	褐色 10/5/1	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		
37- 40	IIc Cn-22	城土器	深鉢	口縁	4.3	口縁は内側に凹む。直面。内面ナガ。	褐色 10/5/2	にじみ褐色 3/5/2	褐色 3/5/1		

表8 1A区遺物観察表2

名	種	出土場所	器種	器形	部位	測量 (cm)	特徴	報告	考察	備考	脚注	備考
%	%					口径 底径 高さ	底面 内面 外側					
41 - 41	四	CIS-5	博文土器	深鉢	口縁	4.5	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底辺斜め入 里、外側丸み、外側浅縁。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
41 - 42	四	CIS-23	博文土器	深鉢	口縁	4.3	口縁部直角切欠き有り、底辺斜め入、底、内面 丸み、外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色	○:JL(調査)	
41 - 43	四	CIS-5	博文土器	深鉢	口縁	4.0	口縁部直角切欠き有り、底辺斜め入、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
41 - 44	四	CIS-24	博文土器	深鉢	口縁	27.1	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色	○:JL(調査)	
41 - 45	四	CIS-16	博文土器	深鉢	口縁	3.9	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
41 - 46	四	CIS-5	博文土器	深鉢	口縁	3.8	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
41 - 47	四	CIS-20	博文土器	深鉢	口縁	6.3	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
41 - 48	四	CIS-16	博文土器	深鉢	口縁	3.7	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み、内側アーチ、底アーチ、内側斜縁。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色	○:JL(調査)	
41 - 49	四	CIS-7	博文土器	深鉢	口縁	6.5	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/2	黒褐色 オーリー赤	灰色		
41 - 50	四	CIS-13	博文土器	深鉢	口縁	7.2	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色	○:JL(調査)	
41 - 51	四	CIS-20	博文土器	深鉢	口縁	3.8	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み、内側アーチ、底アーチ、内側斜縁。	黒褐色 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色	○:JL(調査)	
42 - 52	四	CIS-5	博文土器	深鉢	口縁	23.4	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み、内側アーチ、外側アーチ、内側斜縁。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
42 - 53	四	CIS-22	博文土器	深鉢	口縁	22.0	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色	○:JL(調査)	
42 - 54	四	CIS-5	博文土器	深鉢	口縁	3.0	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
42 - 55	四	CIS-8	博文土器	深鉢	口縁	5.2	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
42 - 56	四	CIS-19	博文土器	深鉢	口縁	3.9	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
42 - 57	四	CIS-18	博文土器	深鉢	口縁	5.2	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み、内側アーチ、外側アーチ、外側斜縁。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色	○:JL(調査)	
42 - 58	四	CIS-5	博文土器	深鉢	口縁	2.7	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
42 - 59	四	CIS-1	博文土器	深鉢	口縁	4.0	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
42 - 60	四	CIS-22	博文土器	深鉢	口縁	3.3	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
42 - 61	四	CIS-24	博文土器	深鉢	口縁	3.4	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
42 - 62	四	CIS-11	博文土器	深鉢	口縁	5.3	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
42 - 63	四	CIS-7	博文土器	深鉢	口縁	5.3	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
42 - 64	四	CIS-23	博文土器	深鉢	口縁	4.6	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
43 - 6	四	CIS-4	博文土器	深鉢	口縁	4.3	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
43 - 6	四	CIS-1	博文土器	深鉢	口縁	3.6	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色	○:JL(調査)	
43 - 65	四	CIS-12	博文土器	深鉢	口縁	3.7	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
43 - 66	四	CIS-17	博文土器	深鉢	底面	4.3	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
43 - 67	四	CIS-12	博文土器	深鉢	口縁	3.7	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
43 - 68	四	CIS-17	博文土器	深鉢	底面	4.3	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
43 - 69	四	CIS-1	博文土器	深鉢	底面	4.3	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色	○:JL(調査)	
43 - 70	四	CIS-6	博文土器	浅鉢	底面	1.0	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
43 - 71	四	CIS-4	博文土器	浅鉢	底面	2.2	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
43 - 72	四	CIS-18	博文土器	浅鉢	底面	2.5	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
43 - 73	四	CIS-23	博文土器	浅鉢	底面	1.8	口縁部直角切欠き有り、下辺直角、底、内 外側丸み。	黒褐色 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		
43 - 74	四	CIS-6	博文土器	浅鉢	底面	4.0	外側斜縁、内側アーチ、底アーチ。	黒褐色 2.94/1 2.94/2	黒褐色 灰褐色	灰色		

表9 1A区遺物観察表 3

No.	遺物 名	出土場所 名	種類	目	部位	測定 値	測定 方法	特徴	性質		参考	
									内面	外側		
41	—	75 IID-6	縫文土器	壺	口縁	14.6	3.9	外轍凹縫跡、内面へV字溝。外轍白色斜面付裏。	黒褐色	黒褐色	1段目(?)層出土 遺物と一致。	
42	—	76 IID-5	縫文土器	壺	土内側	1.7	1.7	直縫縫跡有り。済溝なし。表面。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
43	—	77 IID-6	縫文土器	壺	内側	5.6	5.6	直縫縫跡有り。済溝なし。表面。	7.59/1	7.59/1	7.59/1	
44	—	78 IID-5	縫文土器	壺	内側	4.1	4.1	直縫縫跡有り。済溝なし。表面。	7.59/1	7.59/1	7.59/1	
45	—	79 IID-6	縫文土器	壺	内側	5.5	4.9	直縫縫跡有り。済溝なし。表面。	7.59/1	7.59/1	7.59/1	
46	—	80 IID-6	縫文土器	壺	内側	7.7	6.6	直縫縫跡有り。済溝なし。表面。	7.59/1	7.59/1	7.59/1	
47	—	81 IID-5	縫文土器	壺	口縁	13.0	5.7	口縫凹縫跡有り。内面へV字溝。内面土台へV字溝。下口す。内面V字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2	
48	—	82 IID-5	縫文土器	壺	口縁	6.8		口縫凹縫跡有り。内面へV字溝。内面V字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2	
49	—	83 IID-5	縫文土器	壺	脚部	2.9		脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2	
50	—	84 IID-5	縫文土器	壺	脚部	3.6		脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2	
51	—	85 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	3.0		脚部内側付裏。内面へV字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2	
52	—	86 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	3.3		脚部内側付裏。内面へV字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2	
53	—	87 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	3.2		足付跡。口縫凹縫跡有り。内面す。内面V字溝。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
54	—	88 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	6.0		足付跡。口縫凹縫跡有り。内面す。内面V字溝。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
55	—	89 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	5.8		足付跡。口縫凹縫跡有り。内面す。内面V字溝。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
56	—	90 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	4.1		足付跡。口縫凹縫跡有り。内面す。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
57	—	91 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	24.2	4.5	脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
58	—	92 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	26.0	11.0	脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
59	—	93 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	23.8	9.3	20.8	状況不明。口縫凹縫跡有り。内面V字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2
60	—	94 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	6.4		脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
61	—	95 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	2.5		脚部内側付裏。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
62	—	96 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	4.6		脚部内側付裏。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
63	—	97 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	3.4		脚部内側付裏。内面V字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2	
64	—	98 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	3.7		脚部内側付裏。内面V字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2	
65	—	99 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	3.5		脚部内側付裏。内面V字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2	
66	—	100 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	4.5		脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
67	—	101 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	3.3		脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2	
68	—	102 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	2.9		脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/2	2.59/2	2.59/2	
69	—	103 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	19.0	5.0	脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/2	2.59/1	
70	—	104 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	16.9	9.0	15.5	脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1
71	—	105 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	16.2	8.0	脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
72	—	106 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	10.2	4.5	脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
73	—	107 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	20.4	3.3	脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
74	—	108 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	3.8		脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
75	—	109 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	3.8		脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
76	—	110 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	5.0		脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	
77	—	111 IID-5	縫文土器	脚部	口縁	4.2		脚部内側付裏。直縫縫跡有り。内面V字溝。	2.59/1	2.59/1	2.59/1	

表10 1A区遺物觀察表 4

No.	遺物 名	出土地點 番号	器種	器形	部位	測量 (cm)	特徵	内面 色	外 面 色	類 別	備註
						(幅 厚)	(縦 横)				
口縁部斜面有孔、中央部、口縁部斜面無孔有孔部 等、内面無孔、外面有孔。外縫跡有。											
46	— 112 Ⅲb	825-13	武士土器 深鉢	口縁		2.3		褐色	褐色	褐色	褐色
46	— 113 Ⅲb	825-13	武士土器 深鉢	口縁		3.2		褐色	褐色	褐色	褐色
46	— 114 Ⅲb	825-17	武士土器 深鉢	口縁		6.1	口縁部斜面有孔、中央部、口縁部斜面無孔有孔部 等、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
46	— 115 Ⅲb	825-17	武士土器 深鉢	口縁		3.8	口縁部斜面有孔、中央部、口縁部斜面無孔有孔部 等、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
47	— 116 Ⅲb	825-13	武士土器 深鉢	口縁	30.5	12.7	口縁部斜面有孔、中央部、口縁部斜面無孔有孔部 等、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
47	— 117 Ⅲb	CN-4	武士土器 深鉢	口縁	23.8	6.5	口縁部斜面有孔、中央部、口縁部斜面無孔有孔部 等、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
47	— 118 Ⅲb	CN-3	武士土器 深鉢	口縁	9.3	口縁部斜面有孔、中央部、口縁部斜面無孔有孔部 等、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色	
47	— 119 Ⅲb	825-17	武士土器 深鉢	口縁	17.7	3.8	口縁部斜面有孔、中央部、口縁部斜面無孔有孔部 等、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
47	— 120 Ⅲb	825-16	武士土器 豊	直鉢		5.5	平底、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
47	— 121 Ⅲb	825-6	武士土器 豊	直鉢		4.1	平底、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
47	— 122 Ⅲb	E24-12	武士土器 豊	直鉢		2.4	平底、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
48	— 123 Ⅲb	825-17	武士土器 浅鉢	直鉢		3.2	平底 (凹面)、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
48	— 124 Ⅲb	825-11	武士土器 浅鉢	直鉢		3.6	平底 (凹面)、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
48	— 125 Ⅲb	CN-5	武士土器 浅鉢	直鉢		1.6	平底 (凹面)、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
48	— 126 Ⅲb	825-16	武士土器 上輪深鉢	全高	全幅	全幅	蓋斜面 蓋斜面有孔、一輪銀環。	褐色	褐色	褐色	褐色
48	— 127 Ⅲb	825-13	武士土器 上輪深鉢	全高	全幅	全幅	蓋斜面有孔、一輪銀環。	褐色	褐色	褐色	褐色
48	— 128 Ⅲb	CN-3	武士土器 上輪深鉢	全高	全幅	全幅	蓋斜面有孔、一輪銀環。	褐色	褐色	褐色	褐色
48	— 129 Ⅲb	825-21	武士土器 上輪深鉢	全高	全幅	全幅	蓋斜面有孔、一輪銀環。	褐色	褐色	褐色	褐色
口縁部斜面有孔、中央部、口縁部斜面無孔有孔部 等、内面無孔、外縫跡有。											
49	— 130 Ⅲb-1	825-11	武士土器 浅鉢	口縁		13.0	口縁部斜面有孔、中央部、口縁部斜面無孔有孔部 等、内面無孔、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
49	— 131 Ⅲb-1	825-16	武士土器 浅鉢	口縁		3.3	口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
49	— 132 Ⅲb-1	825-16	武士土器 深鉢	口縁	12.2	3.4	小切端部有孔 (内側)、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
49	— 133 Ⅲb-1	825-16	武士土器 深鉢	口縁		5.4	口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
49	— 134 Ⅲb-1	825-16	武士土器 深鉢	口縁	15.6	4.0	口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
49	— 135 Ⅲb-1	825-16	武士土器 深鉢	口縁		6.1	口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
50	— 136 Ⅲb-1	825-16	武士土器 浅鉢	口縁		1.9	平底 (凹面)、内面無孔、内面有 (凹) 突起。	褐色	褐色	褐色	褐色
50	— 137 Ⅲb-2	825-12	武士土器 深鉢	口縁		5.7	口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
50	— 138 Ⅲb-2	825-12	武士土器 深鉢	口縁		3.2	口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
50	— 139 Ⅲb-2	825-17	武士土器 深鉢	口縁		2.5	口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。											
50	— 140 Ⅲb-2	825-12	武士土器 浅鉢	口縁		3.2	口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
50	— 141 Ⅲb-2	825-12	武士土器 浅鉢	口縁		6.8	平底、内面 (凹) 突起、外縫跡有、内面 (凹) 突起。	褐色	褐色	褐色	褐色
50	— 142 Ⅲb-2	825-12	武士土器 浅鉢	口縁		4.4	口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
50	— 143 Ⅲb-3	825-16	武士土器 豊	直鉢		5.2	平底、内面 (凹) 突起、外縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
51	— 147 Ⅲb-1	G25-17	武士土器 豊	口縁	20.0	8.0	口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色
51	— 148 Ⅲb	CN-5	武士土器 豊	口縁	20.0	6.7	口縁部斜面有孔、中央部、口縫跡有。	褐色	褐色	褐色	褐色

表11 1A区遺物觀察表5

品目	規格	基準	部位	量産(回)	量産(回)	備考	内面		色板 内面	貼付	番号
							日付	日付			
5- 140 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 16.0	3.6		口縫は内側の左側に、外側は右側に開いています。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	黒色 2.59/1	2.59/1	
5- 141 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 4.2			口縫は内側の左側に開いています。外側は右側に開いています。内面に凹凸があります。	内面	黒色 2.59/1	2.59/1	1096/2
5- 142 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 6.6	3.9		口縫は内側の左側に開いています。外側は右側に開いています。内面に凹凸があります。	内面	黒色 2.59/1	2.59/1	1096/2
5- 152 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-16	成形土壁	壁	回数 10.6	5.7		口縫は内側の左側に開いています。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	黒色 2.59/1	2.59/1	
5- 153 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-12	成形土壁	壁	回数 4.2			口縫は内側の左側に開いています。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	黒色 2.59/1	2.59/1	1096/4
5- 154 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-12	成形土壁	壁	回数 19.2	7.5		口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/4
5- 155 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 15.5	10.3		口縫は内側の左側に開いています。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	
5- 156 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-12	成形土壁	壁	回数 15.6	3.5		口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/2
5- 157 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-12	成形土壁	壁	回数 8.4	4.0		口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。下段ナット、外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/1
5- 158 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 8.9			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/1
5- 159 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-12	成形土壁	壁	回数 8.1			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/2
5- 160 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-12	成形土壁	壁	回数 17.9	6.2		口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/1
5- 161 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-16	成形土壁	壁	回数 4.1			周囲に凹凸があります。表面に凹凸があります。内面に凹凸があります。	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	
5- 162 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-12	成形土壁	壁	回数 19.1	5.4		周囲に凹凸があります。表面に凹凸があります。内面に凹凸があります。	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	
5- 163 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-16	成形土壁	壁	回数 14.5	5.8		周囲に凹凸があります。表面に凹凸があります。内面に凹凸があります。	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	
5- 164 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 19.7	7.9		周囲に凹凸があります。表面に凹凸があります。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	1096/2
5- 165 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 6.4			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/2
5- 166 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-8	成形土壁	壁	回数 4.3			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/6
5- 167 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-12	成形土壁	壁	回数 3.9			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/3
5- 168 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-12	成形土壁	壁	回数 3.4			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/4
5- 169 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 4.5			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/5
5- 170 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-17	成形土壁	壁	回数 3.3			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。表面に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/1
5- 171 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 3.3			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/4
5- 172 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 3.0			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/1
5- 173 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-16	成形土壁	壁	回数 3.6			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	
5- 174 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-12	成形土壁	壁	回数 3.3			内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	
5- 175 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 6.3			内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	
5- 176 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-16	成形土壁	壁	回数 12.9	3.7		口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	1096/6
5- 177 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 4.0			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	1096/2
5- 178 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-12	成形土壁	壁	回数 5.1			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	1096/4
5- 179 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 5.3			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	1096/2
5- 180 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-17	成形土壁	壁	回数 4.9			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	
5- 181 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 4.5			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/3
5- 182 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 4.0			口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/1
5- 183 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-11	成形土壁	壁	回数 17.0	2.7		口縫は内側に開けます。内面に凹凸があります。外側に凹凸があります。	内面	赤色 2.59/1	2.59/1	1096/1
記入欄(横)：1. 製造の年月を記入せよ(例)2010年1月 記入欄(縦)：所用箇所(工事名)と施工箇所(部屋名)、器、口縫等											
5- 184 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-16	成形土壁	壁	回数 16.6	7.9		記入欄(横)：2010年1月 記入欄(縦)：所用箇所(工事名)と施工箇所(部屋名)、器、口縫等	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	
5- 185 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-17	成形土壁	壁	回数 4.9			記入欄(横)：2010年1月 記入欄(縦)：所用箇所(工事名)と施工箇所(部屋名)、器、口縫等	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	
5- 186 固定式 壁・天井用 プラッキ	BS-16	成形土壁	壁	回数 16.0	7.9		記入欄(横)：2010年1月 記入欄(縦)：所用箇所(工事名)と施工箇所(部屋名)、器、口縫等	内面	オーバーライム 黑色	2.59/1	

表12 1A区遺物觀察表 6

No.	遺物 名	出土地點 番号	基層 番号	層位 番号	部位 番号	測量 (cm) 寸法 横幅 × 厚さ × 高さ	特徴	古色		備考	備考	備考	
								口	側面	底面	目次	備考	
53 → 186	四足器	CIS-17	博文土器	浅縁	口縫	4.6	口縫外側1.0cm付、内縫上に生ガラス。下凹アマ。外 縫V字アマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/2	
54 → 187	四足器	CIS-17	博文土器	深縫	口縫	3.6	内縫アマアマ。表面付材。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/2	
54 → 188	四足器	CIS-11	博文土器	深縫	口縫	2.7	浅縫口縫。内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/2	
54 → 189	四足器	CIS-16	博文土器	深縫	口縫	3.0	口縫外側1.0cm付、内縫上に生ガラス。内縫アマアマ。 表面付材。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	2.59/1	2.59/1	
54 → 190	四足器	CIS-17	博文土器	深縫	口縫	6.5	浅縫口縫。内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/2	
54 → 191	四足器	CIS-12	博文土器	深縫	口縫	5.7	内縫アマアマ。表面付材アマ(裏り面)。下表面 アマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/2	
54 → 192	四足器	CIS-17	博文土器	深縫	口縫	4.5	口縫外側1.0cm付、内縫アマアマ。内縫アマアマ。 表面付材。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	2.59/1	2.59/1	
54 → 193	四足器	CIS-12	博文土器	深縫	口縫	4.3	浅縫口縫。口縫表面付材アマ付。口縫内縫アマ。通 縫アマアマ。外縫付材。外縫アマアマ。	白褐色	白褐色	白褐色	1001	2.59/1	
54 → 194	四足器	CIS-12	博文土器	深縫	口縫	7.7	浅縫口縫。口縫は付材アマ。口縫内縫アマ。通 縫アマアマ。外縫アマアマ。外縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/1	
54 → 195	四足器	CIS-17	学生土器	縫	口縫	14.6	口縫内縫アマ。外縫アマアマ。開口八角 形。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	1001	
54 → 196	四足器	CIS-12	学生土器	縫	口縫	3.0	口縫内縫アマ。中凹アマ。口縫下部内縫1.0cm付。 内縫アマアマ。	褐色	褐色	褐色	1001	2.59/2	
54 → 197	四足器	CIS-11	博文土器	深縫	口縫	20.2	7.3	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。開口八角 形。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	2.59/2	2.59/1
54 → 198	四足器	CIS-16	博文土器	深縫	口縫	25.8	3.6	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。下表面付材。 内縫アマアマ。内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	1001
54 → 199	四足器	CIS-13	博文土器	深縫	口縫	7.7	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。下表面付材。 内縫アマアマ。内縫アマアマ。	灰褐色	オリーブ褐色	黒褐色	59/1	2.59/1	
54 → 200	四足器	CIS-11	博文土器	深縫	口縫	5.9	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。下口縫付材。内縫 アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/2	
54 → 201	四足器	CIS-6	博文土器	深縫	口縫	4.5	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	灰褐色	灰褐色	灰褐色	1001	2.59/2	
55 → 202	四足器	CIS-13	博文土器	深縫	口縫	6.0	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	59/1	2.59/1	
55 → 203	四足器	CIS-11	博文土器	深縫	口縫	6.1	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/2	
55 → 204	四足器	CIS-12	博文土器	深縫	口縫	7.8	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	2.59/2	2.59/1	
55 → 205	四足器	CIS-14	博文土器	深縫	口縫	7.5	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/2	
55 → 206	四足器	CIS-11	博文土器	深縫	口縫	2.9	口縫1.9cm(所持)付。口縫表面アマ。内縫内縫アマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/2	
55 → 207	四足器	CIS-16	博文土器	深縫	口縫	6.7	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/1	
55 → 208	四足器	CIS-11	博文土器	深縫	口縫	2.9	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/1	
55 → 209	四足器	CIS-17	博文土器	深縫	口縫	6.7	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/1	
55 → 210	四足器	CIS-16	博文土器	深縫	口縫	5.6	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/1	
55 → 211	四足器	CIS-5	博文土器	深縫	口縫	4.5	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/1	
55 → 212	四足器	CIS-12	博文土器	深縫	口縫	5.3	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	2.59/1	2.59/1	
55 → 213	四足器	CIS-17	博文土器	深縫	口縫	3.2	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/1	
55 → 214	四足器	CIS-13	博文土器	深縫	口縫	4.0	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	2.59/1	2.59/1	
55 → 215	四足器	CIS-12	博文土器	深縫	口縫	3.9	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/2	
55 → 216	四足器	CIS-17	博文土器	深縫	口縫	3.3	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	2.59/1	2.59/2	
55 → 217	四足器	CIS-16	博文土器	深縫	口縫	3.4	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	2.59/1	2.59/1	
55 → 218	四足器	CIS-11	博文土器	縫	口縫	3.6	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/1	
55 → 219	四足器	CIS-12	博文土器	深縫	口縫	32.6	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/1	
56 → 220	四足器	CIS-17	博文土器	深縫	口縫	19.8	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/1	
56 → 221	四足器	CIS-11	博文土器	深縫	口縫	19.1	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	1001	2.59/1	
56 → 222	四足器	CIS-17	博文土器	深縫	口縫	11.4	口縫表面アマ。内縫内縫アマ。内縫アマアマ。 内縫アマアマ。	黒褐色	黒褐色	黒褐色	59/1	2.59/1	

表13 1A区遺物觀察表7

No.	遺物	層	出土場所	目録	番号	性質	法量 (cm)	性質	外觀	色調	外觀	編號	
57 - 223 四段	C5-17	鐵文土器	深鉢	口縫	6.6				圓底斜坡內, 中部, 口緣內側有凹槽及突起, 下口微弧, 利刃外, 底, 内底子母, 外底斜坡。	橘紅色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 224 四段	B5-17	鐵文土器	深鉢	口縫	6.2				圓底斜坡內, 中部, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 窄口, 下口微弧, 利刃外, 底, 内底子母, 外底斜坡。	黑色 1090/1	黑色 2.5/0/1	黑色 2.5/0/1	
57 - 225 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	口縫	7.4				圓底斜坡內, 深鉢, 口緣內側有凹槽及突起, 下口微弧, 利刃外, 底, 内底子母, 外底斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/1	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 226 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	口縫	4.9				圓底斜坡內, 中部, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 窄口, 下口微弧, 利, 内底子母, 外底斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/1	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 227 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	口縫	4.0				圓底斜坡內, 中, 口緣內側有凹槽及突起, 下口微弧, 利刃外, 底, 内底子母, 外底斜坡。	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 228 四段		鐵文土器	深鉢	口縫	3.1				圓底斜坡內, 中, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 窄口, 下口微弧, 利刃外, 底, 内底子母, 外底斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/1	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 229 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	口縫	3.4				圓底斜坡內, 中, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 窄口, 下口微弧, 利刃外, 底, 内底子母, 外底斜坡。	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 230 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	口縫	3.3				圓底斜坡內, 中, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 小窄口, 斜坡, 底, 口緣下1/3處, 利刃外, 底, 内底子母, 外底斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 231 四段	C5-5	鐵文土器	深鉢	口縫	2.7				圓底斜坡內, 中, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 窄口, 下口微弧, 利刃外, 底, 内底子母, 外底斜坡。	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 232 四段	C5-16	鐵文土器	深鉢	口縫	2.6				圓底斜坡內, 中, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 利刃外, 底, 内底子母, 小窄口, 斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 233 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	口縫	2.9				圓底斜坡內, 中, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 利刃外, 底, 内底子母, 小窄口, 斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 234 四段	B5-32	鐵文土器	深鉢	口縫	3.8				鐵紋罐, 圓底斜坡內, 中, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 利刃外, 底, 内底子母, 小窄口, 斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 235 四段	B5-13	鐵文土器	深鉢	口縫	4.9				圓底斜坡內, 中, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 窄口, 下口微弧, 利刃外, 底, 内底子母, 外底斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 236 四段	B5-32	鐵文土器	深鉢	口縫	2.9				圓底斜坡內, 中, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 利刃外, 底, 内底子母, 小窄口, 斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 237 四段	B5-32	鐵文土器	深鉢	口縫	5.8				圓底斜坡內, 竹節形, 仁圓底子母, 利刃外, 底, 内底子母, 小窄口, 斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 238 四段	C5-16		深鉢	口縫	5.4				鐵紋罐, 圓底斜坡內, 利刃外, 底, 内底子母, 黃褐色斜坡內, 利刃外, 底, 内底子母。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
57 - 239 四段	B5-32	鐵文土器	深鉢	口縫	5.1				鐵紋罐, 圓底斜坡內, 中, 「口緣子母」, 壁面彎曲分段, 利刃外, 底, 内底子母, 小窄口, 斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 240 四段	B5-11	陶土器	盤	底部	6.3				平底, 直壁, 壁面彎曲, 有凹槽, 有凸點, 有上凸方孔, 有凹槽, 有凸點, 有上凸方孔, 有凹槽, 有凸點, 有上凸方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 241 四段	B5-13	陶土器	盤	底部	6.9				平底, 直壁, 壁面彎曲, 有凹槽, 有凸點, 有上凸方孔, 有凹槽, 有凸點, 有上凸方孔, 有凹槽, 有凸點, 有上凸方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 242 四段	B5-12	陶土器	盤	底部	2.9			7.0	平底, 直壁, 外底子母, 斜坡, 有凹槽, 有凸點, 有上凸方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 243 四段	B5-12	陶土器	盤	底部	2.6			6.8	平底, 直壁子母, 外底斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 244 四段	B5-11	陶土器	盤	底部	1.0			7.6	平底, 直壁子母, 有凹槽2方孔, 有底底子母, 斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 245 四段	B5-14	陶土器	盤	底部	2.9			7.5	平底, 直壁子母, 有凹槽2方孔, 有底底子母, 斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 246 四段	B5-12	陶土器	盤	底部	1.3			8.0	平底, 直壁子母, 有凹槽2方孔, 有底底子母, 斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 247 四段	B5-11	陶土器	盤	底部	1.8			7.4	平底(直壁), 內斜子母, 外底子母2方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 248 四段	B5-11	陶土器	盤	底部	2.4			4.9	平底(直壁), 內斜子母, 外底子母2方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 249 四段	B5-11	陶土器	盤	底部	3.3			7.5	平底(直壁), 內斜子母, 外底子母2方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 250 四段	B5-11	陶土器	盤	底部	2.7			4.8	平底(直壁), 內斜子母, 外底子母2方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 251 四段	C5-16	鐵文土器	深鉢	底部	7.0			7.5	平底(直壁), 內斜子母, 外底子母2方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 252 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	底部	4.0			4.5	平底(直壁), 內斜子母, 外底子母2方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 253 四段	B5-16	鐵文土器	深鉢	底部	5.0			10.0	平底(直壁), 內斜子母, 外底子母2方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 254 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	底部	5.2			7.5	平底(直壁), 內斜子母, 外底子母2方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 255 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	底部	5.9			10.0	平底(直壁), 內斜子母, 外底子母2方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 256 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	底部	5.9			10.0	平底(直壁), 內斜子母, 外底子母2方孔, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 257 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	底部	5.3			6.8	平底, 直壁子母, 所有2方孔, 有底底子母, 斜坡。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 258 四段	B5-11	鐵文土器	深鉢	底部	4.8			6.0	黃底(直壁), 内斜子母, 外底子母, 小斜部, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	
58 - 259 四段	B5-16	鐵文土器	深鉢	底部	3.6			6.0	黃底(直壁), 内斜子母, 外底子母, 小斜部, 有凹槽, 有凸點。	黃褐色 1090/1	黃褐色 2.5/0/2	黃褐色 2.5/0/1	

表14 1A区遺物觀察表 8

No.	遺物	層	出土場所	器種	形	部	測量 (cm)	特徴	色調		備考		
									口径	壁厚			
60	— 260	II-3	II-25-17	縫文土器	洗鉢	口縁	6.7	波打口縁、内面ナガリ。外縁二段折れ付。	褐色	褐色	褐色		
60	— 261	II-3	II-25-16	縫文土器	洗鉢	口縁	4.7	波打口縁の内面凹部付近、口縁に2条折れ。内面ナガリ付近、外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
60	— 262	II-3	II-25-16	縫文土器	深鉢	口縁	7.9	口縁は直線。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
60	— 263	II-3	II-25-16	縫文土器	深鉢	口縁	3.4	波打口縁。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
60	— 264	II-3	II-25-16	縫文土器	深鉢	口縁	30.0	6.0	口縁は直線。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色	
60	— 265	II-3	II-25-16	縫文土器	深鉢	口縁	31.0	14.1	30.4	口縁は直線。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色
61	— 266	II-3	II-25-16	縫文土器	深鉢	口縁	20.8	10.0	23.0	波打口縁。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色
61	— 267	II-3	II-25-16	縫文土器	縦	口縁	26.6	11.8	22.4	口縁は直線。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色
61	— 268	II-3	II-25-16	縫文土器	深鉢	縦・直縁	17.4	3.5	波打口縁。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色	
61	— 269	II-3	II-25-16	縫文土器	深鉢	直縁	5.2	5.9	高さ約10cm (中央部)。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色	
61	— 270	II-3	II-25-16	縫文土器	縦	直縁	4.7	5.3	手平 (凹縁)。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色	
62	— 271	II-3	II-25-14	縫文土器	縦	口縁	11.4	5.2	口縁は直線。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色	
62	— 272	II-3	II-25-14	縫文土器	縦	口縁	7.0	3.2	口縁は直線。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色	
62	— 273	II-3	II-25-2	縫文土器	縦	口縁	6.4	口縁は直線。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
62	— 274	II-3	II-25-12	縫文土器	縦	口縁	12.4	3.8	口縁は直線。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色	
62	— 275	II-3	II-24-22	縫文土器	縦	口縁	3.6	口縁は直線。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
62	— 276	II-3	II-25-18	縫文土器	縦	口縁	2.7	内面ナガリ (各部)。内面凹部付近、2条折れ。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
62	— 277	II-3	II-25-23	縫文土器	洗鉢	口縁	11.1	4.4	口縁は直線 (内面)。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色	
62	— 278	II-3	II-25-21	縫文土器	洗鉢	外縁	4.3	縫合部に横溝有り。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
62	— 279	II-3	II-25-1	縫文土器	洗鉢	口縁	4.0	内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
62	— 280	II-3	II-25-7	縫文土器	洗鉢	口縁	3.6	波打口縁。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
62	— 281	II-3	II-25-1	縫文土器	洗鉢	口縁	2.5	波打口縁。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
62	— 282	II-3	II-25-1	縫文土器	洗鉢	口縁	3.0	波打口縁。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
62	— 283	II-3	II-25-3	縫文土器	洗鉢	口縁	4.9	縫合部に横溝有り。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
62	— 284	II-3	II-25-1	縫文土器	洗鉢	口縁	2.7	口縁は直線 (縫合部)。縫合部外側付近、内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
62	— 285	II-3	II-25-7	縫文土器	洗鉢	口縁	15.8	4.9	口縁は直線 (縫合部)。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色	
62	— 286	II-3	II-25-7	縫文土器	縦	口縁	7.6	縫合部に横溝有り。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
62	— 287	II-3	II-25-1	縫文土器	深鉢	口縁	11.6	16.2	縫合部に横溝有り。内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色	
62	— 288	II-3	II-25-1	縫文土器	深鉢	口縁	4.0	内面ナガリ。外縁二段折れ。	褐色	褐色	褐色		
63	— 289	II-3	II-25-13	縫文土器	縦	口縁	1.9	口縁は直線 (縫合部)。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
63	— 290	II-3	II-25-5	縫文土器	深鉢	口縁	3.3	口縁は直線 (縫合部)。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
63	— 291	II-3	II-25-16	縫文土器	深鉢	口縁	3.5	口縁は直線 (縫合部)。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
63	— 292	II-3	II-25-7	縫文土器	深鉢	口縁	4.4	口縁は直線 (縫合部)。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
63	— 293	II-3	II-25-11	縫文土器	縦	口縁	2.8	口縁は直線 (縫合部)。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
63	— 294	II-3	II-25-3	縫文土器	深鉢	口縁	4.9	口縁は直線 (縫合部)。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
63	— 295	II-3	II-25-11	縫文土器	深鉢	口縁	3.4	口縁は直線 (縫合部)。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
63	— 296	II-3	II-25-6	縫文土器	深鉢	口縁	3.6	口縁は直線 (縫合部)。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
63	— 297	II-3	II-25-13	縫文土器	縦	口縁	3.7	平底。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		
63	— 298	II-3	II-25-12	縫文土器	縦	口縁	3.3	平底。内面ナガリ。	褐色	褐色	褐色		

表15 1区A区遺物觀察表9

品名	建物	出土位置	種類	形態	部位	法線(45度)	特循	内面	外側	備考	番号
%		遺物番号					回数	斜傾	直傾		
01 - 299	IId -	CG-24	鐵文土器	洗鉢	直縁	2.7	4.7	平底、内面立方型、外側へ立方型、内面削除付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/3
01 - 300	IId -	CG-8	鐵文土器	洗鉢	直縁	2.9	4.8	平底、内面立方型、外側削除、ナテ、内面削除付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/4
01 - 301	IId -	CG-5	鐵文土器	深鉢	直縁	4.2	7.6	平底、内面立方型、内面削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 302	IId -	CG-12	鐵文土器	楕	直縁	2.2	6.0	楕円形立方型、外側削除、内面削除、片端一部に内面削除付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 303	IId -	CG-12	鐵文土器	楕	直縁	5.5	8.4	平底(直縁)、内面ナテ、内面削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 304	IId -	CG-16	鐵文土器	深鉢	直縁	3.3	5.8	平底(直縁)、内面ナテ、内面削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 305	IId -	CG-1	鐵文土器	土葉型	全縁	3.9	5.6	全縁 重量 10.4g	内側(薄削)付箇、深鉢削除付箇。	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 306	IId -	CG-7	鐵文土器	土葉型	全縁	5.5	6.4	内側(薄削)付箇、深鉢削除付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 307	IId -	CG-4	鐵文土器	盤	直縁	39.6	13.0	口縁斜削りを有り立方型、口縁半径半分程度。内側(薄削)付箇、内側(厚削)付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/3
01 - 308	IId -	CG-19	鐵文土器	盤	直縁	3.9	5.7	口縁斜削り立方型、内面立方型。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 309	IId -	CG-21	鐵文土器	盤	直縁	5.3	6.8	口縁斜削り立方型、内面立方型、内側(厚削)付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 310	IId -	CG-25	鐵文土器	盤	直縁	2.5	4.8	口縁斜削り立方型、有内木板。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/6
01 - 311	IId -	CG-10	鐵文土器	洗鉢	直縁	4.9	8.4	立方型縁、口縁上立方型付削除、下立方型、口縁斜削り立方型、内側(薄削)付箇、内側(厚削)付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 312	IId -	CG-12	鐵文土器	洗鉢	直縁	4.9	8.4	立方型縁、口縁上立方型付削除、下立方型、口縁斜削り立方型、内側(薄削)付箇、内側(厚削)付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 313	IId -	CG-17	鐵文土器	洗鉢	直縁	3.0	5.7	口縁斜削り立方型、内面立方型。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 314	IId -	CG-11	鐵文土器	洗鉢	直縁	3.1	5.8	口縁斜削り立方型、内面立方型付削除、内側(厚削)付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 315	IId -	CG-1	鐵文土器	洗鉢	直縁	3.9	6.8	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 316	IId -	CG-12	鐵文土器	洗鉢	直縁	5.0	6.8	立方型縁、立方型内底部削除、口縁斜削り立方型、内面立方型付削除、内側(薄削)付箇、内側(厚削)付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 317	IId -	CG-18	鐵文土器	洗鉢	直縁	6.3	9.2	立方型縁、立方型内底部削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 318	IId -	CG-7	鐵文土器	楕	直縁	3.6	5.7	口縁斜削り立方型、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/4
01 - 319	IId -	CG-7	鐵文土器	楕	直縁	8.0	10.1	立方型縁、立方型内底部削除、口縁斜削り立方型、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 320	IId -	CG-2	鐵文土器	楕	直縁	3.2	5.7	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 321	IId -	CG-13	鐵文土器	楕	直縁	12.6	2.5	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 322	IId -	CG-13	鐵文土器	楕	直縁	3.3	5.7	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/4
01 - 323	IId -	CG-8	鐵文土器	楕	直縁	4.3	5.7	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 324	IId -	CG-12	鐵文土器	楕	直縁	5.2	6.8	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 325	IId -	CG-21	鐵文土器	深鉢	直縁	3.8	5.8	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除、内側(厚削)付箇、内側(大字)大字な字付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 326	IId -	CG-7	鐵文土器	深鉢	直縁	3.2	5.8	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 327	IId -	CG-6	鐵文土器	深鉢	直縁	3.0	5.8	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除、内側(厚削)付箇、内側(大字)大字な字付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 328	IId -	CG-18	鐵文土器	楕	直縁	3.7	5.8	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 329	IId -	CG-13	鐵文土器	深鉢	直縁	4.0	6.8	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 330	IId -	CG-17	鐵文土器	深鉢	直縁	2.9	5.8	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 331	IId -	CG-2	鐵文土器	深鉢	直縁	6.4	8.4	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除、内側(厚削)付箇、内側(大字)大字な字付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 332	IId -	CG-12	鐵文土器	洗鉢	直縁	3.7	5.8	口縁斜削り立方型付削除、内面立方型付削除、内側(厚削)付箇。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 333	IId -	CG-17	鐵文土器	楕	直縁	3.4	9.6	平底、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/3
01 - 334	IId -	CG-7	鐵文土器	楕	直縁	2.7	9.8	平底、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/2
01 - 335	IId -	CG-23	鐵文土器	深鉢	直縁	6.1	10.9	平底(直縁)、内面ナテ、内面ナテ、内面ナテ、内面ナテ。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 336	IId -	CG-19	鐵文土器	洗鉢	直縁	2.0	7.4	平底(直縁)、内面ナテ、内面ナテ。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/1
01 - 337	IId -	CG-12	鐵文土器	洗鉢	直縁	4.7	7.4	口縁立方型付削除、内面立方型付削除、内面立方型付削除、内面立方型付削除。	内側(薄削)	内側(薄削) 外側(厚削)	109e/4

表16 1A区遺物観察表 10

No.	遺物	出土点	層	基材	器形	部位	法度(㎝)	特徴	色調		備考	
									内面	外側		
高井田遺跡(高107m)、高井田は水と浮遊する。内面ナダ、外面ナダ、内面ナダ、外面ナダ。												
65	388	Ⅱa	C5-17	織文土器	深鉢	底部	4.0	6.7	黒色	オリーブ色	織文土器	
65	391	Ⅱa	B2-11	生土器	縦	底部	3.5	10.0	平底、内面ナダ、外面ナダ、押口面、表面漆付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
65	340	Ⅱa	B2-11	生土器	縦	底部	5.1	10.0	平底、内面ナダ、外面ナダ、外側一部漆付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
65	341	Ⅱa	B2-11	生土器	縦	底部	4.1	7.8	平底、内面ナダ、外面ナダ、内面漆付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
65	342	Ⅱa	B2-11	生土器	縦	底部	3.2	7.8	平底、内面ナダ、外面ナダ、内面漆付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
66	343	Ⅱ	B2-12	生土器	縦	底部	4.0	5.0	口縁内面漆付箇所、外面ナダ付箇所、内面漆付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
66	344	Ⅱ	B2-12	生土器	縦	底部	6.5	7.8	口縁内面漆付箇所、内面ナダ付箇所、内面漆付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
66	345	Ⅱ	B2-12	生土器	縦	底部	7.2	7.8	脚部付近、内面漆付箇所、内面ナダ付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
66	346	Ⅱ	C5-5	織文土器	浅鉢	口縁	10.4	1.8	口縁内面漆付箇所、内面ナダ付箇所、内面漆付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
66	347	Ⅱ	C5-5	織文土器	浅鉢	口縁	5.0	7.8	浅口縁、浅鉢底に内面漆付箇所、内面ナダ付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
66	348	Ⅱ	C5-5	織文土器	縦	底部	4.4	6.2	浅口縁、内面漆付箇所、内面ナダ付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
66	349	Ⅱ	B2-1	生土器	縦	底部	4.3	7.8	浅口縁、内面漆付箇所、内面ナダ付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
66	350	Ⅱ	B2-1	生土器	縦	底部	4.1	7.8	口縁内面漆付箇所、内面ナダ付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
66	351	Ⅱ	C5-5	生土器	斜鉢	全身	4.7	4.5	口縁内面漆付箇所。	黒色	オリーブ色	織文土器
足利城跡(高107m)、足利城は水と浮遊する。内面ナダ、外面ナダ。												
67	352	Q5-18	Ⅱc	縦	口縁	11.5	5.4	足利城口縁、足利城内面漆付箇所、口縁内面2条付箇所、外側 脚部内面漆付箇所。	黒色	オリーブ色	足利城	
67	353	Q5-24	Ⅱc	縦	口縁	2.2	2.8	1.4	足利城、直縁。	黒色	オリーブ色	足利城
67	354	Q5-5	Ⅱc	縦	口縁	8.1	2.5	0.8 脚部上部付箇所、内面漆付箇所。	黒色	オリーブ色	足利城	
67	355	Ⅱd	縦	口縁	4.7	5.6	0.5 脚部破損。	黒色	オリーブ色	足利城		
67	356	Q5-5	Ⅱc	縦	口縁	5.1	7.3	0.6 脚部内付箇所、内面。	黒色	オリーブ色	足利城	
67	357	Q5-5	Ⅱc	縦	口縁	9.1	14.7	0.8 脚部中付箇所、複数に沿る大小の方孔底面、直面縫合、 灰斑。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	358	Q5-24	Ⅱc	縦	口縁	4.4	4.5	0.6 脚部破損、内面。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	359	Q5-24	Ⅱc	縦	口縁	5.3	13.0	0.6 脚部中付箇所、複数に沿る大小の方孔底面、直面縫合、 灰斑。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	360	Q5-24	Ⅱc	縦	口縁	4.7	7.5	0.6 脚部破損、内面。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	361	Q5-7	Ⅱc	縦	口縁	7.3	12.4	0.6 脚部中付箇所、複数に沿る大小の方孔底面、直面縫合、 灰斑。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	362	Q5-7	Ⅱc	縦	口縁	4.7	7.6	1.1 脚部破損、内面。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	363	Q5-24	Ⅱc	縦	口縁	2.3	3.4	0.6 脚部破損、内面。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	364	Q5-5	Ⅱc	縦	口縁	3.1	2.3	0.6 簡便。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	365	Q5-5	Ⅱc	縦	口縁	4.5	10.8	0.6 脚部破損、内面。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	366	Q5-6	Ⅱc	縦	口縁	3.9	5.5	0.6 脚部破損、内面。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	367	Q5-1	Ⅱc	縦	口縁	3.4	3.4	0.6 簡便。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	368	Q5-5	Ⅱc	縦	口縁	4.4	2.6	0.6 方孔底面。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	369	Q5-6	Ⅱc	縦	口縁	4.9	20.2	脚部中付箇所、内面底面、内面ナダ。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	370	Q5-17	Ⅱc	縦	口縁	5.4	5.2	0.7	脚部破損。	黒色	オリーブ色	足利城
68	371	Q5-1	Ⅱc	縦	口縁	6.2	—	—	黒色	オリーブ色	足利城	
68	372	Q5-1	Ⅱc	縦	口縁	7.0	—	—	黒色	オリーブ色	足利城	
68	373	Q5-5	Ⅱc	縦	口縁	5.5	4.6	0.6 足利城に記載方孔底面、内面ナダ。	黒色	オリーブ色	足利城	
68	374	Q5-7	Ⅱc	縦	口縁	5.7	2.3	0.6 内面ナダ、内面ナダ。	黒色	オリーブ色	足利城	

表17 1区遺物観察表 11

No.	遺物	出土地点	層	種類	特徴	測量 (cm)			持者	備考
						全高	全幅	重量 (g)		
79	—	—	P1.0.1	石器	2.8	6.3	0.7	5.5	セラカイト	複数、芯部は削れ、裏面は平らで裏面大きく盛り上がる。表面削れを大きく持る。
79	—	—	C9.5	石器	2.5	3.2	0.3	1.2	セラカイト	有孔、芯部は全面削れ、裏面は中央部に削れ跡が残る。
79	—	—	BS.2	石器	2.1	1.6	0.3	0.7	セラカイト	有孔、芯部は全面削れ、裏面は全面削れする。
79	—	—	S9.4	石器	1.3	1.5	0.3	0.6	セラカイト	有孔、平面、裏面は大きな削れ跡。
79	—	—	II.6	石器	1.8	3.0	0.3	0.5	セラカイト	有孔は斜め、側面はやや削れ跡がある。
79	—	—	BS.17	石器	3.6	1.2	0.8	2.7	セラカイト	複数孔、芯部、裏面、側面は全面削れで裏面を削る。基部は芯部。
79	—	—	G9.11	石器	4.4	1.6	0.7	5.9	セラカイト	複数孔、芯部、裏面、側面は全面削れで裏面を削る。
79	—	—	B9.12	石器	3.0	3.5	0.3	2.3	セラカイト	複数孔は芯部と三方向、芯部は全面削れで裏面を削る。
79	—	—	BS.18	石器	4.7	3.2	5.0	7.9	セラカイト	複数孔は全面削れで裏面を削る。
79	—	—	G9.17	石器	4.8	4.8	0.7	12.6	セラカイト	複数孔は全面削れで裏面を削る。
79	—	—	BS.11	石器	5.6	3.8	0.5	15.2	セラカイト	複数孔は芯部が削れると、側面は芯部には繊細な削れ跡を加える。
79	—	—	II.5	石器	4.9	2.5	0.9	10.7	セラカイト	複数孔は芯部に複数孔を削る。
79	—	—	III.1	石器	7.8	1.1	0.4	4.0	セラカイト	複数孔？裏面はやや削れ、丁寧に削る。側面はよくせ上げる。
79	—	—	G9.22	石器	5.7	4.3	1.0	35.4	セラカイト	複数孔、芯部は全面削れで裏面を削る。
79	—	—	B9.12	石器	7.8	1.2	1.2	40.5	セラカイト	複数孔で芯部を削るから、刀身欠損箇所部分を加工？
79	—	—	BS.2	石器	6.9	2.8	1.1	31.8	セラカイト	複数孔で芯部を削るから、刀身欠損箇所部分を加工？裏面も刃として使用？
79	—	—	BS.16	石器	8.5	3.5	1.1	40.4	セラカイト	複数孔、芯部、側面は裏面を削る。下面には底面を削す。上面は自然面？
79	—	—	G9.22	石器	5.5	4.2	2.4	40.6	セラカイト	複数孔で芯部を削るから、刀身欠損箇所部分を加工？
79	—	—	III.3	石器	6.4	4.6	1.2	40.1	セラカイト	複数孔、刀身削り、上面は刃面を削す。芯部は裏面を削り、刃口は削る。
79	—	—	E9.12	石器	3.1	2.1	0.9	7.3	セラカイト	複数孔の芯部の裏面を削る？芯部？
79	—	—	BS.11	石器	9.3	1.7	1.1	29.9	セラカイト	複数孔の裏面を削る？芯部？
79	—	—	G9.11	石器	8.0	4.4	1.4	87.9	セラカイト	複数孔、側面は芯部でやや削る。芯部は基部を削す。側面に削り削痕。
79	—	—	G9.17	石器	8.2	3.2	0.9	34.8	セラカイト	複数孔、側面は基部を削す。周囲を丁寧に研磨。
79	—	—	G9.17	石器	11.3	6.4	1.8	181.5	セラカイト	複数孔、側面は基部を削す。周囲を丁寧に研磨。
79	—	—	C9.5	石器	12.1	5.9	1.6	191.1	セラカイト	複数孔、側面は基部を削す。
79	—	—	G9.23	石器	10.1	4.7	3.1	236.3	セラカイト	複数孔の裏面を削るから、刃口削りを複数回にする。一筋で削れ。
79	—	—	II.1	石器	9.1	7.6	1.2	140.9	セラカイト	複数孔の大刀（交叉刃）の裏面、裏面削れを複数回にする。
79	—	—	C9.10	石器	11.9	2.1	3.9	161.6	セラカイト	複数孔削れから丁寧に削る。刃口は複数回削る。
79	—	—	E9.11	石器	21.9	6.3	5.2	320.0	セラカイト	複数孔削れから丁寧に削る。側面は刃面を削る。
79	—	—	G9.16	石器	6.9	4.2	2.6	144.4	セラカイト	複数孔削れから丁寧に削る。
79	—	—	B9.12	石器	6.9	6.7	3.6	207.9	セラカイト	複数孔削れから丁寧に削る。
79	—	—	BS.20	石器	15.4	10.5	7.0	320.0	セラカイト	複数孔の芯部に削り削痕。裏面は芯部を大きく削る。
79	—	—	G9.16	石器	12.4	10.8	7.1	320.0	セラカイト	複数孔削れから丁寧に削る。裏面は刃面を削る。
79	—	—	BS.17	石器	14.6	11.6	4.9	124.0	セラカイト	複数孔削れから丁寧に削る。側面は刃面を削る。
79	—	—	G9.17	石器	9.7	8.6	3.6	406.6	セラカイト	複数孔削れから丁寧に削る。

No.	遺物	出土地点	層	種類	遺物名	測量 (cm)			持者	備考	
						全高	全幅	重さ			
79	—	—	G9.12	工具	複数工具？ 内装式水・火薬製品・油輪？	円筒の木製箱に木の箱蓋に本の袋状物を乗せ行く。	1.9	—	セラカイト	複数の袋	
79	—	—	E9.12	工具	複数工具箱・松木箱？	芯部に芯部を削る。芯部は芯部を削る。	7.0	2.0	3.0	セラカイト	複数の袋
79	—	—	G9.1	工具	複数工具箱？	頭部はぐくじ上部。両端から削る。	34.0	1.8	1.8	セラカイト	複数の袋
79	—	—	G9.12	工具	小型内装式木製箱？	頭部はぐくじ上部。両端から削る。	24.3	0.9	0.7	セラカイト	複数の袋
79	—	—	E9.1	工具	複数工具箱？ 加工した。芯部に芯部を削る。	35.9	3.4	4.3	ウクシモノスノキウクスノキ	複数の袋	
79	—	—	G9.11	工具	複数工具箱？	頭部はぐくじ上部。両端から削る。	6.5	13.0	1.2	セラカイト	複数の袋
79	—	—	F2	工具	複数工具箱	芯部削る。芯部を削る。	22.5	12.3	9.3	セラカイト	複数の袋
79	—	—	E9.12	工具	複数工具箱	頭部はぐくじ上部。芯部削る。	25.2	8.9	2.4	セラカイト	複数の袋
79	—	—	G9.17	工具	複数工具箱	頭部はぐくじ上部。芯部削る。	30.1	6.0	1.1	セラカイト	複数の袋
79	—	—	G9.1	工具	複数工具箱 / 盒	丁寧に削る。	47.9	11.7	2.8	セラカイト	複数の袋
79	—	—	G9.1	工具	複数工具箱 / 盒	丁寧に削る。	65.6	17.3	2.7	セラカイト	複数の袋

(3) 1C区(その2)

本編は1C区の調査成果(その2)とし、^{a(1)}居徳遺跡群I-a⁽¹⁾所収分以外の1C区の調査成果について報告する。

1. 調査の方法(補遺)

1C区の調査方法については前述した。

遺物取上げの最小単位は、全調査区統一の一辺4mのグリッド(方形区画)であり、その区画の状況と名称はFig.79に示した。グリッドは、国土座標第IV系におけるX-Y両座標の「4」の倍数値(整数値)の交点を利用して区画した。グリッドの名称は、まず一辺20mの大グリッド名を「Y軸方向の英文字(西からA,B,C...)」+「X軸方向の数字(北から1,2,3...)」で表した。これに、1つの大グリッド内の北西隅を1とし、東へ向かって2,3,4...の順で、南東隅を25とする小グリッド名を枝番号でつないだ。

2. 層序(補遺)(Fig.80)

本次報告に関連する層序を、調査区西壁の土層断面図で示した。既報の第IV層群も図示しているが、当該断面図における「IVD①層」「IVD②層」「IVD③層」などの細分層名は、あくまでその図中においてのみ有効な名称であり、遺物の取上げに反映できたものではない。したがって、遺物取上げに反映できたものと明確に区別するために、^{a(2)}居徳遺跡群I-a⁽²⁾における細分層名とは

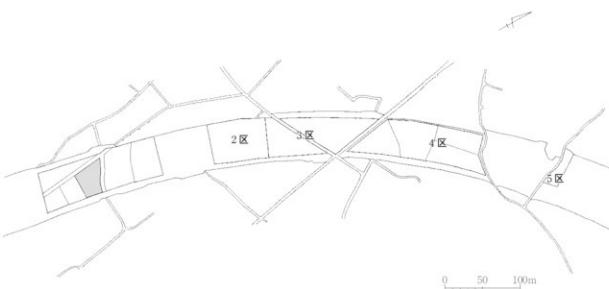


Fig.78 1C区の位置 (S : 1/5,000)

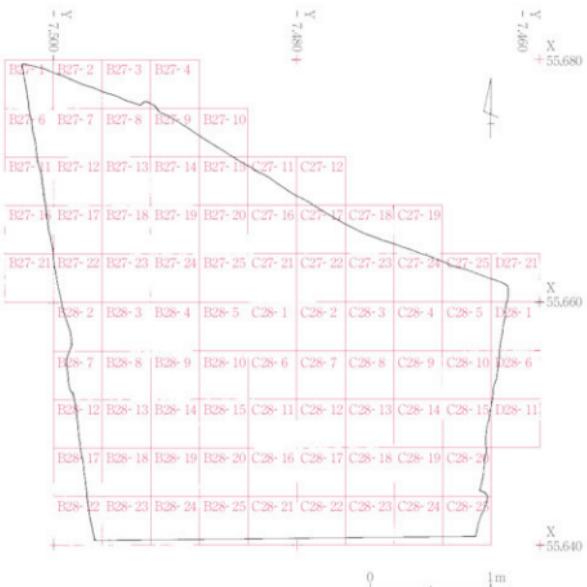


Fig.79 1C区グリッド割り図 (S : 1/400)

異なる表記法を使用することとした。以下、層名の「第」を省略する。

I 層：機械掘削を実施した表土層である。調査地点の現況から、水田耕作土に対応する。

II 層：機械掘削を実施した部分で、III層までの間層を指す。黄灰色～褐色系の粘土ないし粘質土であり、完掘後の分層で II A 層～ II D 層の 4 枚に分けることができた。ほぼ水平堆積である。II 層内における攢乱痕跡が認められ、旧耕作土を含んでいるものと考えられる。

III 層：第 1 面の包含層掘削の対象とした部分で、第 1 面の遺構検出面（IV 層）に達するまでの堆積層を指す。灰色～灰褐色を呈する粘土、砂粘土、礫粘土から構成される。遺物の取上げは III A 層～ III D 層の 4 層に大別しておこない、完掘後にそれぞれを細分して図化した。

IV 層上面が傾斜面であるため、III 層の各層も傾斜を有している。断面図からは、III 層中最下層の III D 層は斜面上位部にのみ堆積し、III B 層・III C 層と堆積が進行するとともに低地側へとその範囲を拡大してゆき、最上層の III A 層は低地側にのみ存するという、低地の埋積過程を看取することができる。しかし、この経過のすべてを自然の營力によるものと理解することはできない。すなわち、III C 層・III D 層に含まれる礫の出自が説明できないためである。この両層は礫を含むと同時に、土中に含有される鉄分の酸化・固結の度合いがきわめて顕著であり、鉄分を介した土器等への付着物の付き具合も尋常で

A-

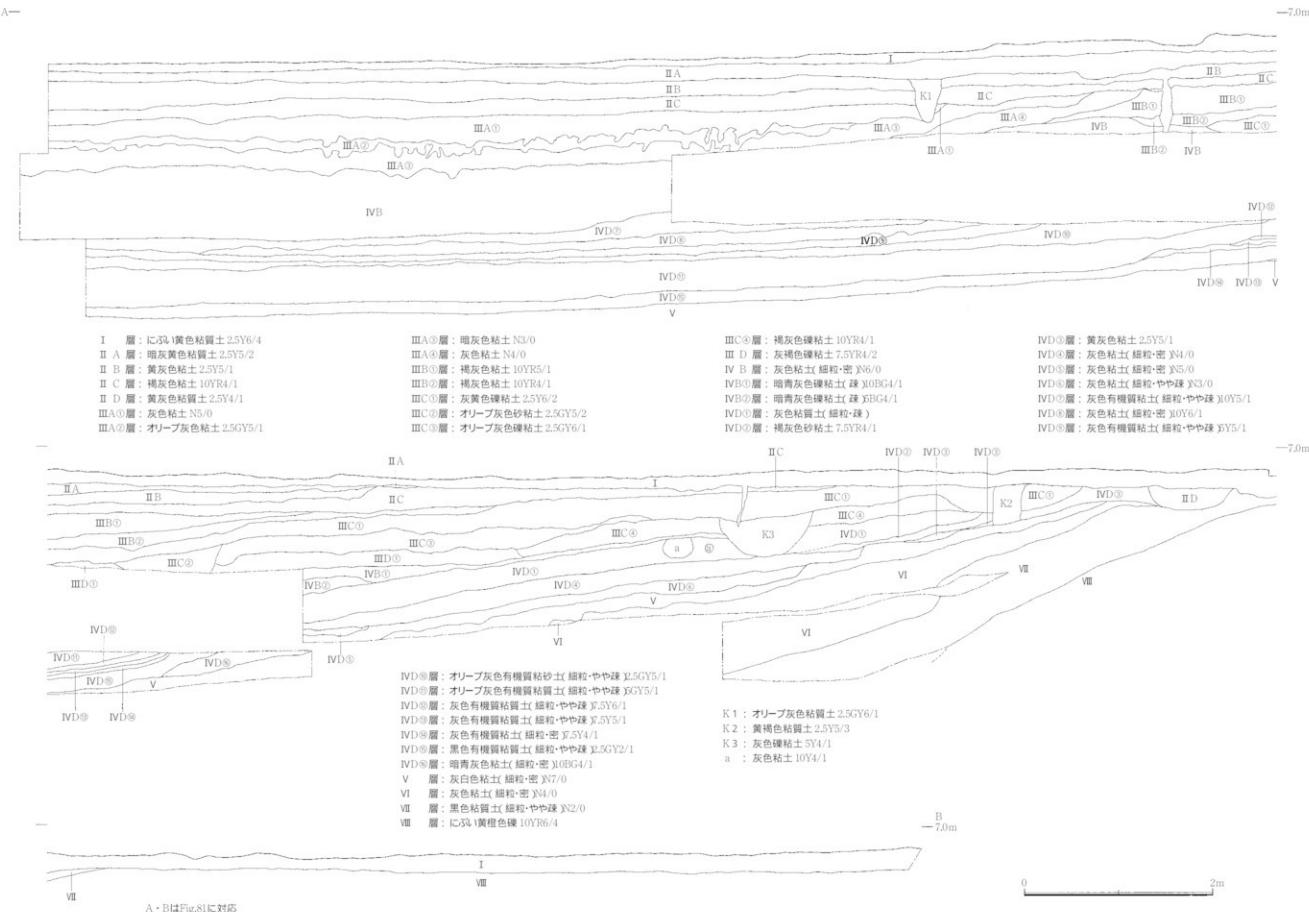


Fig.80 1C区西壁堆積土層断面図 (S : 1/40)



Fig.81 1C区第VII層以下調査範囲図 (S : 1/400)

ない。風成・水成堆積起源だけでは説明がつかず、斜面上方からの崩落土、あるいは人為的な削平行行為による客土の可能性も考えられる、反転層と理解すべきであろう。こう考えてみると、当初からIII層は、III C層・III D層の反転層と、礫を含まず水成堆積層とみられるIII A層・III B層との2者に大きく分けて捉えるべきであった。反転層には古墳時代前期～中期の遺物が含まれており、同層の形成時期の上限を示している。また、III A③層は暗灰色を呈する粘土層で、「IV D層⁽¹⁾期」の次の寒冷期に形成された旧表土層と考えられる。

なお、III層下面とIV層上面との間は不整合面であったと『居徳遺跡群 I-a⁽¹⁾』に記したが、III層の礫はIV層中に深く沈下・侵入している箇所があり、必ずしも截然と両者の境界を捕捉できていたわけではない。例えば斜面上方側におけるIV D①層などでは、礫の侵入のない本来のIV層を追求するあまり、その殆どをIII D層あるいはIII C層として取り上げてしまっており、結果的に、分層に基づく遺物の取上げに失敗している。第IV層群中におけるIVA層⁽³⁾の位置付けのように、両者の中間的な扱いとすべきであった。

IV層：既報のため省略。IVB層・IVD層の性格は『居留遺跡群 I⁽⁶⁾』の内容に等しい。

V層：上面を第2面の遺構検出面とした灰白色の粘土層で、無遺物層である。(実際は、突堤文土器とみられる胴部片1点が出土しているが、上層から貫入したものと理解できよう。) 調査区東半部では、一部で遺構検出面以下まで掘り過ぎてしまったため、段差が残り、等高線に乱れが生じてしまっている。

VI層：灰色の粘土層で、中央部の土層観察用のベルト壁面から突堤文土器片1点(Fig.111-1330)が採取された。したがって無遺物層とよぶことはできないが、遺物の含有量はきわめて稀少である。

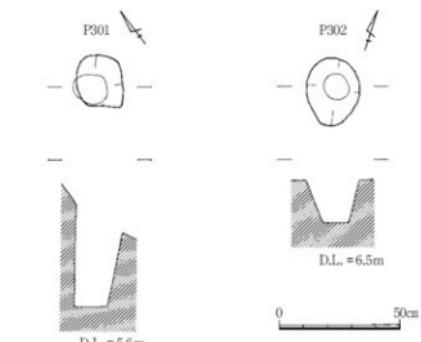


Fig.82 1C区第VII層上面検出遺構 (S : 1/20)

VII層：第3面の包含層掘削の対象とした黒色粘質土層である。火山ガラスの微細片を多く含んでおり、火山灰起源の腐植土層と考えられる。1C区の調査範囲においては最下位に位置する旧表土層である。遺物は僅少であるが、縄文前期土器、縄文後期土器等が出土している。

VIII層：上面を第3面の遺構検出面として扱った、にぶい黄褐色を呈する疊層である。この地点における基底疊層であり、表層部分は風化により軟質化している。

3. 遺構

1C区の調査では、第VII層上面・第V層上面・第IV層中層・第IV層上面の、4つの局面において遺構を検出した。

(1) 第VII層上面検出遺構 (Fig.83)

第VII層以下の調査は部分的なものであるため、その範囲をFig.81に示した。

463個のビット状遺構を確認したが、遺物を伴うものは極めて少なく、年代を判別する根拠に乏しい。一方、遺構の規模には一定のまとまりが見受けられ、等高線を意識したかのような配列がみえる。また平面的には円形及び方形らしきビット状遺構の並びも看取されるが、急傾斜面のため建物跡等の復元は困難と考えられる。したがって、現時点においては、これらの性格は不明とせざるを得ない。

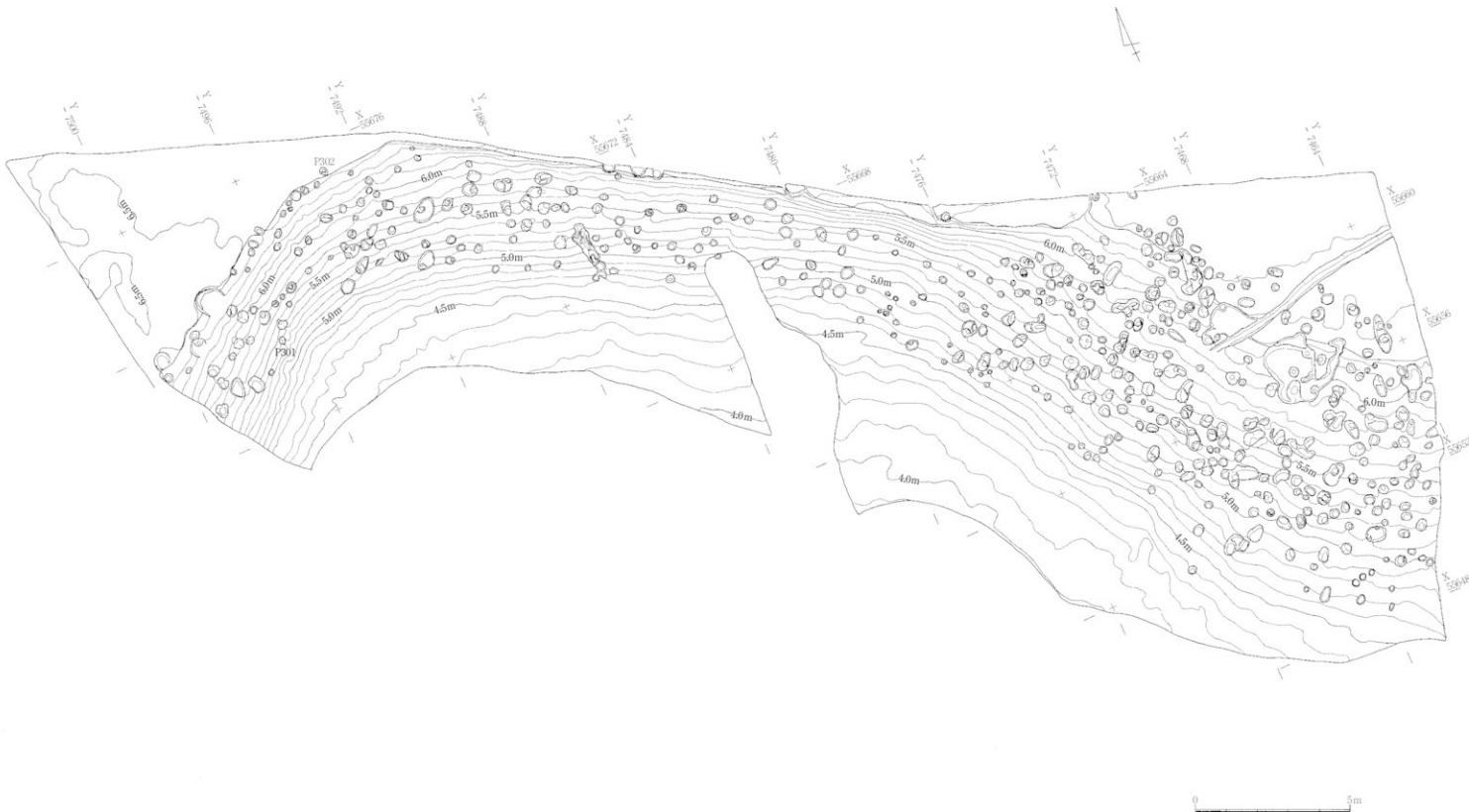


Fig.83 1C区第VII層上面検出遺構全体図 (S : 1/120)

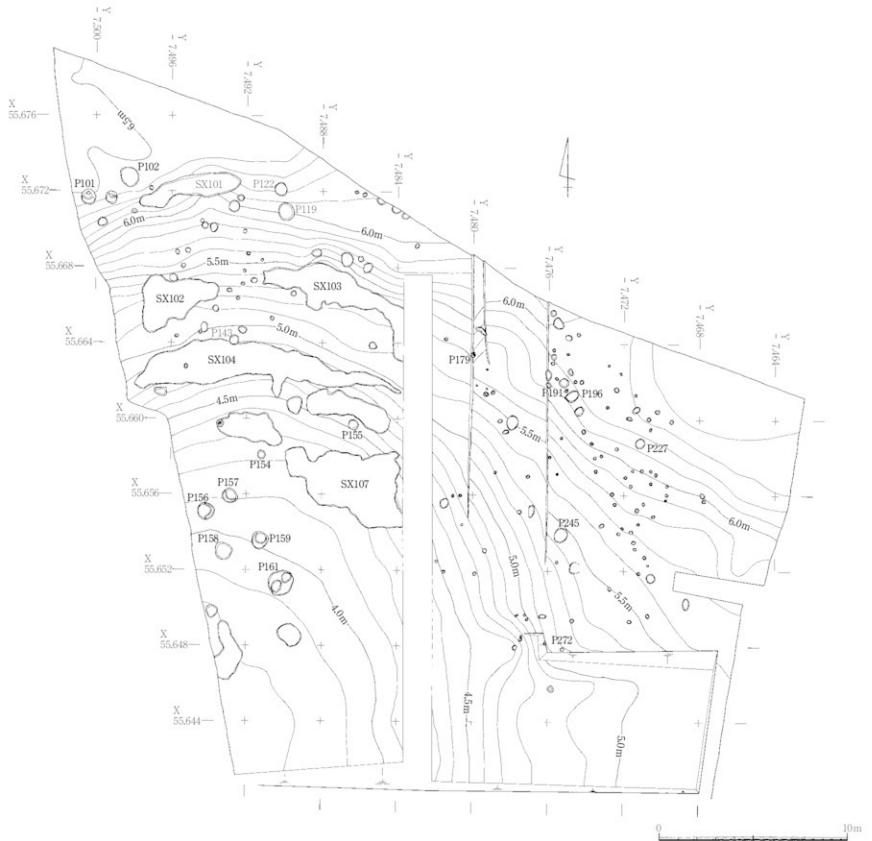


Fig.84 1C区第V層上面検出遺構全体図 (S : 1/200)

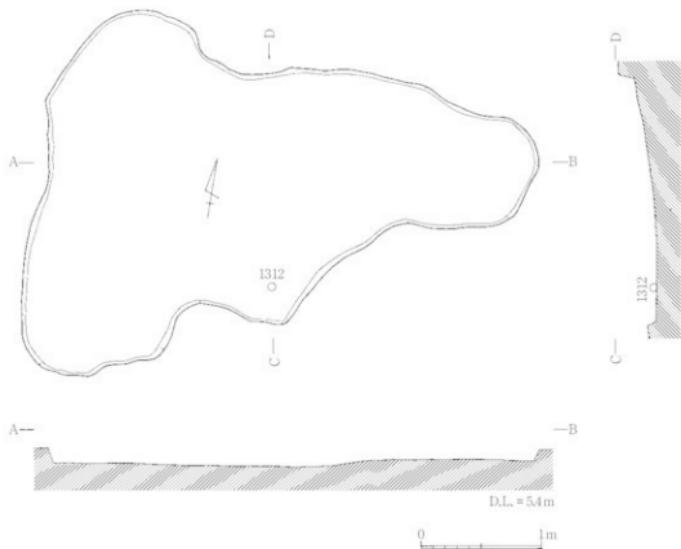


Fig.85 1C区第V層上面検出遺構1・SX102 (S : 1/40)

なお、調査範囲東端部にある溝状遺構は、第二次世界大戦当時に掘削されたとみられる暗渠の埋設坑である。

①ピット状遺構 (Fig.82)

P 301

平面形は不整形で、長径21cm、短径20cm、検出面からの深さは42cmである。埋土は、黒褐色(2.5Y.3/1)粘土～粘礫土で、第V層の破碎礫を含んでいる。遺物は、縄文土器1点が出土している。遺構は、縄文時代前期の所産と考えられる。

P 302

平面形は梢円形で、長径28cm、短径23cm、検出面からの深さは18cmである。埋土は、黒褐色(2.5Y.3/1)粘土～粘礫土で、第V層の破碎礫を含んでいる。遺物は、土器細片？1点が出土している。遺構は、縄文時代前期の所産と考えられる。

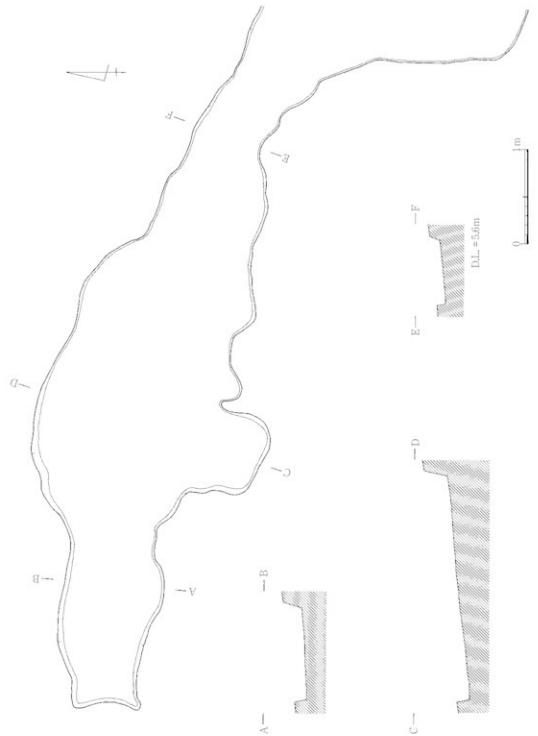


Fig.36 TC区第V層上面突出邊緣・SX103 (S : 1/40)

②第V層上面検出遺構 (Fig.84)

性格不明遺構8基，ピット状遺構175基を確認し，この中から出土遺物が得られた性格不明遺構4基，ピット状遺構18基を図示した。南西部で検出した5基のピット状遺構は，その配列や規模に相関性が認められることから，「ピット状遺構群」として一括して扱った。

③性格不明遺構

性格不明遺構として8基を確認した。これらは斜面上部にある1例を除いて，いずれも掘り込みが浅く，また長軸方向は等高線と平行を指向する場合が多いことから，本来IVD層の最下部として握り上げるべき，窪地部分であったものと考えられる。したがってこれらの出土遺物は，IVD層出土の遺物と同義に扱うことができるものである。

S X102 (Fig.85)

平面形は不整形で，長径4.52m，短径2.88m，検出面からの深さは13cmである。埋土は，灰色(7.5Y4/1)粘土で，炭化物を含む。遺物は，縄文土器，深鉢～襖形土器，弥生土器，石器等が出土しており，縄文土器1点，弥生土器1点を図示(Fig.109-1311・1312)した。遺構は，縄文時代晚期～弥生時代前期の所産と考えられる。

S X103 (Fig.86)

平面形は不整形で，全長7.78m，最大幅2.50m，検出面からの深さは25cmである。埋土は，灰色(10Y4/1)粘土である。遺物は，深鉢～襖形土器，石器？等が出土している。遺構は，縄文時代晚期～弥生時代前期の所

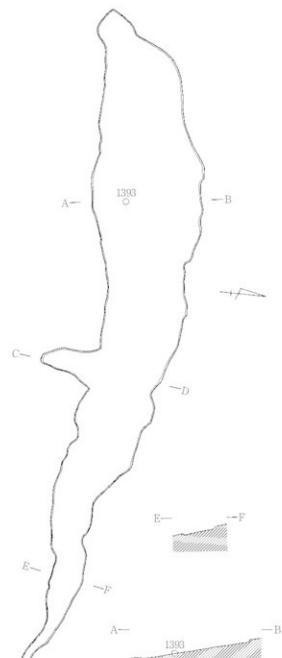


Fig.87 1C区第V層上面検出遺構3・SX104 (S : 1/80)

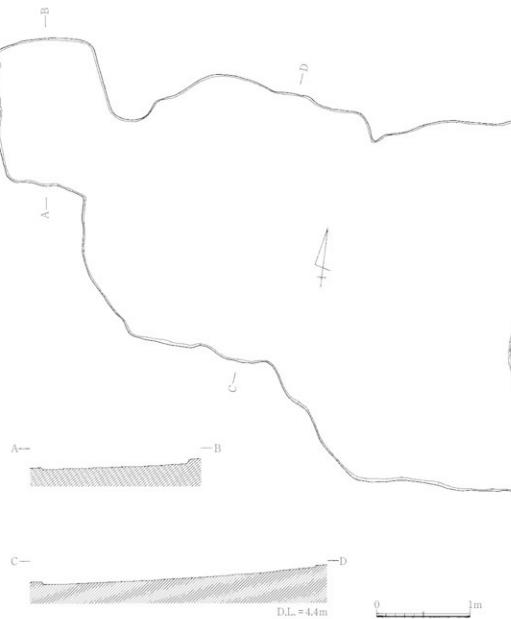
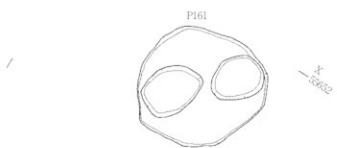
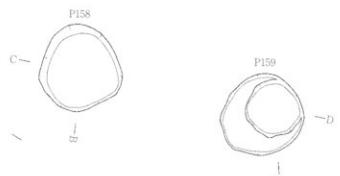
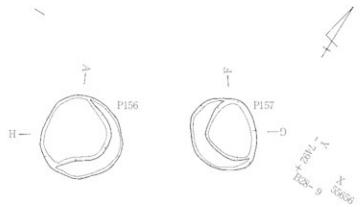


Fig.88 1C区第V層上面検出遺構4・SX107 (S : 1/40)

産と考えられる。

S X104 (Fig.87)

平面形は溝状を呈し、全長14.10m、最大幅2.60m、検出面からの深さは8cmである。埋土は、灰色（N.5/1）粘土である。遺物は、深鉢～穀形土器、石器等が出土しており、磨石1点を図示（Fig.122- 1393）した。遺構は、繩文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。



A-HはFig.90に对应
0 1m

Fig.89 1C区第V層上面検出遺構群1 (S : 1/40)

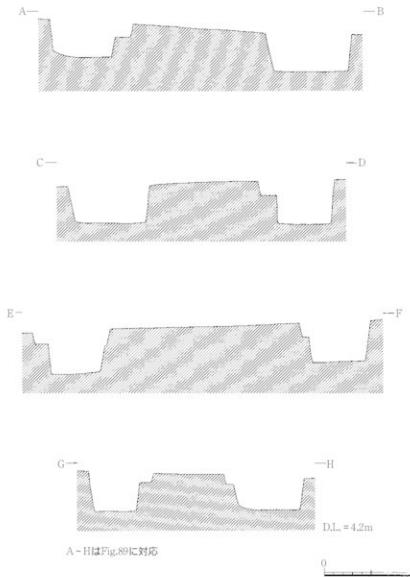


Fig.90 1C区第V層上面検出遺構群2 (S : 1/40)

S X 107 (Fig.88)

平面形は不整形で、全長7.20m、最大幅4.01m、検出面からの深さは5cmである。埋土は、灰色(N.A./0)腐植質粘土である。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢・縦形土器が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

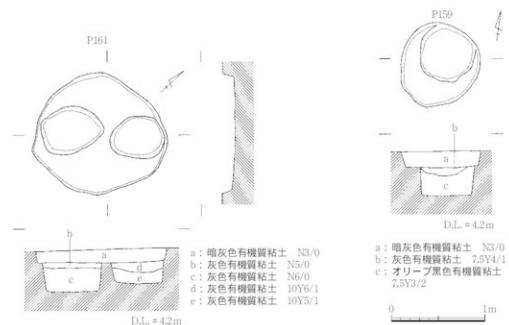
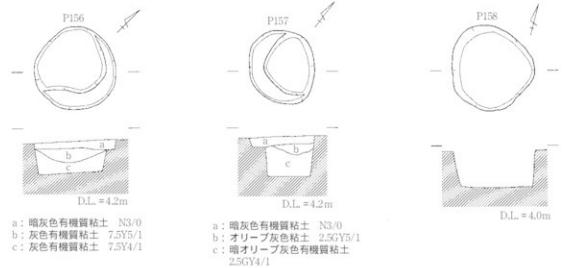


Fig.91 1C区第V層上面検出構5 (S : 1/40)

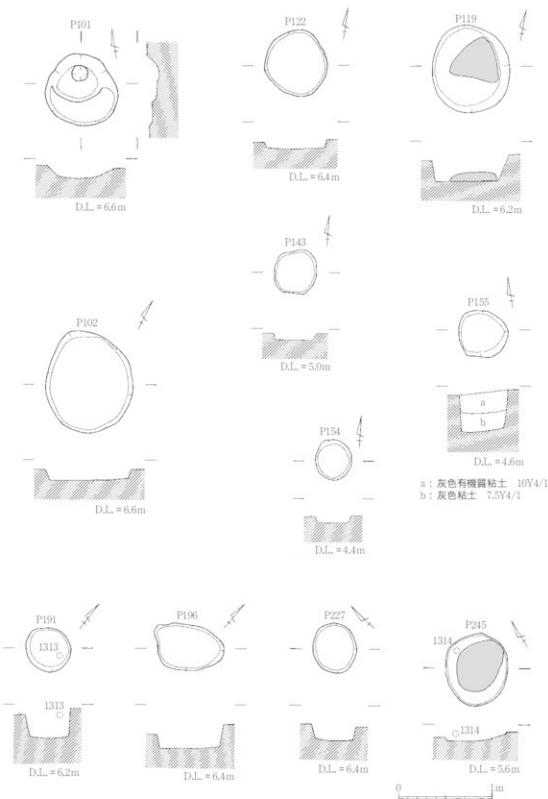


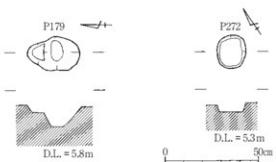
Fig.92 1C区第V層上面検出遺構6 (S : 1/40)

◎ピット状遺構群 (Fig.89・90・91)

調査区南西部において検出したP156～P159・P161の5基をピット状遺構群として抽出した。P156～P159は不整ながらも方形の配列を呈し、P161はP157・P159の並びの延長線上付近に位置する。P156～P159のうち、3基は2段の掘り込みを有しており、柱痕跡との認定は可能と思われるが、これをもって掘立柱建物跡とするには、なお検討不足と考えたため、現時点では保留した。

また、P161は柱痕跡の可能性のある2段の掘り込み2基を有している。P156～P159との位置関係から判断しても、P161は単独で存在したとは推察し難い。したがって、P156～P159との有機的な関係を想定し、遺構群に含めた。

Fig.93 1C区第V層上面検出遺構7 (S : 1/20)



P156 (Fig.89・90・91)

平面形は円形で、直径87cm、検出面からの深さは37cmで、2段の掘り込みを有する。2段目の掘り込みは、平面形が不整円形で、長径81cm、短径68cm、1段目からの深さは26cmである。埋土は、暗灰色(N.3/0)腐植質粘土である。遺物は出土しない。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P157 (Fig.89・90・91)

平面形は梢円形で、長径77cm、短径69cm、検出面からの深さは44cmで、2段の掘り込みを有する。2段目の掘り込みは、平面形が不整梢円形で、長径67cm、短径50cm、1段目からの深さは31cmである。埋土は、暗灰色(N.3/0)腐植質粘土である。遺物は、深鉢～橢形土器、堅果類等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P158 (Fig.89・90・91)

平面形は不整形で、長径91cm、短径87cm、検出面からの深さは40cmである。埋土は、暗灰色(N.3/0)腐植質粘土である。遺物は、堅果類が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P159 (Fig.89・90・91)

平面形は梢円形で、長径90cm、短径83cm、検出面からの深さは48cmで、2段の掘り込みを有する。2段目の掘り込みは、平面形がほぼ円形で、長径60cm、短径56cm、1段目からの深さは32cmである。埋土は、暗灰色(N.3/0)腐植質粘土である。遺物は、堅果類が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

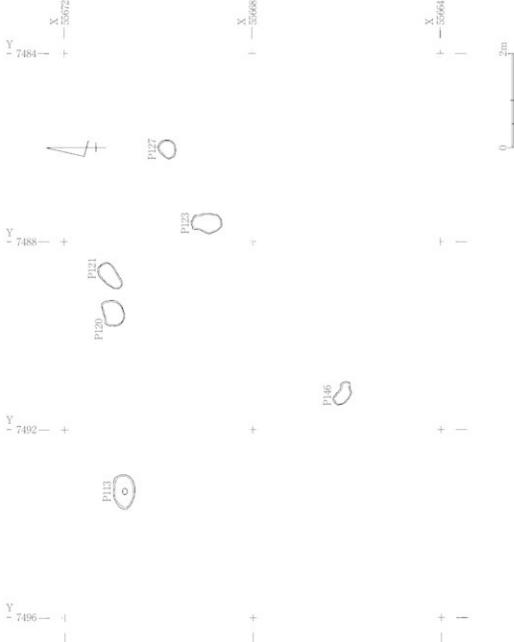


Fig.94 1C区第IV层中圈块出槽槽全图 (S : 1/80)

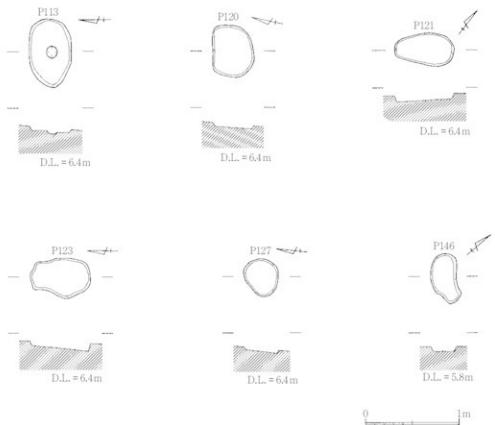


Fig.95 1C区第IV層中層検出遺構 (S : 1/40)

P 161 (Fig.89・91)

平面形は不整円形で、長径144cm、短径130cm、検出面からの深さは47cmで、2段の掘り込み2基を有する。2段目の掘り込みは、西側のものが、平面形が梢円形、長径66cm、短径50cm、1段目からの深さ31cm、東側のものが、平面形が梢円形、長径59cm、短径45cm、1段目からの深さ22cmである。埋土は、暗灰色（N.3/0）躾植質粘土である。遺物は、深鉢～橢形土器、堅果類等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

③ピット状遺構 (Fig.92・93)

P 101 (Fig.92)

平面形は円形で、長径77cm、短径76cm、検出面からの深さは13cmで、2段の掘り込みを有する。2段目の掘り込みは、平面形が梢円形で、長径52cm、短径42cm、1段目からの深さは7cmで、さらに床面北端部が1段凹む。埋土は、暗灰黄色（2.5Y.4/2）粘質土で、黄色礫、炭化物を含む。遺物は、縄文土器、深鉢～橢形土器等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

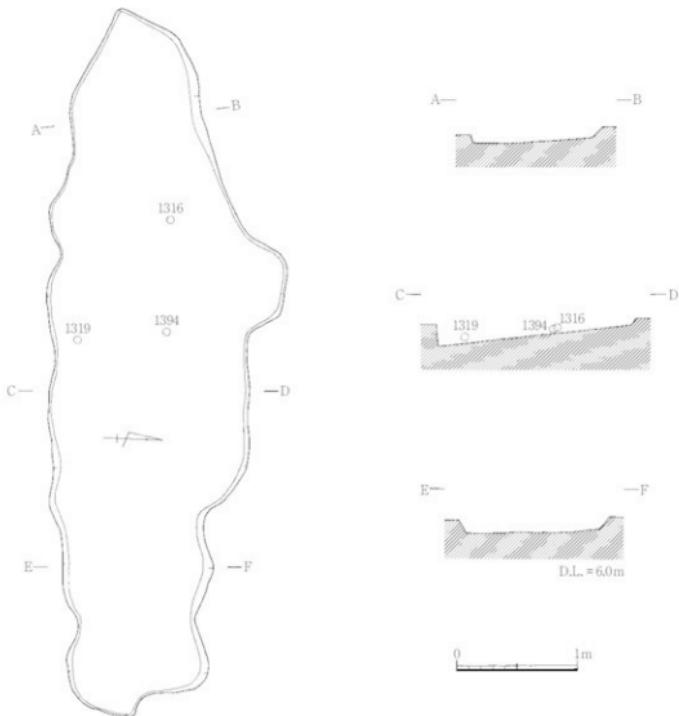


Fig.96 1C区第IV層上面検出遺構1・SX1 (S : 1/40)

P 102 (Fig.92)

平面形は橢円形で、長径109cm、短径93cm、検出面からの深さは12cmである。埋土は、暗灰黄色(2.5Y.4/2)粘質土で、黄色礫、炭化物を含む。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 119 (Fig.92)

平面形は橢円形で、長径93cm、短径82cm、検出面からの深さは29cmである。埋土は、灰黄褐色(10YR.4/2)粘質土である。床面付近に炭化物の堆積が認められた。遺物は、縄文土器、深鉢～甕形土器等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

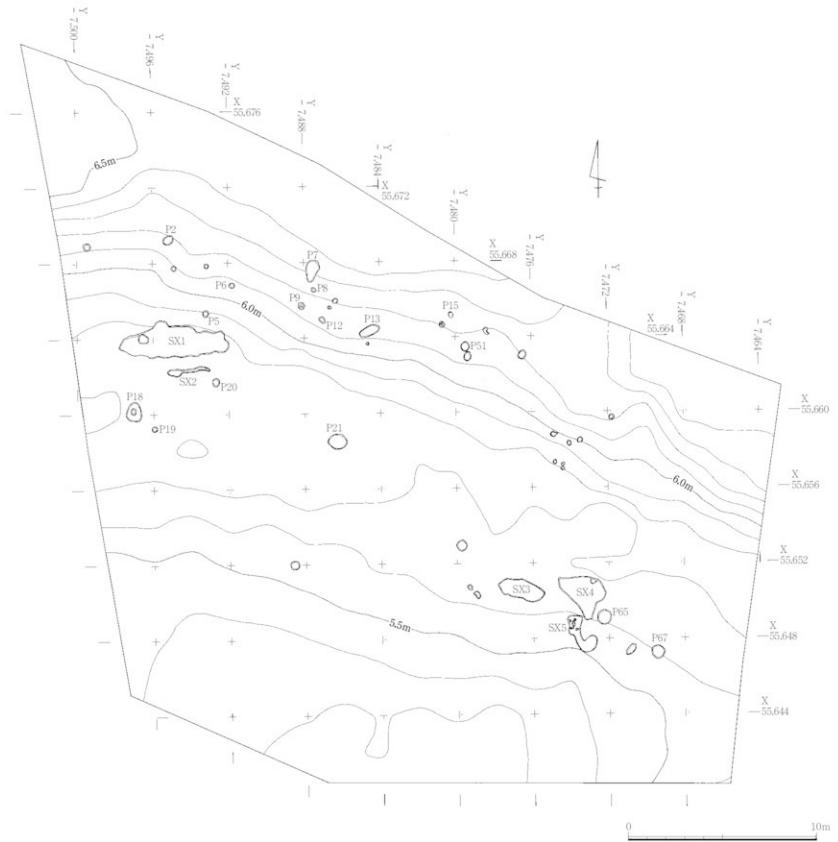


Fig.97 1C区第IV層上面検出遺構全体図 (S : 1/200)

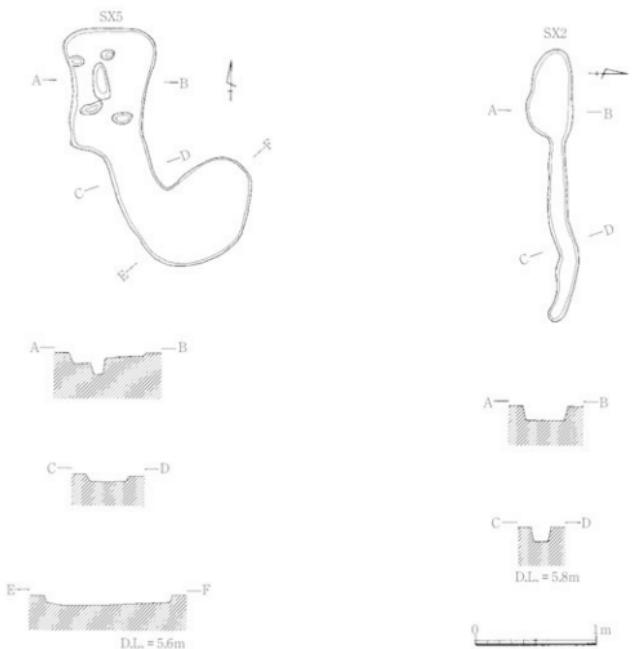


Fig.98 1C区第IV層上面検出遺構2 (S : 1/40)

P 122 (Fig.92)

平面形は円形で、長径71cm、短径66cm、検出面からの深さは10cmである。埋土は、灰黄褐色(10YR4/2)粘質土である。遺物は、縄文土器、深鉢～甕形土器等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 143 (Fig.92)

平面形は不整形円形で、長径47cm、短径45cm、検出面からの深さは7cmである。埋土は、灰色(7.5Y4/1)粘土で、炭化物を含む。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

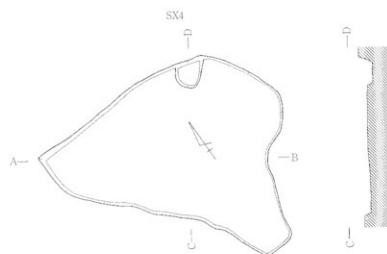
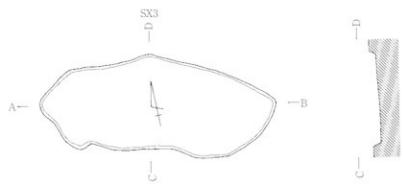


Fig.99 1C区第IV層上面検出遺構3 (S : 1/40)

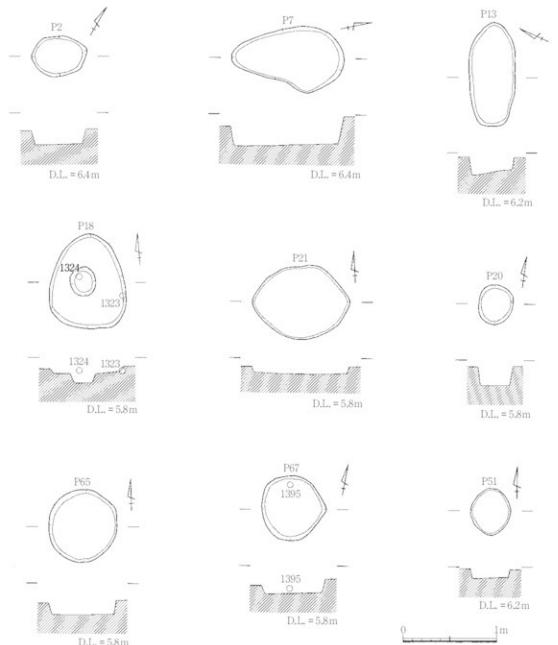


Fig.100 1C区第IV層上面検出遺構4 (S : 1/40)

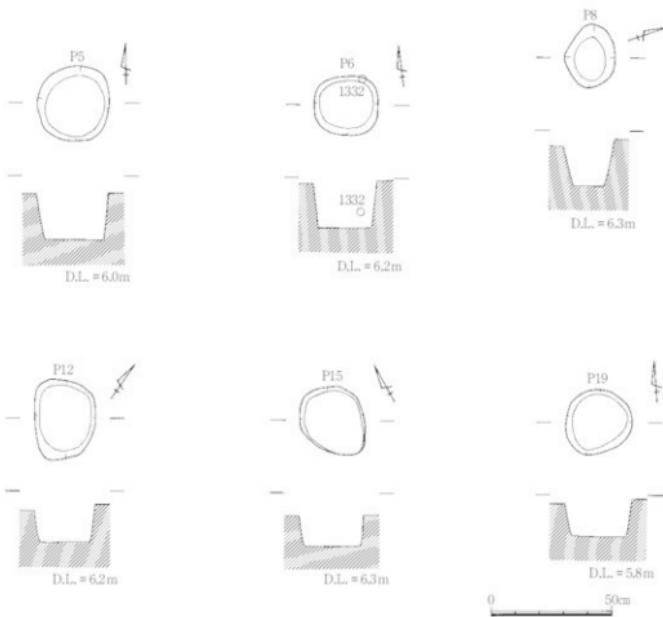


Fig.101 1C区第IV層上面検出遺構5 (S : 1/20)

P 154 (Fig.92)

平面形は橢円形で、長径44cm、短径38cm、検出面からの深さは7cmである。埋土は、灰色(7.5Y.4/0)粘土である。遺物は、深鉢・甕形土器、堅果類等が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 155 (Fig.92)

平面形は不整形で、長径52cm、短径50cm、検出面からの深さは45cmである。埋土は、灰色(10Y.4/1)腐植質粘土である。遺物は、堅果類が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 179 (Fig.93)

平面形は橢円形で、長径28cm、短径18cm、検出面からの深さは11.5cmで、底部北側に1段を形成

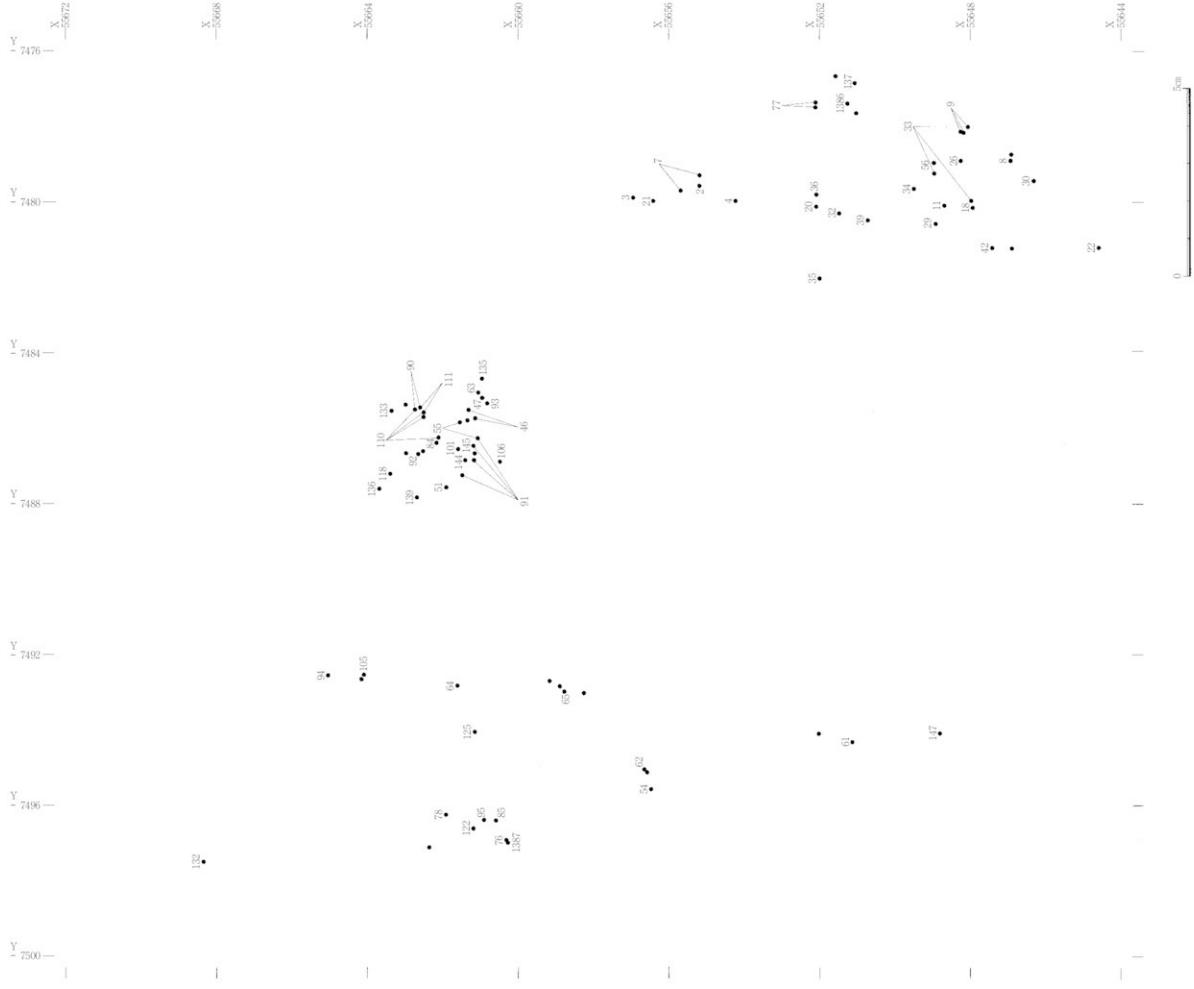


Fig.102 1C区IVD层出土土器分布图1 (S : 1/100)

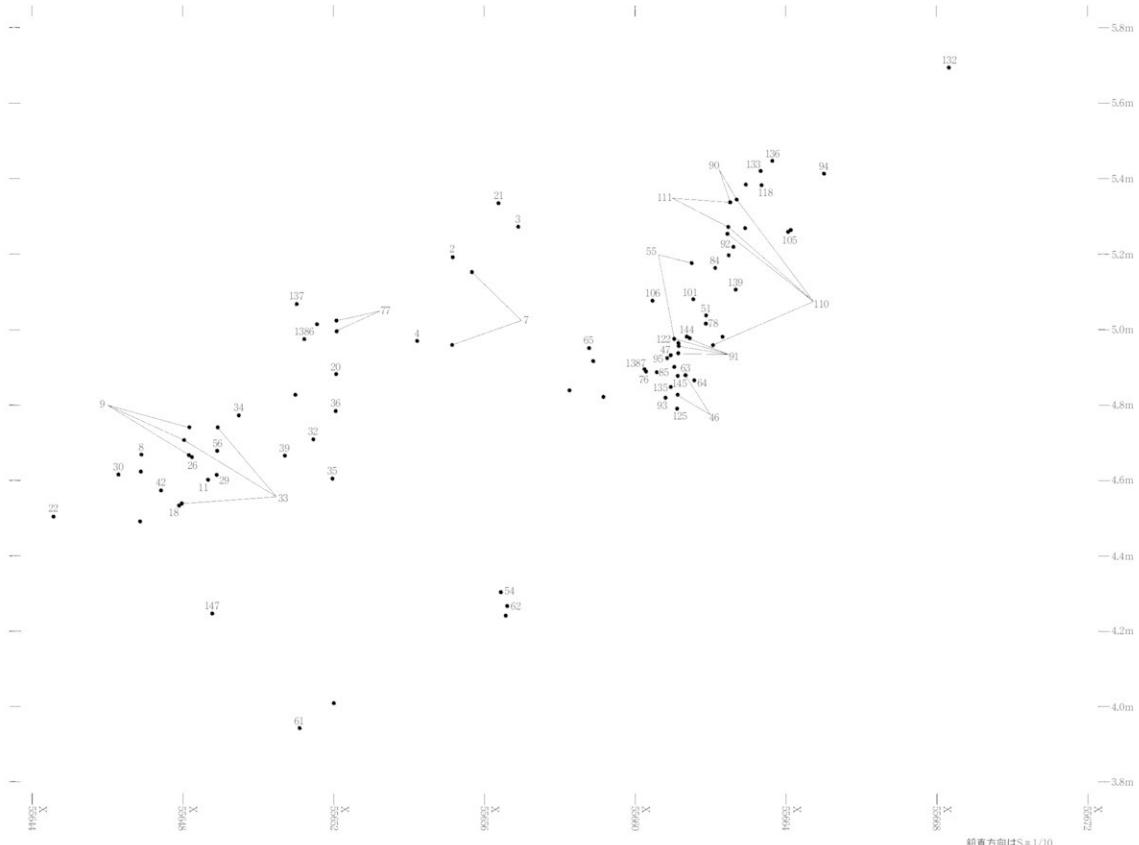


Fig.103 1C区IV層出土土器分布図2 (S : 1/100)

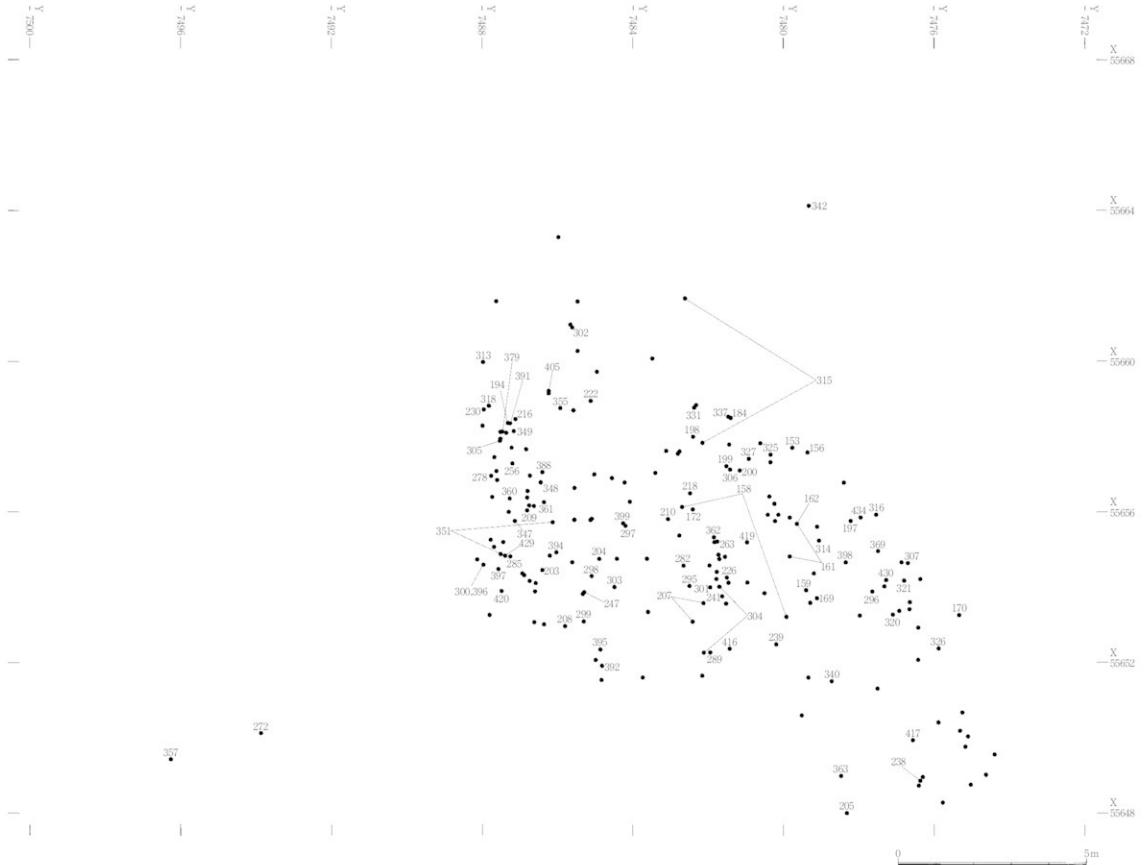
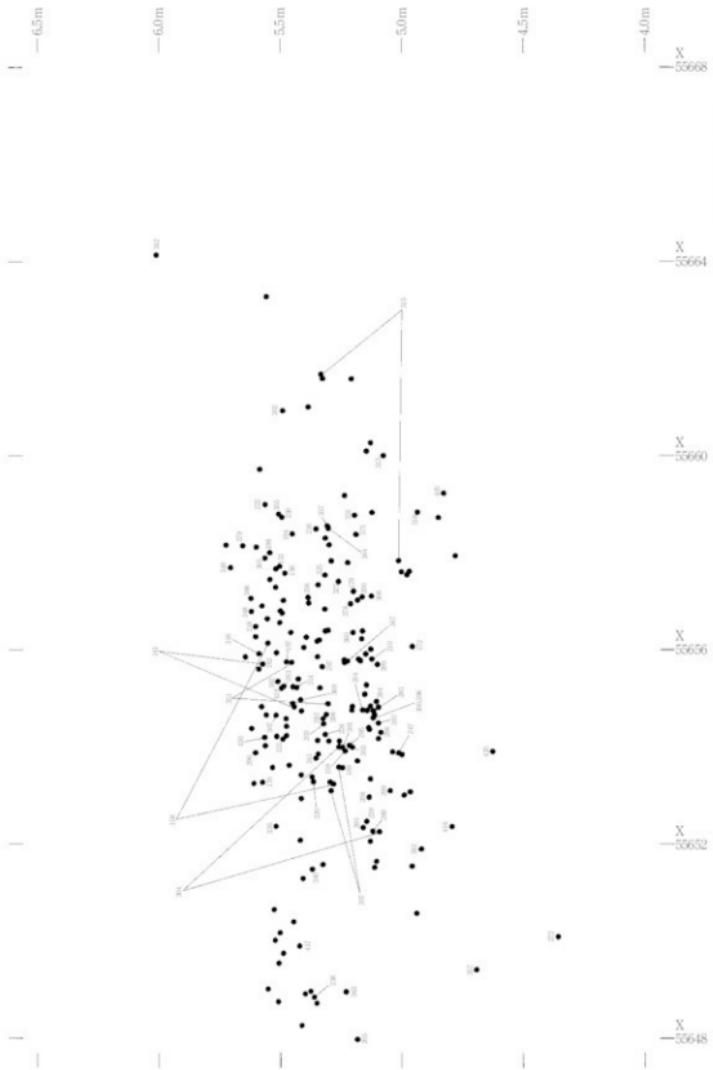


Fig.104 1C区IVB層出土土器分布図 (S : 1/100)

绘图方向± $\Delta z = 1/20$

Fig.105 1C区IVB层出土器分布图2 (S : 1/100)



する。埋土は、灰色（10Y.4/1）粘土である。遺物は、深鉢～甕形土器の細片が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 191 (Fig.92)

平面形は円形で、長径48cm、短径47cm、検出面からの深さは32cmである。埋土は、灰色（5Y.4/1）粘土である。遺物は、縄文土器、深鉢～甕形土器、弥生土器等が出土しており、縄文土器1点を図示（Fig.109- 1313）した。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 196 (Fig.92)

平面形は不整梢円形で、長径70cm、短径49cm、検出面からの深さは26cmである。埋土は、灰色（5Y.4/1）粘土である。遺物は、突堤文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 227 (Fig.92)

平面形は梢円形で、長径53cm、短径47cm、検出面からの深さは18cmである。埋土は、灰色（7.5Y.5/1）粘土である。遺物は、サヌカイト剥片1点が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 245 (Fig.92)

平面形は梢円形で、長径78cm、短径66cm、検出面からの深さは9cmである。埋土は、暗灰色（N.3/0）粘土で、炭化物を含む。遺物は、突堤文土器が出土しており、1点を図示（Fig.109- 1314）した。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

P 272 (Fig.93)

平面形は隅丸方形で、長径17.5cm、短径15cm、検出面からの深さは5cmである。埋土は、暗灰色（N.3/0）粘土で、炭化物を含む。遺物は、弥生土器が出土している。遺構は、縄文時代晩期～弥生時代前期の所産と考えられる。

(3) 第IV層中層検出遺構 (Fig.94)

第IV層群の掘削途上において、焼土跡とみられるピット状遺構6基を検出し、全てを図示した。

①ピット状遺構 (Fig.95)

P 113 (Fig.95)

平面形は梢円形で、長径73cm、短径44cm、検出面からの深さは9cmである。床面中央部はわずかに凹む。埋土は、明黄褐色（10YR.6/8）粘土である。遺物は、縄文土器が出土している。

P 120 (Fig.95)

平面形は不整形で、長径55cm、短径44cm、検出面からの深さは7cmである。埋土は、明黄褐色（10YR.6/8）粘土である。遺物は出土しない。

P 121 (Fig.95)

平面形は不整橢円形で、長径63cm、短径35cm、検出面からの深さは9cmである。埋土は、明黄褐色（10YR.6/8）粘土である。遺物は出土しない。

P 123 (Fig.95)

平面形は不整形で、長径64cm、短径43cm、検出面からの深さは11cmである。埋土は、明黄褐色（10YR.6/8）粘土である。遺物は、弥生土器が出土している。

P 127 (Fig.95)

平面形は不整円形で、長径40cm、短径37cm、検出面からの深さは7cmである。埋土は、明黄褐色（10YR.6/8）粘土である。遺物は出土しない。

P 146 (Fig.95)

平面形は不整形で、長径54cm、短径27cm、検出面からの深さは5cmである。埋土は、明黄褐色（10YR.6/8）粘土である。遺物は、縄文土器1点が出土している。

(4)第IV層上面検出遺構 (Fig.97)

性格不明遺構5基、ピット状遺構39基を確認し、この中から出土遺物が得られた性格不明遺構5基、ピット状遺構15基を図示した。

◎性格不明遺構

S X 1 (Fig.96)

平面形は溝状を呈し、全長5.84m、最大幅1.96m、検出面からの深さは23cmである。埋土は、灰色（10Y.5/1）粘土で、炭化物を含む。遺物は、縄文土器、突帯文土器、弥生土器、石器等が出土しており、縄文土器1点、突帯文土器4点、弥生土器1点、打製石斧1点を図示（Fig.110-1315-1320, Fig.123-1394）した。

S X 2 (Fig.98)

平面形は不整の溝状を呈し、全長2.25m、最大幅0.38m、検出面からの深さは12cmである。埋土は、灰色（5Y.5/1）粘質土で、炭化物を含む。遺物は、突帯文土器、弥生土器、サヌカイト剥片等が出土しており、突帯文土器1点を図示（Fig.110-1321）した。

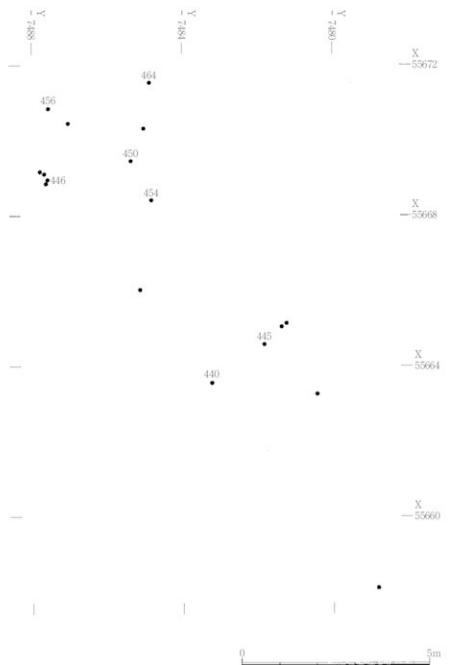


Fig.106 1C区IVA層出土土器分布図1 (S : 1/100)

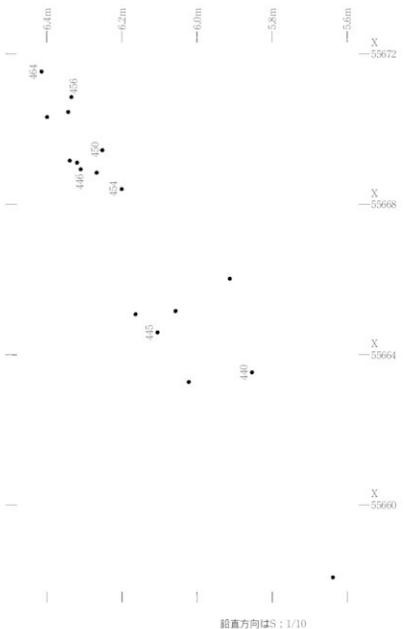


Fig.107 1C区IVA層出土土器分布図2 (S : 1/100)

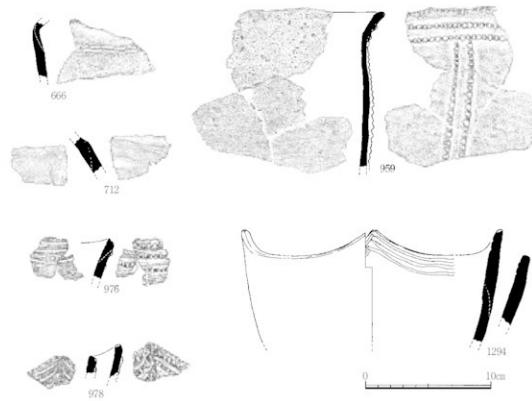


Fig.108 1C区出土土器1 (S : 1/3)

S X 3 (Fig.99)

平面形は不整橢円形で、長径2.51m、短径1.01m、検出面からの深さは11cmである。埋土は、灰色（N.4/1）粘土で、植物遺体を含む。遺物は、深鉢～橢形土器、弥生土器等が出土している。

S X 4 (Fig.99)

平面形は不整三角形で、長径2.81m、短径1.74m、検出面からの深さは15cmで、北東部にビット状の掘り込み1を有する。ビット状掘り込みは、平面形が不整形で、長径28cm、短径27cm、1段目からの深さは5cmである。埋土は、灰色（5Y.5/1）粘土である。遺物は、縄文土器、深鉢～橢形土器等が出土している。

S X 5 (Fig.98)

平面形は不整形で、長径2.19m、短径1.05m、検出面からの深さは18cmである。床面には小ビット5基がある。埋土は、灰色（N.4/1）粘土で、植物遺体を含む。遺物は、縄文土器、深鉢～橢形土器等が出土している。

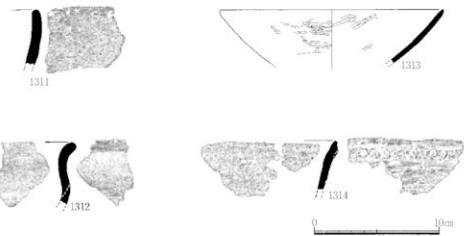


Fig.109 1C区出土土器2 (S : 1/3)

②ピット状造構 (Fig.100・101)

P 2 (Fig.100)

平面形は楕円形で、長径59cm、短径43cm、検出面からの深さは17cmである。埋土は、暗褐色(7.5YR.3/3)粘質土である。遺物は、深鉢-壺形土器、石器?等が出土している。

P 5 (Fig.101)

平面形は円形で、長径31cm、短径30cm、検出面からの深さは19.5cmである。埋土は、暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土である。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢-壺形土器が出土している。

P 6 (Fig.101)

平面形は隅丸方形で、長径26cm、短径24cm、検出面からの深さは20cmである。埋土は、にぶい黄橙色(10YR.6/3)粘質土で、炭化物を含む。遺物は、チャート剥片1点が出土している。

P 7 (Fig.100)

平面形は不整楕円形で、長径119cm、短径71cm、検出面からの深さは32cmである。埋土は、褐灰色(10YR.6/1)粘質土である。遺物は、深鉢-壺形土器、弥生土器等が出土している。

P 8 (Fig.101)

平面形は不整楕円形で、長径26cm、短径21cm、検出面からの深さは20cmである。埋土は、褐灰色(10YR.6/1)粘質土である。遺物は、弥生土器が出土している。

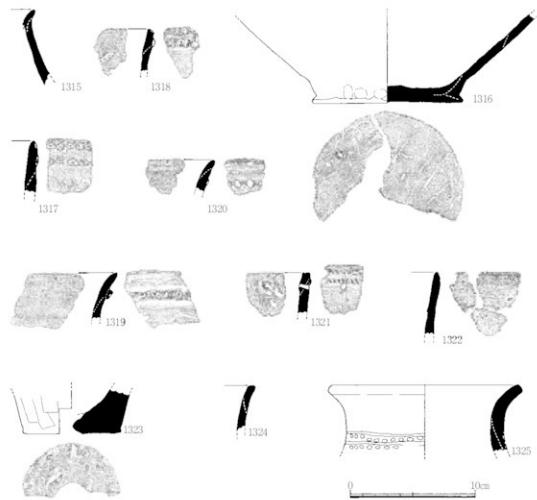


Fig.110 1C区出土土器3 (S : 1/3)

P 12 (Fig.101)

平面形は不整形で、長径33cm、短径25cm、検出面からの深さは15.5cmである。埋土は、褐灰色(10YR.6/1)粘質土である。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。

P 13 (Fig.100)

平面形は長楕円形で、長径110cm、短径48cm、検出面からの深さは19cmである。埋土は、褐灰色(10YR.6/1)粘質土である。遺物は、弥生土器が出土している。

P 15 (Fig.101)

平面形は橢円形で、長径32cm、短径26cm、検出面からの深さは13cmである。埋土は、褐灰色(10YR.6/1)粘質土である。遺物は、深鉢～甕形土器の細片が出土している。

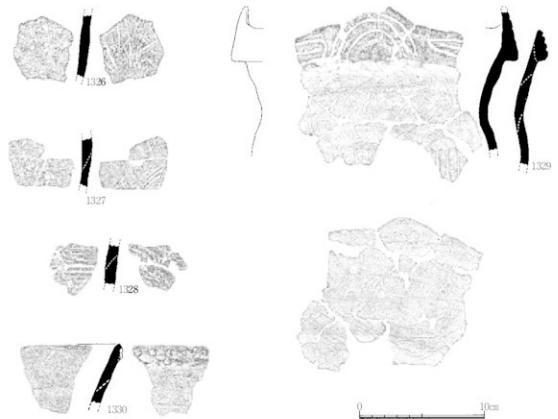


Fig.111 1C区出土土器4 (S : 1/3)

P 18 (Fig.100)

平面形は不整円形で、長径100cm、短径82cm、検出面からの深さは18cmで、2段の掘り込みを有する。2段目の掘り込みは、平面形が楕円形で、長径31cm、短径26cm、1段目からの深さは10cmである。埋土は、灰色(10Y.5/1)粘土で、炭化物を含む。遺物は、深鉢～甕形土器、弥生土器、サヌカイト碎片等が出土しており、弥生土器2点を図示(Fig.110-1323～1324)した。

P 19 (Fig.101)

平面形は不整円形で、長径28cm、短径26cm、検出面からの深さは15.5cmである。埋土は、オリーブ灰色(2.5GY.6/1)粘土である。遺物は、弥生土器が出土している。

P 20 (Fig.100)

平面形は楕円形で、長径42cm、短径37cm、検出面からの深さは21cmである。埋土は、灰色(5Y.5/1)粘質土で、炭化物を含む。遺物は、突帯文土器に伴うとみられる深鉢～甕形土器が出土している。

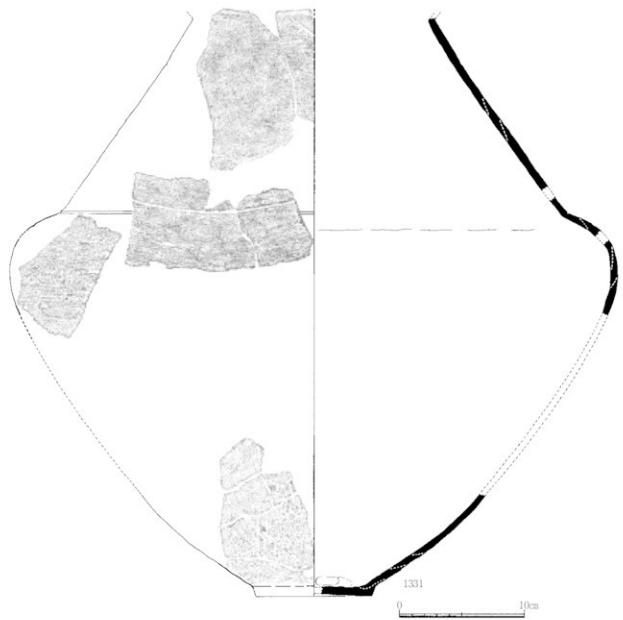


Fig.112 1C区出土土器5 (S : 1/3)

P 21 (Fig.100)

平面形は不整橢円形で、長径103cm、短径77cm、検出面からの深さは8cmである。埋土は、青灰色(5PB.5/1)粘土である。遺物は、弥生土器が出土しており、1点を図示(Fig.110-1325)した。

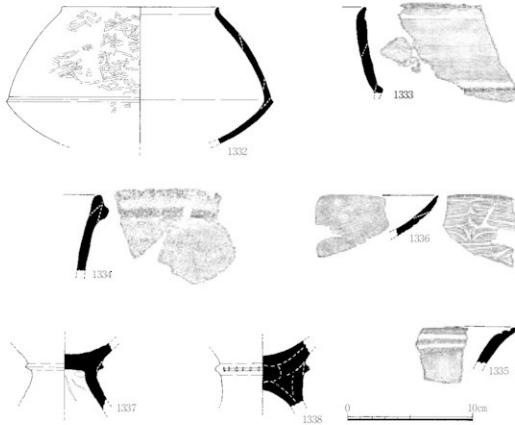


Fig.113 1C区出土土器6 (S : 1/3)

P51 (Fig.100)

平面形は橢円形で、長径49cm、短径42cm、検出面からの深さは10cmである。埋土は、灰色(5Y.6/1)粘土である。遺物は、突帶文土器に伴うとみられる深鉢～橢形土器が出土している。

P65 (Fig.100)

平面形は円形で、長径77cm、短径72cm、検出面からの深さは16cmである。埋土は、暗灰色(N.3/0)粘土で、炭化物を多く含む。遺物は、縄文土器、深鉢～橢形土器の細片等が出土している。

P67 (Fig.100)

平面形は不整形で、長径69cm、短径68cm、検出面からの深さは16cmである。埋土は、暗灰色(N.3/0)粘土で、炭化物を多く含む。遺物は、深鉢～橢形土器、石器等が出土しており、両刃磨製石斧1点を図示 (Fig.123-1395) した。

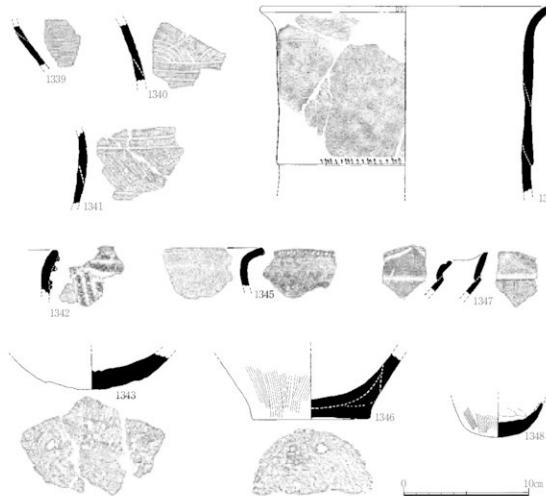


Fig.114 1C区出土器7 (S : 1/3)

4. 遺物

1C区出土遺物は、土器、土製品、石器、木製品、獸骨類、貝類、堅果類、円礫等から構成される。本編では、土器81点（再掲分を含む）、土製品7点、石器31点、木製品10点を図示し、木製品1点の写真図版を掲載した。

(1) 土器

第IV層群出土土器（訂正・修整分）6点、遺構出土土器15点、包含層出土土器57点、表採土器3点を図示した。

また、既報分も含めた、第IV層群中の各層における出土土器の分布図を、Fig.102～107・付図8⁷¹として示した。

① 第IV層群出土土器（訂正・修整のため再掲）(Fig.108)

第IV層群出土の土器については既報したが、報告後にその不備が判明し、訂正の必要がある資



Fig.115 1C区出土土器8 (S : 1/3)



Fig.116 1C区出土土器9 (S : 1/3)

料4点について再度掲載した。また、III層出土土器との接合³⁾によって法量が拡大し、同じく再提示が必要な2点を併せて示した。

666はIV層出土の弥生土器・壺・頸～胴部片で、外面に短沈線状の刺突文2段を施す。

712はIV層出土の弥生土器・壺・頸～胴部片で、接合部外面に段1を形成する。

976はIV層出土の突帯文土器³⁾・口縁部片で、波状口縁を呈する。外面に刻目突帯2条を貼付し、口縁端部に刻目を施す。外面に沈線2条+1条、斜位の沈線2条を描き、内面にも沈線4条を描く。

978はIV層出土の突帯文土器・口縁部片で、波状口縁を呈する。外面に刻目突帯2条を貼付し、口縁部外端に刻目を施す。内面に沈線3条+2条を描き、波頂部の端部内端に刻目1を施す。

959はIV層出土の突帯文土器・口縁～胴部片で、特殊胎土土器³⁾である。口縁部外面に刻目突帯2条を貼付し、さらにもそこから垂下する縦位の刻目突帯2条を貼付する。口縁端部外端側に刻目を施す。IV層とIII層の出土土器片が接合。

1294はIV層出土の弥生土器・鉢・口縁～胴部片である。波状口縁を呈し、波頂部は4箇所と考えられる。内面には、波状口縁のカーブに平行する沈線3条を描き、波頂部では一旦途切れる。波頂部端面に刻目1を施す。IV層とIII層の出土土器片が接合。

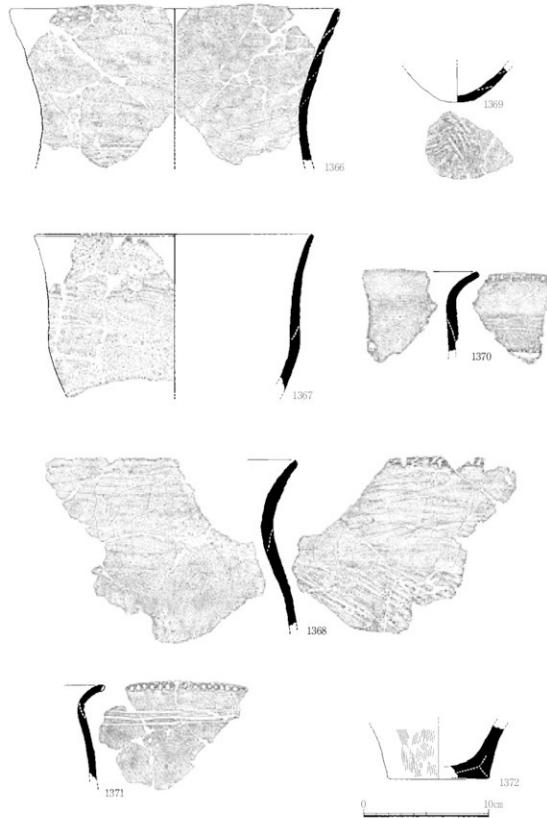


Fig.117 1C区出土土器10 (S : 1/3)

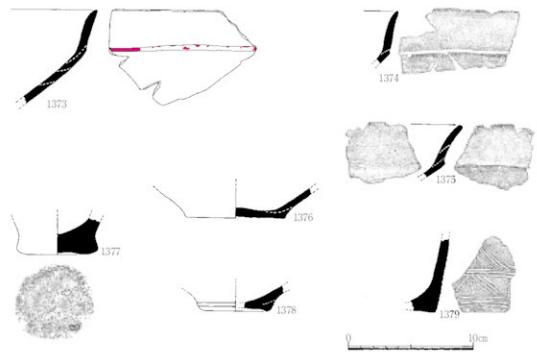


Fig.118 1C区出土土器11 (S : 1/3)

②遺構出土土器 (Fig.109・110)

S X 102出土土器 2点 , P 191出土土器 1点 , P 245出土土器 1点 , S X 1出土土器 6点 , S X 2出土土器 1点 , P 9出土土器 1点 , P 18出土土器 2点 , P 21出土土器 1点を図示した。

S X 102出土土器 (Fig.109- 1311・1312)

1311は縄文土器・鉢のものと考えられる口縁部片である。1312は弥生土器・鉢・口縁～胴部片で, 内外面にミガキ調整が認められる。

P 191出土土器 (Fig.109- 1313)

1313は縄文土器・浅鉢・口縁～胴部片で, 内面に赤彩を施す。

P 245出土土器 (Fig.109- 1314)

1314は突帯文土器・口縁部片で, 外面に突帯1条を貼付し, 竹管状工具による刺突を加える。

S X 1出土土器 (Fig.110- 1315～1320)

1315は縄文土器・壺・口縁～頸部片である。

1316は弥生土器・壺・底部片である。外面及び底面に赤彩を施し, 底面には条線状・粒状の圧痕が認められる。

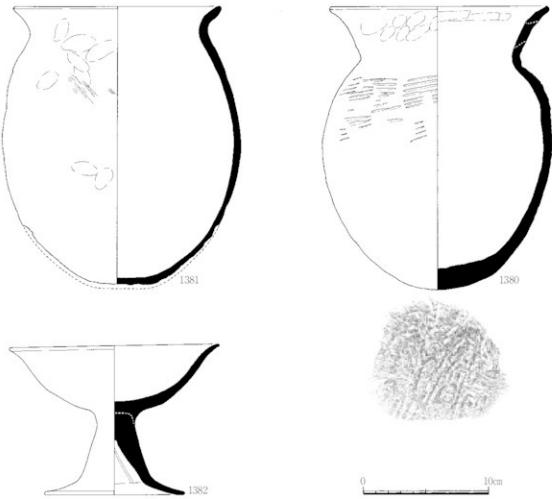


Fig.119 1C区出土土器12 (S : 1/3)

1317~1320は突帯文土器・口縁部で、いずれも1条の刻目突帯を貼付する。1317は端部外面と突帯部に竹管状工具による刺突文を施す。1318は口縁端面に刻目を施す。1318は波状口縁の可能性がある。1319の刻目は刺突状を呈する。

S X 2 出土土器 (Fig.110-1321)

1321は突帯文土器・口縁部で、外面に刻目突帯1条を貼付する。端部外端に刻目を施し、突帯下位には外面からの焼成前穿孔1が認められる。波状口縁の可能性がある。

P 9 出土土器 (Fig.110-1322)

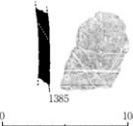
1322は深鉢～襖形土器³⁰・口縁部で、突帯文土器に伴うものと考えられる。



P 18出土土器 (Fig.110- 1323・1324)
1323は弥生土器・甕・底部片である。1324は
弥生土器・鉢・口縁部片である。



P 21出土土器 (Fig.110- 1325)
1325は弥生土器・壺・口縁～頸部片である。
外面に沈線2～3条を描き、沈線間に刺突文を
施す。



③包含層出土土器
VII層出土土器4点、VI層出土土器1点、III C
層出土土器8点、III B層出土土器9点、III A層
出土土器1点、III層出土土器34点を図示した。

Fig.120 1C区出土土器13 (S : 1/3)

VII層出土土器 (Fig.111- 1326～1329)

1326～1328は縄文土器・深鉢・胴部片で、外面に条痕調整が認められる。1326・1327は同一個体の可能性がある。1328は内外面に条痕調整が認められる。1326～1328は縄文時代前期の土器と考えられる。

1329は縄文土器・深鉢・口縁～胴部片で、口縁部は波状口縁を呈する。口縁部外面には3条沈線によって施す。波頂部には3条の重弧文状モチーフを置き、波頂部間には最上位沈線と最下位沈線が閉塞して中位の沈線を囲い込む、長方形状の区画文を配置するものと考えられる。胴部外面には縦位の沈線を等間隔的に描く。1329は縄文時代後期の縁帶文土器で、北白川上層式³³に分類されるものと考えられる。

VI層出土土器 (Fig.111- 1330)

1330は突帯文土器・口縁部片である。外面に刻目突帯1条を貼付し、突帯直下部にも刻目を施す。外面の突帯下方には斜位の爪形文？が認められる。

III C層出土土器 (Fig.112- 1331～1338)

1331～1333は縄文土器・壺である。1331は、同一地点出土の同一個体とみられる土器片を、図上で復元したものである。外面の頸～胴部境には沈線1条を描く。1332は無頸壺で、底部を久く。接合部の外面には沈線1条を描き、一部擬口縁が露出している。1333は口縁～胴部片で、口縁直下外面に沈線1条を描き、接合部に段1を形成する。

1334は突帯文土器・口縁～胴部片で、外面に無刻目の突帯1条を貼付する。

1335・1336は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。1335は口縁部内面に沈線2条を描き、波状口

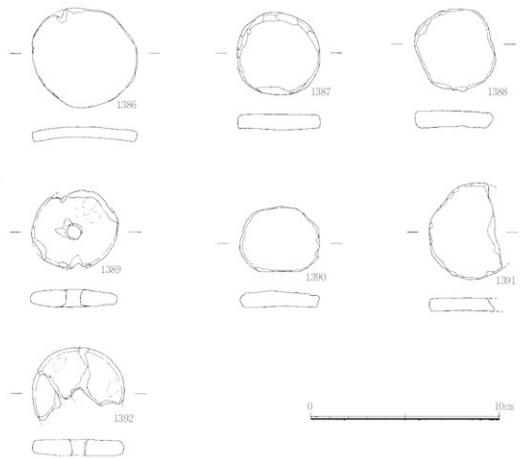


Fig.121 1C区出土土製品 (S : 1/2)

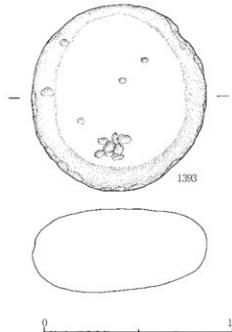
縁の可能性がある。1336は、外面に櫛原式文様ないしは工字文状の意匠による沈線文を描く。

1337・1338は弥生土器・高杯・脚部片で、いずれも坏部と脚部との境界部に突帯1条を貼付する。1337は、肉薄の坏底部に中空の脚部を組み合わせたような形態を呈する。1338は突帯に刻目を施し、複雑な接合によって肉厚の坏底部を形成している。

III B層出土土器 (Fig.114- 1339 ~ 1347)

1339～1341は弥生土器・壺である。1339は頸～胴部片で、外面に平行沈線12条、縦位沈線5条(以上?)を描く。1340は胴部片で、外面に平行沈線3条、4条の重弧文を描く。1341は胴部片で、外面に平行沈線3条+1条、斜位沈線6条を描く。

1342は突帯文土器・口縁部片である。波状口縁の可能性があり、外面に刻目突帯2条、及び斜位の刻目突帯3条を貼付する。



1343は深鉢～甕形土器・底部片で、底外面に粒状の圧痕が認められる。

1344～1346は弥生土器・甕である。1344は口縁～胴部片で、接合部外面に段1を形成し、刻目を加える。また、端部外端側に2個の刻目を施す。1345は口縁部片で、外面に竹管状工具による刺突文3～4段を施し、端面に刻目を施す。1346は底部片で、底面に粒状の圧痕が認められる。

1347は繩文土器・浅鉢・口縁部片である。波状口縁を呈し、波頂部端面に刻目を施す。接合部外面に段1を形成し、段部内面に沈線1条を描く。口縁部内面には波状口縁に平行する沈線1条を描き、波頂部では途切れる。

Fig.122 1C区出土石器1 (S : 1/2)

III A層出土土器 (Fig.114-1348)

1348は土師器・壺・底部片である。古墳時代以降の所産と考えられる。

III層出土土器 (Fig.115～119)

1349は繩文土器・壺・口縁～頸部片である。外面のミガキ調整は暗文状を呈し、土器片の下端には擬口縁が露出している。

1350～1359は弥生土器・壺である。1350は口縁～頸部片で、内外面及び口縁端面に赤彩を施す。1351は口縁～頸部片で、外面にタール状の付着物がみられる。1352～1354は頸～胴部片である。1352は外面に沈線1条、竹管状工具による刺突文2段を施し、外面の接合部に沈線状の段1を形成する。1353は、外面に沈線2条、縦位沈線3条、3条の複線山形文を施文する。1354は甕の可能性がある。1355～1357は胴部片である。1355は、外面に沈線6条及び3条の重弧文を描く。1356は、外面に多条の沈線による文様を描く。上端には斜位の沈線3条（複線山形文？）、その下には3条の平行沈線と斜位短沈線による綾文文、さらに下には縦位沈線2条の区画内に7条の無軸木葉文を施文する。1357は外面に「C」字状の貼付文を施す。1358は底部片で、外面には赤彩を施し、底面には粒状の圧痕1が認められる。1359は底部片で、外面に赤彩を施す。

1360～1365は突窓土器である。1360は口縁～胴部片で、外面に刻目突窓1条を貼付し、胴部屈曲部外面に沈線状の段1を形成する。端部外端には刻目を施す。1361は口縁～胴部片で、外面に刻目突窓1条を貼付し、胴部外面に沈線1条を描く。1360・1361は、ともに丁寧なナデ調整で仕上げられており、精製土器的な印象を与える。1362・1363は口縁部片で、外面に刻目突窓1条を貼付し、端部外端に刻目を施す。1363は外面に円形の刺突1を施文する。1364は口縁～胴部片

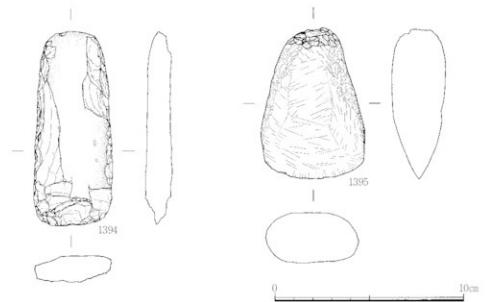


Fig.123 1C区出土石器2 (S : 1/2)

で、外面に刻目突帯 1 条を貼付する。1365は口縁部片で、外面に刻目突帯 1 条を貼付する。

1366～1369は深鉢・甕形土器で、突帯文土器に伴うものと考えられる。1366～1368は口縁～胴部片である。1366は外面に楕円形の刺突文 2 段を施す。1368は口縁端部に刻目を施す。1369は底部片で、外面に条痕調整を施す。

1370～1372は弥生土器・甕である。1370・1371は口縁～胴部片で、口縁端部外端側に刻目を施す。1370は外傾接合による接合部外面に凹線状の段 1 を形成し、刻目を加える。1371は外面に沈線 3 条を描く。1372は底部片である。

1373～1376は縄文土器・浅鉢である。1373は口縁～胴部片で、屈曲部外面に沈線 1 条を描き、沈線内に赤彩を施す。1374は口縁部片で、屈曲部外面の接合部で段 1 を形成し、沈線 1 条を描く。1375は口縁部片で、屈曲部外面の接合部で段 1 を形成する。1376は底部片である。

1377～1379は弥生土器・鉢・底部片である。1378は外面に沈線 2 条を描く。1379は外面を 3 条の平行沈線と 2 条の縦位沈線によって区画し、上位の区画内には 8 条の弧線、下位の区画内には 4 条の斜位沈線を描く。

1380・1381は土師器・甕である。1380は外面にタキ調整を施し、底部は丸底である。1381はほぼ完形の土器であるが、底部付近の外面では器壁表面が剥落している。1380・1381は古墳時代の所産と考えられる。

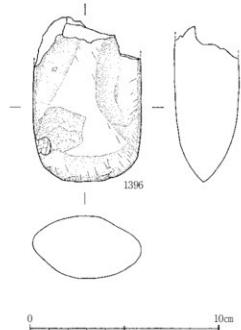


Fig.124 1C区出土石器3 (S : 1/2)

1382は土師器・高杯である。坏部と中実脚部との接合による形成である。古墳時代の所産と考えられる。

④表探土器 (Fig.120)

3点を図示した。

1383は突帯文土器・口縁部片で、外面に刻目突帯2条を貼付する特殊胎土土器である。

1384・1385は弥生土器・壺・胴部片である。
1384は外面に有輪木葉文を描く。1385は外面に沈線2条、斜位の沈線2条を描く。

(2)土製品

IV D層出土土製品2点、IV B層出土土製品2点、IV層出土土製品3点を図示した。表21中では、図示した表面側をA面、その反対側の面をB面として表記した。

IV D層出土土製品 (Fig.121- 1386・1387)

1386・1387は土製円板で、いずれも縄文土器・浅鉢の胴部片を素材とする。1386のB面(土器としての内面)のミガキ調整は、暗文状を呈する。

IV B層出土土製品 (Fig.121- 1388・1389)

1388は土製円板で、深鉢・甕形土器の胴部片を素材とする。

1389は土製紡錘車で、中央に焼成前の穿孔1を有する。胎土は弥生土器・壺のものに近似する。

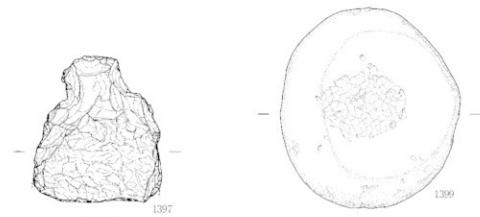
IV層出土土製品 (Fig.121- 1390～1392)

1390・1391は土製円板である。1390は深鉢・甕形土器の胴部片を素材としている。1391は縄文土器・壺の胴・底部片を素材とする。

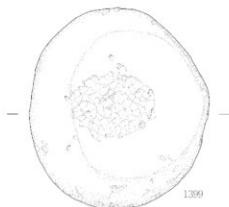
1392は土製紡錘車で、中央に焼成前の穿孔1を有し、胎土は弥生土器・壺のものに近似する。

(3)石器

遺構出土石器3点、第IV層群出土石器24点、第IV層群以外の包含層出土石器4点を図示した。表22中では、図示した表面側をA面、その反対側の面をB面として表記した¹⁴。

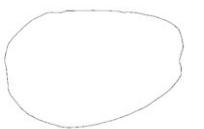


1397

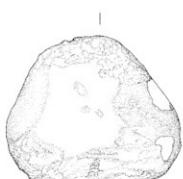


1399

—



1398



1398



1398



0 10cm

Fig.125 1C区出土石器4 (S : 1/2)

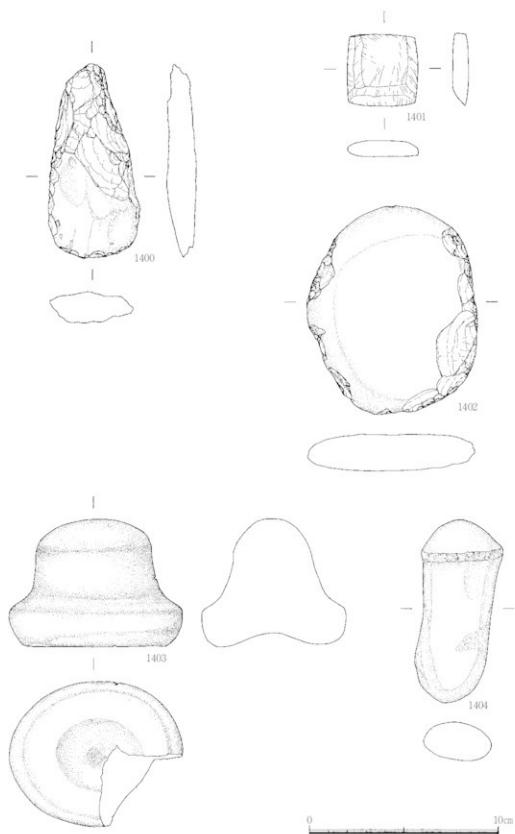


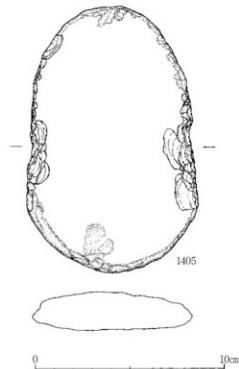
Fig.126 1C区出土石器5 (S : 1/2)

◎遺構出土石器

S X104出土石器1点，S X 1出土石器1点，P 17出土石器1点を図示した。

S X104出土石器 (Fig.122-1393)

1393は磨石である。ほぼ完形で，花崗岩製である。



S X 1出土石器 (Fig.123-1394)

1394は打製石斧である。完形で，A面には素材円礫の穢皮面を広く残し，B面は全面が剥離面である。結晶片岩製である。

P 67出土石器 (Fig.123-1395)

1395は両刃磨製石斧である。完形で，A・B両面ともに擦痕が多く観察される。刃部には縦位の細かな条線が認められ，使用痕ではないかと考えられる。蛇紋岩製である。

◎第IV層群出土石器

IV D 3層出土石器1点，IV D層出土石器3点，IV B層出土石器5点，IV A層出土石器1点，IV層出土石器14点を図示した。

IV D 3層出土石器 (Fig.124-1396)

1396は両刃磨製石斧である。A・B両面に擦痕が観察される。砂岩製か。

IV D層出土石器 (Fig.125-1397~1399)

1397は打製石斧である。B面には素材円礫の穢皮面が残る。蛇紋岩製である。

1398・1399は磨石である。1398は円錐状の形態を呈し，下面中央部に敲打痕を有する。後述の石冠の形状を模した可能性がある。花崗岩製か。1399はほぼ完形で，A面には敲打痕を有し，B面は滑面を呈する。花崗岩製である。

IV B層出土石器 (Fig.126-1400~1404)

1400は打製石斧である。A面には素材円礫の穢皮面が残り，B面は主剥離面側である。結晶片

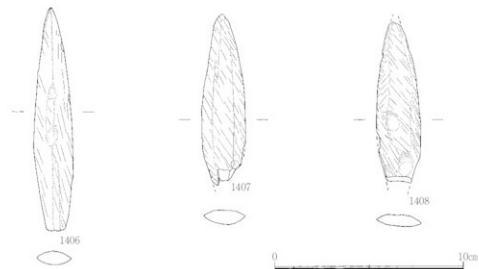


Fig.128 1C区出土石器7 (S : 1/2)

岩製である。1401は完形の扁平片刃石斧である。全面に擦痕が観察され、刃部にみられる微細な剥離は使用痕の可能性がある。蛇紋岩製である。

1402は両側縁部に剥離を有する砾石器で、本編中では「加工ある円礫」と表記した。砂岩製で、用途は不明である。

1403は石冠である。下面中央部は凹み、全面研磨によって整形する。角閃岩製で、本県では初例である。

1404は磨製石剣である。円礫素材で、石材中の白色の硬質部分を先端部分の造形に利用したもとのと考えられる。砂岩製である。

IV A層出土石器 (Fig.127- 1405)

1405は両側縁部に剥離を有する、加工ある円礫である。完形で、結晶片岩製である。

IV層出土石器 (Fig.128 ~ 132)

1406 ~ 1408は磨製石礫で、いずれも頁岩製である。1406は完形で、明瞭な鈎を有し、表面には擦痕が多く観察される。1407・1408はいずれも基部を欠くが、撮影にすばまる形状が下端に残つてあり、有茎であった可能性がある。

1409は打製石斧である。刃部は滑面で、磨製石斧状を呈する。結晶片岩製である。

1410・1411は両刃磨製石斧である。1410は、平面形状が明らかな左右非対称形を呈する。1411はB面側の大半を欠く。1410・1411は、いずれも蛇紋岩製である。

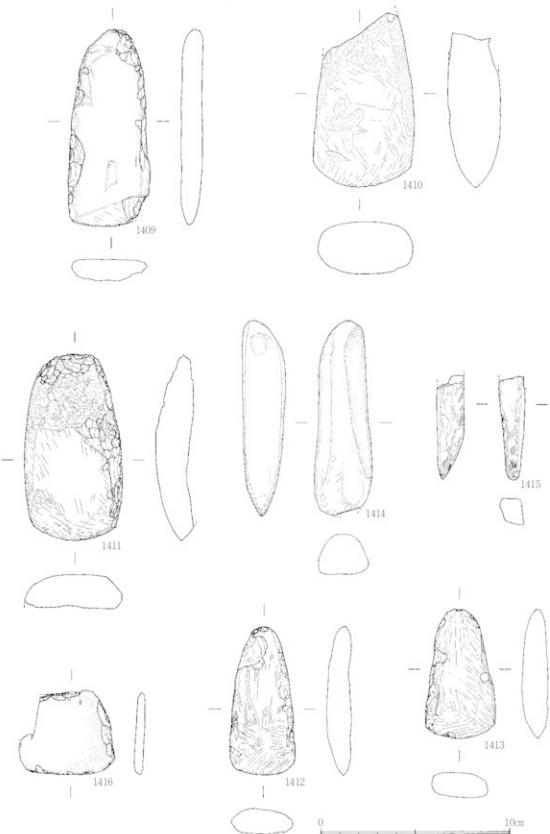


Fig.129 1C区出土石器8 (S : 1/2)

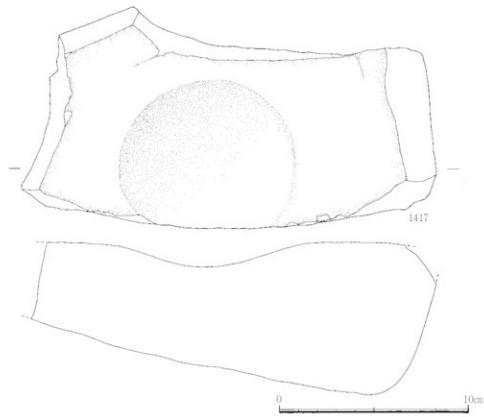


Fig.130 1C区出土石器9 (S : 1/2)

1412・1413は完形の磨製石斧である。平面形状は左右対称形で、片刃である。1412は刃部に縦位の条線と光沢が観察され、使用痕の可能性がある。1412・1413はいずれも蛇紋岩製である。

1414は柱状片刃石斧に類するものと考えられるが、円碟素材であるため、本編中では「片刃磨製石斧」と表記した。刃部をわずかに欠く。表面には黒色付着物と光沢が認められる。結晶片岩製か。

1415は小型方柱状片刃石斧である。基部側を欠く。縱方向にも分割しているが、刃部は再生されている。前主面に研磨痕が顕著である。結晶片岩製である。

1416はスクレーパーである。A面に素材円碟の裸皮面を広く残す。凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）製である。

1417は石皿である。明瞭な凹部を有し、擦痕が多く観察される。砂岩製か。

1418は磨製石剣である。柄部片で、素材面を広く残す。結晶片岩製である。

1419は石棒である。基部を欠き、長軸方向に2分割の状態で出土した。殆ど素材状態のままで使用されたものか。先端部ほかに黒変部分が認められる。結晶片岩製である。

◎第IV層群以外の包含層出土石器
III D 層出土石器 1点，III C 層出土石器 2
点，III 層出土石器 1点を図示した。

III D 層出土石器 (Fig.133- 1420)
1420は両刃磨製石斧である。ほぼ完形で、
平面形状は左右非対称形を呈する。刃部に
は斜位の擦痕が観察され、これを使用痕と
仮定すれば、A面における右側が使用者側
に向いていたものと推定される。結晶片岩
製である。

III C 層出土石器 (Fig.133- 1421・1422)
1421は完形の磨製石斧である。平面形状
は左右対称形で、片刃である。刃部には縦
位の条線が観察され、使用痕の可能性があ
る。結晶片岩製か。

1422は完形の柱状片刃石斧である。前主
面には敲打によって凹部を形成する。基部
以外の各面は研磨によって整形し、基部及
び後主面には敲打痕が顕著である。凝灰岩
製である。

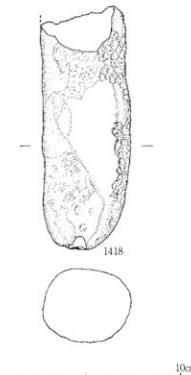


Fig.131 1C区出土石器10 (S : 1/2)

III 層出土石器 (Fig.133- 1423)
1423は完形の磨製石斧である。平面形状は左右対称形で、片刃的である。刃部には縦～斜位の
条線が観察され、使用痕の可能性がある。基部は研磨面である。蛇紋岩製である。

(4)木製品
IV D 2 層出土木製品 1点，IV D 層出土木製品 5 点，IV B 層出土木製品 4 点を図示し、IV D 2 層
出土木製品 1点の写真図版を掲載した。

IV D 2 層出土木製品 (Fig.134- 1424, 卷頭図版16- 1434)
1424は、長軸一端部に被熱による炭化が認められるもので、本編中では「焦化材」と表記した。
表面は 4 面の縦位裁断面からなるが、ある目的形状を意図したものとは捉えにくい。点火時の着
火用材が燃え残ったものではないかと推察される。樹種は、ヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が

得られている¹³。

1434は編みかご状製品である。出土時に分割してしまった部分と本体部分とを、それぞれ土ごと固定し、保存処理を実施した¹⁴。底部の形状等は不明である。樹種はブドウ科という鑑定結果が得られている。

IV D層出土木製品 (Fig.134~137)

1425は、丸太素材による円柱状製品の一端部を円錐状に尖らせたものとみられ、尖端部を欠くが、本編中では「独楽状木製品」とした¹⁵。上端側に溝状の抉り部1が巡り、上端面は平坦である。樹種はツバキ科ツバキ属¹⁶という鑑定結果が得られている。

1426は板状木製品である。表面には加工痕が明瞭に観察される。樹種はヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている。1427は梢円形の穿孔2を有する部材で、全長は不明である。樹種はヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている。1428は方形状の穿孔1を有する部材である。樹種はブナ科クリ属クリという鑑定結果が得られている。1429は全長87.5cmの板状木製品である。表面には調整痕が明瞭に観察される。樹種はヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている。1428・1429は全長のわかる資料であり、両者の差は5cmで、平均すればまたま90cmとなる。何らかの有意性が存在するものであろうか。

IV B層出土木製品 (Fig.138~139)

1430は右側縁部に抉り部1を有する板状木製品である。樹種はヒノキ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている。1431はほぼ完形の板状木製品である。表面には調整加工痕が明瞭に観察される。用途は礎板か。樹種はヒノ

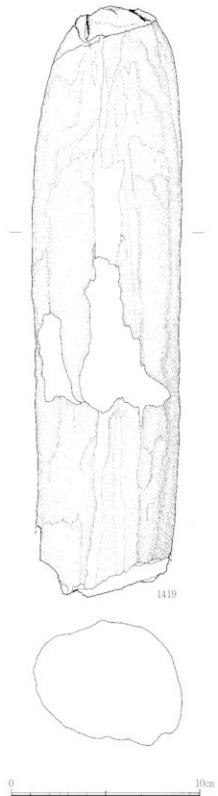


Fig.132 1C区出土石器11 (S : 1/2)

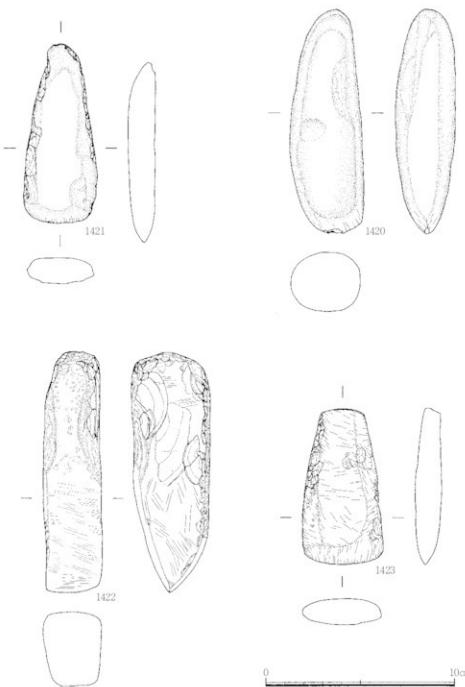


Fig.133 1C区出土石器12 (S : 1/2)

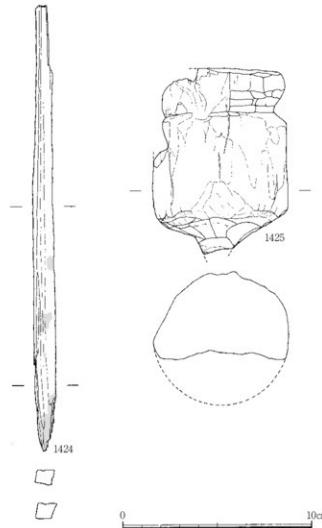


Fig.134 1C区出土木製品1 (S : 1/2)

キ科ヒノキ属という鑑定結果が得られている。1422は左右両側縁部に抉り部各1を有するとみられる板状木製品である。表面には調整加工痕が明瞭に観察される。樹種はブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節という鑑定結果が得られている。1433は円形の穿孔1を有する板状木製品である。樹種はブナ科コナラ属アカガシ亜属という鑑定結果が得られている。

5. 総括

本編をもって、1C区の調査に関する報告は完結し、出土遺物のうちの図化資料の提示はひとまず果たした。しかし、報文中に反映できなかった未図化資料が多く存在することは事実であり、また出土土器以外の分布図も提示できていない。出土文化財の活用を可能とするため、資料化の作業が残っていることは否めない。1C区の調査成果（その1）、（その2）を通観し、調査成果の概略を記して、本編の総括とする。

第VII層上面検出遺構について

急傾斜面上に掘り込まれた多数のピット状遺構を検出した。出土遺物は僅少で、ここから埋没年代を特定することはできないが、第VII層出土遺物には縄文後期土器、縄文前期土器が認められることから、遺構年代の上限を縄文時代前期、下限を縄文時代後期と捉えることができよう。遺構の配列には有意性が認められようが、現時点では性格不明である。

第VII層出土遺物について

少量の縄文後期土器、縄文前期土器が出土した。縄文後期土器は、第V層上面検出遺構（S X 101）の床面を掘り過ぎた際に出土したもので、相対的に第VII層の上部側にあったものと理解できる。第VII層は細分できなかったが、縄文時代前期から後期に亘って、表土層であったものと理解

される。

第VI層出土遺物について

土層観察用の中央ベルト表面から、突帯文土器1点を採取した。第VI層は、無遺物層の第V層を間に挟み、明らかに第IV層群の下位に位置する。この資料と第IV層群出土土器との関係については未検討である。

第V層上面検出遺構について

性格不明遺構、ピット状遺構等を検出した。これらは、その出土遺物と、遺構検出面の上層にある第IV層群の出土土器の年代観から、縄文時代晚期から弥生時代前期にかけての時期の所産と考えられる。ピット状遺構5基を抽出して括った、ピット状遺構群は、建物跡等の性格を有する可能性がある。また、性格不明遺構として扱った、第V層上面の窪地からの出土遺物は、IVD層最下層からの出土遺物と同義であり、あらためて第IV層群出土土器に編入して、検討しなければならない。

第IV層群出土遺物について

第IV層群からは、土器、土製品、石器、木製品、獸骨類、貝類、堅果類、円環等が出土し、1C区の成果の中では、質・量ともに、最も充実した内容を有している。

土器に関しては、すでに一部考察を加えた³³ように、「縄文土器」「突帯文土器」「弥生土器」の組成比率が興味深い事実を示しており、縄文時代晚期～弥生時代前期の移行期における、当該地域の土器様相変遷過程の一端を、垣間見ることができる。その状況下における、大洞式土器の搬入と、その模倣土器の存在、さらに別個体の漆塗り土器の出自の問題など、関連し、また派生する課題は数多い。

石器については、本編の図化点数を絞ったため、十分に語り尽くせてはいない。しかし、土器の様相に等しく、縄文文化に由来するものと弥生文化に包摂されるものとが共存する様相を、観て取ることができる。例えば、祭祀具では石冠、石棒、磨製石剣という縄文文化的な色彩が優越する一方、磨製石斧等の加工工具においては、扁平片刃石斧、小型方柱状片刃石斧といった、いわ

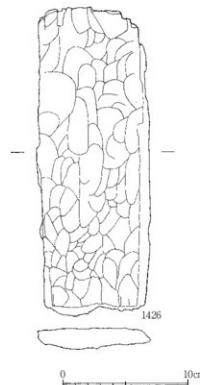


Fig.135 1C区出土木製品2 (S : 1/3)

ゆる大陸系磨製石器に含まれる器種が在来系の磨製石斧と併存している様子を看取することができる。

木製品は、第IV層群全体で11点を得ることができたが、中でも特筆すべきは焦化材と独楽状木製品である。焦化材は火の使用と、点火→着火のプロセスを跡付ける、直接資料の可能性がある。また、独楽状木製品は用途不明とせざるを得ないが、摩擦に強いとされるツバキ材の性質³³を諒解した上で選択性が働いたとすれば、独楽であった可能性も否定できないし、また摩擦を伴う回転軸のような用途を有していたものとも考えられる。祭祀具としての独楽³⁴の初現の問題、また土器製作用の回転台の実像の問題と併せて、きわめて興味深い資料と評価できよう。

第IV層中層検出遺構について

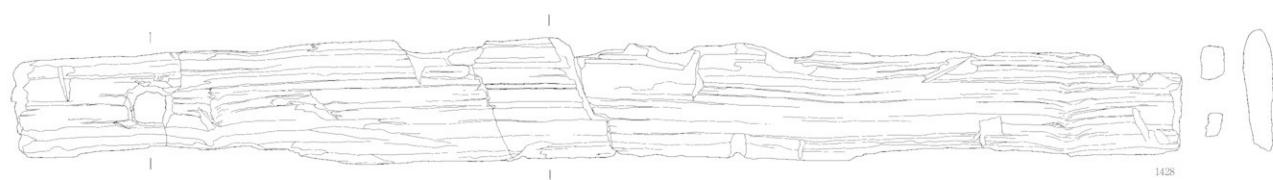
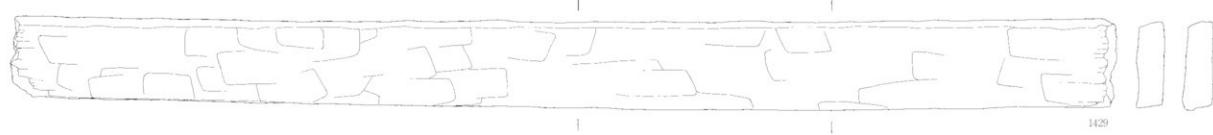
明黄褐色の埋土を有する、ピット状遺構6基を検出した。遺構埋土と捉えたものは、第IV層上面付近で火を使用した際に生じた焼土の可能性があり、焼土化の及んだ深さを、遺構の深さとして理解してしまっている虞がある。

第III層出土遺物について

第III層は反転層と考えられ、出土遺物には縄文時代晩期～弥生時代前期のものと、古墳時代前期～中期のものの2者が存在する。前者は第IV層群出土遺物の様相に共通するものとみられ、本来は1C区の北方・斜面上方部分に存在した、第IV層群相当層から供給されたものと推察される。また後者は、その反転行為の「発生もしくは実施」年代の上限を示すものと理解される。



Fig.136 1C区出土木製品3 (S : 1/3)



0 10cm

Fig.137 1C区出土木製品4 (S : 1/3)

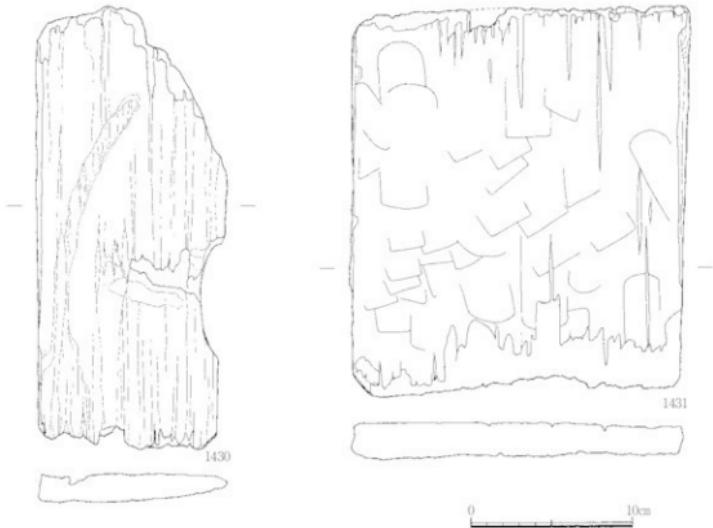


Fig.138 1C区出土木製品5 (S : 1/3)

第IV層上面検出遺構について

性格不明遺構、ピット状遺構等を検出した。遺構の密度はきわめて希薄である。これらは、第IV層群の堆積が完了した後に形成されたことが明白であり、第III層出土遺物の様相から、古墳時代前～中期を上限とする年代の所産と考えられる。また、斜面下方で検出した性格不明遺構3基は、第IV層上面の浅い窪地を遺構として扱ったものと考えられ、その出土土器は第III層最下部の出土土器と同義と捉えることができる。

註

- (1) 曾我貴行「第IV章 調査の成果 (2) 1C区(その1)」『居徳遺跡群 I a(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年
- (2) 同註(1)
- (3) 同註(1)
- (4) 同註(1)
- (5) 同註(1)
- (6) 同註(1)
- (7) 付図8に関しては、出土土器の接合関係、ならびに挿図番号を表示することができなかった。

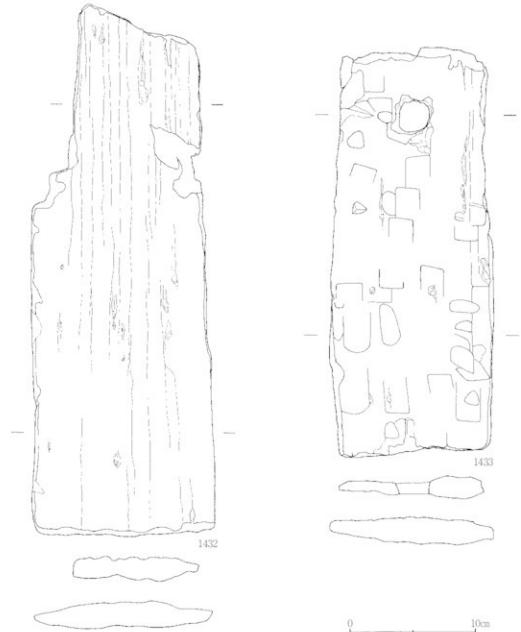


Fig.139 1C区出土木製品6 (S : 1/3)

- (8) 第IV層群出土土器と、他の包含層出土土器及び遺構出土土器との接合関係は、未検討である。
- (9) 同註① p.108~111
- (10) 同註① p.59
- (11) 同註⑨
- (12) 泉拓哉「縁帶文土器様式」『縁文土器大觀4 後期 晩期 繰縁文』小学館 1989年
- (13) 同註⑩
- (14) 小型方柱状片刃石斧ならびに柱状片刃石斧の部分名称については、下記の文献に掲った。
平井勝『弥生時代の石器』考古学ライブラリー64 ニューサイエンス社 1991年
- (15) 樹種鑑定は株式会社吉田生物研究所に委託して実施し、その成果は付編2として掲載した。
以下、樹種に関する典拠は同様であり、それぞれの註は省略する。
- (16) 1C区出土木製品の保存処理は、樹種鑑定と併せて、株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。
- (17) 木製品の器種名については、下記の文献を参考とし、また典拠とした。
奈良国立文化財研究所『木器集成図録 近畿原始篇』奈良国立文化財研究所史料第36冊 1993年
- (18) ツバキ材は緯方向の荷重に強く、また摩擦への耐性を有しており、杖、傘の柄、櫛、洋楽器、
独楽類、度量衡器などの用材として利用されるということを、山川清水氏（高知県立工石山森林
科学館）から御教示いただいた。
- (19) 曽我貴行「1C区第IV層群出土土器について」『居德遺跡群I』(財)高知県文化財団埋蔵文
化センター 2001年
- (20) 同註⑮
- (21) 独楽については坂本正夫氏（高知県立歴史民俗資料館長）から御教示いただいた。

表18 1C区出土土器觀察表1

表19 1C区出土土器觀察表2

表20 1C区出土器觀察表3

組合番号	出土地点 遺物 番号	形態・材質	表面 (cm)	文様・測定 内面 内装	外觀 内面 内装	色調	断面	備考
Fig.116-1360	遺物	口縁付 口縫付	26.70 25.00 13.30	内面：口縁付：内面：内縫付 内縫付：内縫付：内縫付	C-L-S 内縫 内縫	10%W 4×4 4×2	白石、石英 白石、石英 白石、石英	内縫：内縫 内縫：内縫 内縫：内縫
Fig.116-1361	遺物	口縫付上部 口縫付	17.20 13.20 14.20	内縫付：内縫付：内縫付 内縫付：内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	C-L-S 内縫 内縫	10%W 4×4 3×2	白石、石英 白石、石英 白石、石英	内縫：内縫 内縫：内縫 内縫：内縫
Fig.116-1362	遺物	口縫付上部 口縫付	4.60 13.20	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	灰青 内縫	10%W 3.57	白石、セメント 白石	内縫
Fig.116-1363	遺物	口縫付上部 口縫付	2.80 13.20	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫	N 3×3 4×4	白石、セメント 白石	内縫
Fig.116-1364	遺物	口縫付上部 口縫付	5.20 13.20	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	C-L-S 内縫 内縫	10%W 7.23W 7.23W	白石、石英 白石、石英 白石、石英	内縫
Fig.116-1365	遺物	口縫付上部 口縫付	12.00 13.20	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫	10%W 7.23W	白石、石英 白石、石英	内縫
Fig.116-1366	遺物	口縫付上部 口縫付	12.00 12.20	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫	10%W 7.23W	白石、石英 白石、石英	内縫
Fig.116-1367	遺物	口縫付上部 口縫付	21.80 12.20 12.20	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫 内縫	10%W 3.57 3.57	白石、石英 白石、石英 白石、石英	内縫
Fig.116-1368	遺物	口縫付上部 口縫付	13.20 13.20	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫	10%W 10%W	白石、石英 白石、石英	内縫
Fig.117-1369	遺物	深鉢付 口縫付	2.90	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫	5% 4×4 3×3	白石、石英 白石、石英 白石、石英	内縫
Fig.117-1370	遺物	口縫付上部 口縫付	6.40 2.90 2.90	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫 内縫	10%W 3.57 3.57	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1371	遺物	口縫付上部 口縫付	7.00 7.00 7.00	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫 内縫	10%W 3.57 3.57	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1372	遺物	口縫付上部 口縫付	7.50 7.50 7.50	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫 内縫	10%W 3.57 3.57	白石、石英 白石、石英 白石、石英	内縫
Fig.117-1373	遺物	口縫付上部 口縫付	7.50 7.50 7.50	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫 内縫	10%W 3.57 3.57	白石、石英 白石、石英 白石、石英	内縫
Fig.117-1374	遺物	口縫付上部 口縫付	4.50 4.50 4.50	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫 内縫	10%W 3.57 3.57	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1375	遺物	口縫付上部 口縫付	4.20 4.20 4.20	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫 内縫	2.5V 3.57 3.57	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1376	遺物	口縫付上部 口縫付	2.50 2.50 2.50	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫 内縫	10%W 3.57 3.57	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1377	遺物	口縫付上部 口縫付	3.05 4.00 4.00	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫 内縫	10%W 3.57 3.57	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1378	遺物	口縫付上部 口縫付	2.30 2.30 2.30	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫 内縫	10%W 3.57 3.57	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1379	遺物	内子土器 内子土器	2.60 2.60 2.60	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	白 内縫 内縫	10%W 6×6 7.23W	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1380	遺物	口縫付 口縫付	12.00 22.40 18.30	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	内縫 内縫 内縫	10%W 4×4 4×4	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1381	遺物	口縫付 口縫付	16.30 16.30 16.30	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	内縫 内縫 内縫	10%W 2.5V 2.5V	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1382	遺物	土加厚 高脚	17.00 11.00 11.00	内縫付 内縫付 内縫付	内縫 内縫 内縫	2.25W 2.25W 2.25W	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1383	遺物	土加厚 高脚	16.30 16.30 16.30	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	内縫 内縫 内縫	2.25W 2.25W 2.25W	白石、セメント 白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1384	遺物	内子土器 内子土器	3.40 5.50	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	内縫 内縫	10%W 3.57	白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1385	遺物	内子土器 内子土器	4.00 4.00	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	内縫 内縫	10%W 7.23W	白石、セメント 白石、セメント	内縫
Fig.117-1386	遺物	内子土器 内子土器	4.00 4.00	内縫付：内縫付 内縫付：内縫付	内縫 内縫	10%W 7.23W	白石、セメント 白石、セメント	内縫

表21 1C区出土土器品観察表

検出番号	出土場所	品種	寸法 (mm, μ)				断面形	八面 のうち のもの数	色調	八面 合計	目次	備考
			全長	幅	厚	内径						
Fig.121-12809 D196	土器内板	土器内板	5.60	3.30	0.60	—	23.60	2.0	青灰 のほか 茶色(淡い) 黒褐色 等	10.7%	2 / 2	石器 A面:タ-5 陶器部底付 骨材
Fig.121-12810 D197	土器内板	土器内板	4.30	4.40	0.60	—	20.60	2.0	青灰 のほか 茶色(淡い) 黒褐色 等	10.7%	2 / 2	石器 A面:タ-5 陶器部底付 骨材
Fig.121-12811 D198	土器内板	土器内板	4.40	4.15	0.60	—	21.00	2.0	青灰 のほか 茶色(淡い) 黒褐色 等	10.7%	2 / 2	石器 A面:タ-5 陶器部底付 骨材
Fig.121-12812 D199	土器内板	土器内板	4.70	4.20	1.00	0.80	13.80	2.0	青灰 のほか 茶色(淡い) 黒褐色 等	10.7%	2 / 2	石器 A面:タ-5 陶器部底付 骨材
Fig.121-12813 D200	土器内板	土器内板	4.30	3.40	0.60	—	14.00	2.0	青灰 のほか 茶色(淡い) 黒褐色 等	10.7%	2 / 2	石器 A面:タ-5 陶器部底付 骨材
Fig.121-12814 D201	土器内板	土器内板	4.10	3.90	0.70	—	18.20	2.0	青灰 のほか 茶色(淡い) 黒褐色 等	10.7%	2 / 2	石器 A面:タ-5 陶器部底付 骨材
Fig.121-12815 D202	土器内板	土器内板	4.90	3.00	0.60	0.20	11.20	2.0	青灰 のほか 茶色(淡い) 黒褐色 等	10.7%	2 / 2	石器 A面:タ-5 陶器部底付 骨材
Fig.121-12816 D203	土器内板	土器内板	4.90	3.00	0.60	—	12.80	2.0	青灰 のほか 茶色(淡い) 黒褐色 等	10.7%	2 / 2	石器 A面:タ-5 陶器部底付 骨材

表22 1C区出土石器計測表

検出番号	出土場所	種類	寸法 (mm, μ)				断面形	石材	備考
			全長	幅	厚	重量			
Fig.125-12833 S10	石器	石器	9.00	8.00	0.60	557.80	A面:周縁削・肩打痕 刃状切削	花崗岩	立正寺跡
Fig.125-12844 S11	石器	石器	10.50	4.20	1.00	791.00	A面:周縁削・肩打痕 刃状切削	花崗岩	立正寺跡
Fig.125-12845 S12	石器	石器	8.00	6.85	0.20	199.00	A面:周縁削・肩打痕 刃状切削	花崗岩	立正寺跡
Fig.125-12846 D126	石器	石器	8.80	5.80	0.50	333.30	A面:周縁削・肩打痕 刃状切削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12847 D127	石器	石器	7.00	6.00	1.00	81.00	A面:周縁削・肩打痕 刃状切削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12848 D128	石器	石器	10.70	9.40	0.20	975.00	A面:周縁削・肩打痕・刃状切削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12849 D129	石器	石器	10.40	4.90	1.00	152.00	A面:周縁削・肩打痕	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12850 D130	石器	石器	9.50	5.50	0.50	24.00	A面:周縁削・肩打痕	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12851 D131	石器	石器	9.70	4.20	0.50	155.50	小角削部分の刃状切削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12852 D132	石器	石器	14.20	9.10	2.05	622.00	刃状切削・鋸削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12853 D133	石器	石器	5.00	1.00	0.50	3.00	刃状切削・鋸削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12854 D134	石器	石器	4.00	1.15	0.40	2.00	鋸削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12855 D135	石器	石器	4.50	1.00	0.50	1.20	鋸削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12856 D136	石器	石器	10.55	4.40	1.20	91.80	刃状切削・鋸削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12857 D137	石器	石器	9.30	5.40	2.00	228.00	鋸削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12858 D138	石器	石器	9.00	5.25	2.00	164.30	鋸削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12859 D139	石器	石器	7.50	3.00	1.00	30.00	鋸削・刃状切削・肩打痕・先端一側削除	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12860 D140	石器	石器	6.00	1.70	0.50	6.00	鋸削・刃状切削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12861 D141	石器	石器	10.40	3.10	2.00	112.80	刃状切削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12862 D142	石器	石器	5.00	1.45	1.50	15.10	刃状切削・肩打痕	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12863 D143	石器	石器	5.10	4.80	0.60	13.50	刃状切削・肩打痕	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12864 D144	石器	石器	22.10	11.80	8.10	3050.00	肩打痕・刃状切削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12865 D145	石器	石器	12.00	4.82	3.50	363.20	肩打痕・刃状切削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12866 D146	石器	石器	31.00	11.00	1.00	10.00	刃状切削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12867 D147	石器	石器	11.00	3.25	2.00	220.00	刃状切削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12868 D148	石器	石器	9.55	3.05	1.45	81.20	刃状切削・一側削除	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12869 D149	石器	石器	12.00	3.20	2.00	270.00	刃状切削・肩打痕・鋸削	花崗岩	妙妙寺跡
Fig.125-12870 D150	石器	石器	8.50	4.35	1.40	85.90	刃状切削・鋸削	花崗岩	妙妙寺跡

表23 1C区出土木製品計測表

測定番号	層段	測定	寸法 (mm, g)		測定等	樹種	備考
			公差	全長			
Fig.134-1424	IV-D 2層	素化材	23.65	1.20	0.80	吉澤：幅4cm側面（4枚） 下端部：米堅（東化）	トノキ科ヒノキ属
Fig.134-1425	IV-D層	漆喰木製品	9.90	7.20	4.70	吉澤：漆喰仕上げ部 上端：手彫り部 下端：丁目彫、丸な?	ツバキ科ツバキ属
Fig.135-1426	IV-D層	板状木製品	24.50	8.50	1.70	吉澤：加工痕明瞭	ヒノキ科ヒノキ属
Fig.136-1427	IV-D層	板材	41.10	8.50	2.20	穿孔2（横内側）	ヒノキ科ヒノキ属
Fig.137-1428	IV-D層	板材	92.00	9.50	2.40	穿孔1（方想？）	ブナ科クワ属クリ
Fig.137-1429	IV-D層	板状木製品	87.50	7.30	2.40	吉澤：直工痕明瞭	ヒノキ科ヒノキ属
Fig.138-1430	IV-D層	板状木製品	27.20	11.70	1.70	右側縁：伏り版1	ヒノキ科ヒノキ属
Fig.138-1431	IV-D層	板状木製品	24.50	20.00	2.20	吉澤：加工痕明瞭	ヒノキ科ヒノキ属 櫛板？
Fig.139-1432	IV-D層	板状木製品	42.10	14.50	2.10	吉澤：手彫り側面 左右端部：伏り版各1?	ブナ科コナラ属コナラ属風
Fig.139-1433	IV-D層	板状木製品	32.00	13.00	2.20	穿孔1（斜用）	コナラ属
番頭漆喰16-1444	IV-D 2層	漆みかご状製品	13.00	12.00	—	グドウ科	上ごと測定

(4) 1DN区

1. 調査区の概要

1DN区とは、1D区のおよそ北半部に相当し、かつ第3面の調査範囲に限定した調査区名である。調査工程上の理由から、1D区とは担当者が異なるため、調査時点から1DN区として分割し、報告するものである。面積は757m²であるが、本来1D区の面積の一部分であり、重複計算を避けるために、『居徳遺跡群I』の表2においては括弧書きで表記している。1DN区第3面の調査前の状況は、隣接の1C区から続くIVB層の掘削途上にあり、東から西への弱い傾斜をもちながらも、ほぼ平坦な地形を呈していた。

発掘調査期間は、平成10年2月6日～平成10年3月31日である。

2. 調査の方法 (Fig.142)

着手時点で、第3面の遺物包含層が露出した状態にあったため、そのまま包含層の掘削に取りかかり、完掘した。第V層上面を精査したが、遺構は検出されない。

遺物のうち、必要と判断されたものに関しては、出土地点の3次元座標を測定し、記録した。完掘状態の地形図は、航空写真撮影と併せて航空写真測量によって作製した。

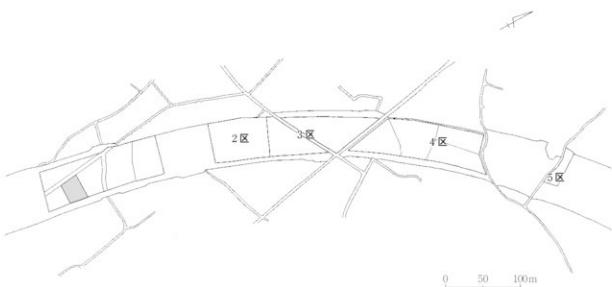


Fig.140 1DN区の位置 (S : 1/5,000)

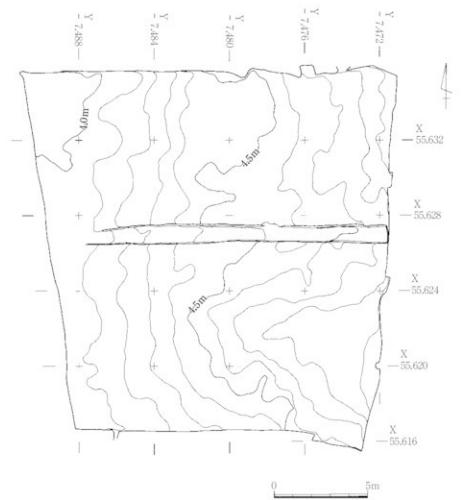


Fig.141 1DN区全体図 (S : 1/200)

全調査区共通の4mグリッドを遺物取上げの最小単位とし、グリッドの名称も他の調査区と同一の方法によって決定した。

3. 層序 (Fig.143)

III層, IVB層, IVD層, V層, VI層に関する分層基準は、1CD区におけるそれ²に一致するため、省略する。1DN区調査の主眼は、まさにIVB層とIVD層を完掘することであった。

調査区西壁の堆積土層断面図によれば、南北方向の傾斜はごくわずかである。このことから、IV B 層上面段階頃までは、水平堆積状態の継続した、低地域であったことが推察される。一方、

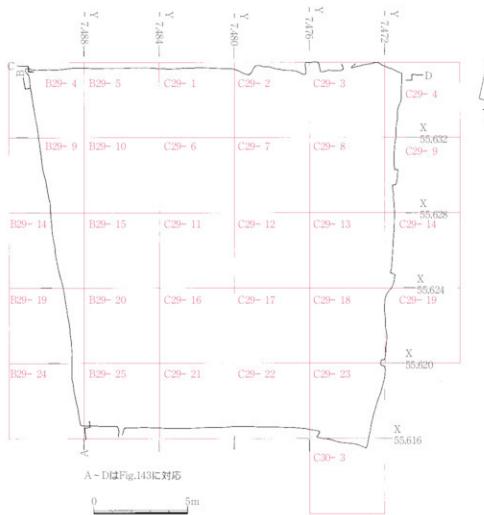


Fig.142 1DN区グリッド割り図 (S : 1/200)

東西方向の堆積状況は、調査区北壁堆積土層断面図の西半部分において、V層上面段階から始まる、東-西への傾斜を認めることができる。同断面図の東端部では、重機の通過に伴う土層の歪曲が生じてあり明らかでないが、この東方の、そう遠くない距離のうちに、削平された埋没丘陵が存在するものと想定される。

4. 遺物

出土遺物には土器、石器、木製品、自然遺物（貝類等）等があり、この中から土器38点、木製品1点を図示し、貝類3点の写真図版を掲載した。また、現地測定にもとづく出土遺物の分布状況は、Fig.144に示した。

(1)土器

①IV D層出土土器 (Fig.145- 1 ~ 20)

1 ~ 3は縄文土器・壺・胴部片である。1は接合部外面に沈線1条を描く。2は接合部外面に沈線状の段1を形成する。3は外面に赤彩を施す。

4 ~ 6は弥生土器・壺である。4は頸部片で、外面に赤彩を施す。5は頸~胴部片で、外面に赤彩を施す。6は胴部片で、外面に赤彩を施し、内面には黒色の付着物がみられる。4 ~ 6はいずれも外傾接合による成形である。

7 ~ 10は突帯文土器である。7 ~ 9は口縁部片、10は突帯部分の破片である。7は外面に刻目突帯1条を貼付し、口縁端部外端に刻目を施す。8は外面に刻目突帯1条を有し、突帯は貼付ではなく、削り出しによって形成された可能性がある。9は外面に突帯1条を貼付し、竹管状工具による刺突を加える。10は外面に刻目突帯1条を貼付する。

11 ~ 16は深鉢~穂形土器で、いずれも突帯文土器に伴うものと考えられる。11 ~ 13は口縁部片、14 ~ 16は胴部片である。11は口縁端部に刻目を施す。

17 ~ 18は弥生土器・甕である。17は口縁部片で、口縁端部・外端側に刻目を施す。18は底部片である。

19は縄文土器・鉢と考えられる口縁部片である。20は縄文土器・浅鉢・胴部片で、破片の下端に擬口縁が露出している。20は内面がナデ調整であり、壺の可能性がある。

②IV B層出土土器 (Fig.146- 21 ~ 33)

21は縄文土器・壺・胴部片で、外面に赤漆とみられる顔料を塗彩する。21は1C区出土の漆塗土器 (No.56)¹⁰と同一個体と考えられる。

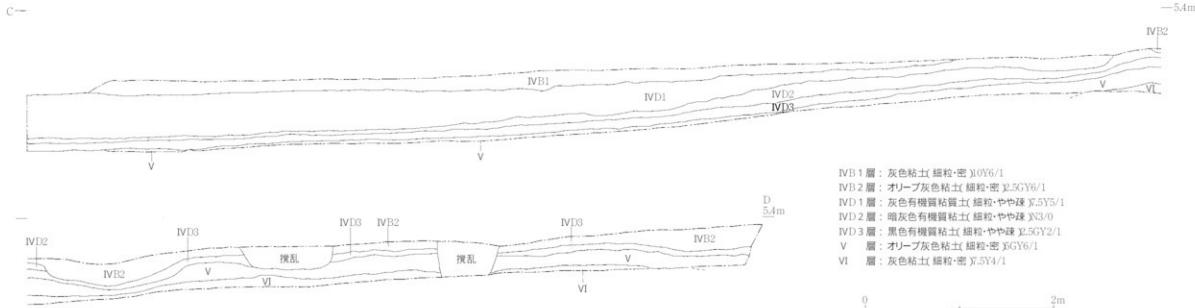
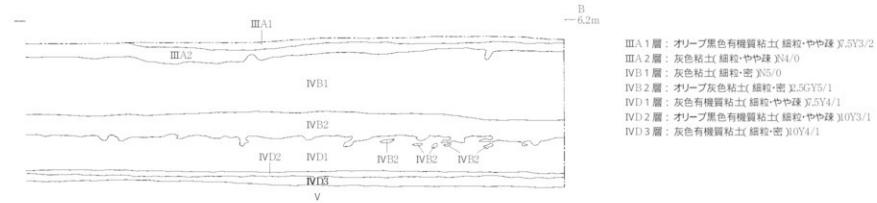
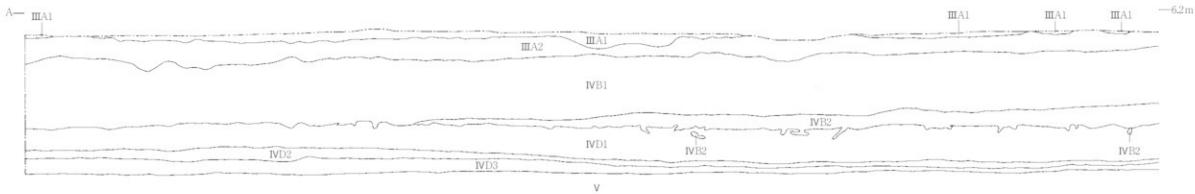
22 ~ 26は弥生土器・壺である。22は口縁~頸部片で、接合部外面に段1を形成する。22は外面に赤彩を施した可能性があり、内外面に黒色の付着物がみられる。23は口縁部片で、内外面に黒色の付着物がみられる。24は頸部片で、外面に沈線5条を描く。25は胴部片で、外面に沈線2条を描く。26は胴部片で、外面に3条単位の重弧文を描く。

27 ~ 28は突帯文土器である。27は口縁部片で、外面に刻目突帯1条を貼付する。28は突帯部分の破片で、外面に突帯1条を貼付するが、刻目の有無は不明。

29 ~ 31は深鉢~穂形土器で、いずれも突帯文土器に伴うものと考えられる。29は口縁部片で、口縁端面に刺突を施す。30は胴部片で、外面には条痕調整がみとめられる。31は底部片で、外面には粗いナデ調整がみとめられる。

32は縄文土器・浅鉢・胴部片である。32は内外面にタール状の付着物を有する、黒色磨研土器である。

33は弥生土器・鉢・口縁部片と考えられるが、高杯・脚部の可能性も否定できない。



A~DはFig.142に對応

Fig.143 1DN区西壁・北壁堆積土層断面図 (S : 1/40)

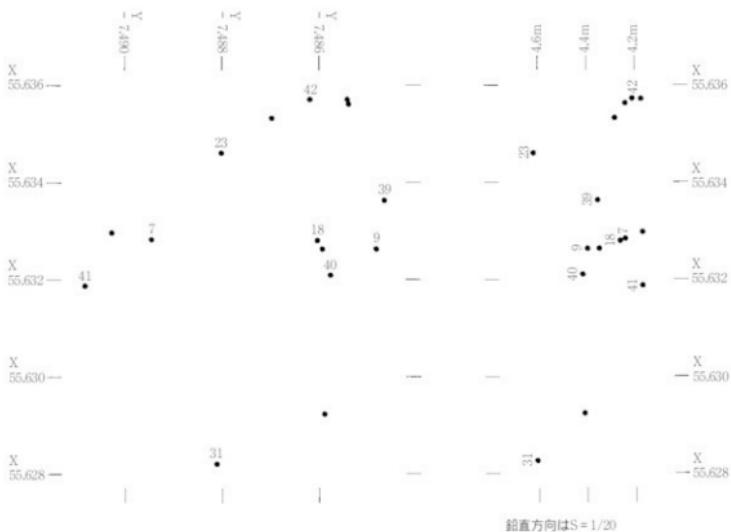


Fig.144 1DN区出土遺物分布図 (S : 1/100)

③表探土器 (Fig.146- 34 ~ 38)

34は弥生土器・壺・頸部片で、外面に4条と2条の斜行沈線2単位がみとめられる。34は内傾接合であり、上下逆の可能性がある。

35~38は弥生土器・甕である。35は口縁部片で、口縁端面に刻目を施す。36は胴部片で、接合部外面に段1を形成する。37・38は底部片である。

(2)木製品 (Fig.147- 39)

39はIV D層出土の棒状木製品で、ほぼ完形である。丸太材をそのまま使用し、長軸両端部には細く削り出す加工を施す。出土時にはほぼまっすぐな状態であったが、その後の乾燥のため、長軸両端部に反りが生じてしまっている。樹種は散孔材との鑑定結果が得られている¹¹⁾。

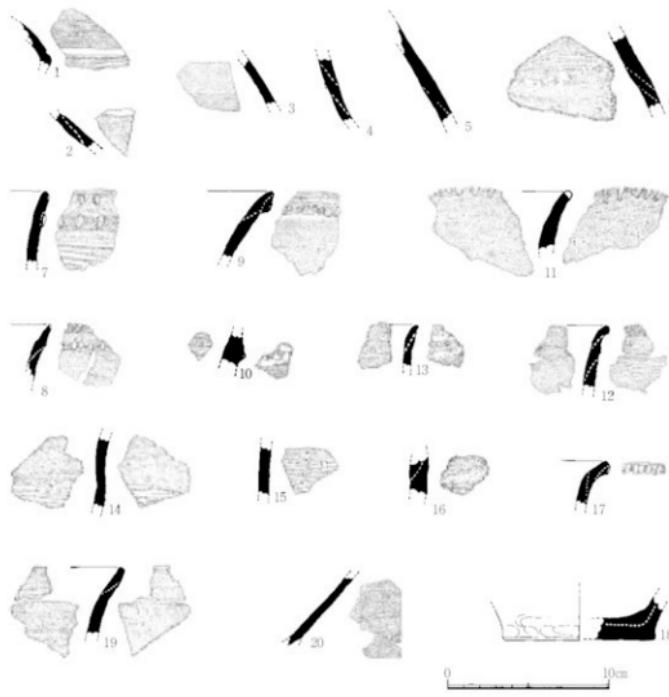


Fig.145 1DN区出土土器1 (S : 1/3)

(3)貝類^⑤ (卷頭図版16-40~42)

40はハイガイ^⑥で、全長4.0cm、全幅3.0cmである。41・42はハマグリ^⑦である。41は全長5.5cm、全幅3.0cmである。42は全長6.0cm、全幅4.5cmである。

5. 総括

本次の調査では、1C区での一定の成果を踏まえて、IVB層・IVD層の延長部分を完掘することを主眼とした。調査区は、当該期においては殆ど水平堆積を形成する低地域であったとみられ、

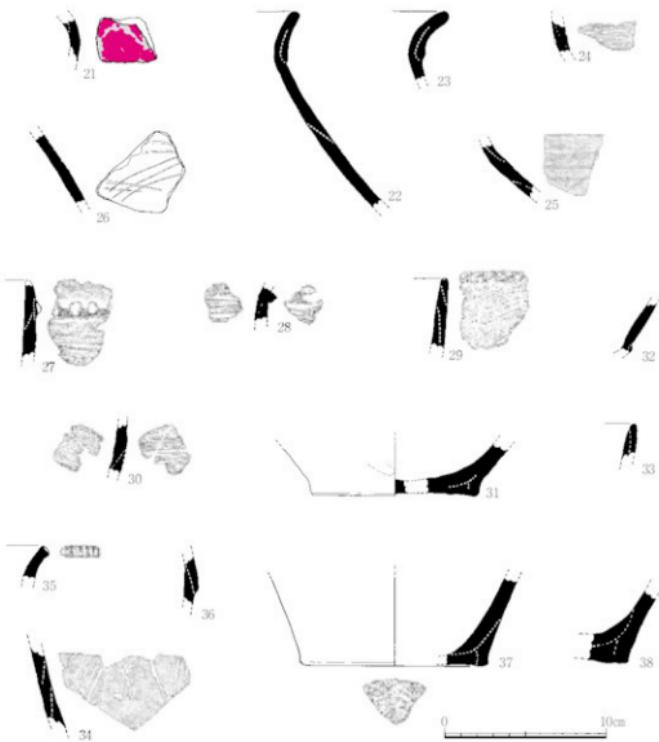


Fig.146 1DN区出土土器2 (S : 1/3)

遺構は検出されず、出土遺物の量も決して多いとはいえない。しかし、1C区出土品と同一個体とみられる漆塗り土器片1点が得られ、また1C区・第IV層群の様相に共通する、「縄文土器」「突帯文土器」「弥生土器」の3者の共存状態を、1DN区においても確認することができた。そして、当該期の低地遺跡出土品としては稀少な貝類が出土したこと、本調査区における注目すべき成果といわねばならない。なお、図化資料を提示しなかった石器については、全く触れられていない。資料提示の必要があることは否定できない。

註

- (1) 曽我貴行「第IV章 調査の成果 (2) 1C区 (その1)」『届徳遺跡群 I-a(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年 p.35
- (2) 同註(1)及び、本書「第I章 調査の成果 (3) 1C区 (その2)」
- (3) 同註(1) p.35-Fig.16
- (4) 樹種鑑定は保存処理と併せて、株式会社吉田生物研究所に委託して実施し、その成果は付録2として掲載した。
- (5) 貝類3点に関しては、株式会社東都文化財保存研究所に委託し、保存処理及び種の同定を実施した。
- (6) 同註(5)
- (7) 同註(5)

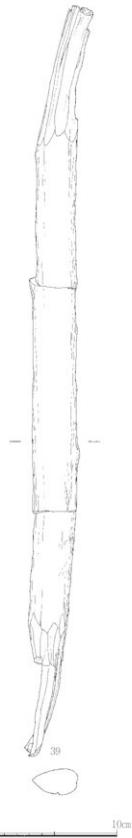


Fig.147 1DN区出土木製品 (S : 1/3)

表24 1DN区出土土器觀察表1

番号	学年	主な品目	基準量	（kg）	交付・配達	外販	包装	内装	卸売	小売	販路	
40-1	1年生	調理用工具 器具類	西脇	2.80kg	（中身：小刀、手すり 等）				実施 実施	10.0kg 2.0kg	4/5 3/3	石井、 石井、 石井、 内蔵
40-2	2年生	調理用工具 器具類	西脇	3.00kg	（中身：包丁、包丁等 等）				実施 実施	2.0kg 3kg	4/5 3/3	石井、 石井、 石井、 内蔵
40-3	3年生	調理用工具 器具類	西脇	2.80kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	2.0kg 10kg	4/5 4/4	石井、 石井、 石井、 豊田？ 内蔵
40-4	4年生	調理用工具 器具類	西脇	3.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 10kg	4/5 4/5	石井、 石井、 石井、 内蔵
40-5	5年生	調理用工具 器具類	西脇	3.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	6.0kg 10kg	4/5 4/5	石井、 石井、 石井、 内蔵
40-6	6年生	調理用工具 器具類	西脇	6.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 5kg	4/5 4/5	石井、 石井、 石井、 内蔵
40-7	7年生	調理用工具 器具類	西脇	4.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 2.0kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-8	8年生	調理用工具 器具類	西脇	4.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 2.0kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-9	9年生	調理用工具 器具類	西脇	4.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 2.0kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-10	10年生	調理用工具 器具類	西脇	2.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	4.0kg 2.0kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-11	11年生	調理用工具 器具類	西脇	3.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	2.0kg 2kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-12	12年生	調理用工具 器具類	西脇	3.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 2.0kg	4/5 2.0kg	石井、 石井、 内蔵
40-13	13年生	調理用工具 器具類	西脇	3.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 2kg	4/5 2kg	石井、 石井、 内蔵
40-14	14年生	調理用工具 器具類	西脇	2.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	4.0kg 2kg	4/5 2kg	石井、 石井、 内蔵
40-15	15年生	調理用工具 器具類	西脇	3.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 2kg	4/5 2kg	石井、 石井、 内蔵
40-16	16年生	調理用工具 器具類	西脇	2.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	2.0kg 2.0kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-17	17年生	調理用工具 器具類	西脇	3.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 2kg	4/5 2kg	石井、 石井、 内蔵
40-18	18年生	調理用工具 器具類	西脇	3.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 2kg	4/5 2kg	石井、 石井、 内蔵
40-19	19年生	調理用工具 器具類	西脇	3.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 2kg	4/5 2kg	石井、 石井、 内蔵
40-20	20年生	調理用工具 器具類	西脇	4.00kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 2kg	4/5 2kg	石井、 石井、 内蔵
40-21	21年生	調理用工具 器具類	西脇	2.70kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	2.0kg 2.0kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-22	22年生	調理用工具 器具類	西脇	12.0kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	10kg 10kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-23	23年生	調理用工具 器具類	西脇	9.0kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	7.0kg 2kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-24	24年生	調理用工具 器具類	西脇	6.0kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	4.0kg 2kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-25	25年生	調理用工具 器具類	西脇	3.0kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	2.0kg 2kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-26	26年生	調理用工具 器具類	西脇	3.0kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	2.0kg 2kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-27	27年生	調理用工具 器具類	西脇	4.0kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	2.0kg 2kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵
40-28	28年生	調理用工具 器具類	西脇	7.0kg	（中身：包丁（カツリ） 等）				実施 実施	2.0kg 5kg	4/5 4/5	石井、 石井、 内蔵

表25 1DN区出土土器観察表2

試掘番号	出土地点	地質	法面	文様・跡型	外側 内面 穴の有無	内側 外側	出土	適合	記号
Fig.140-20	N.山腹 口縁部	灰岩	4.50 ナメ ナメ	ナメ ナメ	外側 内面 穴の有無	裏面 N 2.5/ 2.5/	石丸、石片 石丸	外側?	内側?: スターリ
Fig.140-21	N.山腹 手前?	灰岩	3.00 ナメ ナメ	ナメ ナメ	外側 内面 穴の有無	裏面 C.5/ 2.25/ 2.25/	石丸、石片 石丸	内側	
Fig.140-22	W.山腹 背後?	灰岩	3.30 ナメ ナメ	ナメ ナメ	外側 内面 穴の有無	裏面 C.5/ 2.25/ 2.25/	石丸、石片 石丸	内側	
Fig.140-23	W.山腹 底面?	灰岩	3.30 ナメ ナメ	ナメ ナメ	外側 内面 穴の有無	裏面 C.5/ 2.25/ 2.25/	石丸、石片 石丸	内側?	
Fig.140-24	W.山腹 底面?	灰岩	3.30 ナメ ナメ	ナメ ナメ	外側 内面 穴の有無	裏面 C.5/ 2.25/ 2.25/	石丸、石片 石丸	内側?	
Fig.140-25	W.山腹 底面?	灰岩	3.30 ナメ ナメ	ナメ ナメ	外側 内面 穴の有無	裏面 C.5/ 2.25/ 2.25/	石丸、石片 石丸	内側?	
Fig.140-26	W.山腹 底面?	灰岩	3.30 ナメ ナメ	ナメ ナメ	外側 内面 穴の有無	裏面 C.5/ 2.25/ 2.25/	石丸、石片 石丸	内側?	
Fig.140-27	W.山腹 底面?	灰岩	3.30 ナメ ナメ	ナメ ナメ	外側 内面 穴の有無	裏面 C.5/ 2.25/ 2.25/	石丸、石片 石丸	内側?	
Fig.140-28	W.山腹 底面?	灰岩	4.00 ナメ ナメ	ナメ ナメ	外側 内面 穴の有無	裏面 C.5/ 2.25/ 2.25/	石丸、石片 石丸	内側?	

表26 1DN区出土木製品計測表

試掘番号	部位	種類	寸法(cm g)			測定者	測定者	備考
			全長	全幅	全厚			
Fig.147-39	IV D層	柳枝木製品	59.40	5.50	2.10	丸太材高材 内端部のみ加工 生土後にやや変形	丸太材	

(5) 1F区

1. 1F区の概要

調査区は大きく二つの部分で構成される。一つは1A区と1C区に挟まれた西側の丘陵部から派生する屋根の頂上部分であり、調査開始当初は市道が敷設されていた箇所である。以下では“道路部分”として説明を行う。平成9年度の1工区調査時にはこの市道がこの付近に在住する人々の生活道であり、また農作業等にも頻繁に利用されていることから、仮設道路建設後の平成11年1月から調査に着手した。現地形は道路敷設に選択される様な周辺よりもや高所に位置しており、1A区の調査では北側は既に地山（黄褐色砂礫層）が削平を受けていたが、南斜面に当たる1C区では調査区内に遺構や包含層が残されており、これが道路部分にまで及ぶと期待された。アスファルトの剥ぎ取り後調査を開始し、調査区の南側で1C区から連なる柱穴群と包含層（黒色土）を検出した。ビット群の多くは地山に掘込まれてあり、埋土は黒色土乃至黒褐色土であり、円形から梢円形を呈している。調査区の中央では市道敷設の際に地山を削って路面部分を高く残し、それ以外は地山を削り込んでいる事が明かとなった。削平された路面の北側部分では方形の掘込みや杭列、旧水路跡が検出された。1F区を構成するもう一つは1工区の南側をほぼ縱断していた水路部分である。以下ではここを“水路部分”として説明する。清滝山南東斜面の谷から流れる清滝川は調査区の北方で鍵形に屈折し、西側の小谷を源とする小川を取り込んで、調査区の付近では幅3~4mを測る。この付近では唯一の河川であり、排水路としての機能が高いことから、調査は工事に伴う用排水路整備終了後の平成12年12月末から開始した。裾広の台形状に残された調査区は上位は既に水路の建設工事に際して破壊を受けていたが、下位は全くの手付かずであり、

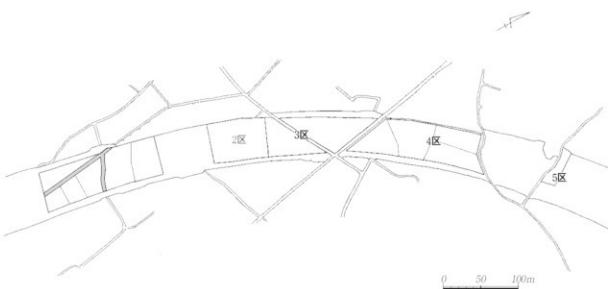


Fig.148 1F区の位置 (S : 1/5,000)

水成堆積環境のもと取り残された遺構や遺物が1C区や1E区と同様、良好な資料として発見された。遺構は水成堆積が幾分か乾燥環境に変わった時期の貯蔵穴（どんぐりピット）群であり、調査区南端に存在した旧流路群、また1C区から繋がる斜面上のピット群である。遺物は包含層を中心に縄文晚期から弥生前期にかけての土器や石器、農工具などの木器・木製品、加えて骨などとの自然遺物である。

2. 調査の方法

道路部分

平成11年1月5日から道路に沿って残されていたコンクリート製の側溝を除去し、路面のアスファルトや路肩に沿って僅かに残っていた表土を重機を用いて掘削した。ここでは機械に於ける包含層掘削の対象は極く僅かであり、殆どの部分で地山が直ぐに露呈する状態であった。包含層として精査が必要と認められる箇所は中央部分の南側であり、嘗ての尾根の稜線下南斜面である。

1月11日から包含層の精査を開始し、包含層下から地山（黄褐色砂礫土）に掘込まれたピット群を確認した。遺構として扱うものはこのピット群と路面の北側に存在した地山削平後の方形遺構、路面下に存在した旧水路及びそれに伴うと考えられる杭列である。

遺構精査に伴い随時、検出状態、半截状態、出土状態を記録し、1月13日には完掘状態の写真撮影、また1月30日には遺構平面図、調査区標高図を作成し、調査を終了する。

水路部分

平成10年12月21日から水路のコンクリートや下部に埋め込まれた円錐、コンクリート製の畔群の除去と表土掘削を開始する。包含層は厚い水成堆積層で構成されており、水路建設に伴う改変は包含層の上部にまで達していた。調査区の北部を中心として遺物が出土したことから、尾根に近い北側では厚く、南に向うに従って薄く精査包含層を残しながら重機による包含層掘削を行った。上位については遺物の出土状況に応じて適宜、主に出土状態の写真撮影、光波測量器による第四系座標取上げを行った。調査区の南端部では比較的浅い位置で流路跡（SR1）を検出し、1月28日に機械による包含層掘削を終了した。

包含層の精査は道路部分の調査や包含層の機械掘削と並行して1月5日から開始された。北側の斜面部分から各包含層の精査を始め、出土遺物については第4系座標軸に則った $4 \times 4\text{ m}$ グリッドで取上げた。また遺物の保存状態が良好なものについては出土状態を写真撮影し、出土地点を座標で記録して取上げを行った。包含層下には斜面部を中心に二十数個の遺構を検出した。遺構の精査は1月22日からを行い、緩斜面部の遺構は特に保存状態が良く、貯蔵穴内に残されていた多くの堅果類を資料として取り上げた。1月29日には1面北半の調査を終了し、写真撮影を行った。1面の遺構測量と標高図作成終了後、2面の機械包含層掘削、包含層精査、遺構精査を順次を行い、完掘状態の写真撮影を2月25日に行った。その間1月28日には南端部のSR1を検出し、引き続き流路内の精査を行う。下層のSR2の完掘は2月13日であった。

2面の完掘状態の写真撮影後、遺構平面図、調査区標高図を作成し、3月1日に1F区の調査を終了する。

3. 畠序

調査区は道路部分と水路部分に大きく分かれる。道路部分では表土下が即ち地山であり、包含層の残存は平面的には極一部分である。このことから堆積状況を示す良好な断面は存在しない。また、水路部分は上位を水路建設当時に破壊されており、辛うじて斜面部を中心とした堆積環境と調査区南端部の南壁で流路の影響を受けていない断面を記録することができた。

道路部分

包含層

先述の様に1C区に繋がる南斜面の地山上乃至灰白色粘土層上に残されていたものであり、色調は黒色から黒褐色を呈する。1F区水路部分や1A区の2面造構直上に存在した黒色土と共に通するであろう。

水路部分

基本層準として図示したのは水路下の斜面部を縦断するベルト断面と調査区南壁断面である。

III B層（1）

調査区には一見しただけでは区別の付かない層厚の厚い灰白色を呈した粘土・シルト質の堆積層が存在する。III B層はこの分厚い層の比較的の下位に存在しており、本格的に遺物の出土が見られたのはこの層以下である。また、斜面部では上位に存在した水路の破壊を受けている。出土遺物は弥生前期の土器を中心に石器・石製品などである。

III A層（2～6）

III B層と同じく灰白色系の厚い粘土・シルト質層の一部構成層である。分層が可能であり、特に斜面部では地山崩壊小角礫を含むことで細分される。調査時にはIII A- 1からIII A- 3と大きく3層に分けて出土した弥生前期土器や石器、木製品、獸骨等の遺物取上げに使用した。

IV C層（7）

淡褐色の粘土層である。III A層以上が淡色系の色調を呈するのに対して、IV C層以下少なくともIV A層迄は暗色系の色調を呈する。乾燥環境がやや優勢と成り土壤化が進行した可能性がある。斜面部を少し下った箇所から検出され水平堆積に近い特徴を持つ。縄文晚期から弥生前期土器や石器、木製品、獸骨等を出土する。

IV E層（8）

斜面部を中心で確認された堆積層であり、傾斜の緩やかと成る箇所から南では検出されなかった。縄文晚期から弥生前期土器や石器、獸骨等出土する。

IV A層（9）

黒色を呈し、斜面部から南の調査区全域に渡ってやや色調を暗灰色に変化させながら派生する。緩斜面で検出された貯蔵穴群（どんぐりピット）の多くは、A層下から検出された。出土遺物は縄文晚期土器を主とし、弥生前期土器、他に石器や獸骨を伴う。

表25 1F区層序表

中央ベルトセクション層序

層	内容	色調	その他
1	粘土質。縮まりあり。炭化物を少し含む。所々に小型の植物遺体や青色崩壊角礫少量含む。	灰白色 N(7/0)	III B層に相当する。
2	粘性あり。縮まりあり。小から中型の炭化物を多く含む。中・大型の植物遺体を含む。青色崩壊角礫を多く含む。	灰色 N(5/0)	III A- 3層に相当する。
3	粘土質。縮まりあり。炭化物を少し含む。中型の植物遺体や青色崩壊角礫を少し含む。	灰色 10Y(6/1)	III A- 2層の構成層。
4	粘土質。縮まりあり。炭化物を極少量含む。	灰白色 7.5Y(7/1)	III A- 2層の構成層。
5	粘土質。縮まりあり。炭化物を極少量含む。大型の植物遺体を少し含む。	黄灰色 2.5Y(5/1)	III A- 2層の構成層。
5'	粘性あり。縮まりあり。炭化物を含む。腐植・青色崩壊角礫を含む。	灰色 10Y(4/1)	
6	粘土質。縮まりあり。腐植を多く含む。青色崩壊角礫を少し含む。	黄灰色 2.5Y(4/1)	III A- 1層に相当する。
7	粘土質。縮まりあり。	褐色 10YR(4/1)	IV C層に相当する。
8	粘土質。縮まりあり。炭化物を多く含む。青色崩壊角礫を多く含む。	灰色 5Y(4/1)	IV B層に相当する。
9	粘土質。縮まりあり。青色崩壊角礫を含む。	黑色 2.5Y(2/1)	IV A層に相当する。
10	粘土質。縮まりあり。	灰白色 10Y(7/1)	
11	粘土質。縮まりあり。青色崩壊角礫を含む。中型の植物遺体や青色崩壊角礫を含む。	灰色 5Y(5/1)	
11'	粘土質。縮まりあり。	灰白色 10Y(7/1)	
12	5層に灰色粘土(3層)が混入する。	黄灰色 2.5Y(5/1)	
13	3層に黃灰色粘土(5層)が混入する。	灰色 10Y(6/1)	
14	15層に黃灰色粘土(6層)が混入する。	褐色 10YR(5/1)	
15	粘性あり。縮まりあり。炭化物を多く含む。青色崩壊角礫を多く含む。	褐色 10YR(5/1)	
16	粘性あり。縮まりあり。炭化物を多く含む。小・中型の植物遺体を含む。	黑褐色 5YR(3/1)	
17	粘性あり。縮まりあり。炭化物を多く含む。青色崩壊角礫を多く含む。	褐色 10YR(6/1)	
18	17層に灰色粘土(8層)が混入する。	褐色 10YR(6/1)	
19	16層に黄色粘土(6層)が混入する。	褐色 10YR(6/1)	

南壁セクション層序

層	内容	色調	その他
1	粘性なし。縮まりあり。	暗褐色	
2	粘性あり。縮まりあり。層上位は褐色斑を含み、緑色を帯びる。	灰色 10Y(7/2)-N(6/0)	III層を構成する。
3	粘性あり。縮まりあり。緑色を帯びる。	灰色 10BG(7/1)-5GY(7/1)	III層を構成する。
4	粘性あり。縮まりあり。層の上位は明るく、下位に向って暗色を帯びる。炭化物を混入する。	青灰色 10BG(6/1)	III層を構成する。
5	粘性ややあり。縮まりあり。腐植を少量混入する。	褐色 10YG(5/1)	IV C層を構成する。
6	粘土質。縮まりあり。灰白色粘土を混入する。	灰色 N(6/0)	IV C層を構成する。
7	粘土質。縮まりあり。灰白色粘土を混入する。	暗青灰色 5PB(4/1)	IV C層を構成する。

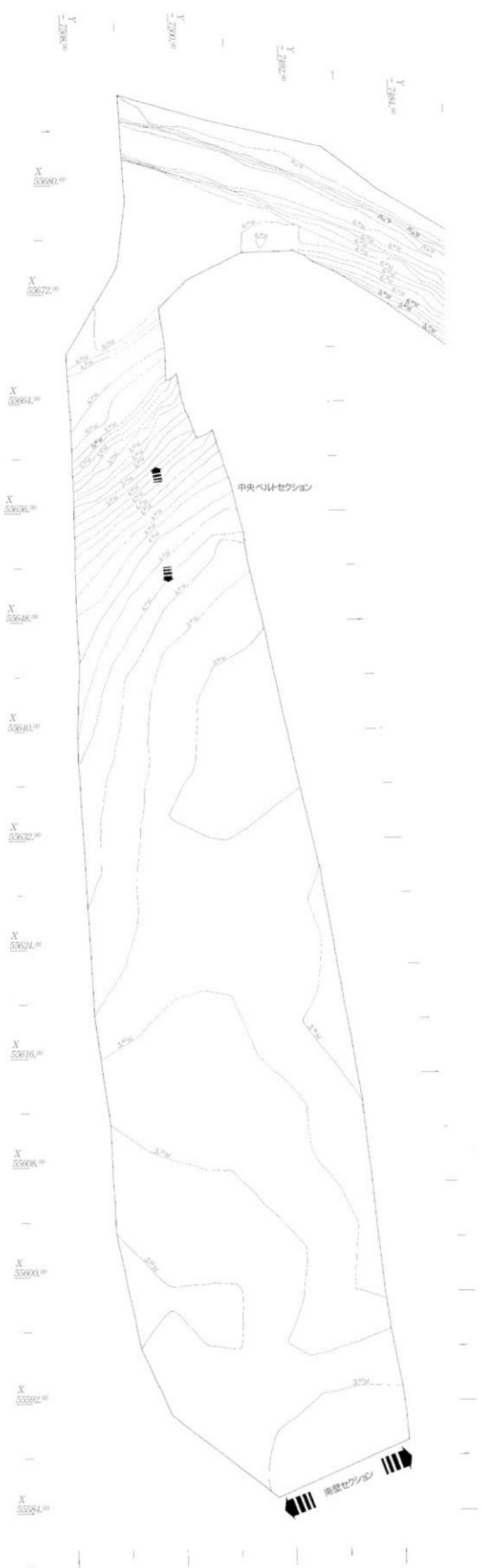
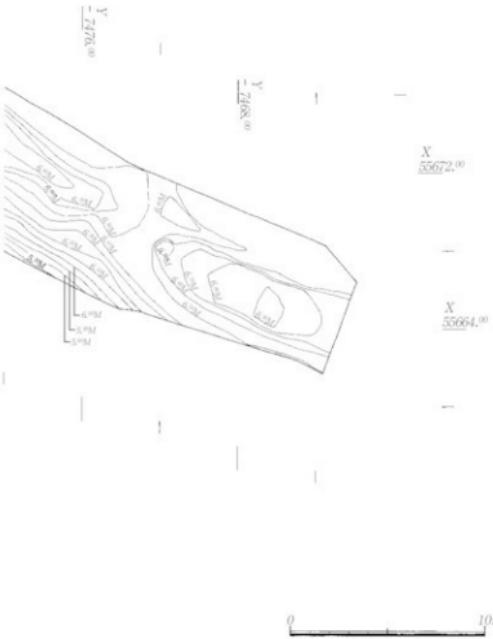
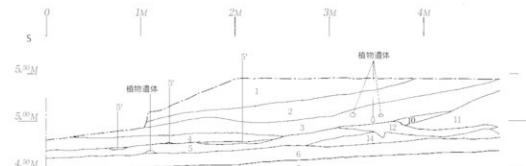
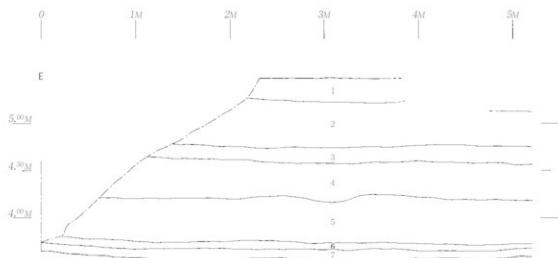


Fig.149 1F区全体図



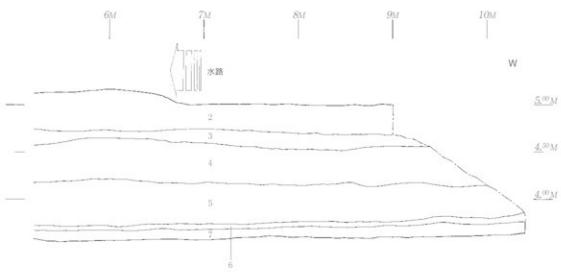
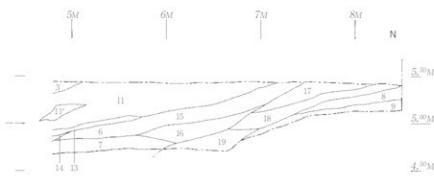


中央ベルトセクション



南壁セクション

Fig.150 中央ベルトセクション図・南壁セクション図



0 1m





Fig.151 1F区遺構配置図(2面)

Fig152 1F構造配置図(1面)

4. 遺構

検出された遺構は道路部分の南側斜面でピットが約190個、同様な性格を持つものと考えられるピットが水路部分では約85個存在した。水路部分の1面では上位の急傾斜部に規模の小さな比較的浅いピットが26個、また下位には貯蔵穴群が存在している。水路部分の南端には流跡が存在し、他に道路部分の北側には尾根の削平後施されたと考えられる方形又は不整形形を呈した性格不明土坑が6基存在する。以下では貯蔵穴と流跡に就いて述べる。

貯蔵穴群

水路部分1面の斜面部には大小の遺構群が存在している。このうち斜面を幾らか下った緩斜面部に堅果類を貯蔵したと思われるピット群が約16個が存在する。隣接して流跡遺構が存在しないことから尾根斜面からの湧水を利用し貯蔵穴として機能させていたものであろうか。遺構の規模は径30cm程度のものも存在するが、概ね径60cmを超えるものであり、中には1mに達するものも少なくない。深さは60cmから90cmが主であるが、中には浅めのものも存在している。蓋等の構造や痕跡は見受けられない。形態は平面形が円形から梢円形を呈するものが多く、断面形は概ね筒状又は鍋状や鉢状を呈しているが、中には遺構壁の一部が外側に大きく張出すものも見られた。

これらの遺構の多くはA層を除去した段階で検出された。このうち、P210とP209-1・P209-2・P209-3やP214とP215・P223は検出状態では二つの大きな縛まり、漠然とした水溜まり状の輪郭をもって捉えられた。また2個のピットP224とP225に至っては上層では検出できなかたものであり、下層での検出となった。幾つかの生活面がA層の前後に存在した可能性が在る。

主なピットの検出埋土はP209が灰褐色土、P210が黒灰褐色土、P211が黒灰褐色土、P213が黒灰褐色土、P214とP215が灰褐色土、P216が黒灰褐色土、P220が黒灰褐色土、P223が灰褐色土及び黒灰褐色土であり、埋積過程で同じ様な灰白色の粘土層を遺構の中位に挟み込んだものが、P210、P213、P214、P220、P223に見られる。これらの下層には堅果類と共に灰褐色土が埋土として存在する。

出土遺物としては堅果類は固よりP209-2から浅鉢1点、P210から深鉢2点、P214から深鉢5点、P215から深鉢1点、P220から底部1点の土器とP217から獸骨がある。この内図示できるものはP215からの深鉢口縁(Fig.161-4)とP220からの深鉢底部(Fig.161-5)である。

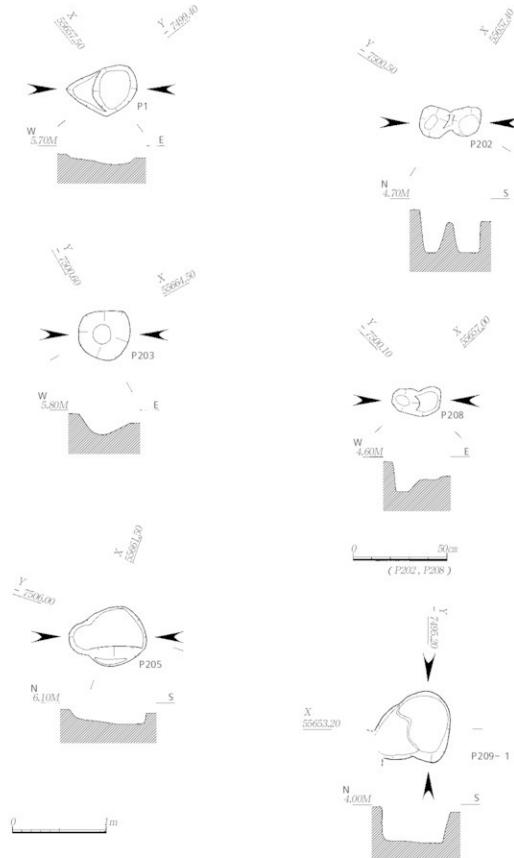


Fig.153 1F区遺構平面図1

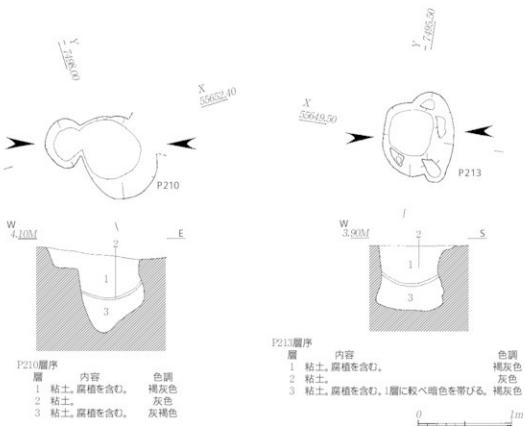
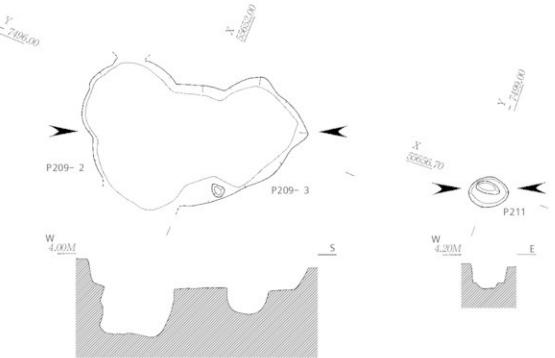


Fig.154 1F区遺構平面図 2

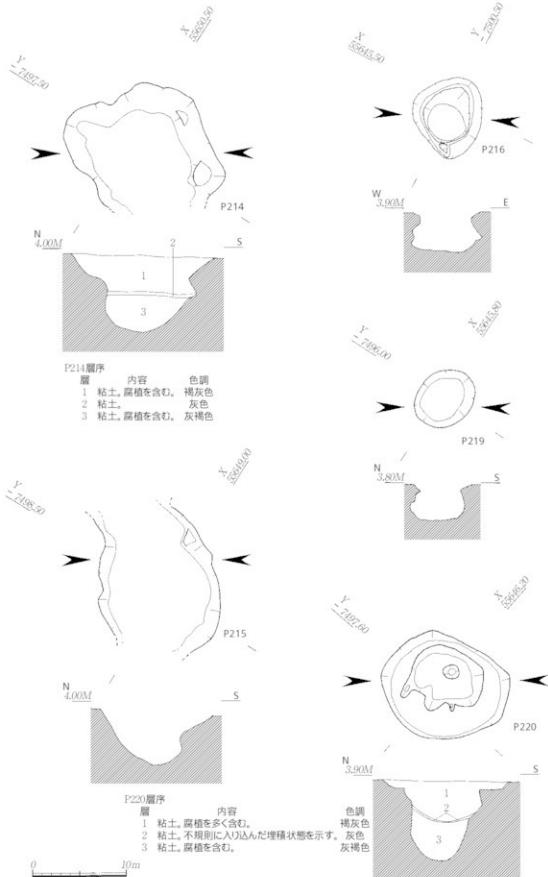


Fig.155 1F区遺構平面図 3

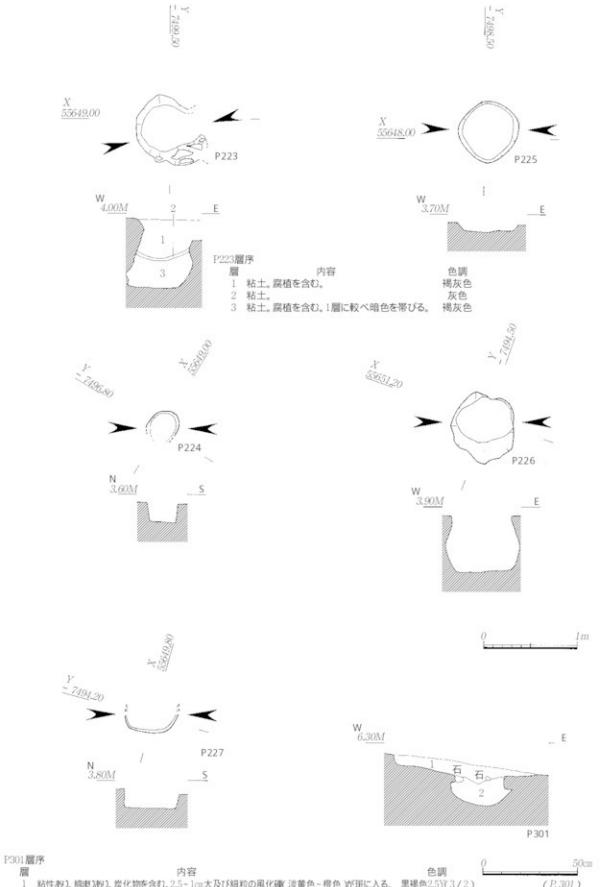


Fig. 156 1E区遺構平面図 4

SR 1 (Fig.157・158)

SR 1は水路部分の南端で検出された流路跡であり、弥生期の流路跡SR 2と時期は明確に出来ないがSR 1に先行するであろう流路跡の一部と部分的に切り合いを持つ。調査区南壁西寄りから東壁の南部に向かって流れているものと考えられ、南壁際では小さなクランク部が存在する。検出幅は約5mであり、検出面からの深さは1.2mから1.7mである。流路壁は概ね急傾斜であり、流路底は緩い凹面を成す。南壁部分にはやや深い落ち込みが存在し、東方へも緩やかに下る。流路底の西壁寄りには数十本の小さな杭（角杭、半截杭、丸杭）が打たれている。先述の弥生時代の流路SR 2とは東壁際で切り合う。時期を明確にし難い流路は南壁際で肩部のみ検出されており、SR 1の左岸に連なる方向性をもつことから、一時期の河道変化に伴うものであろうか。出土遺物は終末期を中心とする弥生土器、土師器、石包丁、叩石と杭や農具？などの木製品、他に植物遺体などである。この内図示可能な遺物は壺（181・182・197）、甕（183～191・198・199）、鉢（192～194）、高杯（195・196）、石包丁（200・201）と木製品（241～248）である。1D区ではこの流路に繋がるであろう2本の流路跡が検出されており、一つは弥生終末期から古墳時代前期、もう一つは奈良時代から平安時代のものとされている。

SR 2 (Fig.159・160)

SR 2は東壁際でSR 1と切り合いを持つ。検出標高が可成り低い4.5m付近であり、調査区全域に渡って広く堆積する分厚い灰白色土層（粘土～シルト質）の下位であることから、弥生期に形成された流路又は河道の一部であろう。流路幅は2.5mであり、深さは35cmを測る。流路底は緩やかな凹面であり、壁は緩く立ち上がる。流路方向に沿って中型の植物遺体が出土しており、SR 1との切り合い部分手前には直交する杭列が存在する。またSR 2の一部右岸に掛かる杭列も存在している。この杭列はSR 2の流路方向とやや斜めに交わり、一本当たりは長さ1mを超える規模を持つものである。角材の先端に加工を加えただけのやや粗雑な造りであり、十数本が打ち込まれていた。

出土遺物は弥生前期土器胴部破片が2点であり、図示できるものは先のSR 2に掛かる杭（238～340）である。

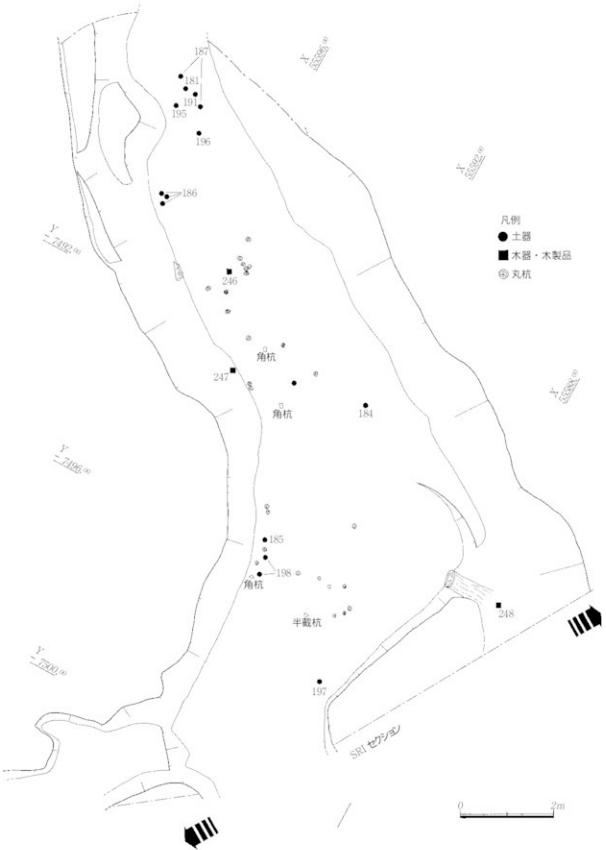


Fig.157 1F区遺構平面図5 (SR1)

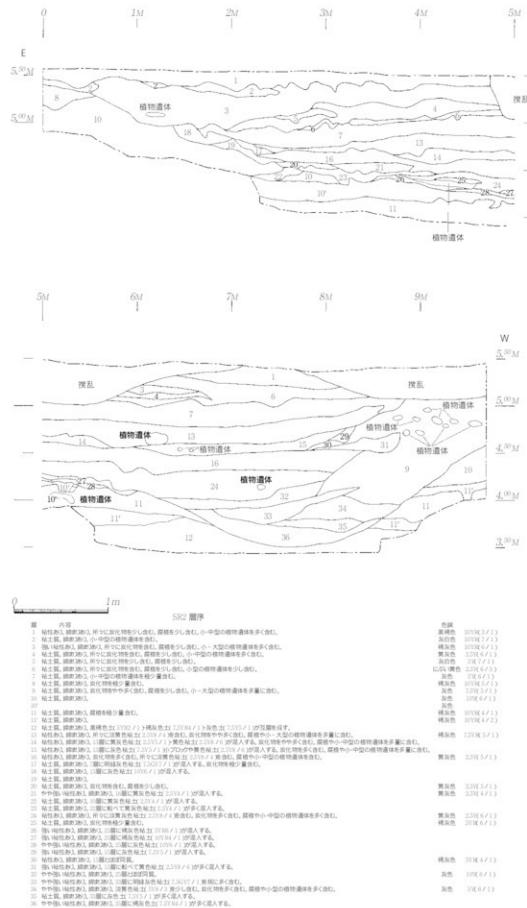


Fig.158 SR1セクション図

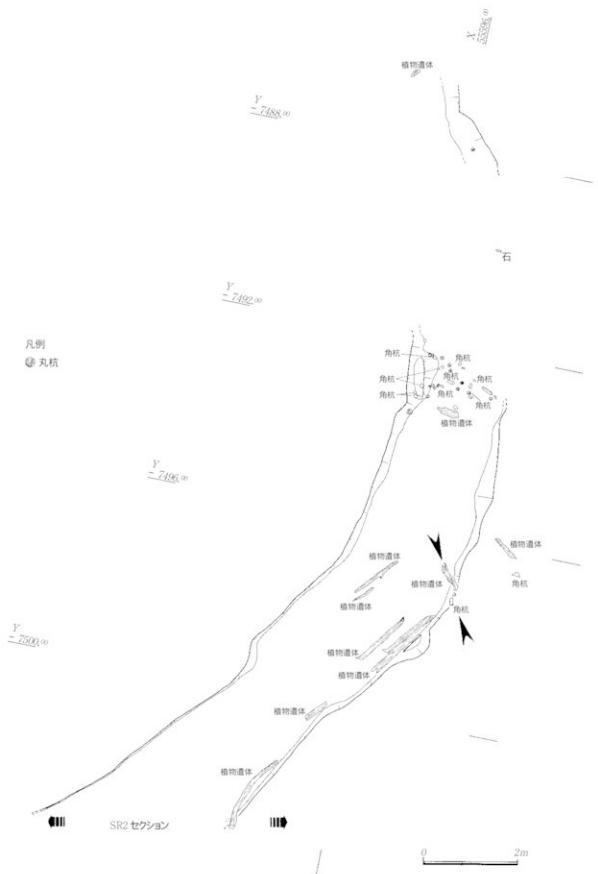
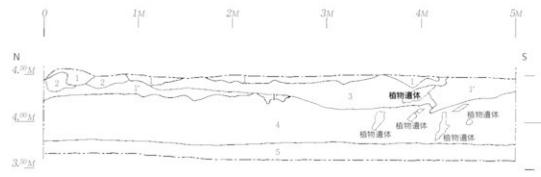


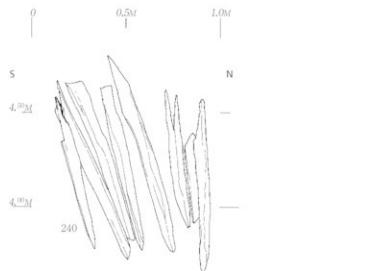
Fig.159 1F区遺構平面図6 (SR2)



SR2 セクション図

0 1m

層	内容	色調	その他
1	粘土、細かい砂。褐色土を斑に多く含む。	灰色 7.5N(6/1)	III層を構成する。
2'	粘性あり、崩れ易い。	灰白色	
2	粘土、細かい砂。小・中型の植物遺体や稀に大型の植物遺体を含む。	褐色 10YR(6/1)	
3	粘土、灰色粘土 7.5Y6/1 と褐色粘土 10YR6/1 が混ざる。		
4	粘土、細かい砂。小・中型の植物遺体や稀に大型の植物遺体を含む。	褐色 10YR(4/1)	IVC層に相当?
5	粘土、細かい砂。所々に灰白色粘土 5Y7/1 斑斑に含む。	灰色 5Y(4/1)	



SR2 桁列立面図

0 20cm

Fig.160 SR2 セクション図他

5. 遺物

遺構出土の遺物 (Fig.161・181・182・190～192)

①土器・土製品

P1

深鉢1点、甕1点、土製円盤1点、細片24点が出土しており、このうち図示できるものは甕の口縁(2)である。

P202

骨片や深鉢1点、粗製胎土破片8点が出土しており、このうち図示できるのは甕の口縁(1)である。

P208

植物遺体や骨片と深鉢1点、細片5点が出土しており、このうち図示できるのは深鉢の口縁(3)である。

P215

貯蔵穴群の一つであり、堅果類、植物遺体と共に深鉢の口縁1点(4)が出土している。

P220

貯蔵穴群の一つであり、堅果類と深鉢の底部1点(5)が出土している。

ビット群には他に細片等を出土したものが存在しており、詳細は計測表()を参照されたい。

SR1

194点の土器が出土しており、そのうち甕は12点、浅鉢は4点、深鉢は2点、甕は25点、高杯は2点であり、縄文晩期から弥生前期の遺物も含まれているが多くは弥生終末期から古墳前期のものである。ここからの出土遺物で図示したものは181～199である。

SR2

弥生前期の壺破片2点が出土しているが、図示できるものは無い。

②石器・石製品

SR1

石包丁が2点出土している。200は磨製で流路底から出土しており、201は打製で埋積層のやや高位から出土した。

③木器・木製品

SR1

建築部材から小型の箆状木製品に至る大小の木器・木製品が出土している。図示したのは241から248である。

SR2

238から240を図示した。何れもSR2右岸に掛かるよう施された杭列使用のものである。

包含層からの遺物

出土遺物は縄文土器、弥生土器、石斧、砥石、叩石の他5,065点の土器が出土しており、細片を除くと縄文土器は1,245点、弥生土器は878点である。



Fig.161 1F区出土遺物 1

○ IVA層出土遺物

①土器・土製品 (Fig.162 ~ 165)

321点が出土している。このうち細片を除くと縄文土器は118点であり、弥生土器は16点である。

この中で図示できるものは6から24の19点である。

○ IVB層出土遺物

①土器・土製品 (Fig.166 ~ 167・183)

475点が出土している。このうち細片を除くと縄文土器は269点であり、弥生土器は54点である。

この中で図示したものは25から45の21点である。

②石器・石製品

202の石斧を図示した。

○ IVC層出土遺物

①土器・土製品 (Fig.168 ~ 170・183・185 ~ 187)

710点が出土している。このうち細片を除くと縄文土器は269点であり、弥生土器は99点である。

この中で図示したものは46から85の40点である。

②石器・石製品

3点を図示した。203は石斧、205は砥石、206は石錐である。

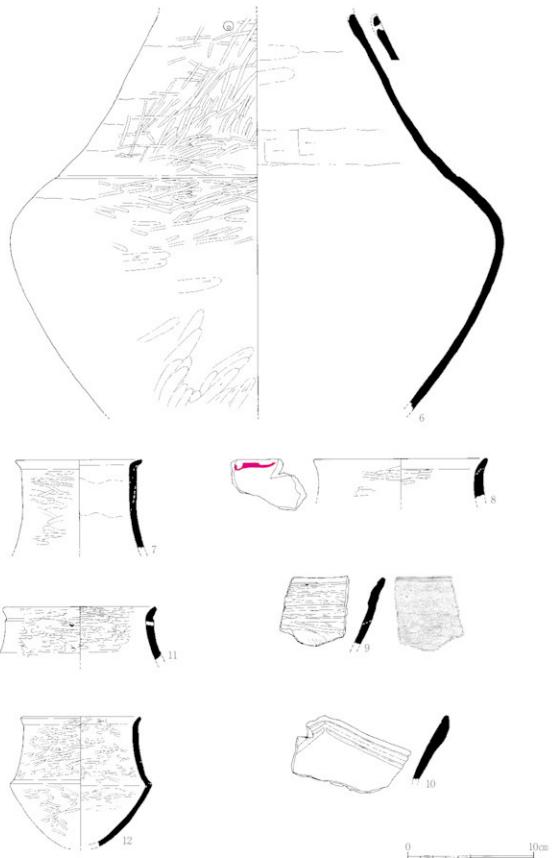
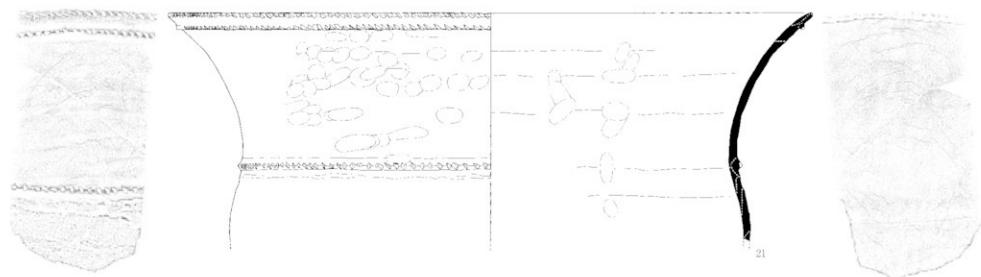


Fig.162 1F区出土遺物2



Fig.163 1F区出土遺物 3



0 10cm

Fig.164 1F区出土遺物 4

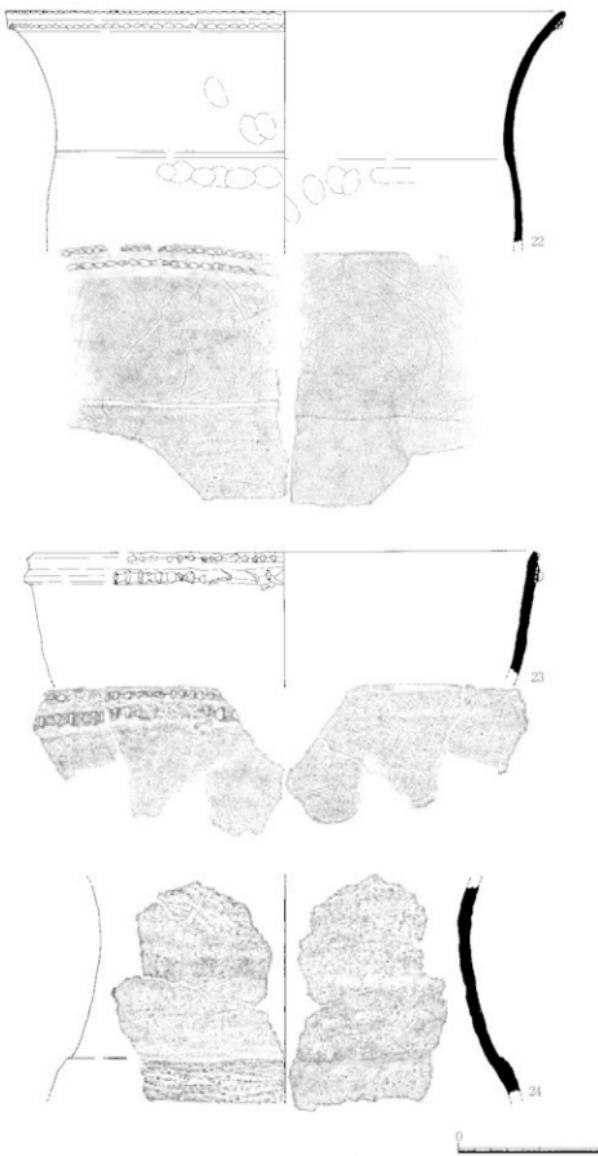


Fig.165 1F区出土遺物5

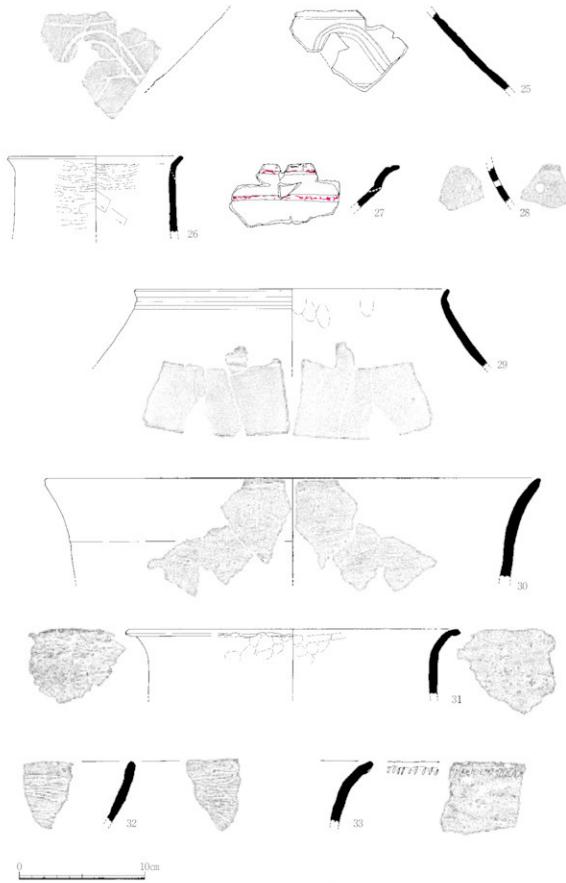


Fig.166 1F区出土遺物 6

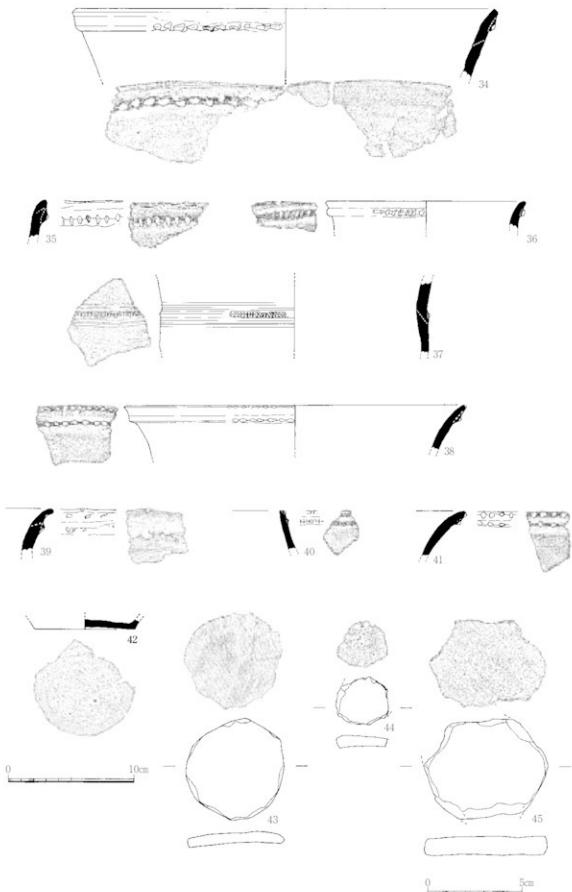


Fig.167 1F区出土遺物 7

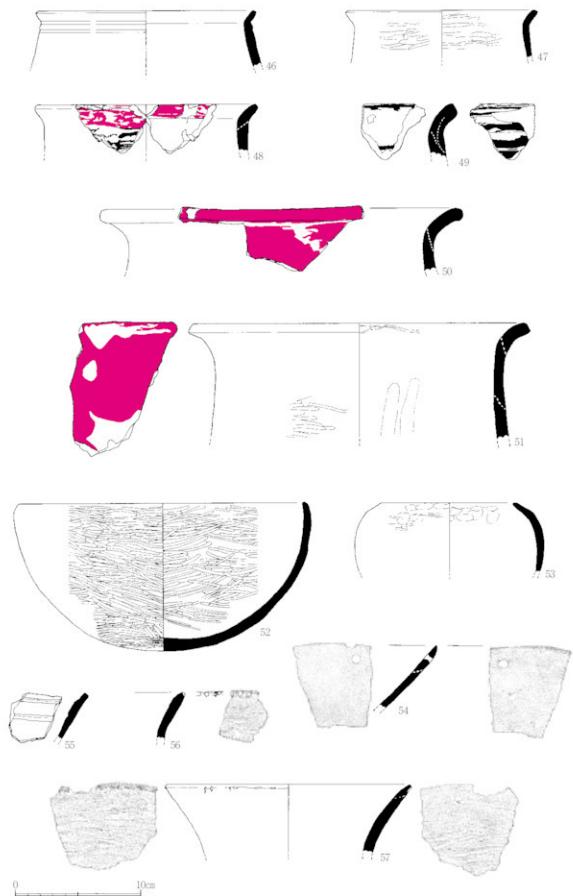


Fig.168 1F区出土遺物 8

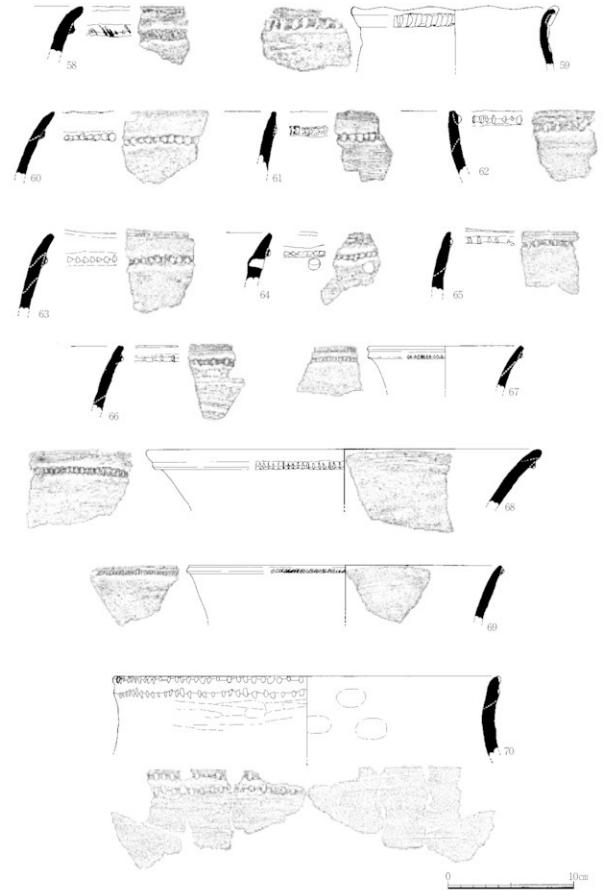


Fig.169 1F区出土遺物 9

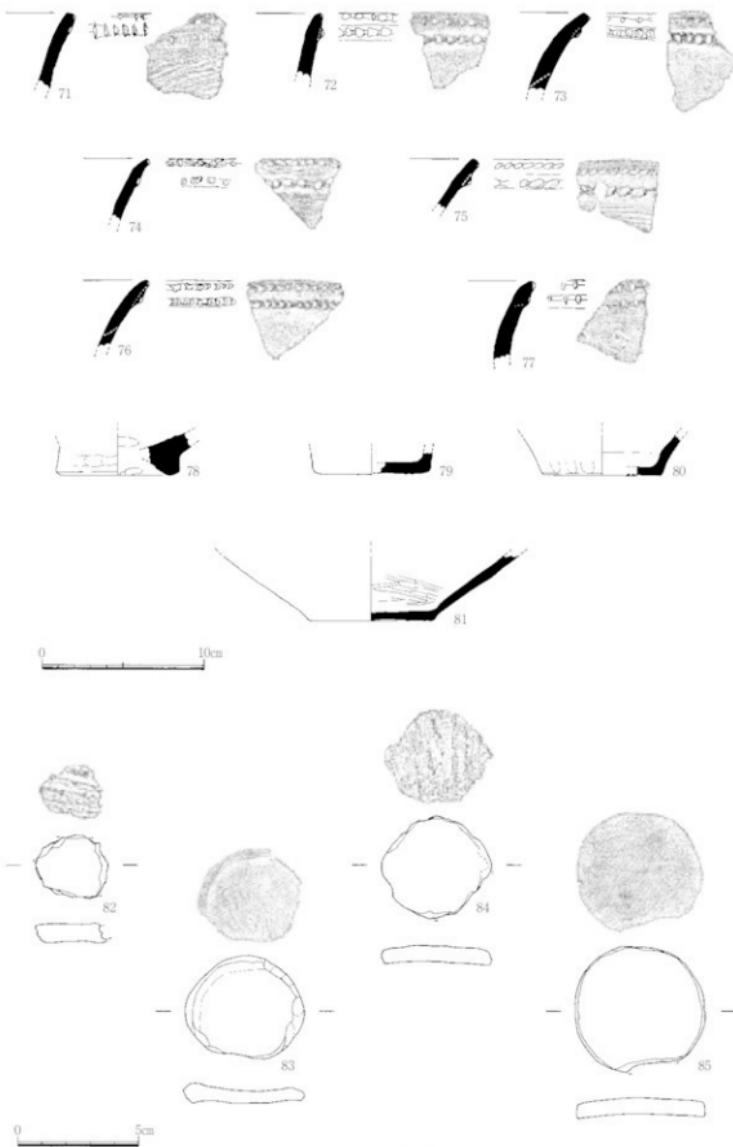


Fig.170 1F区出土遺物 10

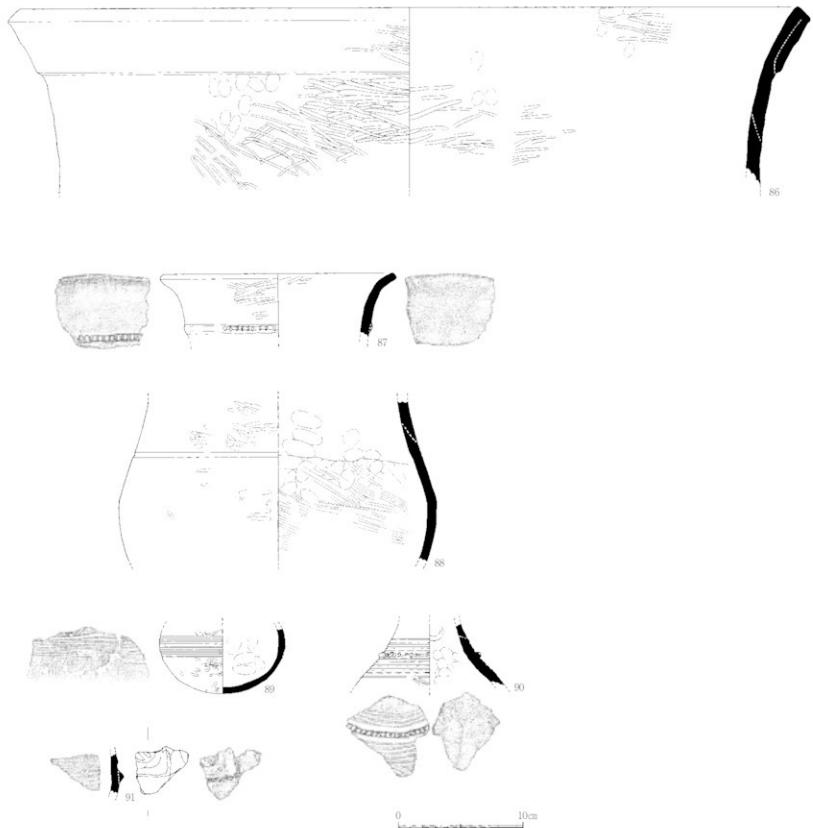


Fig.171 1F区出土遺物 11

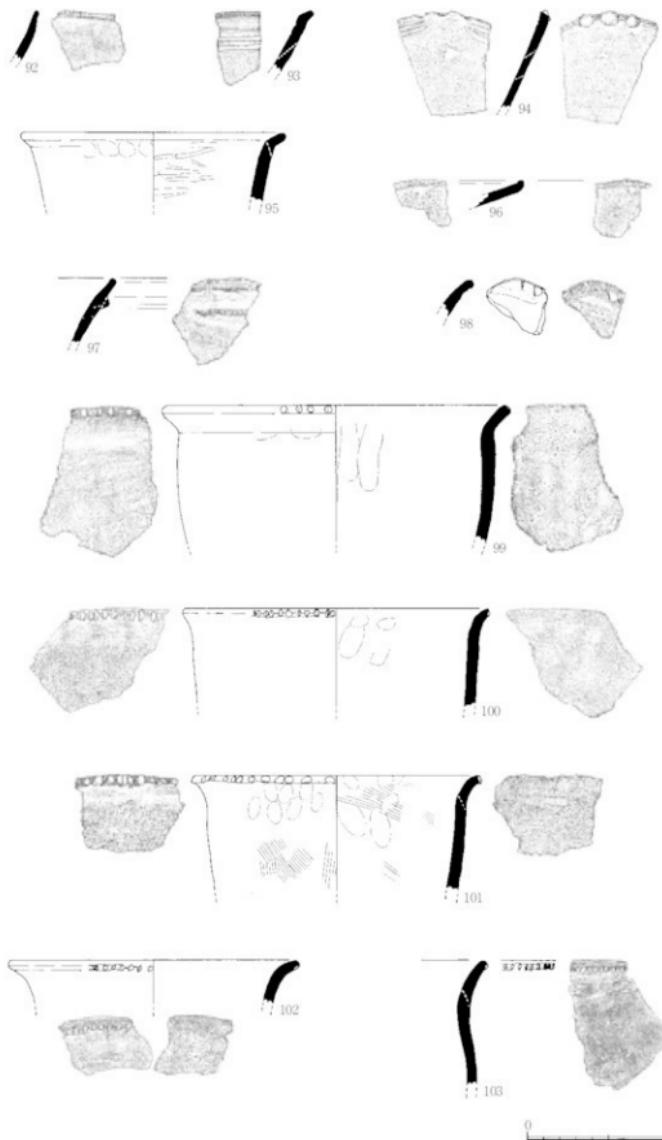


Fig.172 1F区出土遺物 12

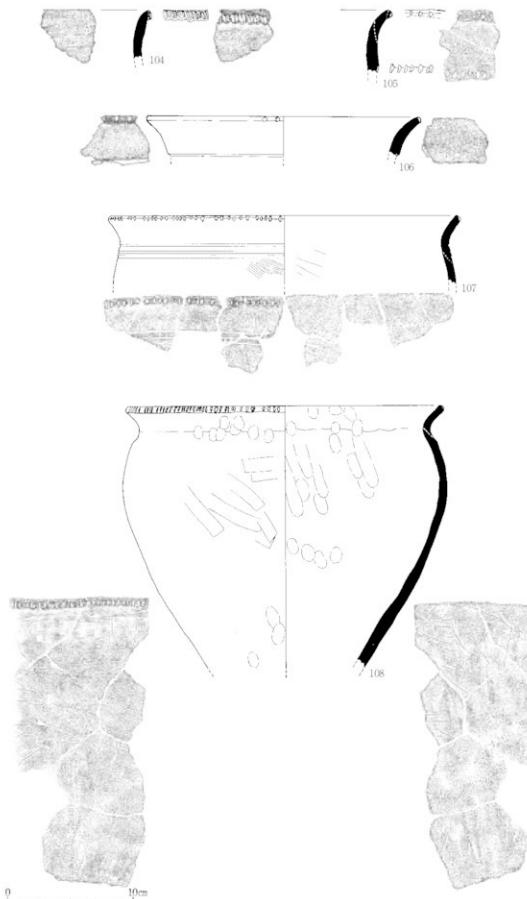


Fig.173 1F区出土遺物 13

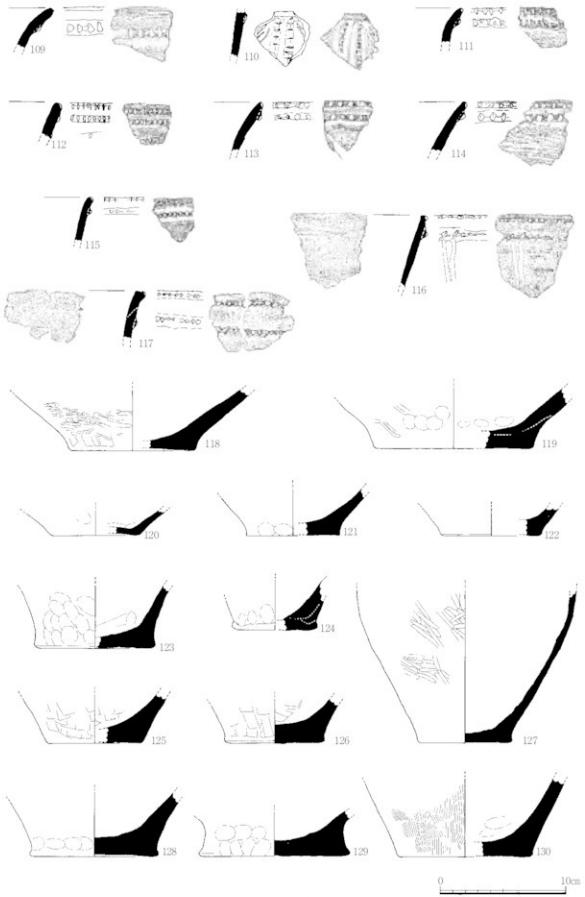


Fig.174 1F区出土遺物 14

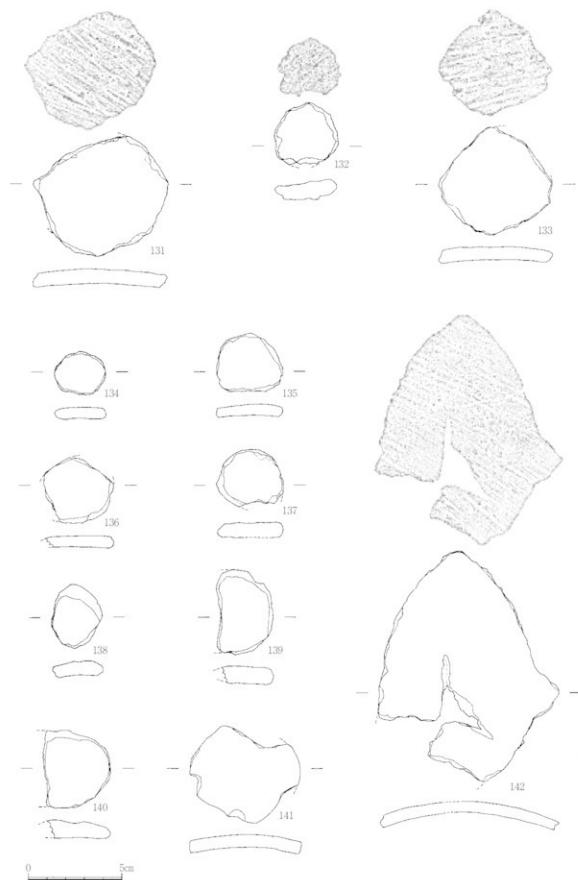


Fig.175 1F区出土遺物 15

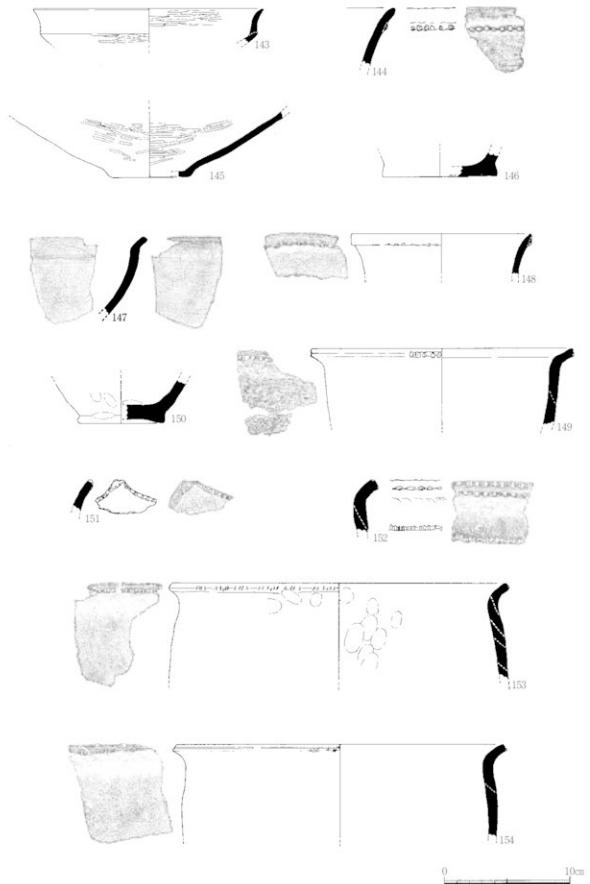


Fig.176 1F区出土遗物 16



Fig.177 1F区出土遺物 17

①木器・木製品

9点を図示した。212・213は箸状の小型木製品、215は鍔の柄装着部か。217は石斧の柄、218は容器の蓋か。221は組合せ鞆。222は膝柄。

○ IIIA層・IIIA- 1~3層出土遺物 (Fig.171~177・183・184・188・189)

②土器・土製品

2,539点が出土している。このうち細片を除くと縄文土器は507点であり、弥生土器は445点である。この中で図示できるものはIII A層の86から142の57点とIIIA- 1~3層の143から158の16点である。

③石器・石製品

図示したのは石斧1点(204)、叩石3点(209~211)、加工痕のある剥片2点(207・208)である。

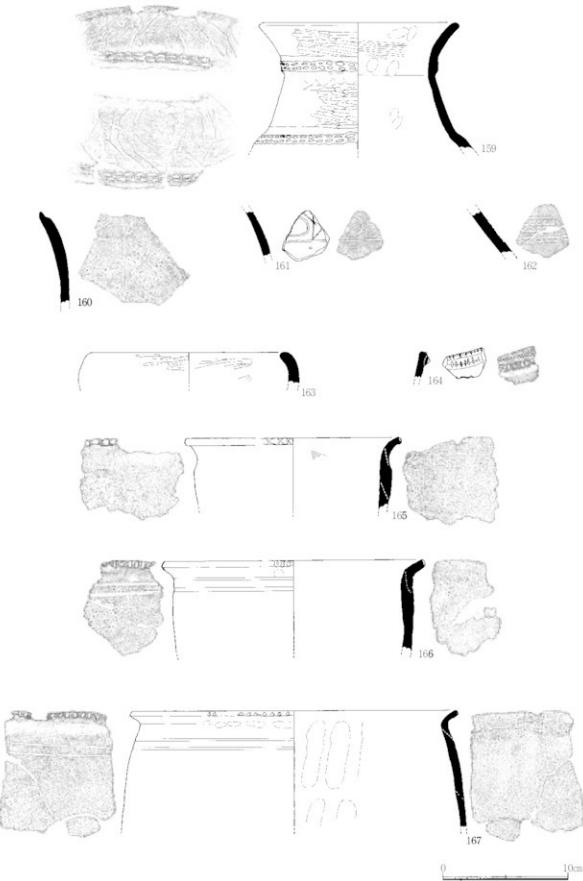
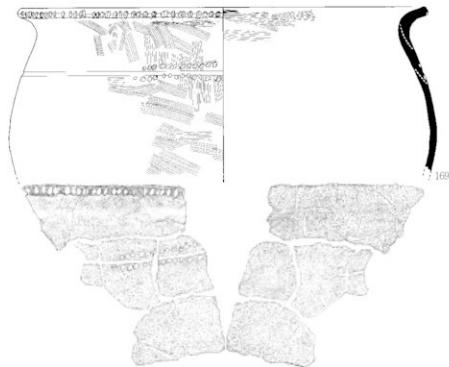
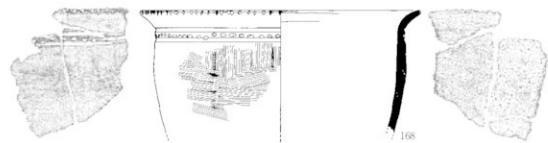


Fig.178 1F区出土遺物 18



0 10cm

Fig.179 1F区出土遺物 19

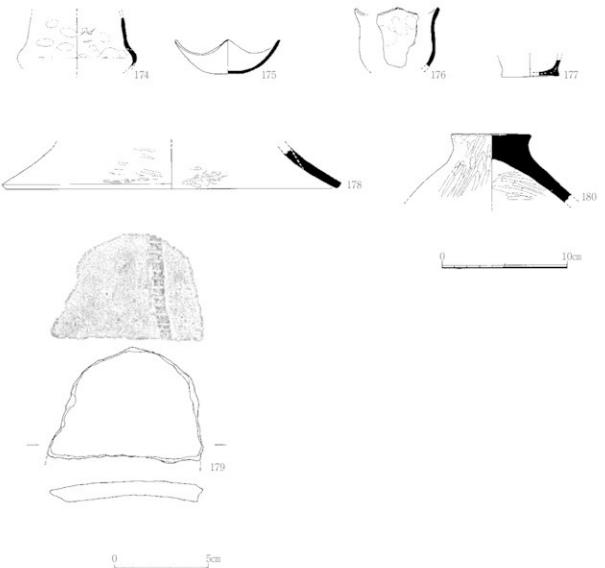


Fig.180 1F区出土遺物 20

③木器・木製品

図示したのは11点である。223はえぶりか。224・225は農工具の一部、226・228は蓋と考えられる。

- IIIB層出土遺物 (Fig.178~180)

④土器・土製品

800点が出土している。このうち細片を除くと縄文土器は49点であり、弥生土器は231点である。
この中で図示できるものは159から179の21点である。

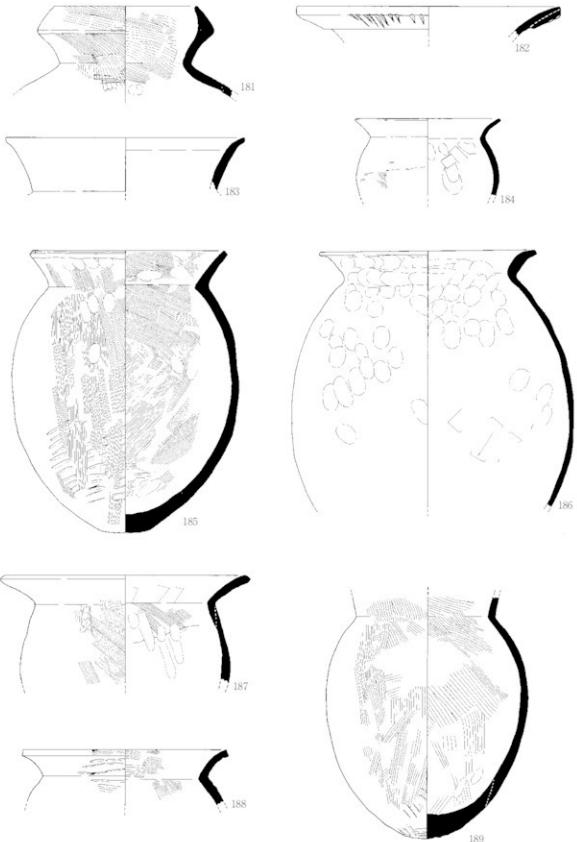


Fig.181 1F区出土遺物 21

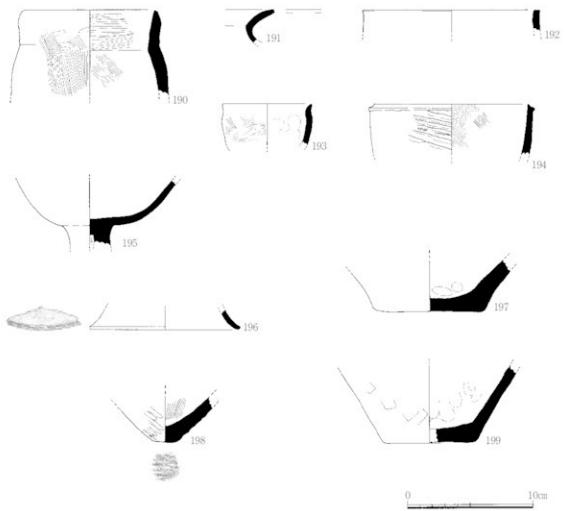
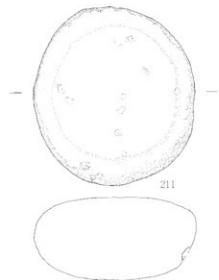
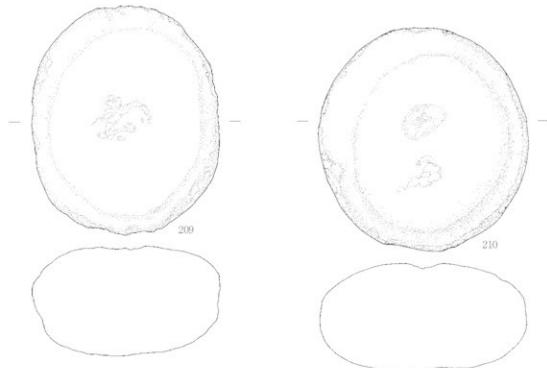


Fig.182 1F区出土遺物 22

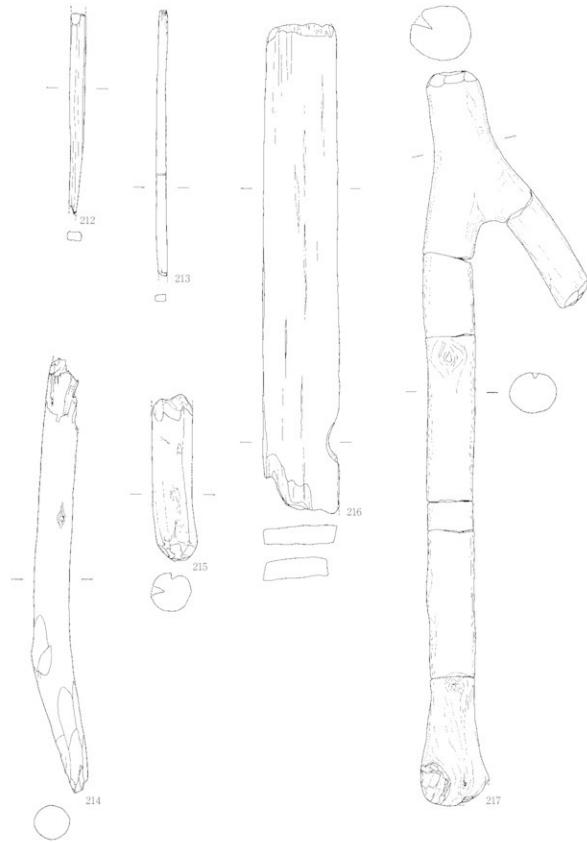


Fig.183 1F区出土遺物 23



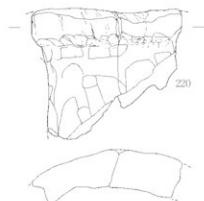
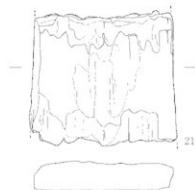
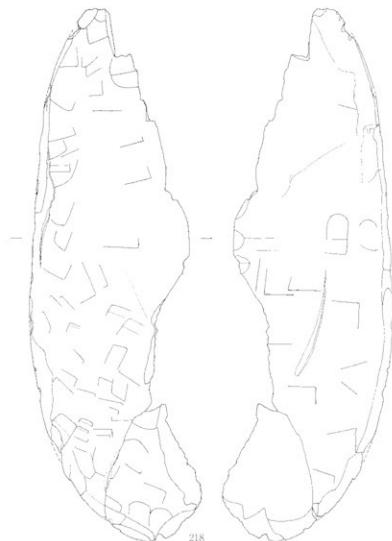
0 10cm

Fig.184 1F区出土遺物 24



0 10cm

Fig.185 1F区出土遺物 25



0 10cm

Fig.186 1F区出土遺物 26

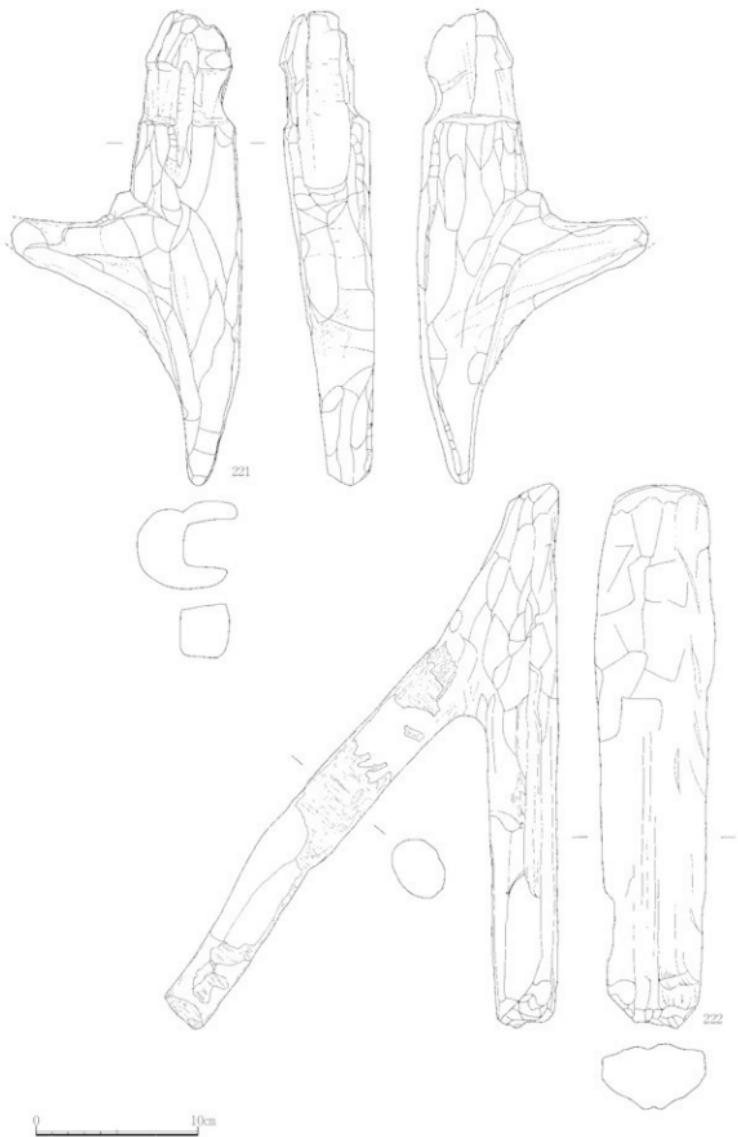


Fig.187 1F区出土遺物 27

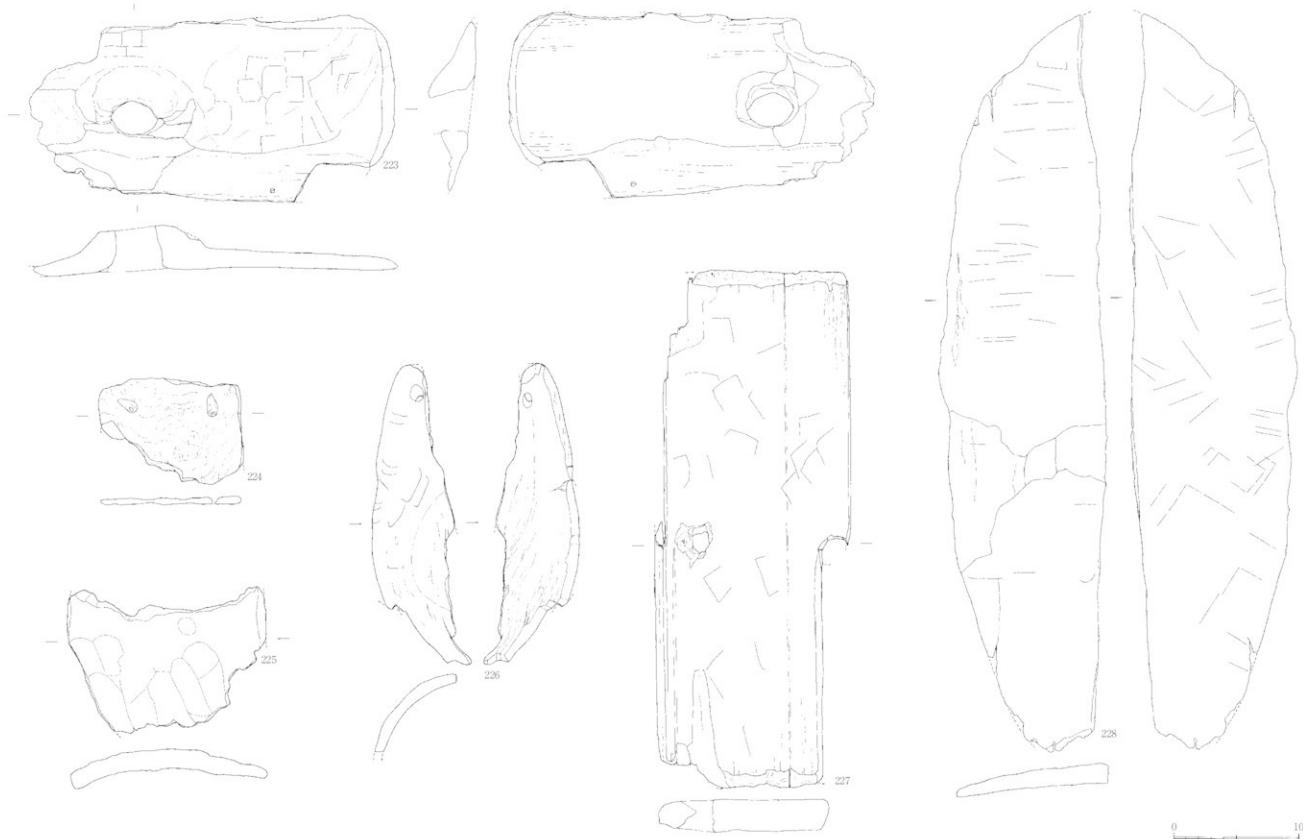


Fig.188 1F区出土遺物 28

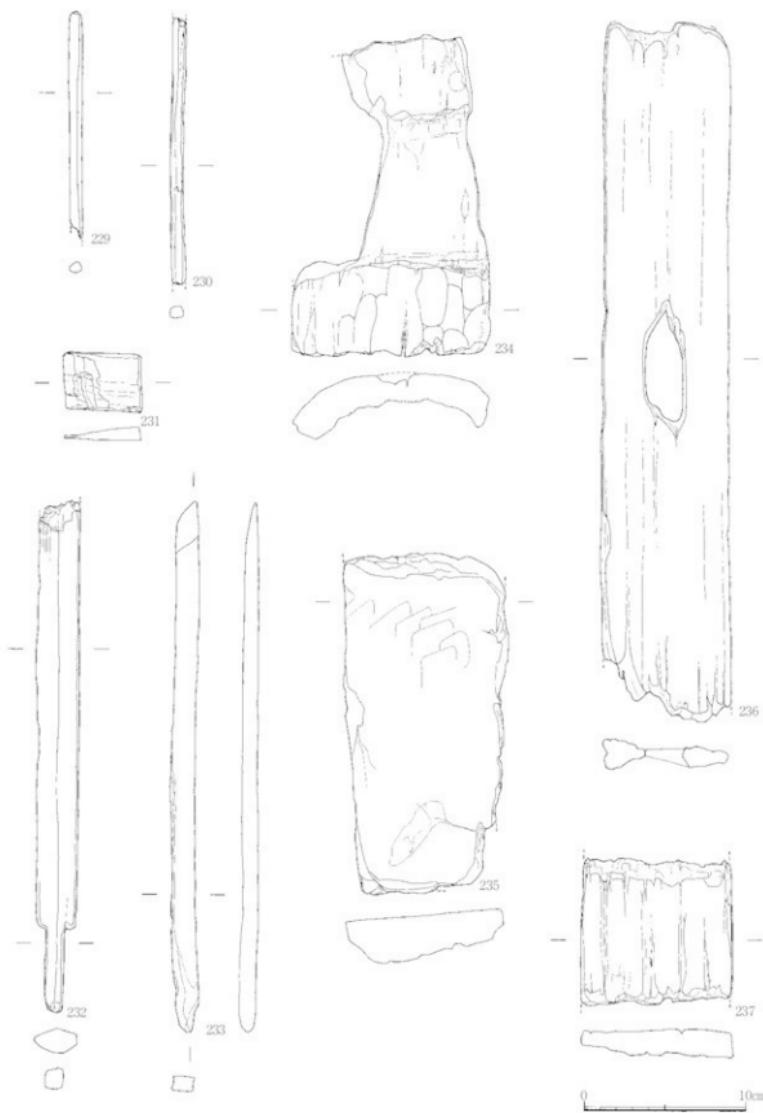


Fig.189 1F区出土遺物 29

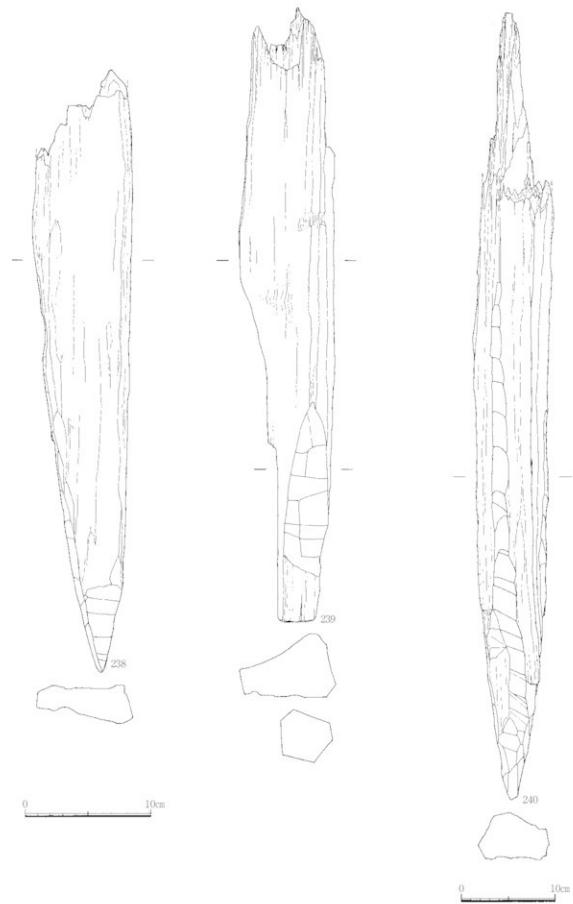


Fig.190 1F区出土遺物 30

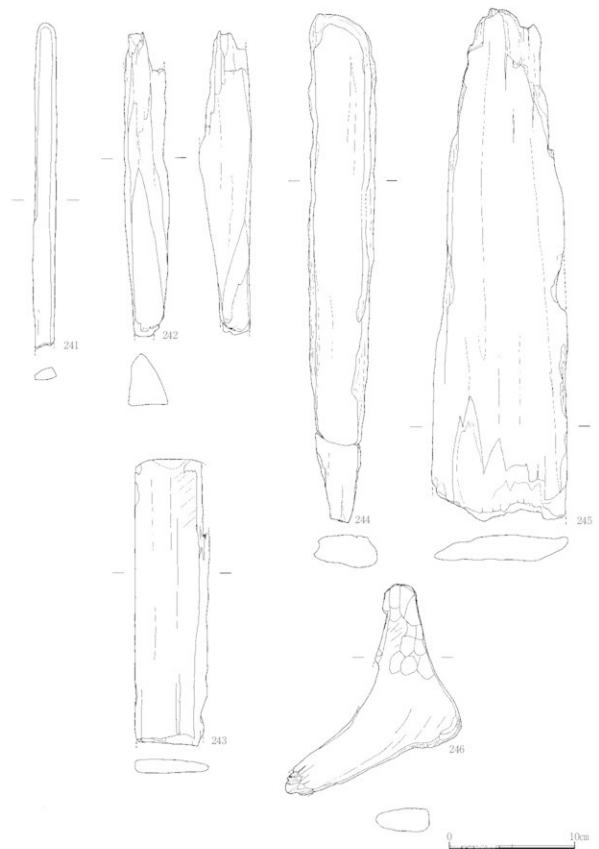


Fig.191 1F区出土遺物 31



Fig.192 1F区出土遺物 32

表26 1F 区構造計測表

P t No.	グリッド B2B-2	標高 5.61	幅 75×54	深さ 10	平面形	出土土器点数	その他	Fig. No.	出土 物
						深井1、腰1、口縁1、円盤1、 縦片23			
P_101	C27-17	6.19	45× 36	25	楕円形	腰1		153 / 161 / 2	
P_102	C27-20	7.09	23× 15	27	楕円形	腰縫2			
P_201	B2B-1	4.58	25× 14	14	不整椭円形	腰縫2(深井1)	骨片を含む。		
P_202	B2B-1	4.64	32× 16	23	椭円形	深井1、腰部6、縦片2	骨片、灰化物を含む。	153 / 161 / 1	
P_203	A27-16	5.74	60× 54	19	不整円形	縦片2		153	
P_204	A27-25	6.05	40× 38	5	不整形				
P_205	A27-25	6.03	87× 62	16	不整椭円形	軸用円盤1		153	
P_206	B2B-1	4.76	16× 12	11	不整椭円形	腰縫3(条縫1)	木片を少し混入する。		
P_207	B2B-1	4.67	30× 24	11	不整形	腰縫3	木片、麻績、骨片を含む。		
P_208	B2B-1	4.55	26× 14	13	椭円形	深井1、縦片5(条縫2)	木片、麻績、骨片を含む。	153 / 161 / 3	
P_209-1	B2B-7	3.98	82× 76	34	不整椭円形?		堅葉類堅葉類(イチガシ、シラカシ)、麻 縫を含む。		
P_209-2	B2B-7	4.00	160× 100	86	楕円形?	浅縫1	堅葉類(イチガシ、シラカシ)、木片を多く含む。		
P_209-3	B2B-12	3.90	102× 90	52	楕円形?		堅葉類(イチガシ、シラカシ)、木片を含む。	154	
P_210	B2B-12	4.00	94× 68	80	椭円形	腰縫2(条縫2)	灰色粘土を間隔に持つ。	154	
P_211	B2B-7	4.10	44× 32	25	椭円形		堅葉類、麻縫を多く含む。	154	
P_212	B2B-1	4.54	15× 12	4	椭円形				
P_213	B2B-13	3.85	92× 75	73	不整椭円形		堅葉類堅葉類(イチガシ、シラカシ)、木 片、麻縫を含む。	154	
P_214	B2B-12	3.96	176× (140)	85	不整椭円形?	腰縫2(条縫2)	灰色粘土を間隔に持つ。堅葉類(イチガ シ、シラカシ)。	155	
P_215	B2B-12	3.93	128× (110)	61	椭円形?	深井1	堅葉類(イチガシ、シラカシ)、木片、麻 縫を含む。	155 / 161 / 4	
P_216	B2B-16	3.86	80× 74	43	不整椭円形		麻縫を含む。	155	
P_217	B2B-1	4.60	47× 30	22	不整形	口縫2(深井1)、縫隙19	堅葉類(イチガシ)、灰垢、木片、麻縫を 含む。		
P_218	B2B-6	4.39	23× 16	10	椭円形	縦片1(条縫)	骨片、木片、麻縫を含む。		
P_219	B2B-17	3.80	68× 56	40	椭円形		堅葉類(イチガシ、シラカシ)	155	
P_220	B2B-17	3.85	138× 114	85	椭円形	底部1	灰色粘土を間隔に持つ。堅葉類(イチガ シ、シラカシ)。	155 / 161 / 5	
P_221	B2B-1	4.43	22× 8	12	不整椭円形				
P_222	B2B-1	4.67	15× 10	8	椭円形				
P_223	B2B-12	3.95	72× 60	75	不整円形		灰色粘土を間隔に持つ。堅葉類(イチガ シ、シラカシ)、木片を含む。	156	
P_224	B2B-12	3.52	30× (27)	22	円形?		堅葉類(イチガシ、シラカシ)	156	
P_225	B2B-7	3.62	直径64	10	円形		堅葉類(シラカシ)	156	
P_226	B2B-13	3.84	77× 68	61	不整円形		堅葉類(イチガシ、シラカシ)	156	
P_227	B2B-13	3.80	56× (20)	30	—		堅葉類(イチガシ、シラカシ)	156	
P_301	A27-25	6.29	127× 97	36	不整椭円形				
P_302	A27-20	6.30	52× 45	11	椭円形	縦片1			

※堅葉類の樹種固定には複数オーラボに委託した結果に基づき行った。

表27 1F区遺物観察表1

表28 1F区遺物観察表2

件番 No.	遺物 名	出土場所 遺跡名	種類	部位	深度 (cm)	測量 (cm)	特徴	表面		色調 名	地土 名	場所
								高さ	幅			
□口内側面が削り出された突起、骨は(半透明質)に覆われており、外側は(半透明質)である。												
167 — 34 7/V	AB-1	萬文土器 深鉢	口縁	33.2	5.4		外側は透明質の状態で、大きさ、外側は(半透明質)、外側は透明質である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
167 — 35 7/V	AB-5	萬文土器 深鉢	口縁	3.0			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)、外側は透明質である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
167 — 36 7/V	AB-12	萬文土器 深鉢	口縁	15.4	2.7		□口内側面が削り出された突起、上下2箇所ある。底は(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
167 — 37 7/V	AB-5	万文土器 深鉢	口縁	5.7	21.3		複数の削り出された突起がある。大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
167 — 38 7/V	AB-10	萬文土器 深鉢	口縁	26.7	3.5		□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
167 — 39 7/V	AB-2	萬文土器 深鉢	口縁	3.4			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
167 — 40 7/V	AB-10	萬文土器 深鉢	口縁	3.1			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
167 — 41 7/V	AB-22	萬文土器 壺	口縁	3.5			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
167 — 42 7/V	AB-22	萬文土器 壺	底部	0.9	7.9	底面	□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
167 — 43 7/V	AB-5	萬文土器 二輪車輪	全周	2.8	2.8	直径	透明質の状態で、表面は(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
167 — 44 7/V	AB-22	萬文土器 二輪車輪	全周	2.7	4.7	直径	透明質の状態で、表面は(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
167 — 45 7/V	AB-22	萬文土器 二輪車輪	全周	4.9	36.8	直径	透明質の状態で、表面は(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	167
168 — 36 7/V	AB-7	萬文土器 壺	口縁	17.0	4.0		□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 47 7/V	AB-1	萬文土器 壺	口縁	14.7	3.8		□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 48 7/V	AB-7	萬文土器 壺	口縁	17.4	4.7		□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 49 7/V	AB-7	萬文土器 壺	口縁	4.3			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 50 7/V	AB-12	萬文土器 壺	口縁	27.6	5.0		□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 51 7/V	AB-12	萬文土器 壺	口縁	26.2	9.2		□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 52 7/V	AB-1	萬文土器 浅鉢	口縁	22.6	11.7	23.6	丸孔、底付小口付、内側は(半透明質)である。	丸孔	赤	赤色	3/V	168
168 — 53 7/V	AB-7	萬文土器 浅鉢	口縁	10.4	5.5		□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 54 7/V	AB-6	萬文土器 浅鉢	口縁	5.0			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 55 7/V	AB-6	萬文土器 浅鉢	口縁	3.0			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 56 7/V	AB-2	萬文土器 深鉢	口縁	3.6			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 57 7/V	AB-7	萬文土器 深鉢	口縁	19.2	5.3		□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 58 7/V	AB-7	萬文土器 深鉢	口縁	3.7			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 59 7/V	AB-12	萬文土器 深鉢	口縁	16.0	4.8		□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 60 7/V	AB-10	萬文土器 深鉢	口縁	5.0			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 61 7/V	AB-13	萬文土器 深鉢	口縁	4.9			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 62 7/V	AB-12	萬文土器 深鉢	口縁	5.1			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 63 7/V	AB-6	萬文土器 深鉢	口縁	6.1			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 64 7/V	AB-7	萬文土器 深鉢	口縁	3.9			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 65 7/V	AB-7	萬文土器 深鉢	口縁	4.6			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 66 7/V	AB-7	萬文土器 深鉢	口縁	5.2			□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 67 7/V	AB-7	萬文土器 深鉢	口縁	12.2	3.4		□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168
168 — 68 7/V	AB-2	萬文土器 深鉢	口縁	30.9	4.4		□口内側面が削り出された突起、大きさは(半透明質)である。	丸リーフ	赤	赤色	3/V	168

表29 1F区遺物観察表表3

No.	遺物 名	出土地点 名	種類	形状	部位	法長 (cm) 口径 横幅 高さ	特徴			色調 別	備考
							内径	外径	厚さ		
100 - 68 IVC	B26-2	縫文土器	深鉢	口縁	24.8	4.3	口縁内側に舟形の突起、上下台形の、斜面の凹み、底、外縁内側、外縁外側。	黒褐色	黄色	茶色	
100 - 69 IVC	B26-2	縫文土器	深鉢	口縁	30.3	6.4	口縁内側に舟形の突起、底、口縁内側、斜面の凹み、底、外縁内側、外縁外側。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 70 IVC	B26-2	縫文土器	深鉢	口縁	24.8	4.3	口縁内側に舟形の突起、底、口縁内側、斜面の凹み、底、外縁内側、外縁外側。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 71 IVC	B26-7	縫文土器	深鉢	口縁	4.7		口縁内側に小さな舟形の突起、口縁内側、斜面三角形の突起、底、外縁内側、外縁外側。	黒褐色	白色	白色	
100 - 72 IVC	B26-8	縫文土器	深鉢	口縁	4.0		口縁内側に舟形の突起、底、口縁内側、斜面の凹み、底、外縁内側、外縁外側。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 73 IVC	B26-7	縫文土器	深鉢	口縁	4.8		口縁内側に舟形の突起、口縁内側、斜面の凹み、底、外縁内側、外縁外側。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 74 IVC	B26-1	縫文土器	深鉢	口縁	4.1		口縁内側に舟形の突起、底、口縁内側、斜面の凹み、底、外縁内側、外縁外側。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 75 IVC	B26-13	縫文土器	深鉢	口縁	3.1		口縁内側に舟形の突起、底、口縁内側、斜面の凹み、底、外縁内側、外縁外側。	黒褐色	白色	白色	
100 - 76 IVC	B26-2	縫文土器	深鉢	口縁	4.1		口縁内側に舟形の突起、底、口縁内側、斜面の凹み、底、外縁内側、外縁外側。	黒褐色	白色	白色	
100 - 77 IVC	B26-6	縫文土器	深鉢	口縁	4.9		口縁内側に舟形の突起、底、口縁内側、斜面の凹み、底、外縁内側、外縁外側。	黒褐色	白色	白色	
100 - 78 IVC	B26-12	縫文土器	深鉢	底部	2.6		丸柱状(底)、内縁ナメ、外縁ナメ、円孔。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 79 IVC	B26-6	縫文土器	深鉢	底部	1.3	7.0	平底、外縁ナメ、内縁ナメ、内面と外縁一部に舟形。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 80 IVC	B26-6	縫文土器	深鉢	底部	2.5	7.4	平底、内縁ナメ、外縁ナメ、内面と外縁一部に舟形。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 81 IVC	B26-22	縫文土器	浅鉢	底部	4.0	7.8	平底、内縁ナメ、外縁ナメ、内面と外縁一部に舟形。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 82 IVC	B26-8	縫文土器	土塗円盤	全形	7.5	1.8	底、外縁、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 83 IVC	A26-5	縫文土器	土塗円盤	全形	4.5	1.5	底、外縁、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 84 IVC	B26-7	縫文土器	土塗円盤	全形	4.2	4.6	底、外縁、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 85 IVC	B26-7	縫文土器	土塗円盤	全形	5.3	5.3	底、外縁、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 86 IVA	B26-6	縫文土器	盤	口縁	61.4	14.3	口縁内側に舟形の突起、底、内縁ナメ。	黒褐色	白色	白色	
100 - 87 IVA	B26-6	縫文土器	盤	口縁	18.0	5.1	口縁内側に舟形の突起、底、内縁ナメ。	黒褐色	白色	白色	
100 - 88 IVA	B26-11	縫文土器	盤	脚部	12.6	25.3	底付の内側、内縁ナメ、下端ハラ、外縁ナメ。	黒褐色	白色	白色	
100 - 89 IVA	B26-7	縫文土器	盤	脚・底部	5.1	10.0	丸底付、内縁ナメ、外縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 90 IVA	B26-6	縫文土器	盤	脚	5.0		丸底付、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 91 IVA	B26-2	縫文土器	盤	脚・底部	3.2		丸底付、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 92 IVA	B26-1	縫文土器	洗鉢	口縁	3.2		底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 93 IVA	A26-10	縫文土器	洗鉢	口縁	3.8		底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 94 IVA	B26-6	縫文土器	洗鉢	口縁	6.0		底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	白色	白色	
100 - 95 IVA	B26-7	縫文土器	洗鉢	口縁	15.8	4.3	底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	白色	白色	
100 - 96 IVA	B26-6	縫文土器	洗鉢	口縁	1.6		底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	白色	白色	
100 - 97 IVA	B26-7	縫文土器	洗鉢	口縁	3.9		底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 98 IVA	B26-6	縫文土器	深鉢	口縁	2.4		底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 99 IVA	B26-6	縫文土器	深鉢	口縁	20.8	8.5	底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	白色	白色	
100 - 100 IVA	B26-7	縫文土器	深鉢	口縁	16.6	10.0	底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	
100 - 101 IVA	B26-6	縫文土器	盤	口縁	17.4	7.0	底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	白色	白色	
100 - 102 IVA	B26-7	縫文土器	盤	口縁	17.6	2.7	底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	白色	白色	
100 - 103 IVA	B26-6	縫文土器	盤	口縁	7.7		底付付の内側、内縁ナメ。	黒褐色	黑色	黑色	

表30 1F区遺物觀察表 4

表31 1F区遺物観察表5

No.	時期	層	出土地点	種類	様形	部位	法線 (cm)	寸法	特徴	色調	番号	
									印面	裏面		
125 - 130	Ⅲ	B2-7	土塁内壁	全般	全般	全般	3.5	2.7	0.8	6.5cm	灰褐色、褐色斑、褐色内壁、褐色木板状。	CJ-LM便器 1096/2 1096/4
126 - 130	Ⅲ	B2-6	土塁内壁	全般	全般	全般	4.5	3.5	0.8	6.5cm	灰褐色、褐色斑、褐色木板状。	CJ-LM便器 1096/2 1096/4
127 - 140	Ⅲ	B2-6	土塁内壁	全般	全般	全般	4.1	3.6	0.8	11.7cm	灰褐色、褐色斑、褐色内壁一部の箇所を丸めて上げる。	汚黃褐色 7.596/3 7.596/5 7.596/6
128 - 141	Ⅲ	B2-7	土塁内壁	全般	全般	全般	5.9	5.2	0.7	21.3cm	灰褐色、褐色斑、木板状。	汚黃褐色 7.596/3 7.596/2 7.596/1
129 - 142	Ⅲ	B2-7	鐵文土器 土塁内壁	全般	全般	全般	12.0	9.6	1.5	46.1cm	灰褐色、褐色斑、木板状。	汚黃褐色 7.596/3 7.596/2 7.596/1
130 - 140	Ⅲ	B2-6	鐵文土器 口縁	口縫	18.2	2.7					口縫は開いた状態、口は大きく膨らむ。内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 1096/1 2.597/1 2.597/4
131 - 144	Ⅲ	A1-1	B2-2	鐵文土器 深部	口縫	4.6					口縫は開いた状態、内面に凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 1096/1 2.597/1 2.597/2
132 - 140	Ⅲ	B2-3	B2-1	鐵文土器 深部	底部	5.2	6.7	9.1	平底、凹字有り、斜傾大底、芯立ち、内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 2.592/1 3.594/1		
133 - 140	Ⅲ	B2-3	B2-1	鐵文土器 深部	底部	5.9	6.7	9.1	平底、凹字有り、斜傾大底、芯立ち、内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 2.592/1 3.594/1		
134 - 147	Ⅲ	A1-2	B2-6	鐵文土器 底部	口縫	6.2					状況不明、口縫は開いた状態、口は広い円形、内 オーバーラップする。	汚黃褐色 3.594/1 3.594/2
135 - 140	Ⅲ	B2-2	B2-1	鐵文土器 深部	口縫	14.2	3.2				口縫は開いた状態、内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 1096/2 1096/1 3.596/2 3.596/1
136 - 140	Ⅲ	B2-2	B2-6	鐵文土器 深部	底部	20.6	6.1				口縫は開いた状態、内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.592/2 2.592/1 3.594/1
137 - 150	Ⅲ	B2-2	B2-1	鐵文土器 深部	底部	3.4	6.8	10.5	平底 (凹字)、内面は凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.592/2 2.592/1 3.594/1		
138 - 151	Ⅲ	A1-3	B2-6	鐵文土器 深部	口縫	2.5					状況不明、内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 7.596/2 7.596/1
139 - 152	Ⅲ	A1-3	B2-6	衛生土器 管	口縫	4.2					口縫は開いた状態、内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.592/2 2.592/1 3.594/1
140 - 153	Ⅲ	B2-6	衛生土器 管	口縫	26.5	7.7				口縫は開いた状態、内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1	
141 - 154	Ⅲ	A1-3	B2-6	衛生土器 管	口縫	25.8	7.3	25.1			口縫は開いた状態、内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
142 - 155	Ⅲ	A1-3	B2-6	衛生土器 管	口縫	20.0	21.4	20.6	7.4		口縫は開いた状態、内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
143 - 156	Ⅲ	A1-3	B2-6	衛生土器 管	口縫	4.7	10.5				平底 (凹字)、内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
144 - 157	Ⅲ	A1-3	B2-6	衛生土器 管	口縫	3.7	5.9				平底 (凹字)、内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
145 - 158	Ⅲ	A1-3	B2-6	衛生土器 管	口縫	6.0	8.8				平底 (凹字)、内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
146 - 159	Ⅲ	B2-7	衛生土器 管	口縫	15.2	11.0					口縫は開いた状態、内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
147 - 160	Ⅲ	-	衛生土器 管	口縫	7.2						状況不明、内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
148 - 161	Ⅲ	B2-7	衛生土器 管	口縫	3.7						口縫は開いた状態、内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
149 - 162	Ⅲ	A1-10	衛生土器 管	口縫	3.3						状況不明、内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
150 - 163	Ⅲ	B2-7	鐵文土器 浅鉢	口縫	15.6	2.5					状況不明、内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
151 - 164	Ⅲ	B2-7	衛生土器 管	口縫	2.0						状況不明、内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
152 - 165	Ⅲ	A1-10	衛生土器 管	口縫	16.8	5.7	15.8				口縫は開いた状態の内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
153 - 166	Ⅲ	B2-7	衛生土器 管	口縫	20.4	7.2	19.1				口縫は開いた状態の内面へ凹字が付く。内面は褐色。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
154 - 167	Ⅲ	B2-6	衛生土器 管	口縫	25.2	9.3					口縫は開いた状態の内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
155 - 168	Ⅲ	B2-7	鐵文土器 浅鉢	口縫	22.0	9.7	20.1				口縫は開いた状態の内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1
156 - 169	Ⅲ	B2-7	衛生土器 管	口縫	32.0	13.2	34.0				口縫は開いた状態の内面へ凹字が付く。	汚黃褐色 2.596/2 2.596/1 3.596/2 3.596/1

表32 1F区遺物観察表 6

No	遺物	出土地点	基層	基部	鉢	測量 (m)	状態	色調		備考			
								口径	底径				
179 — 170 ㉓	A26-10	白土土器	曾	高部		3.1	6.4	平底、内面ナガ、外面ナガのハラガキ。外面焼付	赤褐色	褐色	2.5W6/1		
179 — 171 ㉓	B26-7	白土土器	曾	高部		2.9	7.4	平底、内面焼付。外面ナガ、外面ハラ。外面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
179 — 172 ㉓	B26-6	白土土器	曾	高部		4.5	6.2	平底 (凹面)、内面ナガ、外面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
179 — 173 ㉓	B26-6	白土土器	曾	高部		6.1	8.6	平底、内面焼付。内面ナガ、外面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
180 — 174 ㉓	B26-7	陶文土器	曾	高部		4.1	9.6	ミコトア・横縞文。内面焼付。内面ナガ、外面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
180 — 175 ㉓	B26-7	陶文土器	洋	口部		6.0	2.7	ミコトア・波紋文。内面焼付 (波紋文は薄い)。口部を削す。	褐色	褐色	2.5W6/1		
180 — 176 ㉓	B26-7	陶文土器	深井	口部		6.4	4.7	6.0	ミコトア・横縞文。内面焼付 (横縞文は薄い)。口部を削す。	褐色	褐色	2.5W6/1	
180 — 177 ㉓	B26-7	陶文土器	深井	口部		1.3	4.4	ミコトア・平底。内面焼付削す。内面ナガ。	褐色	褐色	2.5W6/1		
180 — 178 ㉓	B26-7	陶文土器	曾	口部		26.2	3.2	浅盤平底。外縁へ付けて有り。	褐色	褐色	2.5W6/1		
180 — 179 ㉓	B26-7	陶文土器	曾	口部		全長 6.1	全幅 1.7	内面ナガ。曾の縞文。	褐色	褐色	2.5W6/1		
180 — 180 ㉓		白土土器	曾	縦縞		5.4	6.4	横縞文。内面焼付。内面ナガが削出す。内面窪へ付す。	赤褐色	褐色	2.5W6/1		
181 — 181 ㉓	S26-5	土師器	曾	口部		11.3	7.2	内面焼付。内面ナガ。内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
181 — 182 ㉓	S26-1	土師器	曾	口部		25.8	2.4	口部内面に付ける。内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
181 — 183 ㉓	S26-12	土師器	曾	口部		18.6	4.3	口部内面に付ける。外縁ナガ。	褐色	褐色	2.5W6/1		
181 — 184 ㉓	S26-1	土師器	曾	口部		11.1	6.3	内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
181 — 185 ㉓	S26-13	土師器	曾	口部		15.1	22.4	17.8	2.5	内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1
182 — 186 ㉓	S26-4	土師器	曾	口部		17.0	20.3	23.2	口部内面に付ける。内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1	
182 — 187 ㉓	S26-5	土師器	曾	口部		15.2	8.5	16.6	口部内面に付ける。内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1	
182 — 188 ㉓	S26-8	土師器	曾	口部		4.4		口部内面に付ける。内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
182 — 189 ㉓	S26-11	土師器	曾	口部		19.1	16.0		内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1	
182 — 190 ㉓	S26-8	土師器	曾	口部		10.3	4.8	横縞文。内面窪。内面焼付。内面窪。	褐色	褐色	2.5W6/1		
182 — 191 ㉓	S26-5	土師器	曾	口部		2.7		口部内面に付ける。内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
182 — 192 ㉓	S26-13	土師器	曾	口部		15.1	1.7	口部内面に付ける。内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
182 — 193 ㉓	S26-8	土師器	曾	口部		7.0	3.3	口部内面に付ける。内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
182 — 194 ㉓	S26-9	土師器	曾	縫合部		12.2	4.0	口部内面に付ける。内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
182 — 195 ㉓	S26-1	土師器	曾	縫合部		5.3		口部内面に付ける。内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
182 — 196 ㉓	S26-4	土師器	高井	縫合部		1.7	11.7	縫合部内面に付ける。内面窪。内面焼付。	褐色	褐色	2.5W6/1		
182 — 197 ㉓	S26-12	土師器	曾	高部		4.1	8.8	内面窪。内面ナガ。内面に付ける。外縁ナガ。外縁窪。	褐色	褐色	2.5W6/1		
182 — 198 ㉓	S26-8	土師器	曾	高部		3.7		内面窪。内面窪。内面窪。内面窪。	褐色	褐色	2.5W6/1		
182 — 199 ㉓	S26-1	土師器	曾	高部		6.1	7.3	内面窪。内面ナガ。内面ナガ。内面窪。	褐色	褐色	2.5W6/1		

表33 1F区遺物観察表表7

品名・遺物	出土場所	層	種類	測定値 (cm)	特徴	備考			
No.	No.	遺構	グリッド	口径	壁厚	幅	高さ		
100 — 200	SB1-13	理Ⅱ	石留丁	5.7	5.0	0.4	16.3	扁平。片刃、刃部は直線的。被孔は駆打に因る穿孔。	粘板岩
100 — 200	SB1-8	理Ⅱ	石留丁	7.6	4.8	0.7	30.0	直刃。背部はやや高く、両側面中央部に駆打孔が空けられ、絞付けとされる。	若葉砂岩?
100 — 200	SB2-1	IV/C	石斧	6.9	3.3	0.8	33.8	扁平。片刃。刃部はほぼ直線、基部はやや傾く。側刃は削りを残す。	粘晶片岩
100 — 200	SB2-7	IV/C	石斧	3.9	5.0	0.9	30.9	扁平刃。上面には自然面が残る。	粘晶片岩
100 — 200	AA5-5	III/A	石斧	7.1	3.7	1.3	59.0	直刃。側刃に削りを残す。	粘晶片岩
100 — 200	SB2-1	IV/C	石斧	6.9	3.3	0.8	33.8	扁平。片刃。刃部はほぼ直線、基部はやや傾く。側刃は削りを残す。	粘晶片岩
100 — 200	SB2-7	IV/C	石斧	3.9	5.0	0.9	30.9	扁平刃。上面には自然面が残る。	粘晶片岩
100 — 200	AA5-5	III/A	石斧	7.1	3.7	1.3	59.0	直刃。側刃に削りを残す。	粘晶片岩
100 — 205	SB2-10	IV/C	石器	13.6	4.1	3.0	17.5	片側面部が缺損する(修理の痕跡?)。底面は12面。圓状研磨面、幅広の縦条脈。	砂岩
100 — 205	SB2-13	IV/C	石器	3.5	1.3	0.8	3.5	柳葉形の丸頭。側面に縦的な刻痕を有する。	サヌカイト
100 — 207	SB2-2	III/A	鉄針	2.6	1.6	0.7	2.8	続角丸錐形に側面に調節部を有する。	サヌカイト
100 — 208	SB2-1	III/A	鉄針	5.6	3.6	0.6	13.0	長錐形の丸錐に側面から調整部を有する。	サヌカイト
100 — 209	SB2-2	III/A	石研	12.1	10.1	5.8	102.0	やや扁平。頭部に斜面、側面に斜面、中央部周囲に駆打痕。	砂岩
100 — 210	AA5-5	III/A	石研	11.8	11.2	5.6	105.0	やや扁平。頭部に斜面、側面に斜面、中央部周囲に駆打痕。	砂岩
100 — 211	SB2-2	III/A	石研	9.5	6.6	4.4	51.2	やや扁平。頭部に斜面、側面に斜面。	砂岩

品名・遺物	出土場所	層	種類	測定値	特徴	測量 (cm)	本厚 (cm)	相違	
No.	No.	遺構	グリッド	全長	先幅	本幅	厚		
100 — 212	SB2-6	IV/C	小型方柱状木製品	断面直角方形の小型角柱。 ノブ無	15.5	1.0	0.7	ヒノキセキノキ属	
100 — 213	SB2-7	IV/C	小型方柱状木製品	断面直角方形。 ノブ無	21.5	0.7	0.7	ヒノキセキノキ属	
100 — 214	—	IV	木製品	側面を削りて直角柱。	34.0	3.0	3.0	マツ科マツイヌマキ	
100 — 215	SB2-7	IV/C	木製品	側面を削りて直角柱。	13.0	3.0	3.0	ブナ科ブナ	
100 — 216	SB2-7	IV/C	木製工具?	抉入状木製品	側面を削りて直角柱で仕上げてる上部。	36.0	6.0	1.0	ヒノキセキノキ属
100 — 217	SB2-22	IV/C	木製工具	楕円木製品	自然木の枝をそのまま利用し、端部は削り部がある。	58.0	3.5	3.5	カツラ科カツラ属
100 — 218	SB2-7	IV/C	木製工具?	削り切られた木製品	側面が削りたてで裏又は裏。端部は仄く削れ	42.5	13.5	1.0	クヌギ科クヌギ属
100 — 219	SB2-6	IV/C	木製品	削り切られた木製品	側面が半分削り落してある。	10.0	11.0	2.0	ヒノキセキノキ属
100 — 220	—	IV	部品	把手子木製品	端部は幅狭く、中央部にかけて段差が残す。	10.0	12.0	2.0	クヌギ
100 — 221	AII-10	IV	工具	把手子木製品	先端はよく削り落す形で、表面は凹凸が多くなり込みがあり、外縁は丸みくなっている。	28.0	14.0	5.5	アラカシ科アラカシ属
100 — 222	SB2-1	IV/C	工具	把手	把手の装着部分は尖端、柄部には痕跡が残る。	30.4	26.0	6.0	ブナ科ブナコラムニカガヤ
100 — 223	SB2-6	III/A	工具	把手(木口)	把手部分が削り、被削部分が	28.5	14.0	4.0	ブナ科ブナ属アカガ
100 — 224	SB2-6	III/A	工具	把手(木口)	被削部分が2つあるうち一つは木質部。	8.0	10.5	0.5	ブナ科ブナ属アカガ
100 — 225	SB2-2	III/A	工具	把手子木製品	木端に刃がありがる。逆差又は巻きか?	12.0	9.5	1.5	マツ科マツノキ属
100 — 226	SB2-6	III/A	工具?	把手子木製品	被削部を考慮され、底部の部分が残る。被削部分が丸く削り下されている。	24.0	9.5	1.0	クヌギ科クヌギ属
100 — 227	—	III	工具	把手子木製品	手元、把手は2つで仕上げか。	41.0	15.0	1.5	ヒノキセキノキ属
100 — 228	SB2-6	III/A	工具?	把手子木製品	被削部を考慮され内面面を調整した紐やかに内溝する形。	58.0	13.0	1.0	クヌギ科クヌギ属
100 — 229	—	III	小型方柱状木製品	断面直角三角形。	14.0	0.7	0.7	ヒノキセキノキ属	
100 — 230	SB2-7	III/A	小型方柱状木製品	断面直角方形。純手工作。	16.5	0.9	0.7	ヒノキセキノキ属	
100 — 231	SB2-6	III/A	小型方柱状木製品	木口の削り面と工具刃削り痕が残る。	5.0	3.5	1.0	ヒノキセキノキ属	
100 — 232	SB1-12	III	部品	有孔木製品	被削部。被削部は丸形に加工。	31.0	2.5	1.0	スギ科ギンヌキ
100 — 233	—	III	木製品	圓筒化。(強化化)	32.5	1.0	1.0	ヒノキセキノキ属	
100 — 234	SB2-6	III/A	部品	把手子木製品	両端部は幅狭く、両端部に削り形を残し、中央部はやや薄い。	19.5	12.0	1.5	クヌギ科クヌギ属
100 — 235	SB2-6	III/A	机付木製品	把手の軸。	20.5	9.5	3.0	机付木製品	
100 — 236	SB2-7	III/A	机付木製品	把手の軸。	16.5	0.9	0.7	机付木製品	
100 — 237	SB2-6	III/A	机付木製品	把手の軸。	8.5	9.0	1.0	机付木製品	
100 — 238	SB2-6(1)	III	机付木製品	把手の軸の内側面を削り落す。工具痕が明顯。	47.5	8.0	3.0	机付木製品	
100 — 239	SB2-6(1)	III	机付木製品	把手を削りて内側面に削り落す。	47.5	7.5	5.0	机付木製品	
100 — 240	SB2-6(1)	III	机付木製品	把手の軸の内側面を削り落す。	83.0	8.0	6.0	机付木製品	
100 — 241	SB1(B1-12)	理Ⅱ	机付木製品	把手を削りて内側面に削り落す。	25.5	1.6	1.0	マツ科マツ	
100 — 242	SB1(B1-1)	机付木製品	把手を削りて内側面に削り落す。	24.0	4.0	3.0	ヒノキセキノキ属		
100 — 243	SB1(B1-6)	理Ⅱ	机付木製品	把手を削りて内側面に削り落す。	22.5	5.5	1.2	机付木製品	
100 — 244	SB1(B1-6)	III/A	机付木製品	把手の軸。	36.0	5.0	3.0	ムクドリ科ムクドリ属	
100 — 245	SB1	机付木製品	把手の軸。	40.0	10.5	2.5	机付木製品		
100 — 246	SB1(B1-6)	III	机付木製品	把手を削り落す。	15.5	13.0	1.5	心木	
100 — 247	SB1(B1-6)	工具?	有孔木製品	把手の軸。	66.0	19.0	3.0	ヒノキセキノキ属	
100 — 248	SB1(B1-6)	工具?	抉入状木製品	把手の軸。	83.0	20.0	3.0	ヒノキセキノキ属	

付編1 居徳遺跡群の自然科学分析

- 漆塗り土器・赤彩土器の塗布材料と胎土材料 -

藤根 久・今村美智子(パレオ・ラボ)

1. 試料と方法

居徳遺跡では、縄文時代後期～弥生時代前期の遺構・遺物が検出された。このうち出土した土器には、漆塗り土器や赤彩土器が含まれている。ここでは、この漆塗り土器の塗膜材料あるいは赤色顔料を調べるために、蛍光X線分析および赤外分光分析(FT-IR分析)を行なった。なお、塗膜分析のための薄片を観察して塗膜構造および土器胎土の特徴についても調べた。

試料は、肉眼的に漆塗り土器と考えられる7試料、漆器1試料、赤彩土器9試料であり、試料Aについて赤外分光分析と蛍光X線分析を行ない、試料Bについて蛍光X線分析を行なった(第1表)。断面の薄片作成は、試料A1～A7とB1～B7の14試料である。

赤外分光分析は、漆塗り土器外側表面からカッターなどを用いて約1mm角片を取り出し、臭化カリウム(KBr)結晶板に挟んで、約7トンで加圧して測定用錠剤を作成した(KBr錠剤法)。このKBr錠剤は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計(日本分光㈱製FT/IR-410、IRT-30-16)を用いて透過法により赤外線吸収スペクトルを測定した。

蛍光X線分析は、漆塗り土器と赤彩土器の赤色顔料の主成分を調べるために、赤色部分の一部を採取してセロハンテープに貼り付けて測定した。分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析計(セイコー電子工業㈱製、SEA-2001L)である。X線発生部の管球はロジウム(Rh)ターゲット、ベリリウム(Be)窓、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間100秒、照射径10mm、電流63μA、電圧50KV、試料室内真空である。

塗膜構造を観察するために次の手順に従って土器断面の薄片を作成した。

(1)試料は、始めに岩石カッタ-などで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドグラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。(2)さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドグラスに接着した。(3)その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

2. 結果および考察

a. 赤外分光分析

第1図と第2図に、各漆塗り土器塗膜材料および生漆の赤外線吸収測定スペクトルを示す。なお、縦軸は透過率(%T)、横軸が波数(cm⁻¹、カイザー)である。2400～3600cm⁻¹のブロードな吸収は、カルボン酸に特徴的な吸収である。2926および2852cm⁻¹の2本の吸収は、パラフィン炭化水素の吸収である。さらに、700～1600cm⁻¹の複数の吸収は芳香族に見られる吸収である。

生漆の赤外線吸収スペクトルでは、複数の吸収が見られ、2928、2856、1709、1626、1450、1276、1064、987cm⁻¹などに生漆に特徴的な吸収が見られる。

検討した塗り土器塗膜材料では、2400~3600cm⁻¹のブロードな吸収や2926をはじめ複数の吸収においてほぼ一致していた。ただし、試料A3とA6においては、これら生漆の吸収とは異なるスペクトルが得られているが、これらは、炭化材などの炭化物において見られる吸収スペクトルと同じである。

試料A3とA6以外では、生漆とほぼ同様のスペクトルであることから、漆と同定される。なお、試料A3とA6は、炭質物の吸収スペクトルが見られることから、漆質よりも炭質物が多く含まれているものと推定される。

b. 蛍光X線分析

第3図に、試料A5およびB2の赤色部分についての蛍光X線スペクトル図を示す。その結果、アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、イオウ(S)、カルシウム(Ca)、鉄(Fe)、亜鉛(Zn)、水銀(Hg)などの元素が検出された。なお、ロジウム(Rh)はX線管球(Rh)から発生するX線であり、またイオウ(S)は使用したセロハンテープ中に含まれる元素であり、いずれも試料の組成とは関係がない。

各試料の測定の結果、試料B2以外はいずれも鉄(Fe)が特徴的に検出され、赤色に関係する元素は鉄であることから、鉄酸化物からなるベンガラと推定される。試料B2は、水銀からなる複数のピークが明瞭に検出されたことから、水銀朱である。なお、黒色部は、蛍光X線分析では測定できないが、試料A3とA6の外分光分析において炭質物特有の吸収ピークが見られたことから、炭が主な成分と考えられる。

一般的に赤色顔料には、ベンガラ(Fe_2O_3)、水銀朱(HgS)、鉛丹(PbO_2)が知られ、水銀朱は主成分元素が硫化第二水銀からなる辰砂(cinnabar、水銀朱)を磨り潰して作られるものを言う。ベンガラは狭義には酸化第二鉄(赤鉄鉱、 Fe_2O_3)の顔料をさすが、広義には3価の鉄が発色の原因となる化合物の顔料の総称として使われている(市毛、1984)。ベンガラは原料として天然の赤鉄鉱を用いる場合のほか、沼沢地などに沈積する含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱を用いる場合があり、これを含めればその産出地は全国無数にあることになる(成瀬、1998)。最近の研究では、ベンガラの中でも特徴的な形態の「パイプ状ベンガラ」と呼称されるものが、湖沼や湿地帯に生息する鉄細菌の生成物を燃焼したものということが分かってきている(岡田、1997)。

c. 塗膜構造

作成した断面薄片を顕微鏡により観察を行ない、塗り土器と漆器については塗膜構造から塗布回数を推定した。その結果、上塗り塗布回数が1回~4回程度であることが分かった(第2表、図版No1~6)。なお、試料A3とA5は、塗布材の残存が悪く塗膜構造を観察できるような薄片は出来なかったため、塗布回数については不明であった。

d . 土器胎土の偏光顯微鏡観察

塗膜観察を行なうために作成した薄片について偏光顯微鏡観察を行なった（試料A1～A7、B1～B7）。粘土部分について珪藻化石や骨針化石などの微化石類の有無を調べ粘土の特徴を記載した。また、砂粒について岩石学的特徴を記載し、概略の組成比を調べた（第2表）。

その結果、試料B2において僅ながら骨針化石が含まれていたことから水成粘土であることが分かった。その他の胎土では、微化石類は全く含まれていなかった。県内では、古い岩石から構成される急峻な山地が海岸部付近まで迫っており、粘土質堆積物は主要な河川沿いに形成される段丘堆積物と平野部を構成する沖積層に限定されるものと推定される。また、土佐市高岡町の犬ノ場窯跡や佐川町永野の花ノ木窯跡など古代の窯跡が見られ、良質の粘土材料が産出するものと推定される。これらの地域では、仁淀川あるいはその支流沿いに設営されていることから、粘土材料は段丘堆積物中の粘土層と推定される。

試料A4～A7では、はんれい岩質あるいは花崗岩質の砂粒のみから構成されるが、砂粒物は破片状の尖った外形を呈するものが多く、光学的に鱗状を示す斜長石（双晶）には破壊構造が見られるなど、断層破碎帶内に形成される断層ガウジ（粘土と破片粒子との混合物）の特徴が見られた。このことから、これらの土器は、断層破碎帶内に形成された断層ガウジを採取して作られた土器と推定される。こうした断層ガウジを利用して作られた土器として、角閃石類を特徴的に多く含む生駒西麓産あるいは河内産の繩文土器が知られている（藤根・小坂、1997）。試料A4とA5では、角閃石類を特徴的に多く含む胎土であり、はんれい岩類が分布する地域で形成された断層ガウジであることが推定される。一方、試料A6とA7は、角閃石類は少なく花崗岩質から構成される。なお、はんれい岩と花崗岩は隣接して分布する場合が多い。

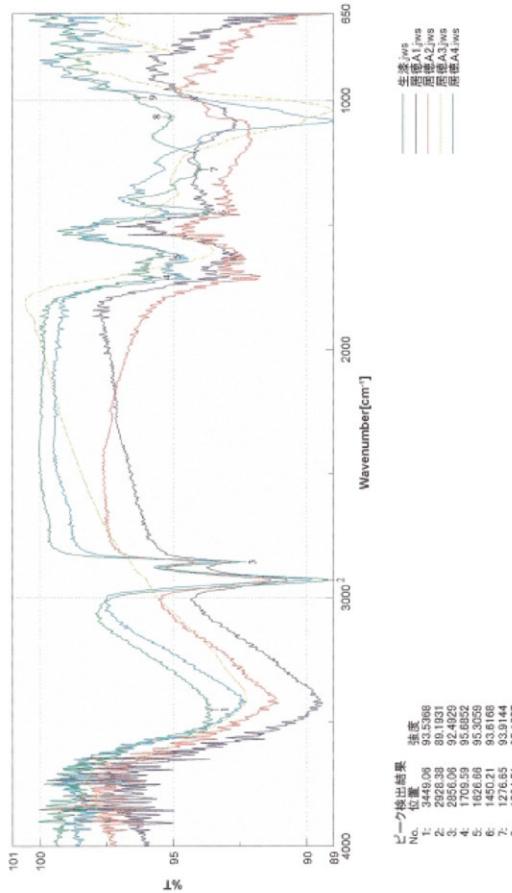
その他の土器では、微化石類を含まないことから粘土の特徴は明確ではないが、砂粒において堆積岩類やテフラを含む火山岩類などの起源砂粒を含むなど比較的の類似した岩石組成を示している。ただし、試料B1は、片岩類を特徴的に含むことから、他の多くの土器とは製作地が異なることが予想される。

引用文献

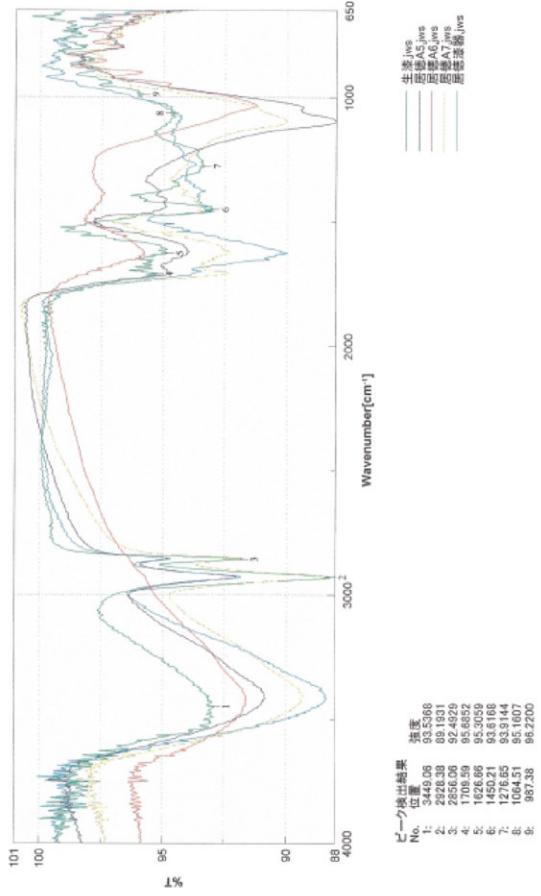
- 市毛 熟(1984)「増補 朱の考古学」、第2版、考古学選書12、雄山閣出版、137p.
藤根 久・小坂和夫(1997)「生駒西麓(東大阪市)産の繩文土器の胎土材料—断層内物質の可能性—」、第四紀研究、36(1)、p.55-62.
成瀬正和(1998)「繩文時代の赤色顔料I - 赤彩土器 -」、考古学ジャーナル438、10p.
岡田文男(1997)「パイプ状ベンガラ粒子の復元」、日本文化財科学会、第14回大会研究発表要旨集、p.38-39.

第1表、漆塗り土器・赤彩土器および漆器試料

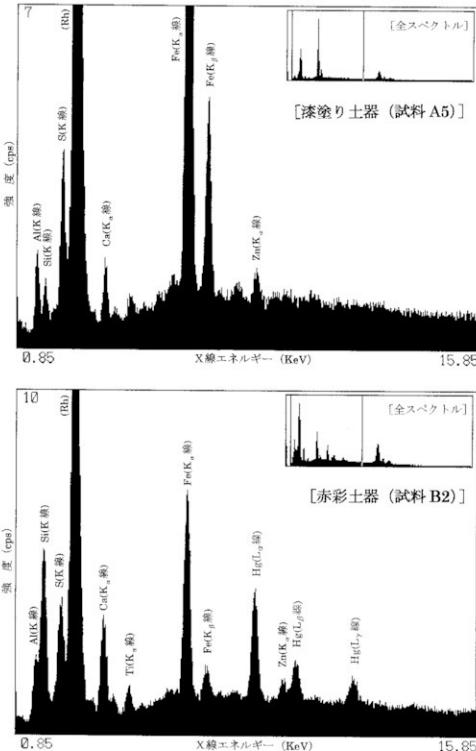
試料No.	遺物No.	器種	部位	塗布面 法(量 cm)		胎土の肉眼的特徴		備考	分析項目	
				内面	外面	灰褐色:赤色砂粒:白色砂質(1mm以下)	灰褐色:赤色砂粒:石英質		FT-IR(塗光線 断面の 薄片 分析)	分析
	1 363	壺	胴体部	3.5	X 2.5	赤・黒漆	灰褐色:赤色砂粒:白色砂質(1mm以下)	搬入品	○	○
	2 370	壺	頸部	7	X 4.5	赤・黒漆	灰褐色:赤色砂粒:石英質	搬入品?	○	○
	3 369	浅鉢	胴体部	9	X 5.5	-	灰褐色:丹鱗・石英質(1.5mm)	搬入品	○	○
A	4	浅鉢	口縁部	5.5	X 4.5	赤・黒漆	暗灰色褐色:石英質	補修孔に動物組織	○	○
A	5	壺	頸部	5	X 5	赤・黒漆	赤灰褐色:赤色砂粒:石英質(1mm以下, 梅(2mm)) 斜位の焼区画	○	○	○
	6	壺	胴部	2.5	X 2	赤・黒漆	暗灰褐色:石英質(1.5mm以下)	○	○	○
	7	壺	頸部	3.5	X 2	黒漆?	暗灰褐色:赤色砂粒:石英質(1mm以下, 梅(2mm))	○	○	○
	8 415	漆器						○	○	○
	1	浅鉢	胴部	4.5	X 3.5	赤・黒漆	瓦白色:石英質(2mm以上)		○	○
	2	浅鉢	体部	3.5	X 3.5	赤色	灰褐色:石英質(0.5mm以下, 梅(2mm))		○	○
	3	壺	胴部	3.5	X 2	赤色	黄褐色褐色:石英質(1mm以下)	精緻・流線紋	○	○
	4		胴部	4.5	X 3	赤・黒漆	暗灰色:石英質		○	○
B	5	壺	胴部	5.5	X 4.5	赤・黒漆	灰褐色:赤色砂粒:石英質(2mm以下)		○	○
	6	壺	胴部	5	X 4	橙色	黃白色:雲母:赤色砂粒:石英質(1mm以下)		○	○
	7	浅鉢	体部	2.5	X 2	赤色	黃灰色:赤色砂粒:石英質(1mm以下)		○	○
	8	壺	口縁部	1.5	X 1.5	赤色	黃白色:丹鱗・石英質(2mm以下)	弥生前期	○	○
	9 構製深鉢	胴部	1.5	X 1.5	赤色	暗灰色:石英質(1mm以下)	縄文後期	○		



第1図. 試料A1~A4 塗膜部分のFT-IRスペクトル図



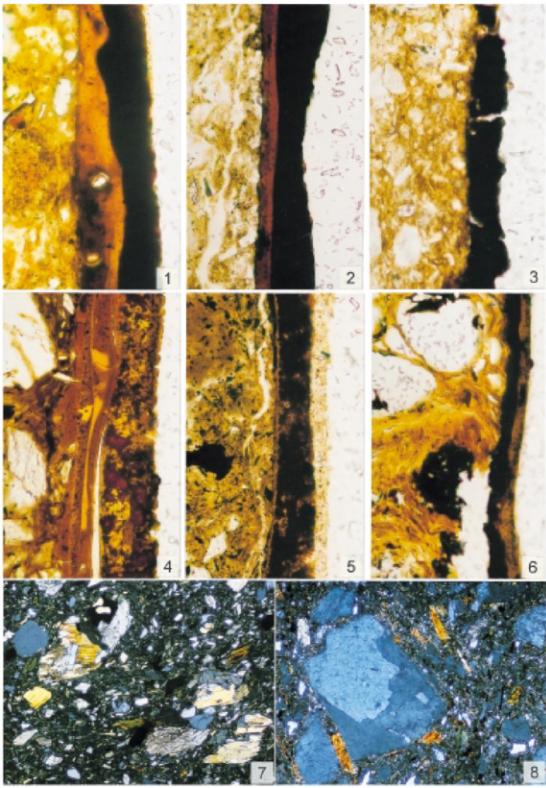
第2図、試料A5～A8塗膜部分のFT-IRスペクトル図



第3図. 土器顔料の蛍光X線スペクトル図

第2表、土器および漆器の分析結果

試料No. No.	遺物 器種	FT-IR 分析	塗膜構造	蛍光 X線分析	粘土	胎土材料 砂粒組成	その他	
							その他の岩類	火山岩類(テフラ)
1 363	壺	漆塗膜	上塗り回塗り	べんがら	その他 堆積岩類)	火山岩類(テフラ)		
2 370	壺	漆塗膜	上塗り回塗り	べんがら	その他 堆積岩類)	火山岩類(テフラ)		
3 369	浅鉢	漆塗膜?	?	べんがら	その他 堆積岩類)	火山岩類(テフラ)	深成岩類	
4 A	浅鉢	漆塗膜	上塗り~4回塗り	べんがら	その他 堆積岩類)	火山岩類(テフラ)	深成岩類	
5	壺	漆塗膜	?	べんがら	断層カジ	はんれい岩類	角閃石類多い	
6	壺	漆塗膜?	上塗り回塗り	べんがら	断層カジ	はんれい岩類	角閃石類多い	
7	壺	漆塗膜	上塗り回塗り	べんがら	断層カジ	花崗岩類		
8 415	漆器	漆塗膜	上塗り回塗り	-	断層カジ	花崗岩類		
1	浅鉢	-	-	べんがら	その他 堆積岩類)	片岩類) 堆積岩類	深成岩類	
2	浅鉢	-	-	べんがら	水成粘土 堆積岩類)	片岩類, 火山岩類(テフラ)		
3	壺	-	-	か錠未	その他 堆積岩類)	深成岩類, 火山岩類(テフラ)		
4	壺	-	-	べんがら	その他 堆積岩類(テフラ)	火山岩類(テフラ)		
B 5	壺	-	-	べんがら	その他 堆積岩類)	堆積岩類	テフラを混和(輝石・角閃石類)	
6	壺	-	-	べんがら	その他 堆積岩類)	火山岩類(テフラ)		
7	浅鉢	-	-	べんがら	その他 堆積岩類(テフラ)	火山岩類(テフラ)		
8	壺	-	-	べんがら	-	-		
9	精製深鉢	-	-	べんがら	-	-		



図版1. 漆塗り土器および漆器の塗膜断面と土器胎土 (スケール; No.1~6が50 μ 、No.7・8が500ミクロメートル)

1. 塗膜断面(試料A1) 2. 塗膜断面(試料A2) 3. 塗膜断面(試料A3)

4. 塗膜断面(試料A4) 5. 塗膜断面(試料A7) 6. 塗膜断面(試料A8)

7. 断層ガウジを用いた胎土(試料A4) 8. 断層ガウジを用いた胎土(試料A5)

付編2 高知県居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果

株吉田生物研究所

1. 試料

試料は高知県居徳遺跡群から出土した工具4点、農具22点、農工具6点、運搬具1点、服飾具2点、容器4点、食事具1点、籠編物2点、祭祀具8点、雑具2点、部材1点、建築部材16点、用途不明品99点の合計168点である。

2. 觀察方法

剃刀で木口(横断面)、柵目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果(針葉樹材10種、広葉樹材11種)の表を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

8) ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.)

(確認調査167~71, 1C区1424・1426・1427・1429~1431)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柵目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州(福島以南)、四国、九州に分布する。

11) プナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

(1C区1428)

環孔材である。木口では円形ないし梢円形で大体単独の大道管($\sim 500\mu m$)が年輪にそって幅のかなり広い孔圈部を形成している。孔圈外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2~3個集まって火炎状に配列している。柵目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり(ストランド)、軸方向要素の大部分を占める木纖維が見られる。クリは北海道(西南部)、本州、四国、九州に分布する。

13) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.)

(1 C 区1433)

放射孔材である。木口では年輪に間欠なくまちまちな大きさの道管 ($\sim 200\mu\text{m}$) が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に 1 ~ 3 細胞幅の独立帶状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柾状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州(宮城、新潟以南)、四国、九州、琉球に分布する。

14) ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect *Prinus* sp.)

(1 C 区1432)

環孔材である。木口では大道管 ($\sim 380\mu\text{m}$) が年輪界にそって 1 ~ 3 列並んで孔圈部を形成している。孔圈外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは 2 ~ 3 個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では、多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

19) ツバキ科ツバキ属 (*Camellia* sp.)

(1 C 区1425)

散孔材である。木口では極めて小さい道管 ($\sim 40\mu\text{m}$) が、単独ないし 2 ~ 3 個接合して均等に分布する。放射組織は 1 ~ 3 細胞列で黒い筋としてみられる。木繊維の壁はきわめて厚い。柾目では道管は階段穿孔(バー数 8 ~ 30)と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔(とくに直立細胞)は大型のレンズ状の壁孔が階段状に並んでいる。放射柔細胞の直立細胞と軸方向柔細胞にはダルマ状にふくれているものがある。板目では放射組織は 1 ~ 4 細胞列、高さ $\sim 1\text{mm}$ 以下からなり、平伏細胞の多列部の上下または間に直立細胞の単列部がくる構造をしている。木繊維の壁には有縁壁孔が一列に多数並んでいるのが全体で見られる。ツバキ属はツバキ、サザンカ、チャがあり、本州、四国、九州に分布する。

21) ブドウ科 (Vitaceae)

(1 C 区1434)

環孔材である。木口では孔圓道管は直径200～400 μ mに達し、小道管は2～10個以上が不規則に複合している。輪方向柔細胞は周囲状である。径目では道管は単穿孔と側壁に階段壁孔を有する。内腔にはチロースがある。道管放射組織間壁孔は階段状となる。放射組織は平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は1～10細胞列以上、高さ～10mm以上ときわめて高い。ブドウ科はツタ属(ツタ)、ノブドウ属(ノブドウ)、ブドウ属(ヤマブドウ、サンカクヅル)があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

●参考文献●

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版(1988)

島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社(1982)

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載I～IV」京都大学木質科学研究所(1995～)

北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編I・II」保育社(1979)

深澤和三「樹体の解剖」海青社(1997)

●使用顕微鏡●

Nikon

MICROFLEEX UFX-DX Type 115

高知県居德遺跡出土木製品樹種同定表

No.	遺物名	木取り	樹種
確認調査(I) Fig.22-67	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
確認調査(I) Fig.22-68	大足		ヒノキ科ヒノキ属
確認調査(I) Fig.23-69	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
確認調査(I) Fig.23-70	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
確認調査(I) Fig.24-71	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
I C 区 Fig.134-1424	焦化材		ヒノキ科ヒノキ属
I C 区 Fig.134-1425	輪状木製品		ツバキ科ツバキ属
I C 区 Fig.135-1426	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
I C 区 Fig.136-1427	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
I C 区 Fig.137-1428	板状木製品		ブナ科クリ属クリ
I C 区 Fig.137-1429	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
I C 区 Fig.138-1430	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
I C 区 Fig.138-1431	板状木製品		ヒノキ科ヒノキ属
I C 区 Fig.139-1432	板状木製品		ブナ科コナラ属コナラ垂露コナラ酒
I C 区 Fig.139-1433	板状木製品		ブナ科コナラ属アカガシ垂露
I C 区 -1434	編みかご状製品	ブドウ科	
I D N 区 Fig.147-39	棒状木製品		散孔材

写 真 図 版



TP-1調査前状況（北より）



TP-1完掘状態（南より）



TP-2完掘状態（南東より）



TP-3完掘状態（南より）



TP-4完掘状態（南より）



TP-5完掘状態（東より）



TP-6完掘状態（南より）



TP-7調査終了（東より）

確認調査(1)TP- 1 ~ TP- 7



TP- 8遺構完掘状態(東より)



TP- 11堆積土層面(東より)



TP- 9完成状態(東より)



TP- 10木製品出土状態(南より)



TP- 10完成状態(東より)



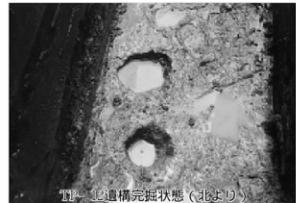
TP- 11杭跡検出状態(北西より)



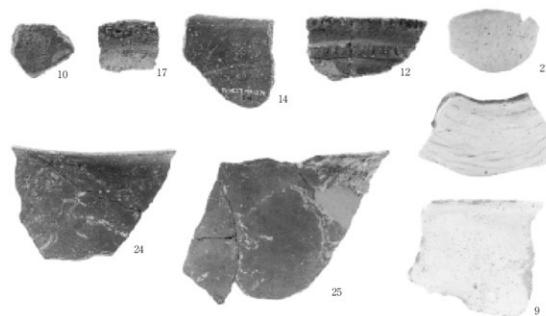
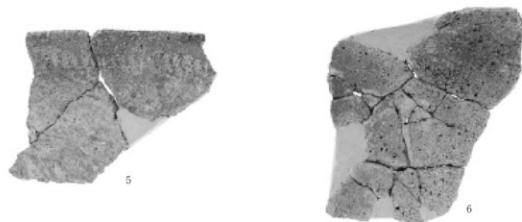
TP- 12完成状態(東より)



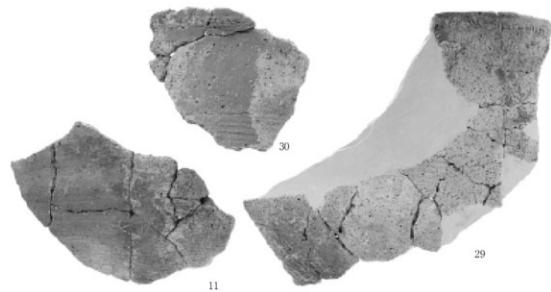
TP- 12遺構完掘状態(北東より)

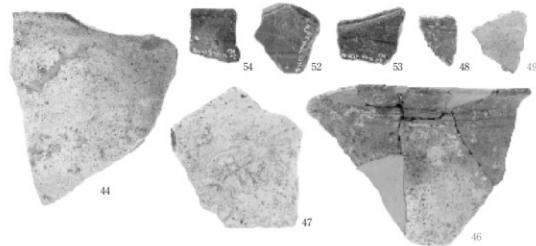
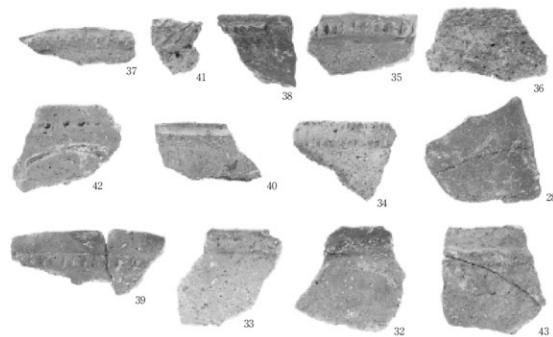


確認調査1 TP-12 ~ TP-16

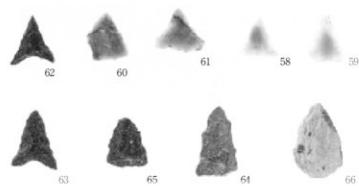
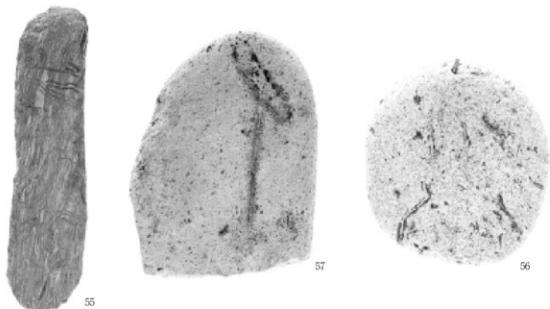


確認調査(1)出土遺物I (土器)





確認調査(1)出土遺物3(土器)



確認調査①出土遺物4(石器)



67



68



69



70



71



1A区完掘状態・出土状態



1面 西側



東壁

1A区完掘状態・セクション1



1面 IIIc層(C25- 11・16)



SK1
1A区出土状態 1



東側



西側

1A区 2面包含層機械掘削

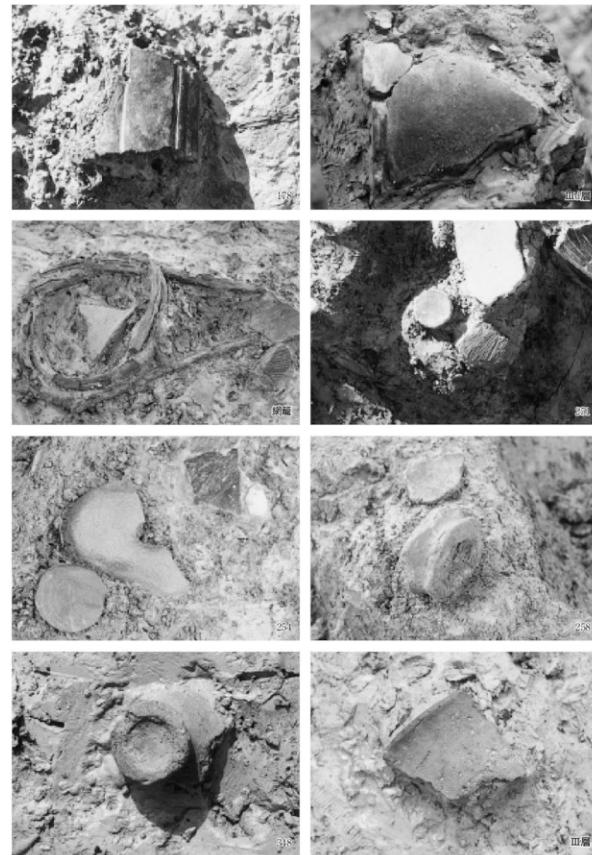


2面

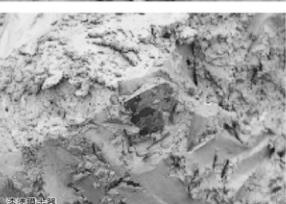
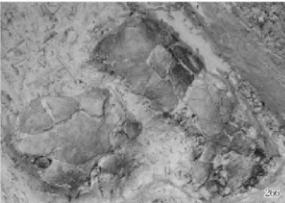
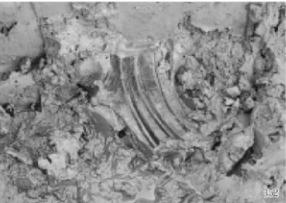


西壁

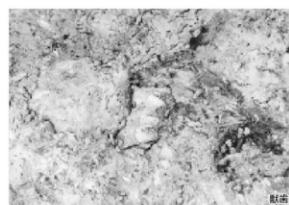
1A区完掘状態・セクション 2



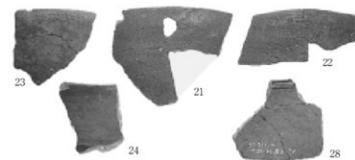
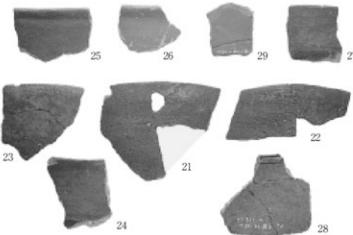
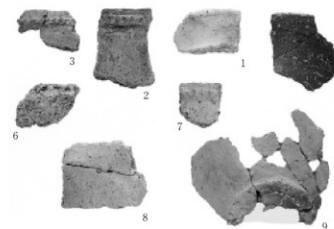
1A区出土状态 2



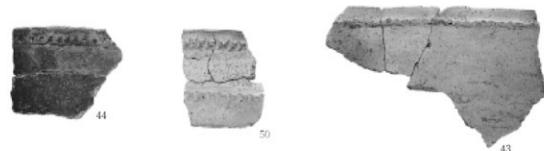
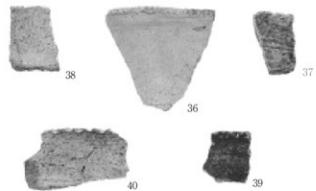
1A区出土状态 3

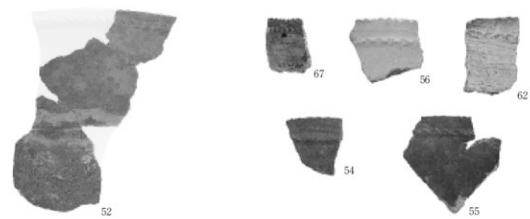
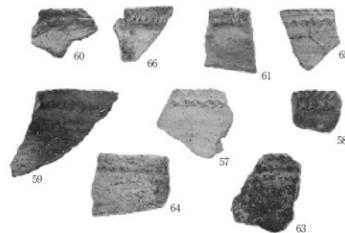
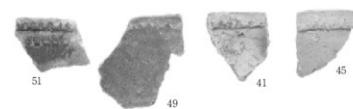


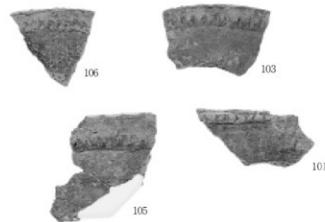
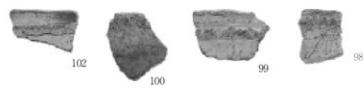
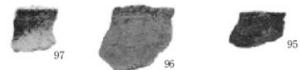
1A区出土状态 4

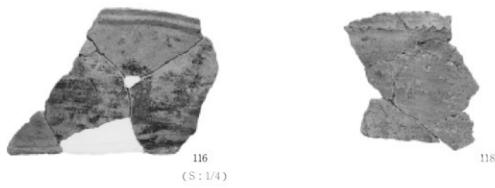
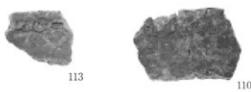


*上・下段S:1/3、中段S:1/4
1A区出土遺物 1



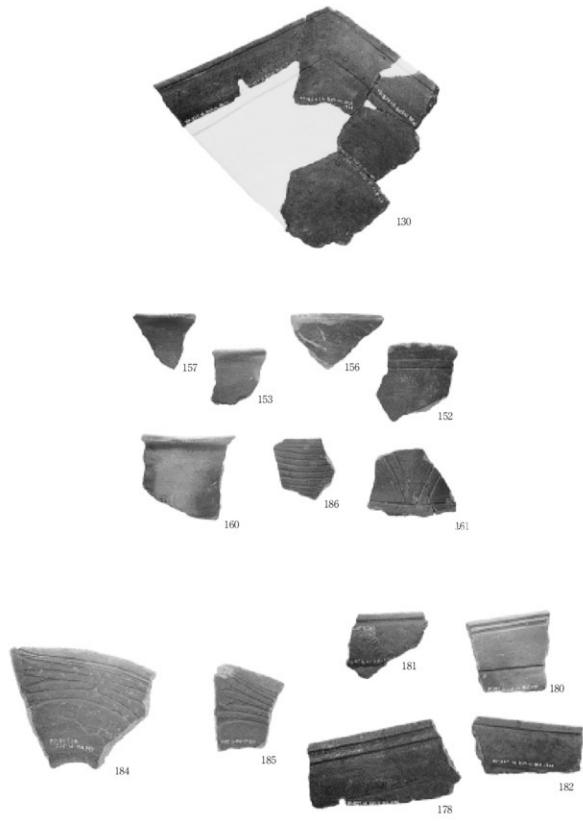






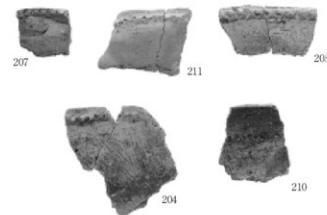
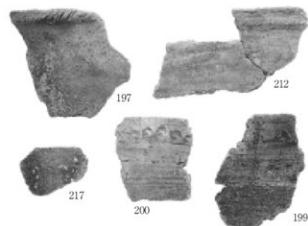
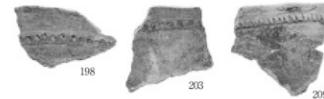
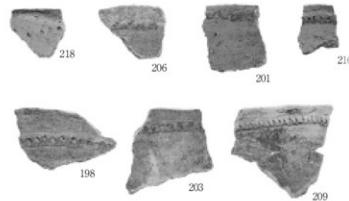
1A区出土遺物 5

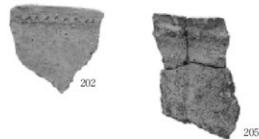
* 116以外S : 1/3



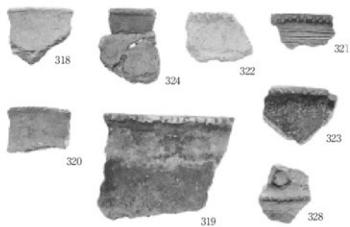
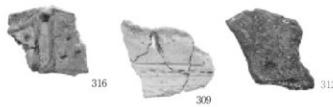
1A区出土遗物 6

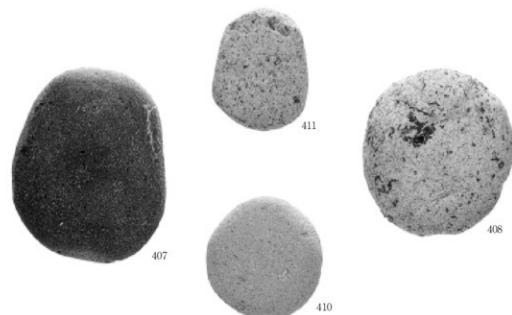
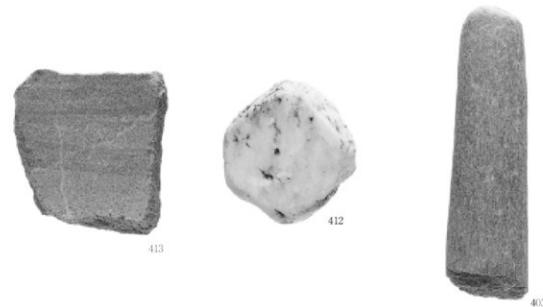
* S : 1/3





* S : 1/3





* S : 1/3
1A区出土遗物 10



377



376



375



387



381



382



380



395



394



398



419



414



415

1A区出土遺物 11

* 376・377・414はS : 1/1
419はS : 1/3、他は1/2



416
(S : 1/4)



417



418



420
(S : 1/4)



421



422

1A区出土遺物 12

* 416・420以外S : 1/3



1C区西半部第IV層上面遺構完掘状態（東より）



1C区東半部第IV層上面遺構完掘状態（東より）



1C区第IV層上面遺構調査状況（西より）



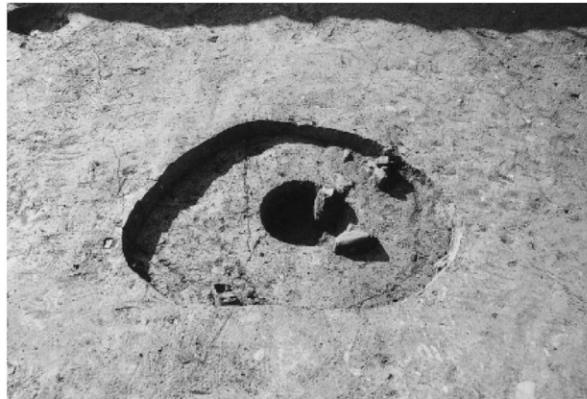
1C区西壁堆積土層断面（南東より）



1C区SX1遺物出土状態（北東より）



1C区SX5遺物出土状態（東より）



1C区P18遺物出土状態（東より）



1C区P21遺物出土状態（西より）



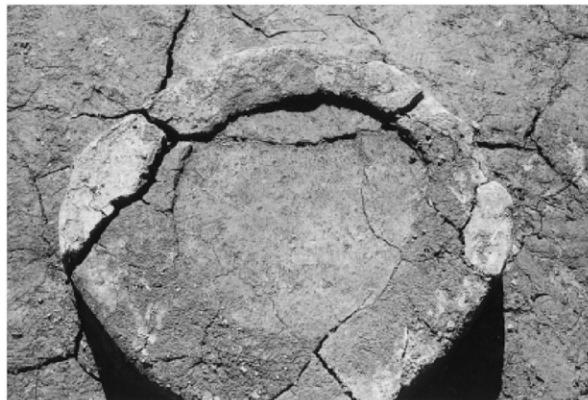
1C区土器(1381)出土状態



1C区石器(1422)出土状態



1C区P113完掘状態（西より）



1C区P127完掘状態（北より）



1C区西壁堆積土層断面（東より）



同上



IC区第V層上面遺構完掘状態（北東より）



IC区第V層上面遺構群（P156～P159・P161）完掘状態（北東より）



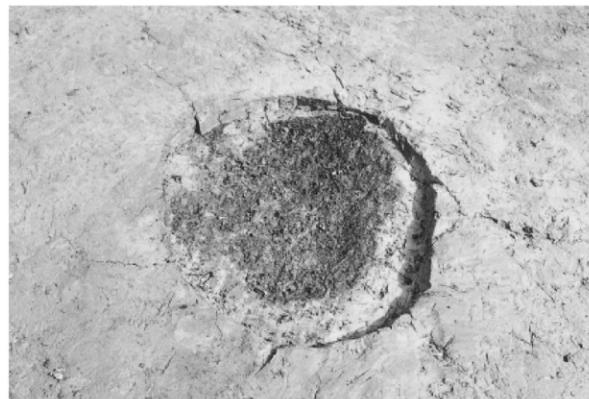
1C区P157完掘状態（北より）



1C区P159完掘状態（西より）



1C区P161完掘状態（北西より）



1C区P245炭化物検出状態（南西より）



1C区石器(1403)出土状態



1C区石器(1404)出土状態



1C区木製品(1432・1431)出土状態



1C区木製品(1434)出土状態



1C区第VII層上面遺構検出状況（西より）



同 上（東より）



IC区第VII層上面造構検出状態（南東より）



同上（南より）



IC区第VII層上面遺構調査状況（北西より）



同 上（南東より）



1C区第VII層上面遺構完掘状態（東より）



同上



1313



1332



1360



1380

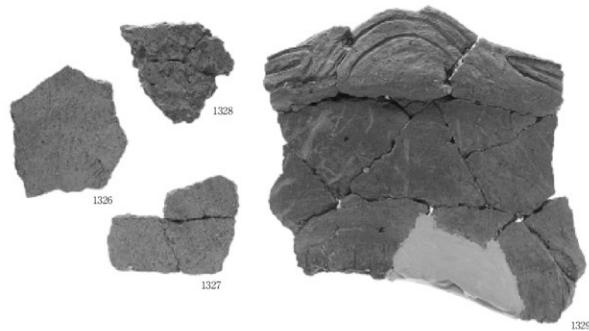


1381

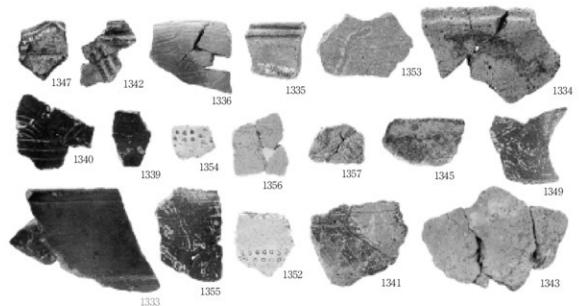
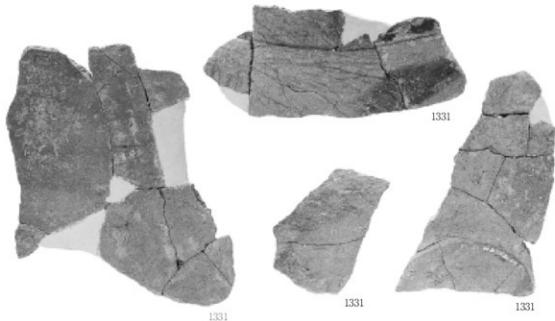


1382

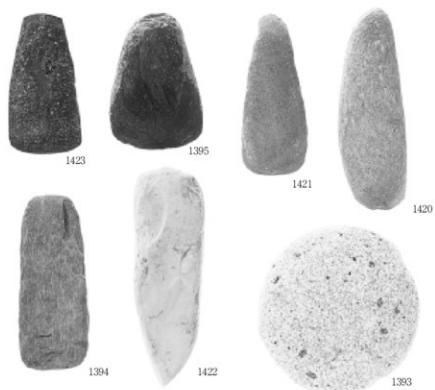
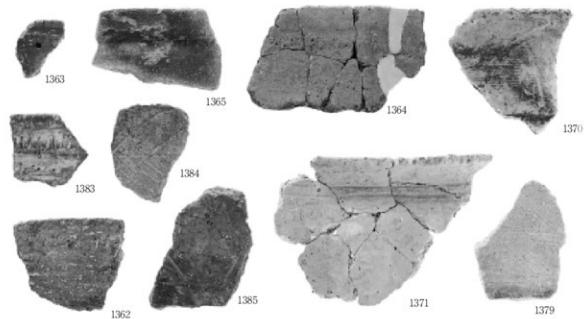
1C区出土遺物7(土器)



1C区出土遺物8(土器)



1C区出土遺物9(土器)



1C区出土遺物10(土器・石器)



1C区出土遺物11(木製品)



1429



1428



1427



1432



1433

1C区出土遺物12（木製品）



IDN区調査前状況（西より）



IDN区調査状況・包含層掘削（北より）



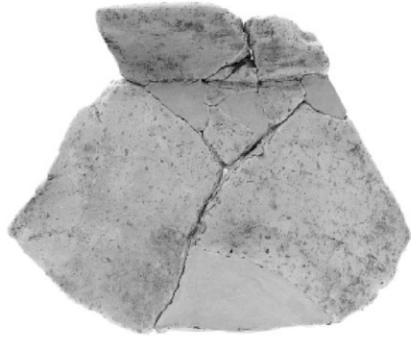
IDN区完掘状態（北東より）



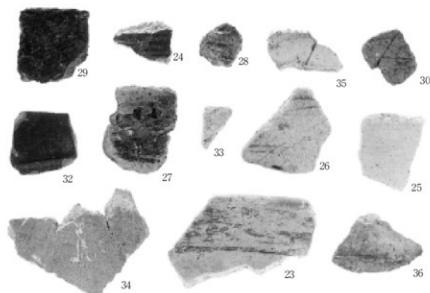
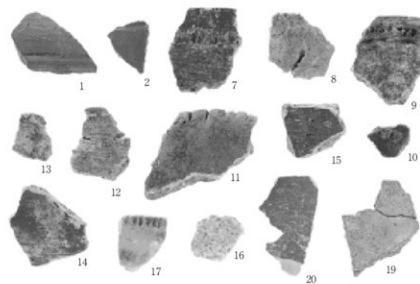
IDN区西壁堆積土層断面（北東より）



1DN区木製品(39)出土状態



1DN区出土遺物2(土器)



1DN区出土遺物3(土器・木製品)



水路部分 1面



水路部分 2面

1F区完掘状態 1



水路部分 南半



道路部分 東側



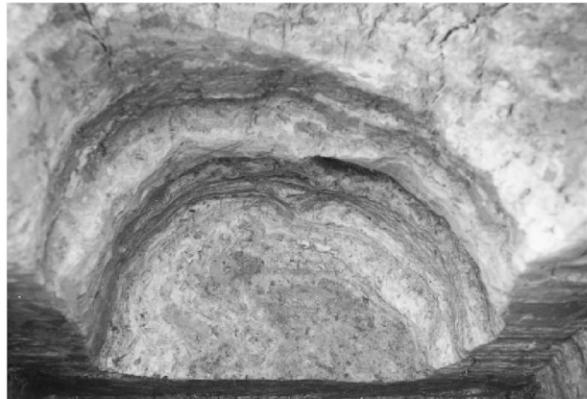
道路部分 西側

1F区完掘状態 2



SRI · SR2

IF区完掘状態 3



P213



P219

1F区完掘状態 4



SR1 南端

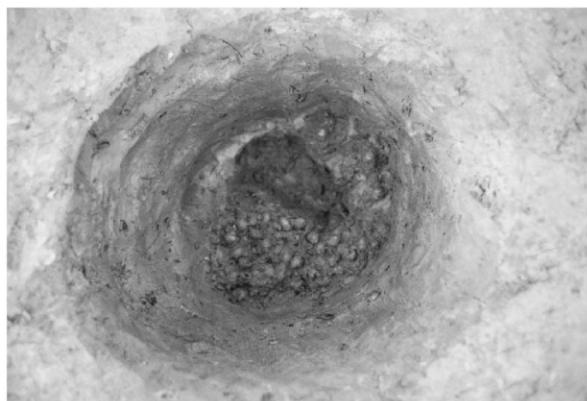


SR2 西端

1F区セクション



P209

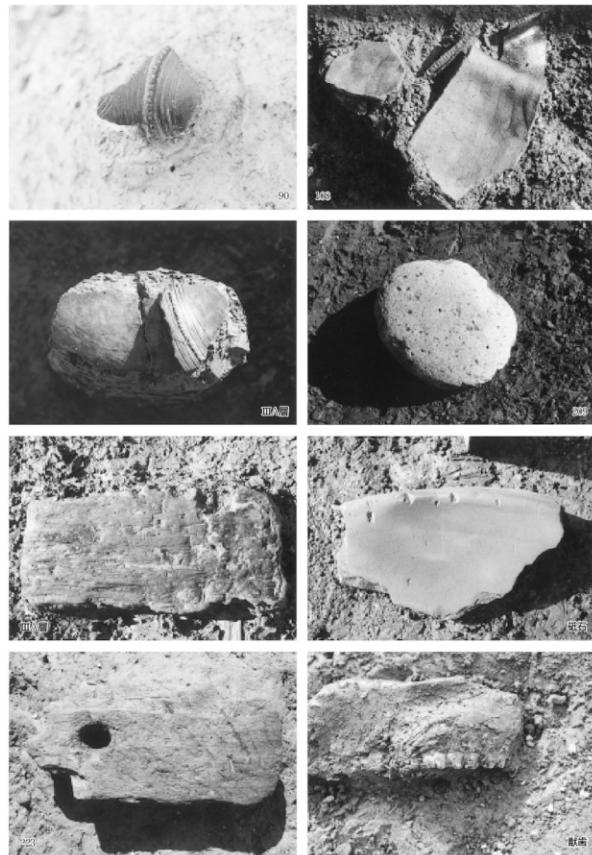


P211

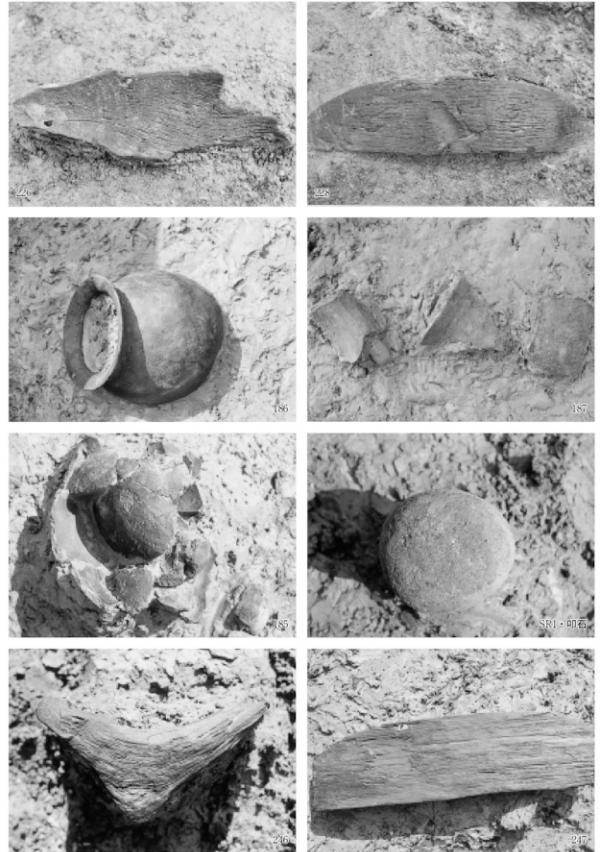
1F区出土状态 1



II区出土状態 2



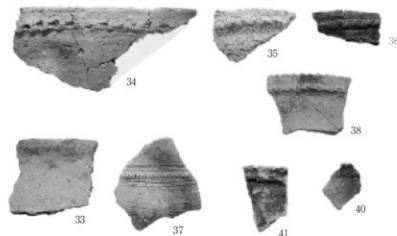
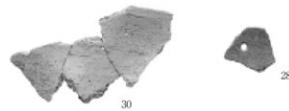
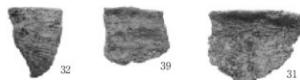
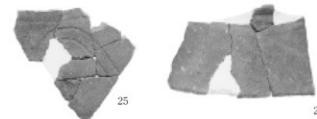
1F区出土状态 3



1F区出土状態 4

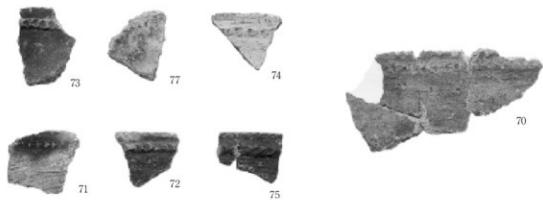
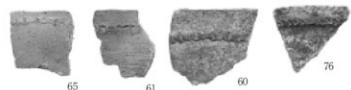
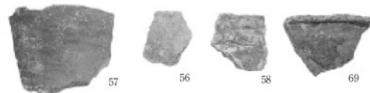


* S : 1/3
1F区出土遺物 1



IF区出土遺物 2

* S : 1/3



1F区出土遗物 3

* S : 1/3



14



23



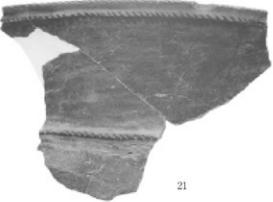
13



20

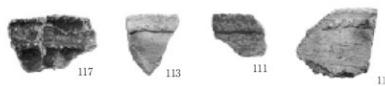
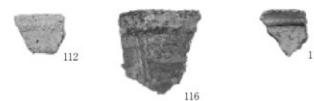
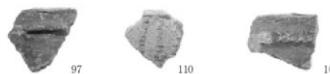
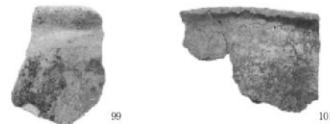


22



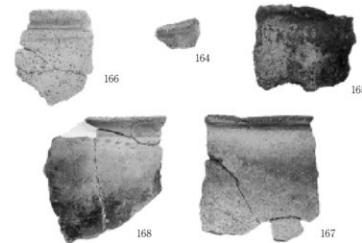
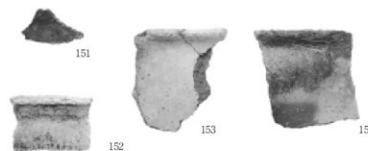
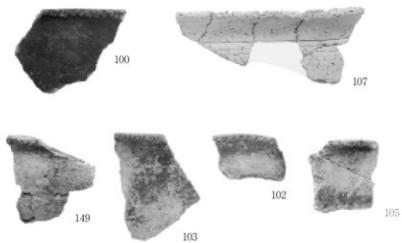
21

* 上段S : 1/3、中・下段S : 1/4
IF区出土遺物 4



1F区出土遺物 5

* S : 1/3



1F区出土遺物 6

* S : 1/3



215
(S:1/2)



229
(S:1/2)



213
(S:1/3)



226



234



241

* 下段 S:1/3

1F区出土遗物 7



243



222



223

IF区出土遺物 8
※ 上段S:1/3、下段S:1/4



227



232



236



218



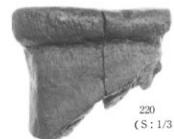
238



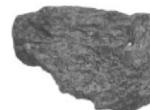
239

* 上段S:1/4、下段S:1/5

1F区出土遗物 9



220
(S : 1/3)



224
(S : 1/3)



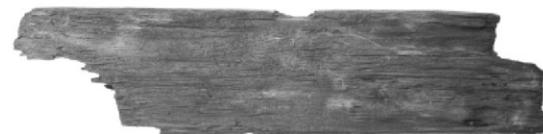
226
(S : 1/3)



225
(S : 1/4)



247
(S : 1/5)



248
(S : 1/6)

1F区出土遗物 10



報告書抄録

ふりがな	いとくいせきぐん							
書名	居徳遺跡群III							
副書名	四国横断自動車道(伊野~須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第69集							
編著者名	藤方正治・曾我貴行							
編集機関	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1 TEL088-864-0671							
発行年月日	2002年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° °'	東経 ° °'	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
	市町村	遺跡番号						
いとくいせきぐん 居徳遺跡群	こうちけん 高知県 とさし 土佐市 たおおいちやまつ 高岡町乙 いのく 居徳ほか	39205	050087	33度 30分 10秒	133度 25分 8秒	19971017 19990331	4,585	四国横断 自動車道 (伊野~ 須崎間) 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
1A区	集落	縄文時代晚期 弥生時代前期		縄文土器・弥生土器 石器・木製品・自然 遺物		大洞式土器の出土		
1C区 (その2)	集落	縄文時代晚期 弥生時代前期 古墳時代	柱穴及びピット 状遺構	縄文土器・弥生土器 石器・木製品・自然 遺物				
1DN区	包含層	縄文時代晚期 弥生時代前期		縄文土器・弥生土器 石器・木製品・自然 遺物				
1F区	集落	縄文時代晚期 弥生時代前期 古墳時代 奈良時代	自然流路	弥生土器・土師器 木製品				

(財)高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第69集

居 德 遺 跡 群 III

四国横断自動車道(伊野～須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002年3月31日

発行 (財)高知県埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 川北印刷株式会社